ARCHITECTURE AND SOCIETY・VOL. 53 NO. 2 1972・2

●特集 600号記念

建築と社会

600号記念

2

社団法人 日本建築協会
昭和47年 2月25日発行
毎月 1 回25日発行
昭和24年 3 月19日第 3 種郵便物認可

●「建築と社会」からみた大正期と昭和前期の
都市・住宅・建築論・住宅コンペ
●主要論文復刻
我国都市改良計画の将来／片岡安
都市計画の財政観／関一
我国の住宅改良第一策／片岡安
様式の上にあれ／村野藤吾
日本のインターナショナル建築運動／中尾保
建築と社会／ブルーノ・タウト
発刊の辞・改題のことば
●大正・昭和期の都市計画年表
●大正・昭和の編集を通じて

new!



デザイン・配線工法を一新、価格は据置き!!

――クマリフトならではの量産体制が、それを可能にしました――

■三方枠と膳板が、優美で錆や腐蝕のないアルミ形材製品に――――――

クマリフト(小型昇降機)の積下ろし口の枠及び膳板にアルミ成形材(枠見込100㎜：膳板巾160・180・210㎜の3種)を規格品として制定し、全機種に採用しました。扉はメラミン樹脂焼付仕上げのボンデ鋼板製です。

ご希望により、特殊寸法の鋼板・ステンレスのものも製作します。

■工場生産されるシンプルな配線工事

工場生産による独特の短時間に巧拙のない確実な配線工事を得られるプラグイン配線方式を採用しました。

■他に別価格でカゴ到着と同時に扉が開く自動戸開き装置も用意

カゴの到着がひと目でわかり、手数が省けるのできわめて能率的です。（用済み後は手で閉めてください。実用新案出願中）

■用途に応じた豊富な機種を用意しました

書類小物用、料理用、小荷物用、般舶用その他防水・防爆型など特殊工場用など。

■L－ 5…… 10kg積	■M－300……300kg積
■J－ 30…… 30kg積	■M－500……500kg積
■M－ 50…… 50kg積	■S－150……150kg積
■M－100……100kg積	■S－300……300kg積
■M－200……200kg積	■M－ H…… 80kg積 (高速型)

その他人荷用エレベーター、荷物用エレベーター病院用エレベーター、自動車用エレベーターもご注文に応じて製造いたします。

*

KUMA クマリフト株式会社

●本　　社　大阪市東淀川区東淡路町2丁目43番地
TEL：06（322）5125代表

●東京事務所　東京都台東区東上野6-1 イワツキビル
TEL：06（844）3030

札幌・仙台・新潟・長野・東京・静岡
名古屋・京都・神戸・大阪・堺・広島
出雲・高松・福岡・鹿児島・那覇

クマリフト

■カタログご希望の方はハガキで大阪本社宛ご請求下さい

祝600号　建築と社会　1917～1972

社団法人 日本建築協会役員・名誉正会員

名誉会長　竹腰健造
名誉会長　東畑謙三
会長　塚本猛次
副会長　松村雄吉
副会長　横尾義貫
副会長　福田朝生
理事　井上滉
〃　岩下久哉
〃　岡橋作太郎
〃　奥島正一
〃　北垣智造
〃　小林清
〃　佐野正一
〃　谷口尚武
〃　寺田徳重
〃　鳥田家弘
〃　西嶋徳太郎
〃　西田康治
〃　堀内三郎
〃　宮脇和正
〃　山田義行
〃　淺沼猪之吉
〃　大林芳郎
〃　鴻池藤一
〃　白井周二
〃　銭高輝之

理事　竹中錬一
〃　宮武伊三郎
〃　今元康彦
〃　小林四郎
〃　山本憲三
〃　尾亀清四郎
〃　清水愛明
〃　知見義夫
〃　井上浄夫
〃　田中政二
〃　安田誠一
〃　佐藤四郎
〃　山田勝成
監事　神谷新一
監事　小西岬
兵庫支部長　宮飼克二
京都支部長　井手正雄
和歌山支部長　栗林一馬
中国支部長　青盛繁男
東海支部長　一圓俊郎
名誉正会員　秋田喜代治
〃　井上福蔵
〃　石川寛三
〃　岩崎甚太郎
〃　岡田孝男
〃　岡本茂樹

名誉正会員　亀井幸次郎
〃　河合貞一郎
〃　佐藤四郎
〃　早良俊夫
〃　作間日出生
〃　設楽貞三
〃　篠原太郎
〃　島田良馨
〃　鈴木末尾
〃　滝沢真弓
〃　竹腰健造
〃　中澤誠一郎
〃　坂静雄
〃　伴秀雄
〃　伴野貞三
〃　松本儀八
〃　宮飼克二
〃　村野藤吾
〃　山田文次
〃　鷲尾九郎
〃　渡部圭吾
評議員会議長　小川正
評議員会副議長　星広文
常務理事　福中定三郎

五　日　会

青木建設	鴻池組
浅沼組	佐藤工業
新工務所（アタラシ）	島藤建設工業
安藤建設	清水建設
大林組	住友建設
大本組	錢高組
奥村組	大末建設
鹿島建設	大成建設
神崎組	大鐵工業
熊谷組	大日本土木

祝600号 建築と社会 1917～1972

五　日　会

竹中工務店
鉄建建設
東海興業
東急建設
戸田建設
飛島建設
西松建設
日産建設
間組
不動建設
藤木工務店
フジタ工業
前田建設工業
真柄建設
松井建設
松村組
三井建設
森組
森本組

祝600号 建築と社会 1917～1972

十　日　会

あめりか屋	公成建設
井上組	甲南建設工業
今西組	小坂井組
岩出建設	小西建設
鳳建設	金剛組
岡本組	才門建設
長村組	阪口建設
金山工務店	太平工業
岐建木村	第一建設工業
木村工務所	高藤建設
共立建設	辰村組
近畿建設	田中建設
栗本建設工業	中央土建社

十　日　会

東洋土建
東和組
中井總組
中道組
西田工業
西田工務店
西本組
日東建設
日本土建
長谷川工務店
阪神土木工業
福川建設
富士工

藤本組
豊國建設
水野建設
水間組
村本建設
望月建設
盛工務店
森田組
矢島建設
矢作建設工業
藪内工務店
山田組
吉村組

※ギリシャ神話でプロメテウスは〈予見する者〉ともいわれ、天上の火を人間にあたえました。



《現代のプロメテウス》

近電工はあすを考えています

総合設備産業のパイオニア――――

〈近電工〉は新しい時代の展開とともに成長をつづけます。電気工事はもとより計装・空調・土木工事まで、その総合力を広範な分野で発揮し、国際的レベルの技術・技能をほこる精鋭企業として、70年代のエネルギーを先導します。

電気・計装・空調・土木

近畿電氣工事株式會社

取締役会長　大森久司

取締役社長　今元康彦

日本ペイント

ひと塗りすれば良さがわかります

省力化時代の建築用合成樹脂塗料です。刷毛さばきなどの作業性が優秀で、仕上がりも抜群、ひと塗りで、その良さがわかります。

Hi★C.R. 高級品 デラックス

Hi－CRデラックスは、ワンコート仕上げを目標に開発された合成樹脂塗料です。

かぶりが良く、刷毛ぎれ、刷毛さばきが楽で、少々厚く塗ってもダレがなく、乾燥不良になる心配はありません。

刷毛目がたたず、すっきりした仕上がりが得られ長期間光沢を保持します。

Hi★C.R. 普及品 スペシャル

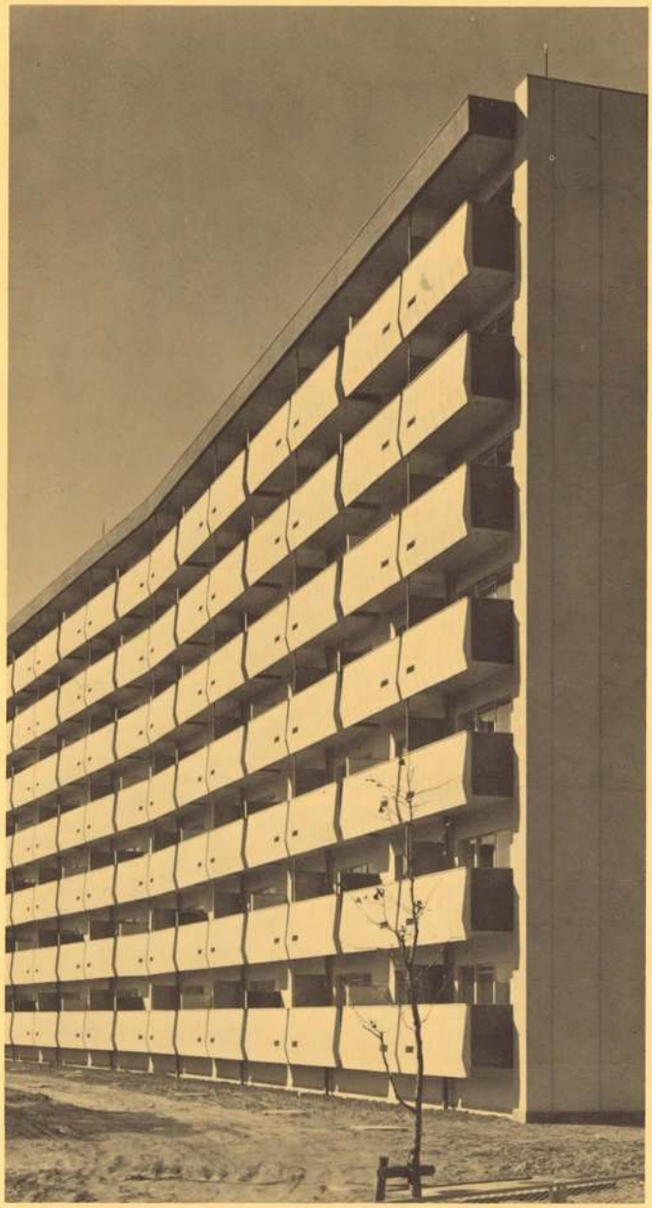
Hi－CRスペシャルは、Hi－CRデラックスの姉妹品・普及品として開発された新しいタイプの合成樹脂塗料です。

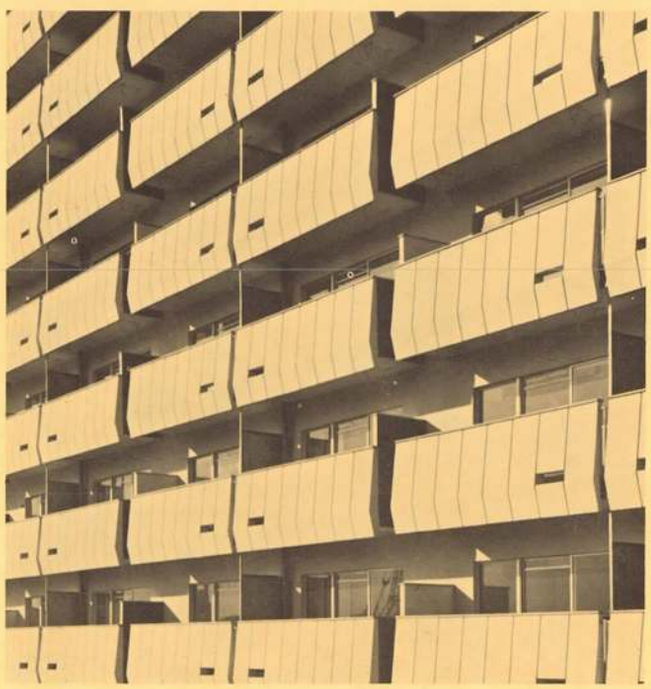
刷毛さばきがなめらかで、すっきりした仕上がりが得られ、作業性、経済性とも優れています。

JIS K-5516

Hi★CR

セラスキン
セラコート
セラカット
セラタイル





山本窯業化工株式会社

本社・工場／大阪府摂津市東別府１－３－６　☎(06) 381－9131－5
東京営業所／東京都千代田区麹町３－６(藤井第２ビル)　☎(03) 265－8888－9
名古屋営業所／名古屋市中区栄３－２３－１４(山市ビル)　☎(052)262－6774－5
福岡営業所／福岡市博多駅前４－３－１４(菅原ビル)　☎(092) 43－６９４０
広島営業所／広島市中広町２－２０－９(みのるビル)　☎(0822)91－６２００
仙台出張所／仙台市上杉２－４－４６(森林会館ビル)　☎(0222)22－１２５９

◀泉北三原台パイロットハウスフェアのご案内

大阪府企業局宅地開発部の企画のもとに，昭和46年９月から泉北Ｃ住区において，９建設業者が日頃の技を競いそれぞれ特徴のある住宅93戸を設計施工し，工事中慎重テストや審査の結果来る３月１日を以て入選発表が行われ完成式が挙行されます。これらの住宅は翌日３月２日より向う15日間一般に公開展示し，金融公庫の融資付で入居希望者を募集されます。ついては，その期間中ご都合をつけて自由にご見学されますようご案内申しあげます。

1. 建設場所　堺市三原台（泉北Ｃ住区）

〔参考〕南海電車難波発，準急で泉北高速鉄道泉ケ丘行は１時間に２本運行されています。午後の場合 12.40 難波発高野線泉ケ丘行準急に乗車，直通約30分で終点の「泉ケ丘」下車駅前から会場まで南海バスの便があります。（電車賃「難波→泉ケ丘」片道 150円）

2. 施　　主　大阪府泉北開発センター
3. 企画・監理　大阪府企業局宅地開発部
4. 設計・施工　永大ハウス・大林組・久保田ハウス・清水建設・積水ハウス・大和ハウス・竹中工務店・ナショナルハウス・ミサワホーム　以上９社
5. 建設建物　戸建～11戸・連続建～２棟10戸・関連中層～４棟72戸　計93戸
6. 建設期間　昭和46年９月→昭和47年２月
7. 一般展示・募集期間　昭和47年３月２日→16日・15日間
8. 開場時間　毎日 午前９時30分→午後５時（予定）

◀実務に直結した建築工事別説明会（第２回）「建築鉄骨の現場溶接」

（共催　日本建築協会・大阪府建築士会・日本建築学会近畿支部）

わが国では既に超高層時代が出現し，東京をはじめ大阪においても続々と建築されつつあります。超高層ビルでは低層部は鉄骨，鉄筋コンクリート造であり，高層部は軽量である鉄骨造が常識であります。

さて，超高層ビルをはじめ一般に鉄骨造がますます多くなるに従い溶接技術は長足の進歩をきたし，現在の鉄骨構造はほとんど全溶接となり，条件の悪い現場においても，ジョイントは鋲鋲やハイテンションボルト締めが溶接に変りました。

ついては建築鉄骨を担当する現場マンはもとより，建築技術者は完全な溶接技術を身につける必要があると思いますので，今回は大阪大学名誉教授鷲尾先生のご指導を仰ぎ，本説明会を開催することになりました。会員各位にはせいぜいお繰り合せ多数ご出席されますようご案内申しあげます。この説明会の後，日を改めて大阪市内の超高層ビル鉄骨工事の現場を見学する予定です。

日　時　３月８日（水）13.30→17.00
会　場　大阪市西区靱 1—118
大阪科学技術センター４階，401号室（ＴＥＬ 06-443-5321）
定　員　200名
会　費　300円（テキスト代 他）
テキストは当日会場受付で会費と引替えにお渡しします。
申　込　往復はがきに限ります。はがきは１枚に１名限りとし，氏名・勤務先名および所在地・役職・連絡電話番号・返信用宛名・郵便番号を記入の上２月25日（金）までに事業課へ。ただし定員を超過したときは抽せんにて決定し，ご通知いたします。

プログラム
○開会の挨拶　社団法人　日本建築協会事業副委員長　　三品　哲夫氏
○説明題名・説明者
1. はじめに　大阪大学名誉教授　工学博士　鷲尾　健三氏
2. 建築鉄骨の現場溶接施工
川崎重工業株式会社鉄構事業本部
技術課長　工学博士　須清　修造氏
3. 建築現場における自動溶接装置
㈱神戸製鋼所溶接棒事業部技術本部
開発部次長　大石　　実氏

○閉会の挨拶　社団法人　日本建築協会事業委員会幹事　田中　　隆氏

〔附記〕当日溶接その他のカタログ（神戸製鋼，川崎重工）を受付でお渡しする予定です。講師の説明はテキストのほかスライドにより，またあとで質疑応答をも行います。

◀大阪で施工中の超高層ビル見学会シリーズ（第２回）大阪国際ビルディング新築工事の見学会

（共催　日本建築協会・大阪府建築士会・日本建築学会近畿支部）

日　時　昭和47年３月10日（金）15.00（集合）→17.00（解散）
集合場所　大阪市東区本町２丁目36番の１，工事場西側，竹中工務店事務所前・目標会旗
（連絡電話番号・竹中工務店作業所 261-8423）
定　員　50名（本会割当20名）
申　込　往復はがきに限ります。はがきは１枚に１名限りとし，氏名・勤務先名および所在地・連絡電話番号・返信用宛名・郵便番号を記入の上２月26日（土）までに事業課へ。ただし定員を超過したときは抽せんにて決定し，ご通知いたします。

工事概要
建築地　大阪市東区本町２丁目32番の１
建築主　ユニチカビルディング株式会社
設計・施工　株式会社　竹中工務店
敷地面積　6,023.61㎡
建築面積　5,094.72㎡
延床面積　65,029.29㎡
階　数　地下３F・地上 32F・塔屋 １F
高　さ　地上GL＋125.110m・地下GL—14.000m
構　造　地下３F～地上２F　SRC造一部RC造・地上３階以上　S造
高層部外壁　アルミカーテンウォール
見学時の状況　鉄骨20F建方中・下部鉄骨耐火被覆中・12Fまで床コンクリート打終了
工　期　着工　昭和45年12月　竣工予定　昭和48年４月
用　途　３F～32F　事務室・レストラン，地下３F～２F　銀行・ショウルーム・店舗・駐車場（186台収容）

◀京阪くずは体育文化センター並びにくずはモール街新築工事の見学会

京阪沿線でのゴルフ場として知られている樟葉駅が，今や開発中の大規模な「くずはローズタウン」をバックに立派な駅となり，新築の駅ビルには「京阪くずは体育文化センター」が既に開設されています。また駅前広場を隔てて「くずはモール街」が新築中で，その規模と構成から本格的な広域型ショッピングセンターといえます。周辺には銀行が新築開店されており，１フロアー52レーンのボーリング場も新築中で，モール街とともに来る４月１日を以てオープンされます。新築なった樟葉駅を玄関に，一大田園都市として地域の開発が着々と進み，今や面目を一新しつつあります。会員各位にはよい機会ですから見学されますようお申込をお待ちいたします。

日　時　3月17日（金）13.30（集合）→16.00（解散）
集合場所　京阪電車「樟葉」駅改札口前広場・目標会旗
〔参考〕自由行動（交通費は各自負担，淀屋橋→樟葉往復 260円）
12.49 京阪淀屋橋発急行乗車，32分で樟葉着下車
（連絡電話・竹中工務店作業所 0720-57-4298～9）
見　学　13.30→14.20 京阪くずは体育文化センター
14.30→16.00 くずはモール街およびボウリング場新築工事
定　員　30名
申　込　往復はがきに限ります。はがきは1枚に1名限りとし，氏名・勤務先名および所在地・連絡電話番号・返信用宛名・郵便番号を記入の上3月4日（土）までに事業課へ。ただし定員を超過したときは抽せんにて決定し，ご通知いたします。

1. 京阪くずは体育文化センター建築概要（京阪電車くずは駅ビル）

所在地	大阪府枚方市楠葉2784	施主	京阪電気鉄道株式会社
設計・施工	株式会社 大林組	敷地面積	12,447.50㎡
建築面積	4,114.43㎡	床延面積	7,877.25㎡
構造・規模	RC造……B1・F3・R1	軒高	17.6m
外部仕上	コンクリート打放し・エポタイル吹付		
工期	昭和45年12月15日→昭和46年9月30日（一部6月19日）		
用途	事務所・体育室・教室		

2. くずはモール街新築工事概要（ボウリング場共）

所在地	大阪府枚方市楠葉2920	施主	京阪電気鉄道株式会社
設計・施工	株式会社 竹中工務店	建築面積	12,365㎡
床延面積	20,828㎡（別にボウリング場……7,314㎡）		
構造・規模	RC造一部S造 F2（ボウリング場……PC造）		
軒高	8.450m		
外部仕上	コンクリート打放し・リシン吹付・屋根S瓦葺		
工期	昭和45年12月25日→昭和47年4月1日		
見学時状況	大半完成		

◀大阪で施工中の超高層ビル見学会シリーズ（第3回）
大阪ロイヤルホテル新館新築工事の見学会

（共催　日本建築協会・大阪府建築士会・日本建築学会近畿支部）

日　時　昭和47年3月24日（金）15.00（集合）→17.00（解散）
集合場所　大阪市北区玉江町 1—1，現在のロイヤルホテル東側工事場，北側出入口受付前・目標会旗
（連絡電話番号・竹中工務店作業所 443—2846）
定　員　50名（本会割当 20名）
申　込　往復はがきに限ります。はがきは1枚に1名限りとし，氏名・勤務先名および所在地・連絡電話番号・返信用宛名・郵便番号を記入の上3月11日（土）までに事業課へ。
ただし定員を超過したときは抽せんにて決定し，ご通知いたします。

工事概要

建築地	大阪市北区玉江町1－1		
建築主	株式会社新大阪ホテル・株式会社ロイヤルタワーホテル		
設計	吉田五十八研究室・株式会社竹中工務店		
施工	株式会社 竹中工務店	敷地面積	14,115.39㎡
建築面積	6,822.30㎡	延床面積	72,633.40㎡
階数	地下2F・地上30F・塔屋2F	軒高	GL+102.300m
構造	SRC造・S造	外壁	PC版
見学時の状況	鉄骨建方7Fまで終了・下部鉄筋コンクリート施工中 地下アイランド工法残存部分見学		
工期	昭和46年3月24日→48年9月30日		
用途	ホテル		
客室数	726室（本館 845室，合計 1,571室）		
駐車台数	500台		

◀創立記念日の集い
—記念講話・映画と祝賀パーティ—

来る3月30日（木）は本会の第55回創立記念日に当りますので記念行事を盛大に行いたいと思います。

さて，昨年8月15日のドルショックにより日本は為替の変動制を採用して以来一応落ちついて参りましたが，昨年末12月18日ワシントンの10カ国蔵相会議で多国間通貨調整がまとまり，日本は予想を上廻る円の切り上げを実施することとなり，わが国経済に直接，間接大きい影響をうけて今日に到りました。

このときに当り，経済の専門家である前住友銀行調査部長，現在同行取締役の今井勇氏にお願いして「今後の経済の見通しと問題」について，また建設産業の動向についても有益なご講話を拝聴することにしました。

またご講話の前に，日本経済をささえ目ざましく開発された産業技術を広範囲に描いた映画をも観賞することにしました。

時宜を得た講話であり，映画でありますので会員各位にはお繰り合せ多数ご出席されますようご案内申しあげます。

日　時　3月30日（木）14.00→16.30
会　場　東区備後町3－8　綿業会館（電話 231-3051）
会場は新館7階（新館玄関よりエレベーターで7階へ・クロークは旧館1階西玄関内）
行　事　1. 記念講話と映画
○映画上映（14.00→14.35）
「日本の産業技術」16ミリカラー34分
○講　話（14.40→15.20）
「今後の経済の見通しと問題」
住友銀行　取締役
住友ビジネスコンサルティング株式会社
社長　今井　勇氏
以上パーティに出席されない方でもご来会を歓迎します。
2. 祝賀パーティ（15.30→16.30）
パーティ会費 2,000円（当日会場受付でいただきます）
定　員　100名
申　込　はがきに限ります。パーティはもちろん，講話と映画会にご出席の方も，氏名・勤務先・連絡電話番号を記入の上（連記でも可）3月25日（土）までに事業課へ。パーティのお申込の方で欠席されても会費のご負担を願います。

◀第7回若い会員の集い『船をみる会』

日　時　3月25日（土）集合・午後1時～解散（神戸）5時30分
集合場所　大阪・中之島中央公会堂西裏・大阪観光バス　目標・会旗
会　費　300円（貸切バス・遊覧船代の一部）
見学先・川崎重工神戸工場（造船状況見学）
・神戸港内を遊覧船で巡航
・外国の豪華客船（見学予定）
申　込　往復はがきに限ります。はがきは1枚に1名限りとし，（往）には「船をみる会」と氏名，勤務先名・所在地・電話番号を明記し，（復）には宛名・郵便番号を記入して。3月15日までに事業課へ願います。定員50名を超過した際は抽せんで参加者を決めてお知らせします。

超高層ホテルに生きる!

現代の建物に要求されるもの——《不燃性・耐震性・遮音性・施工合理化・経済性・部材の軽量性・現場管理容易》——を満たす工法!

エコニー®スタッド パーティション・システム（軽鉄間仕切壁工法）

KILD® タイプ（乾式軽量遮音間仕切壁）
ELD タイプ（乾式軽量簡易間仕切）
ECONY-P タイプ（湿式軽鉄耐火間仕切）
ECONY-M タイプ（湿式軽鉄遮音間仕切）

軽鉄天井下地
ネールロックシステム（釘打方式）
モノレイングシステム（落し込み方式）
モノコンシールドシステム（差し込み方式）

京王プラザホテル・帝国ホテル新本館・ホテルパシフィック東京・霞が関ビル・世界貿易センタービル・神戸商工貿易センタービル等に採用

専用遮音ボード
丸ツバメ遮音ボード



*ご一報次第カタログ進呈
氏名・住所・勤務先を必らずご明記下さい。

株式会社 マンテン 製造・販売・責任施工

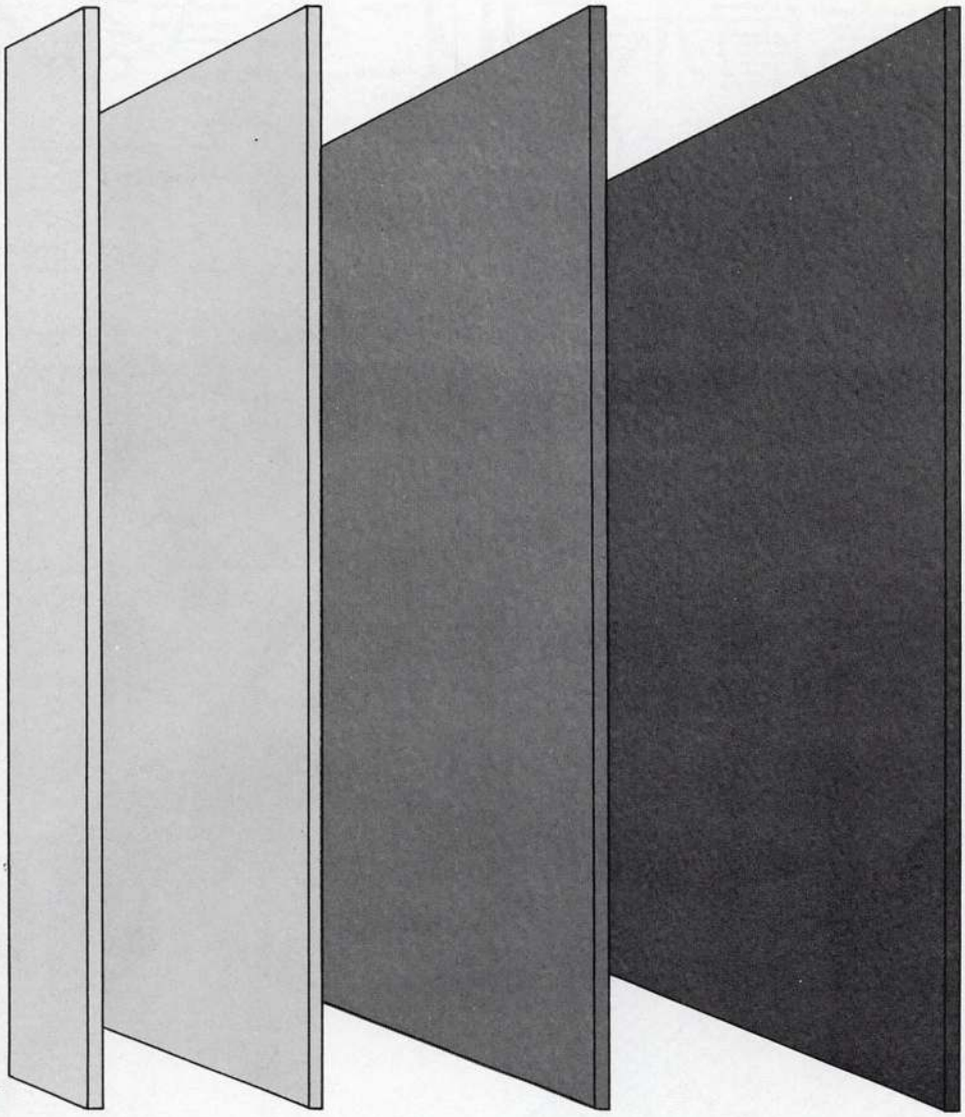
本　　社　（〒542）大阪市南区日本橋筋3—2　電話（06）632—1151代
東京支店　（〒136）東京都江東区亀戸2—3—17　電話（03）682—3241代
名古屋出張所　（〒454）名古屋市中川区百船町1—3—4　電話（052）353—3177代
福岡出張所　（〒812）福岡市博多駅東1—12—26 岩瀬ビル　電話（092）43—4356代
札幌出張所　（〒060）札幌市北三条東5—5 岩佐ビル　電話（011）261—3181代

〈燃えない美しい街づくり〉に——クボタの不燃建材・内外壁材

〈燃えない美しい街づくり〉

クボタの不燃建材は
このスローガンから生れます

■抜群の耐久・耐候性・変色しない豊富な色■落着いた〈ゆづ肌仕上げ〉



新発売

クボタパーマトン

■レディメード品……12色
■オーダーメイド品……12色

高級特殊樹脂焼付塗装
〈ゆづ肌仕上げ〉

クボタ・パーマトンは——
〝燃えない美しい街づくり〟を目指す久保田建材工業が、世界第一の総合建材メーカー〈J.M社／米国〉の技術指導により、国産化した完全不燃の高級装飾塗装の石綿セメント板です。クボタ独得のオートクレーブした特殊スラブをベースに、さらに当社独得の特殊合成樹脂焼付塗装を施したきめこまかな〝ゆづ肌仕上げ〟です。

品質特長　抜群の強度と靱性!!老朽・風化の欠陥除去!!すぐれた耐候性!!永久的な美しさ!!

クボタパーマトンS(基材・大平板)規格寸法

厚み (mm)	巾 (mm)	長さ (mm)
5 6.3	910	1,820
	910	2,420
	1,000	2,000
	1,210	2,420

クボタパーマトンF(基材・フレキシブルボード)規格寸法

厚み (mm)	巾 (mm)	長さ (mm)
3.2	910	1,820
4	910	2,420
5	1,000	2,000
6.3	1,210	2,420

■上記以外の厚物及び長さ3mまで、ご注文のご相談に応じます。

久保田建材工業株式会社
本社・東京支店　東京都中央区日本橋室町3−3　TEL(279)2111　〒103
大阪支店　大阪市西区靭本町1−77　TEL(448)7121　〒550
札幌営業所　札幌市北三条西3−1−44　TEL(281)2481　〒060
仙台営業所　仙台市本町2−15−11　TEL((25)8151　〒980
名古屋営業所　名古屋市中村区米屋町2−67　TEL(563)1511　〒450
福岡営業所　福岡市天神1−10−17　TEL (78)5181　〒810

久保田建材

その他の新製品紹介
新発売■**クボタエース**／押出成形のアスベストセメント■屋根材カラーベスト／**コロニアル**■外壁用カラーベスト／**シングル・カラーシート・不燃サイディング**■内外壁材**KCパネル・カラートップ**■わらでできた万能ボード／**ストラミット**

〝テクニカル・シリーズ〟をお送りします。
クボタコロニアル等を使った優れたデザインの建築例を取材し、クボタカラーベスト・テクニカルシリーズを発行しています。
□A4判　カラー〈プラン・エレベーション・ディテールを掲載〉
□ご希望のかたは本社PA係まで。

日本建築協会法規委員会

法令コーナー

質疑などの投稿をお待ちしております。

建築協定

建築基準法の中に〝建築協定〟という制度がある。
建築協定の法的な取り決めや特長などについて、若干説明させていただきたいと思う。

(1)建築協定が注目される社会的背景

建築協定を一言でいえば、「ある特定区域内の住民同士が、相互の生活環境を守る目的のために、建築物または敷地に関する制限を自主的に取り決めることを認める法律上の制度」ということになる。なぜこのような制度が急に見直されることになったのだろうか。ご承知のように、ここ数年来、土地政策の貧困が人口のドーナツ現象を生み、大都市周辺には異常なまでの土地開発がなされ、スプロール現象をますますエスカレートさせている。そしてそこには様々な環境破壊が行なわれ住民とのトラブルは絶えまなく起っている。たとえば、高層マンション、ボーリング場、ホテルまたはモーテルの類が住宅地に接近して建築されることによって、日照、騒音、風紀上の問題などを引きおこし住民の攻撃の的となる。そして最近のように、住民の自治意識や生活環境に対する意識の向上にともない、署名運動や所定官公庁への陳情など建設反対運動へと発展してゆくことになる。これらのトラブルの多くは、法律で建設を認めていることに対して、それを阻止しようとするところから出発している。したがって、これは法律の定め方の問題なのかも知れないが、近年のように複雑、かつ、急速に変動する社会に対応する法律を準備することは技術的に非常に困難なことだといえる。

結局は、生活環境の保全を担保するためには、法律で大枠を定め、詳細な点については住民の合意による取りきめによらざるを得ないと考えられる。このあたりに建築協定が見直される原因があるように思う。

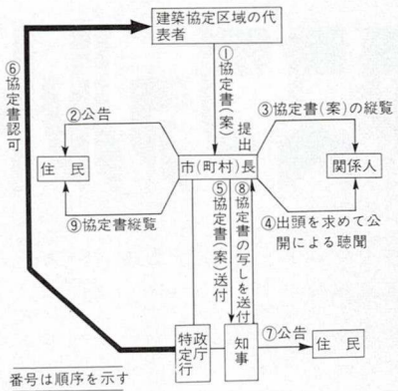
(2)建築協定の法規上の説明

さて建築協定は、建築基準法の第69条から第77条までに規定されているのだが、その構成内容を簡単に説明するとつぎのとおりである。

- **第69条** 協定の目的および協定の締結は市町村条例にもとづいて行なわれることの規定。
- **第70条**〜**第76条** 協定の締結、変更および廃止の手続き規定並びに効力についての規定。
- **第77条** 協定における建築物の借主の地位についての規定。

ここで、建築協定が市町村条例を定めたうえでないと行なうことができないという規定は、特定区域内の住民、もしくは個人のエゴイズムが協定に持ち込まれるのを防ぐためや、建築基準法の枠を越えた内容が協定に盛り込まれることを防ぐためであると思われる。

つぎに、建築協定が締結されるまでの手続きについて説明するとつぎの図のとおりである。



まず、協定をしようとする者の代表者が市町村にその案を提出する。市町村は、それを公告するとともに、20日以上の相当の期間をもって関係人の縦覧に供する。この場合の関係人とは、一般に協定予定区域に隣接する住民をさす。縦覧期間が満了すると公聴会を開催し、建築主事を置かない市町村の場合には、その記録と市町村の意見を添えて都道府県知事に協定書案を送付する。特定行政庁は、市町村の意見および公聴会の記録を参考にしてこの案を認可することになる。さらにその旨を公告するとともに、建築主事を置かない市町村に係るものについては、協定書の写し一通を当該市町村に送付しなければならない。市町村は、その協定書を一般の縦覧に供することになる。

以上が、協定の締結に要する法的な手続きであるが、協定を変更する場合には、全員の合意、また廃止する場合には過半数の合意のもとに、同様な法的手続きを経て認可されることになる。また、協定区域内における建築物の借主の地位は、借主の権限に属するものが協定事項に係る場合には、土地所有権者と同等とみなされる。たとえば、看板に関する協定事項がある場合には、借主の所有である看板は、協定による制約を受けることとなる。

(3)建築協定の利点

つぎに建築協定の利点を述べてみることにする。まず、法律や条例の適用範囲が全域的であるのに対して、建築協定は限定された範囲に適用されるので、その地域の特性に応じたきめ細かいルールを定めることができ、問題発生を住民監視のもとで未然に防止することが可能である。そのほか、建築協定には、土地および建物の所有者と並んで賃借権者にも参加資格があり、さらに所有権の移転に伴って所有物に係る建築協定の効力が継承されるため、協定期間内は協定事項が担保されることである。

(4)建築協定の問題点

以上のような利点をもって建築協定が活用される一方、2〜3の問題点も見い出せる。

その一つは、協定が予定区域内の全所有権者等の合意がなければ締結しえない点である。これは民主的である反面、既成市街地における協定の推進に大きな障害となっている。たとえば、静かな住宅街に突如として日照障害となる高層マンションが着工され、その時点で附近住民が建築協定を結ぶことによってこれを阻止しようとしても、「予定区域内の土地所有者」である当該マンションの建築主からは合意が得られない。そんな矛盾が生じるわけである。今まで試み、結局締結まで至らなかったものには、折角多くの合意を得ているにもかかわらずわずかの反対者のために締結しえなかった例が数多くある。この問題を解決するには、既成市街地となる前に、つまり宅地開発時に協定を結ぶのも一つの方法だが、全員合意とまではいかなくとも圧倒的多数の合意があれば締結できるよう法律の改正が望まれる。

つぎに、特定行政庁は認可権は有するが、協定違反者に対する行政処分の権限を有しない点である。法律には「協定違反者があった場合の措置を定めて協定書案を提出する」とあり、自治のたてまえから違反処分も協定締結者間で解決することになっている。そして、最終的には裁判による解決も可能になっているものの、その手間、費用の問題および協定内容が都市計画的な要素を含むこと等を考慮に入れると、行政庁の介入を認めることもまんざら理くつの通らない話ではないように思える。

(5)建築協定の実施例

建築協定の実施例は、現在全国で14件あり、そのうちのほとんどは横浜市にある。また、全国で最初に結ばれた例は横浜市の「福富町通り建築協定書」で、昭和32年に認可されている。これは商店街の利便の増進をはかる目的のもので、この種のものとしては唯一の例である。住宅地における例は、同市の「上飯田モデル住宅地建築協定書」が有名である。これは横浜市建築助成公社が開発した分譲地で、購入者に対して協定に合意することを条件として分譲を行なったものである。協定内容には、専用住宅以外の禁止、住宅の階数、高さの限度、隣地境界からのあき、建ペイ率が定められている。そのほか、工業団地で結ばれたものもあるが内容的には住宅地における例と差異はないので省略する。

さて、大阪府においては、実際に協定が結ばれた例はまだ一件もなく、準備中のものが1〜2件あるに過ぎない。ただ市町村条例は摂津市と高槻市にあり、またその他の市町村においても条例制定の検討が進められている。

いろいろ述べてきたが、最終的にいえることは、生活環境の保全は官民一体となってはじめて担保されるもので、その手法のひとつがこの建築協定である。そのためには、行政庁は一般へのPRと指導に努めることはいうまでもない。そして、宅地開発の主役を果している民間デベロッパーの方々にはアフターケアーを念頭にいれての開発を行なっていただきたいと思うし、建築設計者には、附近の環境を考慮にいれた設計をして環境破壊から町を守っていただきたいと切にお願いしたい。

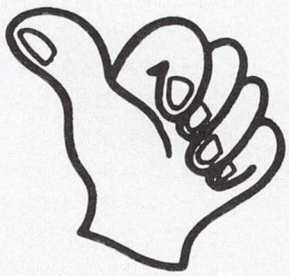
(大阪府建築部建築指導課　菱田公造)



完全責任施工　年限保証

日本アスの アスファルト防水

■シグマートによるウエルドシステム防水工法
■特殊絶縁防水工法（特許出願中）
■メルタン防水工法



50 年の実績が生んだ防水

シグマート・SPウエルドルーフィング

■全国に配置された組合員の強力な連繋で完全な施工工事をお受けいたします

地区別	会社名	電話
北海道地区	日本スレート株式会社	札幌 231—7511代
	日新建工（株）札幌出張所	札幌 221—5015
東北地区	信栄工事（株）仙台出張所	仙台 23—1735
	日新建工（株）仙台支店	仙台 25—5431代
関東地区	伊藤建材株式会社	東京 842—1431代
	春日工業株式会社	東京 802—3871代
	金岡工業株式会社	東京 363—4341代
	木下工業株式会社	東京 634—0821代
	協立工業株式会社	東京 433—1961
	大東スレート株式会社	東京 883—3131代
	日新建工株式会社	東京 803—2411代
	日本綜合防水株式会社	東京 403—0171代
	野口工材株式会社	東京 444—3531代
	鶉田工業株式会社	東京 263—4861代
	藤井工業株式会社	東京 941—0271
	富士工材株式会社	東京 634—0161代
	藤瀝青興業株式会社	東京 362—5697代
	北条瀝青工業株式会社	東京 551—2676
	マサル瀝青工業株式会社	東京 842—6311代
	大和工業株式会社	東京 802—4751代
	瀝青建材株式会社	東京 861—2706～8
	瀝青建材（株）宇都宮出張所	宇都宮 22—9737
	石田建材工業株式会社	高崎 22—3301～3
	石田建材工業（株）大宮支店	埼玉 31—1225～7
	石田建材工業（株）宇都宮出張所	宇都宮 33—7697
	同和建業株式会社	新潟 45—2251代
	株式会社奈良屋商店	水戸 41—5141代
北陸地区	石橋建材株式会社	福井 23—0775
	有限会社折橋政次郎商店	高岡 22—0999
	有限会社小島工業所	高岡 23—0391
	島屋建設株式会社	金沢 42—5151

地区別	会社名	電話
東海地区	協和建材工業株式会社	清水 45—2221代
	三信建材工業株式会社	豊橋 45—8211代
	中央建材工業株式会社	名古屋 761—6181代
	東京建材工業株式会社	名古屋 411—6621
	日本建材鋼業株式会社	名古屋571—5541～4
	三井工業株式会社	静岡 85—9151～3
	宮崎建材株式会社	名古屋 331—1531代
近畿地区	清水興業株式会社	大阪 372—0250～3
	東洋建材株式会社	京都 361—9171
	棚田建材有限会社	神戸 22—9182代
	中村瀝青工業株式会社	神戸 34—5884
	日新工材株式会社	大阪 541—3785～6
	有限会社ミサキ商会	和歌山 22—3922
	フタバ興業株式会社	大阪 385—2781代
	マサル瀝青工業（株）大阪営業所	大阪 303—0241代
	マルエス工業株式会社	大阪 458—4841～3
	日新建工（株）大阪出張所	大阪 541—1607～8
	日本綜合防水株式会社大阪支店	大阪 329—1023代
中国地区	株式会社三洋技建	大竹 2—5155代
	東中国防水工業株式会社	岡山 23—1181代
	豊永建材株式会社	広島 61—6371～3
	大和工業（株）広島出張所	広島 71—4687
	株式会社巴商会	宇部 21—0760
四国地区	大三工業株式会社	高松 51—6811代
	大三工業（株）高知支店	高知 83—7328～9
	徳島大三工業株式会社	徳島 54—4161代
	株式会社マルマス河野商店	今治 2—5000代
	株式会社山本商会	松山 31—6261代
九州地区	安藤工事株式会社	福岡 28—5207～9
	株式会社北原建材商会	鹿児島 23—9395～6
	株式会社　工材社	北九州 38—1468～9
	株式会社大二商会	宮崎 24—1625
	日建工材株式会社	福岡 74—6665代
	日新興業株式会社	延岡 3—2455～9

■建設省東計第240号認可

日本アスファルト防水工業協同組合

東京都足立区千住東2－21－28 日新工業株式会社内　電話（882）2424（代）
関東支部　東京都足立区千住東2-21-28 日新工業株式会社内　電話（882）2424（代）
関西支部　大阪市東淀川区瑞光通り4-30-2 日新工業株式会社大阪支店内　電話(329)7737(大代)
九州支部　福岡市大手門1－6 日新工業株式会社九州出張所内　電話（74）3461

読者の頁

□建築金物界に58年

安田誠一

ニクソンショックに鑑み

昭和５年１月日本が金解禁を実施した当時と、今回の米国が金不換にしたこととは、円が上るという点では全く同じだと思います。昭和５年の日本の経済力と、現在の日本の経済力とは全く相違しておりますので、今回の円切上げなどはなんとしても、乗り切らねばならない、また乗り切ることができると信じています。

今回は政府も不況対策として国債の発行、公共事業の遂行など積極政策をとられることですから、日本国民として大いに頑張る必要があります。

世界第１次大戦

大正３年７月世界第１次大戦始まる。

日本は全く漁夫の利というか輸出景気に恵まれました。私の記憶では当時のドルで36億ドルの外貨保有国となりました。実にたいへんな好景気でした。

大正７年11月大戦終わる。

一変に大不況になりました。鉄鋼初め、国際商品の大暴落、倒産もあれば、工場閉鎖など、工場敷地にペンペン草が生えるというような状況でした。

大正９年９月経済恐慌がありました。

関東大震災

大正12年９月東京、横浜は焼野原となる。

復興はまず建築から、復興院総裁後藤新平のおかげで昭和通りもできました。当時は都市計画中のこととて、まず仮建築でした。東京の建築界はたいへんだったと思います。大阪から畳や建具を救援物資として送りましたが京間と江戸間の違いで使いものにならず、困った事でした。産業都市大阪は救援物資、復興物資と２、３年は恵まれました。

昭和初期の不況

昭和の初め頃より、全世界の軍縮と緊縮政策の影響で不況はいよいよ深刻となりました。

昭和２年日本に金融大恐慌が起りました。

私が独立開業しましたのが昭和３年です。日本も浜口内閣の緊縮政策で、世界的な不況の中にありました。独立早々で資金も少なく、在庫らしい在庫もできません。すぐ売り尽し、売り越します。自然先売り、後買いになります。相場は毎日のように下がります。不況のとき品物はすぐ間にあいます。５％の利益が10％にもなります。値下げ時は、先売り、後買いに限ると思いました。

どんな不況時でも世の中は生きている、ということです。100の消費が80になるか90になるかわかりませんが、ゼロにはなりません。その差は新製品とか、新販路とか、努力でおぎないます。

「商売にヒマはない」

私が金言としてきました父の言葉です。

不景気になればよけいに忙しいということです。

昭和４年、米国にも経済恐慌がありました。

日本の金解禁

昭和５年１月金解禁が実施され１ドル対２円になりました。私が製造販売していました戸車用レールは国内向きの商品ですから直接の影響はありませんでしたが、たいへんな不況で、売上げはたちまち低下しました。今までは人手もなく、大阪市内の問屋だけをお得意としておりましたが、この機会に、東京、名古屋へと新販路を拡張しました。不況下ではありましたが、一挙に売上げが倍増しました。おかげで昭和５年の金解禁の不況時も乗り切れました。

好況と不況

いつの時代にも仮需要、買控の波はあります。私の経験では大体２、３ヶ月仮需要が起きますと、後は６ヶ月ぐらい売れ行きが低下します。低調が６ヶ月も続きますと、好転のきざしが見えても永い不況にこりて、なかなか買気がわかないものです。また売値の値上げにもフンギリがつかない、これではいけません。こういうとき、私は指折り数えて、もう６ヶ月も低調であったのだから、と頭の切替えを速かにすることに努力しました。

また、仮需要が起きて、毎日毎日値上りするとき、私は３ヶ月以上続くことはまずないと、原則的に考えておりました。尼崎伸銅所の阿部社長から、あなたは人の反対ばかりして金儲けをするんですな、といわれたことがあります。尼伸は古河電工の子会社で、現在は古河電工の大阪伸銅所になっていますが、当時の営業部長水谷九二吉氏は現在もご健康で文通もさせていただいております。

頭の切替を速かに

今申しましたのは平常時の話で、インフレーションのときなどは、通貨の根本が変るのですから、そういうときは相場に付くことです。ただし、頭の切替えるときを誤らないように心掛けることが大切です。ここ数年来、第一線は退いておりますが、何だか近ごろは十数ヶ月良いとか、十数ヶ月悪いとか、よく聞きます。日本が成長につぐ成長で、経済が大きくなったためか、流通機構が変ったためか、手形支払が多くなったためかとも思いますが、いずれにしても、頭の切替えのときを誤らないようにさえ心得ておればよいと思います。お得意先へは値下げも値上げも速かに報告しますので、たいへん信頼されました。

海外情報には常に注意をしておりました。しかし、決して相場師的に空売りをしたり、思惑買いをしたりしたことは一度もありません。

名実共に、実業でなくてはなりません。

結び

建築金物業界にはいって58年、ニクソンショックにかんがみ、金解禁の前後のことを申し述べました。終戦後20数年、日本人は第一の試練を立派に乗切りました。日本は世界の１等国並に大成長いたしました。今度は正に第二の試練のときであると思います。日本人の真価を発揮していただきたいと念願いたします。

筆者　安田株式会社会長

■建築評論

発行所：建築評論社

年４回季刊　￥300.－

■超高層住宅のシステム化に成功

ＫＫ竹中工務店では、超高層住宅のシステム開発を推進されてきたが、このほど統合化工法による良品質で、生産性、経済性の高い超高層住宅の標準化（竹中ICS-HR-R）に成功。

この超高層住宅の開発により、一昨年に打ち出した「豊かな住みよい住宅」を大量生産で、安く供給する〝竹中ICS－住宅シリーズ〟は、１戸建ての個人住宅から27階の超高層住宅まで一連のシリーズが完成したことになる。

ICS-HR-Rの主な特徴は次のとおり。

偶数階と奇数階の基本壁(間取り壁)を交互に変えるという、超高層アパート用の架構方式を新開発し、耐震、ねじれなどの構造上の諸問題を解決した。

専門工場においてPCa板、設備ユニットなどを生産するため、性能品質の総合管理が可能。

ヒートポンプ方式によるセントラル冷暖房を完備。各戸から安全に避難できる２方向の避難経路を設置。

ロビー、ラウンジ、集会室等を設け、コミュニティの場としてのパブリックスペースを確保。

１階で来訪者の管理を行なうクロードシステム。

工期短縮、労働力の削減など生産性の向上により、コストダウンが図れる。

正誤表

都市再開発と地下街問題〈１月号レポート〉

P55・右段12行目	付和番同的→付和雷同的
〃 20行目	10年→10月
〃 29行目	速度に→速度は
〃 42行目	特徴→特徴
〃 47行目	徹底→徹底
P56・左段１行目	不熱化→不燃化
〃 4行目	少なすく→少なくて
〃 45行目	報行→執行
〃 49行目	外郭体→外郭団体
〃 51行目	手続きに→手続きは
〃右段17行目	議牲→犠牲
〃 37行目	今年→46年
〃 50行目	状適性→快適性　孝慮→考慮
〃 57行目	再関発構想→再開発構想
〃 58行目	入口→人口
P57・左段５行目	把掘→把握
P58・左段27行目	連続性に→連続性は
P58・左段33行目	４日→４月
〃 図－３	○駐車場→Ⓟ駐車場
P59・左段６行目	換骨奪胎→換骨奪胎
〃 20行目	フイートバック→フイードバック
〃 21行目	市民のもとと→市民のものと

西日本総合開発の基本構想

関西経済連合会

昭和46年11月

はじめに——70年代の地域開発の意義と目標——

(1) 日本経済は、これまで民間設備投資、輸出伸張を軸として高度成長をとげてきた。しかしながら成長が極めて急激であったため、円問題に見受けられる内外不均衡や公害、交通禍、過密過疎、環境破壊等の諸問題が発生するに至った。このままでは、日本経済の発展自体が阻害されるおそれが多分にある。

今後のわが国の発展は財政主導型による社会資本の充実を軸として、新しい社会と、経済の建設に向って進まなければならない。そのさい、地域開発は新しい任務を負うこととなるが在来の地域開発方式ではその期待に十分こたえられない。したがって、70年代の地域開発は、新たな発想の下に展開されなければならない。

幸い、西日本各地域は開発の大いなる可能性を秘めている。この潜在的可能性を新しい開発パターンの下に実現し、西日本全域にわたり福祉豊かな地域社会を創造する。ここに、西日本総合開発の今日的意義がある。

(2) 60年代の地域開発は地域間の所得格差の是正、一人当りの所得水準の平準化に重点が置かれてきた。そのために、在来の開発計画は府県別あるいはブロック別に工業開発、とりわけて重化学工業の推進を中心とする自己完結的、相似的な生産力増大計画になりがちであった。これは地方行財政制度、とりわけて在来の行政区域への固執が最も重要な原因となっている。その打破なくしては地域開発計画は有効に推進され得ないであろう。

地域開発の最終目標はあくまでも生活水準の向上すなわち私的消費と社会的消費とを結合した生活水準を総体的に高めることにある。そのためには環境保全や人間生活の快適性を十分に配慮した、いわば経済と生活の調和のとれた開発が指向されねばならない。

Ⅰ 基本的考え方

1．西日本の範囲と特性

(1) わが国は、東日本と西日本とに大きくわかれ、それぞれにひとつのまとまった経済圏、文化圏を形成している。

このうち西日本は、経済・文化の両面において古くからの伝統と大きな集積をもつ京阪神地域を中心に、各地域が人的、物的の交流を一体的に行なっている。

西日本を構成するのは、北陸、東海地方から、近畿、中国、四国を経て九州地方に至るまで、日本列島のなかでも自然的条件に恵まれ、歴史的にも古くから開けた先進性の強い地域である。

(註)沖縄は別途検討を要すると考え、以下「西日本」という場合には含まれないものとする。

(2) 西日本は、瀬戸内海、日本海、太平洋、東シナ海といった四つの海域に囲まれているが、なかでも天然の運河ともいうべき瀬戸内海の存在は西日本の発展を特徴づけている。

瀬戸内海沿岸は、その両端に阪神諸都市と北九州各市が位置し、その間に多くの都市が数珠状に連なっている。

さらに京阪神は名古屋と結び東海道メガロポリスの重要な一環を成している。そしてこれらが一体化して、西日本全体が一つの広域経済社会圏を形成して発展してきた。このことは東日本が先進性の強い首都圏と発展の遅れている東北や北海道によって構成されていることに比べ西日本の特性となっている。

(3) また西日本は京都、奈良に代表される歴史的・文化的な遺産、瀬戸内海の多島景観を始めとしてほとんど西日本全体に広がる観光資源、さらには東シナ海や日本海における大陸棚資源、海洋資源など様々の豊富な資源に恵まれている。

このように、西日本はその自然的、地理的条件において優れた特性をもち、潜在的な発展力を秘めている。

2．広域的システム的開発

(1) 新全国総合開発計画が昭和44年4月に策定されて以来、西日本の各地においても国土開発への関心が高まりをみせている。

現在、西日本の各府県ではそのほとんどが長期の総合開発計画を策定しており、最近は特に、新全総計画に合わせて昭和60年を目標年次とする計画や構想に改訂する動きが活発である。

また、中部、近畿、中国、四国、九州といったブロック別にも大都市圏整備計画や、地方開発促進計画が策定されている。

(2) しかし、これら府県単位あるいはブロック単位の開発計画は、例えば産業構成にみられるようにそれぞれの対象地域内での自己完結型プログラムであることが多い。

広い視野に立って国土の総合的な開発の基本的方向を示すものとされた新全総計画も結果的にはブロック別の開発構想を基本として具体化されている現状であり、したがって個々の計画はブロック内での自己完結的な性格をもっている。

(3) 自然的、地理的条件においてすぐれた特性をもち、したがってまた潜在的な発展力を秘めた西日本の開発のあり方は、これを府県あるいはブロック単位に細かく分け、その中において完結したシステムを作りあげるのでは適切ではない。現在の府県、さらには在来のブロックを越え、西日本という広域的な範囲で、それぞれの地域がその特性を活かして望ましい機能を分担し、相互の有機的連関を保つように構想されなければならない。

3．四面開発

(1) 西日本は、瀬戸内海、日本海、太平洋、東シナ海という四つの海域に面している。

現在、瀬戸内海に面した地域が、そのすぐれた特性を活かして高度に開発されているのに対し、日本海に面した山陰や太平洋に面した南四国・南九州などは厳しい自然条件や遠隔性のために開発が遅れていることは否めない事実である。

(2) しかし、瀬戸内海地域は、沿岸の工業地帯や都市から発生する公害による環境汚染、特に海水汚濁の深刻化に象徴されるごとく多くの意味で開発の限界に達している。

したがって、これからの西日本の発展は、瀬戸内から外洋地域への面的な広がりをもった開発にその可能性を求めねばならないであろう。

ゆえに西日本総合開発はまさに四つの海に面した各地域を有機的に連関づけた開発、いわば四面開発として進められなければならない。

ここで四面開発とは、四つの海に面した地域をそれぞれ完結した一個のシステムとしてとらえるのではなく、相互に区域をオーバーラップさせながらその特性を相互に活かし、西日本全域の中で総合的に処理することを意味する。

(3) 今後の地域開発においては、従来のように点と線の開発でなく、上述のように、面としての広がりをもった広域的な開発を考え、全体として、一つのまとまった開発を図る必要がある。このような考え方は、ひとり西日本にとどまらず、東日本、ひいてはわが国全体の開発を進める場合に重要であると考える。

II 総合開発の主要課題

1．リンクシティ（広域集合都市圏）の形成

(1) 主要課題の第1は、人口、産業の大都市への過度集中を是正し、巨大都市、地方中核都市、地方都市にそれぞれの特性を活かした独自の機能を発揮させることにより西日本全体として都市機能の適切な配置を実現することであろう。そのためには、一都市があらゆる都市機能を具備するというのではなく、複数の都市が連結することによって総合的な都市機能を形成する必要がある。すなわち工業機能を分担する都市、商業・流通機能を分担する都市、あるいは学術・研究機能や観光・レクリエーション機能、またベッドタウンとしての機能を分担する諸都市が、その地域の中核都市（中枢管理機能都市）を中心に、高速鉄道など優れた交通手段によって結ばれ、一つの都市圏を形成する。このような都市圏を仮りに狭義のリンクシティ（広域集合都市圏）と呼ぶ。この場合、中核都市は必ずしも一つとは限らない。そして、これらリンクシティはその地理的、歴史的な特性や、経済的、社会的な条件によって、独自の機能を発揮することになる。

さらに、それぞれのリンクシティは府県境、あるいは地域ブロックを越えて他のリンクシティと連結し、より広域的に相互の機能を補完し(広義のリンクシティ)、そしてこれらリンクシティがそれぞれの特色を発揮することにより西日本全体として一つのいわばリンクシティ網が形成される。

(2) 西日本全体として有機的な都市機能を発揮するリンクシティの配置を例示すれば、次のような姿も考えられよう。

(イ)北東九州連担都市圏(北九州、福岡、佐賀、熊本、大分など)
(ロ)瀬戸内循環都市圏(松江、広島、松山、高知、高松、岡山、鳥取など)
(ハ)大阪湾循環都市圏(京都、大阪、神戸、徳島、和歌山など)
(ニ)伊勢湾循環都市圏(名古屋、岐阜、四日市、津、伊勢など)
(ホ)北陸連担都市圏(富山、高岡、金沢、福井など)

(註)ここで循環都市圏とは、いくつかの中核都市が海をはさんで環状に結ばれる型をいい、連担都市圏とは中核都市が連続的に集まり連携する型をいう。

2．広域大規模工業基地の建設

(1) 主要課題の第2は、自然と生活環境の保全を図りつつ、工業・エネルギー産業の立地を再編成することである。

60年代が内海沿岸を基地とするコンビナートの時代とすれば、70年代はこの結果として生じた弊害（環境破壊）を除去しつつ、既成工業地域の分散立地を進めると共に、外洋に面した遠隔の適地に新しい立地パターンを形成する時代となろう。このための一つの方向として、

(イ)いわゆる臨海性装置型工業は未開発の適地（外洋の遠隔地）に大規模なものを建設する。但し、全部門を包含する必要はなく、複数の地点に環境保全を考慮しながら、機能の異なる基地を建設し、これを広域的に機能連結させることによって、大規模工業基地としての総合的な機能を発揮する（広域大規模工業基地）。

(ロ)その他工業については、素材（臨海)→加工・組立（内陸)→流通（内陸)→消費地という形で、それぞれの適地に小規模ないし中規模の個別基地を形成する（個別工業基地)。

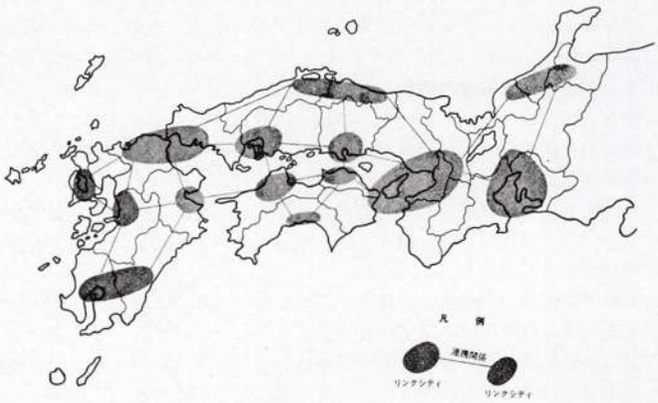
(2) 広域大規模工業基地においては、鉄鋼、石油、電力など臨海性装置型工業とそれに関連する産業、あるいは原料・エネルギー資源の貯蔵基地などが、それぞれの立地要因に応じて計画的に配置され、一つのシステムとして成り立つ。これにより、他の地域における高度加工・組立型産業、あるいは知識集約型産業への特化が容易になり、機能分担に基づく産業の再配置が実現することになる。もちろん、新規産業立地に当っては、自然の保護と生活環境の整備に万全の対策を用意しなければならない。

(3) 大規模工業基地を建設するためには、巨大な工業用地と大型港湾の確保が必要条件となるが、既成工業地帯との連携あるいは海外資源の確保などを考慮すれば、西日本における大規模工業基地の適地としては、次の地域が一案として考えられる。すなわち、周防灘から豊予海峡を経て宿毛湾、志布志湾に至る海域、いわば瀬戸内海域の西端と、太平洋海域に面した九州、四国の一部を結ぶ地域である。

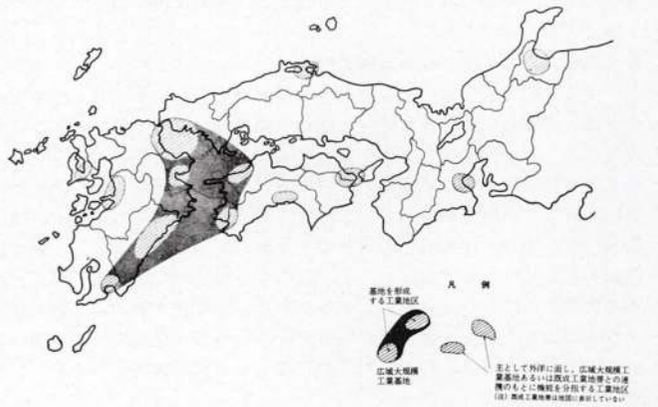
周防灘沿岸地域は、瀬戸内海の西端に位置し、山口側および大分側の沿岸に既にある程度の集積を有し、さらに沿岸の埋立により広大な用地を確保し得るという利点を有する。しかし反面、海水汚濁や用水不足といった制約条件もかかえている。したがってこの地域だけで大規模工業基地に発展することは無理だとしても広域大規模工業基地の重要な一環となり得る。

豊予海峡をはさむ大分地区新産都市と愛媛県西岸の工業地帯は、主として中規模の石油精製工業基地として、また宿毛湾と志布志湾沿岸地域はその優れた港湾条件を活かし、原料資源の貯蔵基地として、相互に機能を分担する。そしてこれらが日向灘沿岸地域の工業集積とも連携し、西南地域全体が一つの有機的な広域大規模工業基地を形成する。

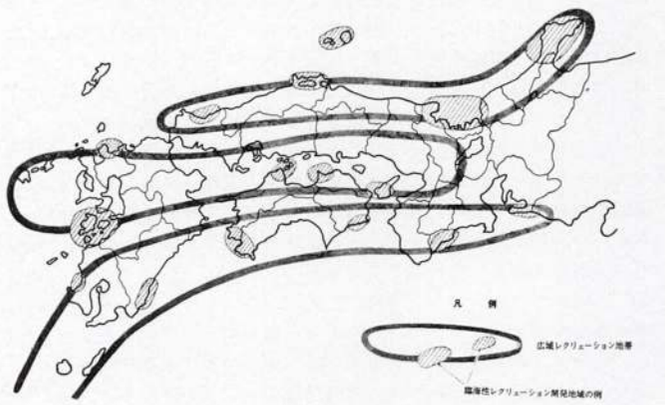
西日本総合開発の主要課題①
リンクシティ(広域集合都市圏)の形成



西日本総合開発の主要課題②
広域大規模工業基地の建設



西日本総合開発の主要課題⑤
広域レクリエーション地帯の開発



3．流通拠点港湾の整備

(1) 主要課題の第3は、四つの海を活用すること、すなわち海上交通ネットワークの拠点となる港湾の整備である。

港湾は陸海交通の結節点として、対内的にも対外的にも、人的、物的輸送に重要な役割を果たしてきたが、特にわが国経済社会の本格的な開放体制への移行に伴い、今後予想される物的流通の飛躍的増大に対処するためには、拠点としての港湾を重点的に整備する必要がある。

(2) 流通拠点港湾の整備の方向としては、

(イ)海陸一貫輸送、船舶の大型化、専用船化など物的流通合理化の要請に応ずるため、近代的ふ頭を整備して、ターミナル機能の質的改善をはかるとともに、背後の幹線道路や幹線鉄道との連絡を十分考慮して整備する。

(ロ)特に、大都市圏を控えた港湾においては、都市化の進展にともない都市活動を支えるための物資流通がますます増加するので湾全域の臨海部と物資流通に関する背後の都市機能施設とを一体的にとらえた、いわゆる広域港湾として整備する。

(3) 広域港湾として整備するのは、西日本においては伊勢湾、大阪湾・紀伊水道および関門地区ということになろう。

このほか、流通拠点港湾として整備するところとしては、次のような港湾が例示できる。すなわち、富山新港、福井新港、敦賀、境港、岡山、広島、高松、松山、高知、博多、大分、長崎、八代、鹿児島、細島など。

4．大規模畜産基地の建設

(1) 主要課題の第4は、西日本各地の中部高原地帯に賦存する豊富な草地資源を活用し、国際競争力を持った生産性の高い大規模畜産基地の建設を進めることである。

大規模畜産基地には、搾乳や肥育のための牧場と、近代的な設備を装備した育成センター、配合飼料工場、集出荷施設、品質管理施設等の付属施設を配置する。

大規模畜産基地の建設は、畜産の振興だけではなく、緑地空間を中心とする健全な自然環境の創造に役立つ。

(2) 山間部の低利用地に広大な草地造成を進めることにより、大規模畜産基地の建設を図る適地としては、中国地方、四国地方、九州地方のそれぞれ中部山岳地帯を挙げることができる。

歴史的には、四国地方と中国地方との間に畜産における連携が見られたが、各基地は大規模化かつ内部システム化することによって基地間の連携は必ずしも必要ではなく、むしろ消費地へ至る流通においてシステムを確立する必要がある。

5　広域レクリェーション地帯の開発

(1) 主要課題の第5は、西日本各地に点在する数々のすぐれた観光資源を保護、保存し、さらに自然との調和を図りつつ開発することによって、豊かなレクリェーションの場を整備することである。

急テンポに進展する高密度社会の中にあって、人間の精神活動は加重化される一方、余暇時間は増大し、消費水準は向上し、その結果、人間性を回復し、明日の勤労への鋭気を養うためのレクリェーションに対する国民の欲求はますます強まる。しかも、今後のレクリェーションは、従来の物見遊山的なものを中心とする形から、世代別・男女別に色々な人々の多面的なレジャー欲求を満たすべく多様化し、交通手段の発達によって広域化すると思われるので、相互に連なる広域観光ルートとして整備する必要がある。

(2) 広域レクリェーション地帯においては、特に自然を保護・保存すべき地域、自然との調和をはかりつつ開発すべき地域、自然を改良・改造すべき地域等のゾーニングを広域的配慮に基いて行ない、これらを総合的計画的に開発整備する。自然保存地域においては、車の乗入禁止や、場合によっては人間も立入らせない等の措置をとる。自然調和地域では、自然に囲まれた環境の中で保養・休養を目的としたレクリェーションを中心に施設整備を行なう。自然改造地域では、人口のビーチを作ったり、それに付属する駐車場や水の浄化施設も完備する。広域レクリェーション地帯の開発、整備においては、交通機関の整備が重要となる。したがって、マイカー時代に対応した高速道路や大量輸送に適する高速鉄道の建設を進めるとともに、遠隔地においては空港の整備を図らなければならない。同時に、レクリェーションを快適ならしめるためにも、交通制御の問題をあわせて考える必要がある。

(3) 広域レクリェーション地帯としては、海域に視点をおくと帯状に3本の臨海性レクリェーション・ラインを設定することができる。すなわち、能登を含めて北陸から若狭湾を経て山陰地方へ至る日本海ライン、南紀から南四国、南九州を経て南西諸島へ至る太平洋ライン、および瀬戸内から九州の中部高原地帯を経て天草・五島列島へ至る瀬戸内・東シナ海ラインである。もちろん西日本には内陸部に自然森林帯、高原、山岳、河川などレクリェーションに適したところが各地に存在する。これらについても広域的、計画的に整備しなければならない。

6．高速交通ネットワークの形成

(1) 以上の主要課題を実現するため欠くことのできない基本的な課題は、各地域間の時間的距離を短縮する高速交通ネットワークの形成である。高速自動車道や新幹線鉄道、さらには大型空港をも含めた高速交通ネットワークを西日本全体に網状にはりめぐらすことによって大都市圏に過度に集中しつつある人口と産業の適正な地方分散が促進されるとともに、新しい都市づくり、産業づくりが容易になる。

(2) ネットワークの形成に際して特に留意すべきは、東西の交通体系の整備と並行して、南北の交通体系にも力を入れ(肋骨方式)、外洋に面した地域の遠隔性を解消することであろう。したがって、本四連絡架橋に加えて、将来は、伊勢湾架橋や豊予海峡の架橋をも考慮すべきである。なお、関西新国際空港は西日本の国際的機能を高めるうえに特に重要であると思われるので、その早期建設が望まれる。

あとがき——開発体制の整備——

(1) 地域開発体制の現状

地域開発は、主として国と広域地方公共団体たる都道府県によって分担して行なわれる。すなわち国は全国的な視野から国土開発の基本計画を策定し、他方都道府県は地域の実情に即応した実施計画を策定することを原則とする。もちろん地域開発においては、地域住民のニーズをできるだけ正確に行政面に反映させることがとくに要請されるので、国よりもむしろ地方公共団体が主要な役割りを果たすべきことはいうまでもない。また、総合的に行なわれるべき地域開発の要請にこたえるためには、都道府県などの広域地方公共団体の果たすべき役割が期待される。

しかしながら、社会経済の発展と高密度化に伴ない、現行の府県区域を単体にして分割することが不可能な行政がとりわけて開発行政の面に著しく増加している。例えば、うえでみた西日本総合開発における主要課題の包括する範囲は、明らかに府県の区域を越えるものであろう。

もし府県間の協力組織が十分に整備されておれば、このようないわゆる広域行政にある程度対処できるであろうが、現在のところ有効な協力を期待しうるだけの制度的条件は整っていない。

その結果、本来地域の問題とみなされる開発行政にまで国が責任を負う場合がしばしば生じてくる。このことは地域開発に国の行政組織の宿命的な欠陥ともいうべき縦割行政の弊を持込む原因になると同時に、地域住民のニーズが府県の計画によっては十分に充足され得ないことをも意味するであろう。ここに現在の開発体制が根本的に改革されるべき理由がある。

(2) 広域行政への要請

うえで見たように地域開発の体制整備を図るためには府県行政区域の拡大が不可欠の条件である。けれども広域化の要請は、社会的、自然的、経済的見地より地域の一体性がほとんど見られない区域にまで認められるべきではない。広域化の手段には、府県の自主的な合併にまつ府県合併方式と全国的に府県を再編成する道州制方式がある。合併方式は手続的には好ましいとしても、府県自体が極めて消極的であるという困難がある。他方道州制方式によれば、現在国が府県の行政を補うために行なっている仕事は地方に委譲されることになろう。例えば、国の出先機関が行なっている行政の多くは新しい地方政府に吸収される。

以上のような見地から開発体制の整備には全国的に府県を再編成することが必要であるということができる。もちろん新しい地方政府がどの程度の規模であるべきかは先に述べたように慎重に検討する必要があろうが、その点例えば、国の機関である近畿圏整備本部の規模や新全総計画のとったブロック単体が重要な基準となろう。

また、府県の広域化に対して、現在府県が行なっている仕事はできるだけ市町村が行ない得るように市町村の行財政能力の充実強化を図り、これを整理する必要がある。また最近の住民の生活行動様式の変化に対応する行政広域化の必要性は市町村行政の面でも生じているので、市町村規模の適性化を図る必要があろう。

(3) 財源の確保と土地取得

府県制度の再編成は、開発行政の計画実行において規模の経済性が活かされると同時に、その総合性によって開発の効果が発揮されるように配慮されなくてはならない。

しかし、今日立遅れが著しい社会資本を整備し物心ともに豊かな社会を築くためにはさらに膨大な財源が必要である。このためには、公共資金の政府間配分を合理化するとともに、公共部門に民間の資金および活動力を積極的に導入しうるような制度を検討する必要があろう。

また、近年の土地価格の高騰によって公共用地の取得が極めて困難になっており、地域開発計画の見通しが、この面からくずれさることが多い。したがって土地利用の適正化を図り、地域開発のあい路を打開する必要がある。

データ通信と建築

SERIES: 4

DEMOS FRAP GEN

守谷　一彦

3・建築骨組応力解析（ＢＬＤ）

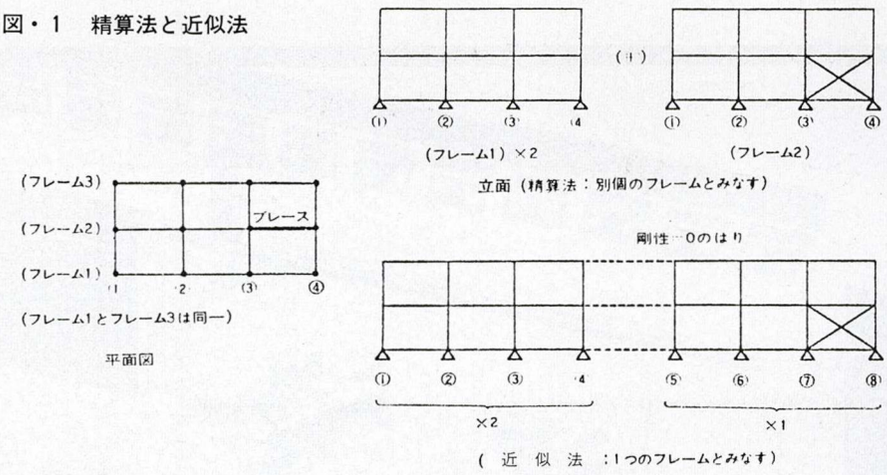
データ通信用に電々公社が開発した科学技術計算システム（ＤＥＭＯＳ）の中にあるライブラリ・プログラムで、構造物の応力解析用のプログラムをＦＲＡＰと呼ぶ。ＦＲＡＰは任意形状骨組応力解析（以下ＧＥＮと呼ぶ）と建築骨組応力解析（以下、ＢＬＤと呼ぶ）との２つの部分からなる。今回はＢＬＤについて説明する。

3・1　ＢＬＤの機能

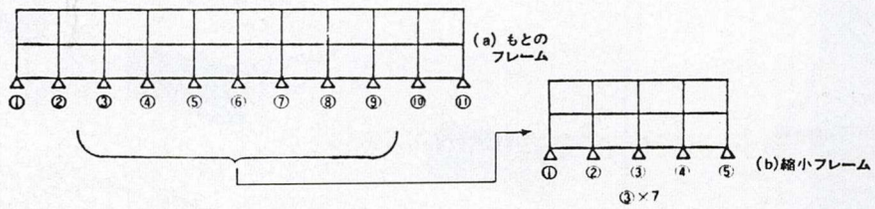
ＢＬＤは柱、はり、および、ブレースで格子状に構成された平面フレームを弾性域で応力解析するプログラムである。柱、はり、ブレース等の部材が途中で抜けることも可能であるが、各層ごとに、その層の節点は同一水平変位をすると仮定しているので、いわゆる段違いラーメンが水平力を受けるような場合は取り扱えない。しかし通常の建物のように、剛床による同一水平変位の仮定が成り立つものについては、ＧＥＮよりも入力量が少なく、容易に結果が得られる特徴を持っている。

解析手法は精算法と近似法（iteration法）の２通りが用意されており、近似法を繰返せば精算法と同じ結果が得られるが、指定誤差をあらくすれば計算時間の節約となり、略設計の時には有効である。

図・１　精算法と近似法



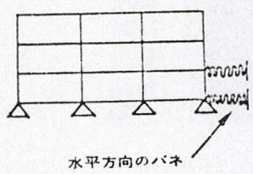
図・２　縮小フレームの例



表・１　ＢＬＤの概要

		精算法	近似法
骨組の形	種類	複数の平面フレーム	一つの平面フレーム
	仕口パネル，剛域	仕口パネル，剛域	剛域
	部材と節点の接合	柱，はり：剛，半剛およびピン（回転方向のみ）	（同左）
	支点	柱脚：上下および回転に半固定が可能 各層：水平方向に半固定が可能(注)	柱脚：上下および回転に半固定が可能
荷重	外力，モーメント	部材および節点に作用	（同左）
	その他	支点移動：最下層の柱脚上下方向 温度応力	（同左）
計算	変形	軸方向 曲げ せん断	（同左） ただし、軸方向は無視できる
	応答計算用剛性マトリクス	求まる	直接求まらない
	固有周期 刺激関数	求まる	求まらない

(注) 図で示す



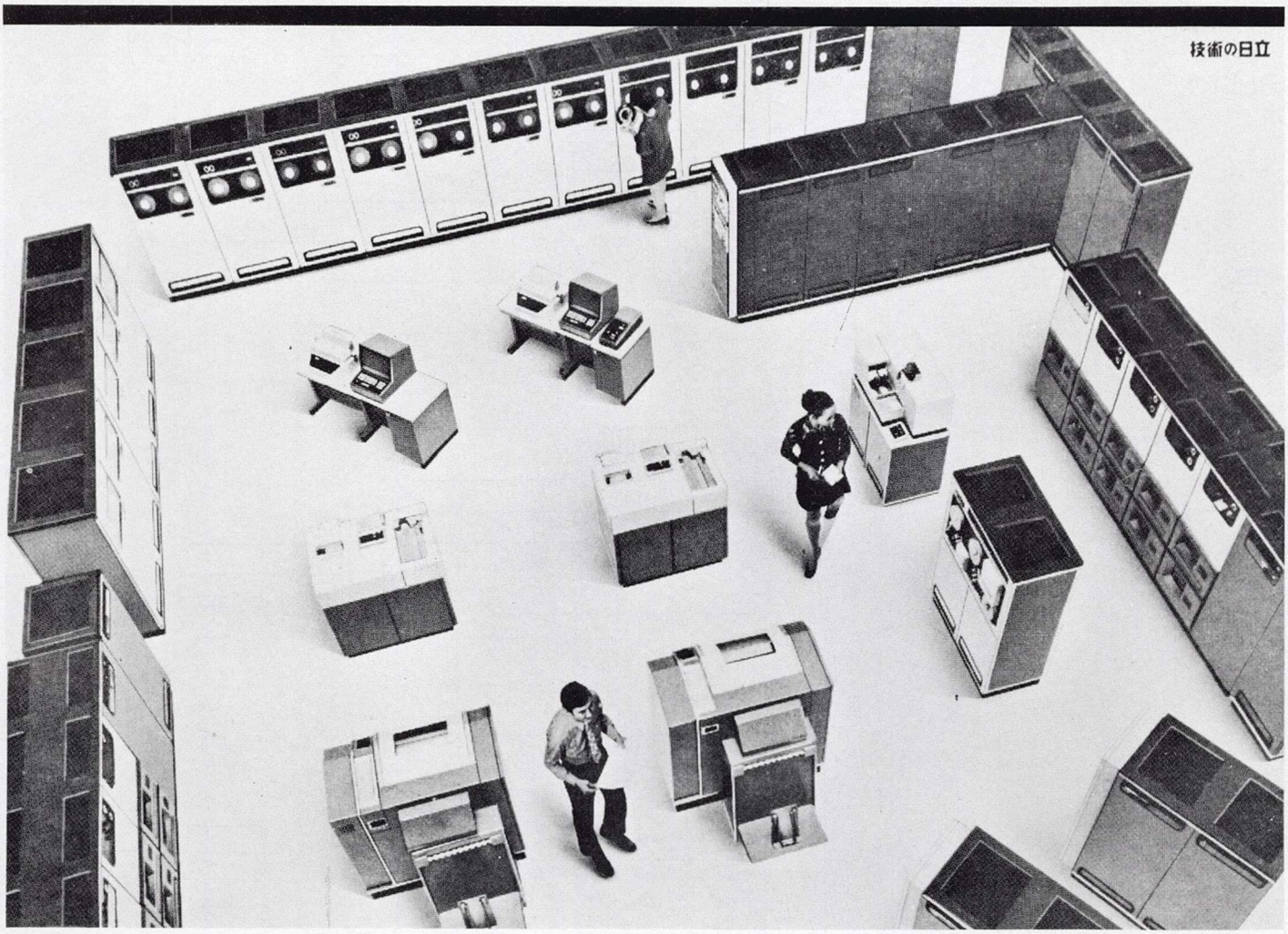
表・２　ＢＬＤの使用上の制限

項目	精算法	近似法
フレーム数	70	1
節点数 (注1)	1000（フレーム当り）	1000
スパン数	61 (注2)	98
層数	50	50
部材断面形の種類	150	150
パネル寸法の種類	150	
剛域寸法の種類	150	150
柱はりの半剛係数の種類	150	150
剛性マトリクスの種類 (注3)	制限なし	500
荷重条件数	10	10

（注１）節点数＝（スパン数＋１）・（層数＋１）

（注２）層数と荷重条件数、およびパネルを考慮するかどうかで多少異なります。

（注３）柱、はりおよびブレースについて、同一の部材断面形、部材長および端部状態（仕口パネル、剛域および接合状態）をもつ部材は同一の剛性マトリクスになります。



NEW SERIES **HITAC 8450・8350システム**

プライス•パフォーマンスに
――新時代を開く
日立のコンピュータ

HITACニューシリーズは、中形機にもかかわらず、従来は大形機種だけに提供されていた、さまざまな技術や機能を備えています。たとえば、高性能処理能力、大容量の内部記憶装置、豊富な入出力装置、各種利用形態にマッチした端末装置群、多重プログラミングができるオペレーティング・システムなどがそれです。こうしたプライス・パフォーマンスの高いハードウエアとソフトウエアによって、4つの方向が可能になったのです。

- データベース・システムへの接近
- オンライン・システムの実現
- リモート・バッチ・システムの実現
- 操作性の向上

問題を解決する頭脳集団 / HITAC

●お問合せは　日立製作所 大阪営業所
大阪市東区北浜4－6（日生日立ビル）〒541 電話(203)5781（大代）

精算法と近似法では骨組の扱い方が異なる。精算法は水平方向に剛な床により連結された複数の平面フレームを複数のまま取り扱うのに対して、近似法では、これらを剛比＝0の仮想のはりで直列に連結された1枚の平面フレームとして取り扱う必要がある。例を図・1に示す。表・1にＢＬＤの概要を示す。

耐震壁はブレース材に置換するか、曲げ、せん断および剛域を持つ柱に置換することができる柱、またははり、と節点（剛域または仕口パネル）との接合部は、曲げ方向のみ半剛とピンが可能である。

ブレースは原則として軸中心線の交点(節点)に取り付くが、仕口パネルがある場合は、その隅角部に取り付けることもできる。せん断変形も必要に応じて考慮できる。また、近似法では、必要に応じて柱軸方向変形を無視したり、同一の部材寸法と材長を持つブレースのないスパンが連続している場合、その部分を縮小してフレームをモデル化することもできるようになっている。これらによって計算時間を大巾に短縮することができる。例を図・2に示す。表・2に使用上の制限を示す。

その他、半剛支点、各層の水平方向の半剛、支点移動、温度応力、等々も考慮することができる。また精算法では消去計算の途中で、応答解析用の剛性マトリクスが求まる。この剛性マトリクス（曲げせん断型）は、ファイルにも出力可能で、後にＤＥＭＯＳ骨組振動解析プログラム（ＤＹＮＡ）で、直接このファイルから入力して応答計算を行なうこともできる。また、同時に、固有周期、刺激関数も求まる。この剛性マトリクスを出力しておくファイルをスチフネス・ファイルと呼ぶ。

3・2入力

入力データの一覧表を表・3に示す。

入力データは一般に4種類に分けられる。解析上の条件に関するデータ、部材に関するデータ、節点に関するデータ、荷重に関するデータの4つである。この4種類のデータが満足されればよい。ＧＥＮの入力方法と異なり、ゾーン指定という考え方を取り入れているため、部材と節点に関するデータ入力が非常に簡易化されている。ＧＥＮの場合には、節点の座標値が先づ決められており、この節点と節点を結ぶことによって部材を設定した。しかし、ＢＬＤでは、もともと骨組が格子状に構成されているので柱軸線はあくまで垂直方向に一直線であり、はり軸線も同一層上にあるものは水平方向に一直線をなしている。したがって、柱間隔、即ち、スパ

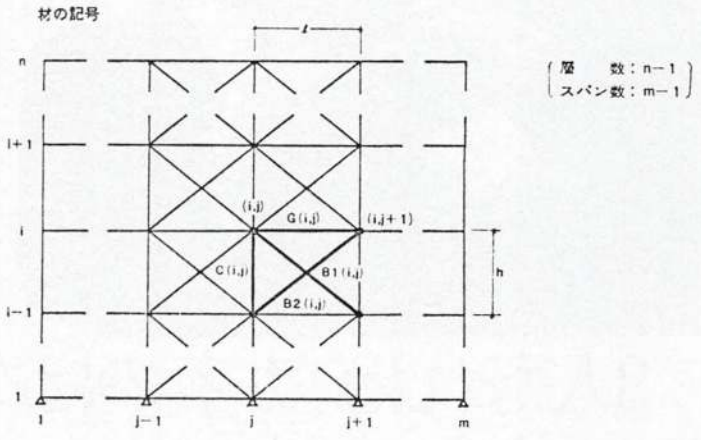
表・3　入力の一覧表

分類	コード	内容	(注) OP	精算	近似
タイトル	TTL1	略称、タイトル		○	○
ブリチェック用	BLDX	ブリチェック用データ X=1…精、2…近似		○	○
コントロール	CON1	全体コントロール		○	○
	CON2	階　高		○	○
	CON3	重　量	OP	○	
	CON4	フレーム毎コントロール		○	○
	CON5	スパン長		○	○
	CON6	フレームの倍率	OP	○	○
コントロール	CON7	計算誤差指定	OP		○
	CON8	鉛直変位の省略	OP		○
	CON9	柱の倍率（フレームの省略）	OP		○
出力指定	O-B1	レポート・ファイルへの出力指定	OP	○	○
	O-B2	モニタ・ファイルへの出力指定（節点）	OP	○	○
	O-B3	同　上　（部材）	OP	○	○
	O-B4	同　上　（諸表）	OP	○	○
断面関係	SEC1	任意の断面形	OP	○	○
	SEC2	指定の断面形	OP	○	○
	SEC3	仕口パネル	OP	○	
	SEC4	剛　域	OP	○	○
	SEC5	半剛接合部	OP	○	○

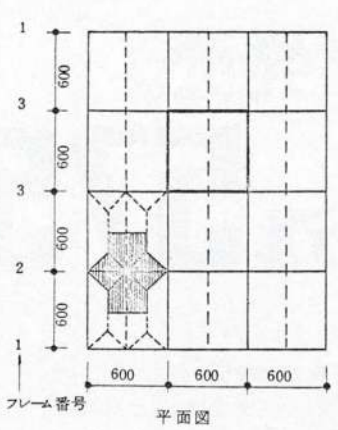
部材	MEM1	はり断面		○	○
	MEM2	柱断面		○	○
	MEM3	ブレース断面	OP	○	○
	MEM4	同　上	OP	○	○
	MEM5	はりのせん断変形	OP	○	○
	MEM6	柱のせん断変形	OP	○	○
	MEM7	はりのピン、半剛	OP	○	○
	MEM8	柱のピン、半剛	OP	○	○
節点	JOI1	仕口パネル	OP	○	
	JOI2	剛　域	OP	○	○
	JOI3	柱脚上下半固定	OP	○	○
	JOI4	柱脚回転半固定	OP	○	○
	JOI5	床水平半固定	OP	○	
節点荷重	JLD1	水平荷重	OP	○	○
	JLD2	節点荷重	OP	○	○
	JLD3	支点移動	OP	○	○
部材荷重	MLD1	はり：通常の部材荷重	OP	○	○
	MLD2	柱　：同　上	OP	○	○
	MLD3	はり：任意の部材荷重	OP	○	○
	MLD4	柱　：同　上	OP	○	○
	MLD5	はり：温度応力	OP	○	○
	MLD6	柱　：同　上	OP	○	○

(注)　OP：必要に応じて入力します。

図・3



図・4　例題



平面図

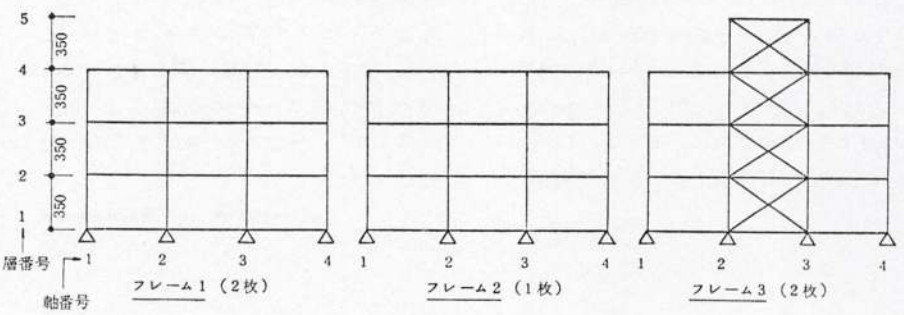
① 部材断面

断面番号	B×D	E	使用場所
10	30×60	210	はり
19	40×100	210	基礎ばり
20	50×50	210	柱
30	30×30	210	ブレース

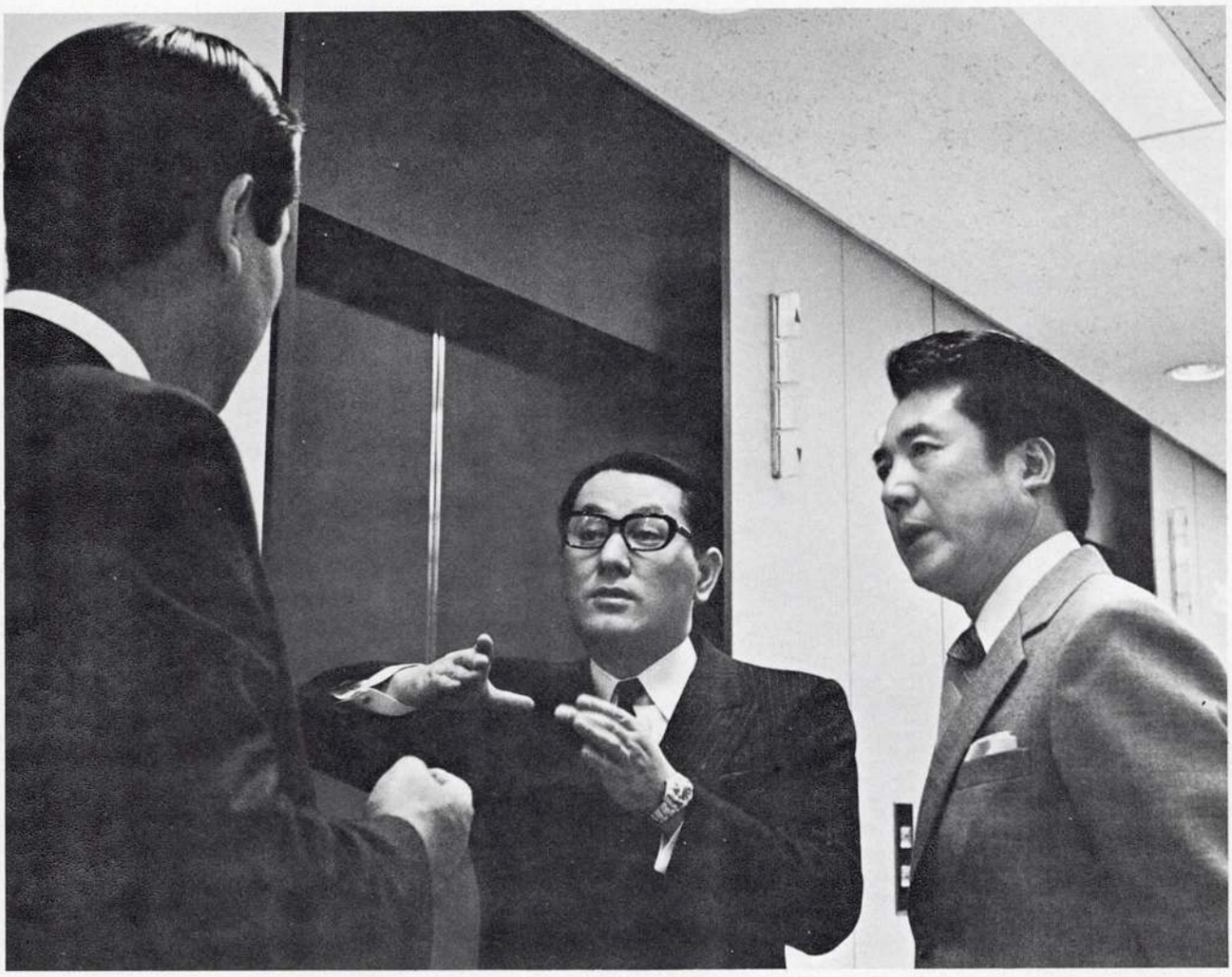
② 荷　重

荷重条件1.　水平荷重
2,3層　100t
4層　60t
5層　10t

荷重条件2.　鉛直荷重（等分布荷重）
1～3層　1t/m²
4,5層　0.1t/m²
柱，はりの自重は無視します。



立面図



3人寄れば効率のはなし。

新鋭大型コンピュータ《発売》

NEAC-シリーズ2200 モデル575/375

激動の経済環境をのりきるために、コンピュータの果す役割は重要です。そのなかにあって、企業のコンピュータ利用も、いかに効率よく、より高度な使い方をするかが、大きな課題となっています。日本電気がこのたび開発したNEAC-シリーズ2200モデル575・モデル375は、これらの市場動向に応えて登場した、高性能で経済的な今日の大型コンピュータです。これによりNEAC-シリーズ2200はさらに強化され、今後、成長・発展するオンライン／リアルタイム・システム、タイムシェアリング・システム、データベース・システムなどの、高度なアプリケーションを可能にしました。

NEC コンピュータ
NEAC
日本電気
情報処理営業管理部
TEL (03) 452 — 1111

ン長と、層間隔、即ち、階高の2つの値によって、柱はりの交点、即ち、節点が設定される。柱軸線に左から右へ番号を付け、はり軸線に下から上へ番号を付ける。柱軸線の方を軸通りと呼び、はり軸線の方を層と呼ぶとすれば、「j軸通りから（j＋1）軸通り、かつ（i－1）層からi層まで」という表現で、あるゾーンを指定することができる。（図・3参照）したがって、部材に関するデータは全て、このゾーン指定によって入力する。またGENのような節点に関するデータ（座標値など）は必要でなくなる。BLDにおける節点に関するデータとは仕口パネル、剛域、半剛等を考慮する場合のもので、ゾーン指定によって入力する。

図・4のような構造物の入力例を表・4に示す

3・3出力

計算結果としてつぎのものが求まる。

1. 等価節点荷重
2. 応答計算用スチフネスマトリクス（精算法のみ）
3. 固有周期・刺激関数（精算法のみ）
4. 節点の変位と回転
5. 部材応力
6. 支点反力
7. フレームの層せん断力
8. 建物全体の水平力分担率
9. 不平衡力およびその総括表。

計算に用いる単位はGENと異なり、各レコードで定まっている。入力はton・cm（但し、一部ton・m）、出力のうち、力はton、モーメントはton・m、変位はcmおよびラジアンである。表・5に例題（図.4）の出力の一部（部材応力と水平分担率）を示す。

部材応力のYUは図・3のiに、またYDはi-1 XLはj、XRはj＋1に各々対応しており、C（i，j）、B1（i，j）、B2（i，j）G（i，j）に関する応力が表わされている。（図・3参照）

（もりや かずひこ　日本電信電話公社建築局）

表・4　入力例

```
BAT  R
          データ ヲ イレテクダサイ
ON
LIB  FRAP
111
22    T,  RF001,,,  STF001
        TTL1EX-B1     EXAMPL   BLD1
        BLD1  3,3,4,2
   10   CON1  ,4,,1,  210
   20   CON2  1,350,  2,350,  3,350,  4,350
   30   CON3  2,500,  3,500,  4,300,  5,  50
   40   SEC2  10,1,   60,30
   50         19,1,  100,40
   60         20,1,   50,50
   70         30,1,   30,30
  100   CON4  1,  3,  3
  110   CON5  1,  1,600,  2,600,  3,600
  120   CON6  1,  1,4,2
  130   MEM1  1,10,  2,4,1,4
  140         1,19,  1,1,1,4
  150   MEM2  1,20,  1,4,1,4
  200   CON4  2,  3,  3
  210   CON5  2,  1,600,  2,600,  3,600
  220   MEM1  2,10,  2,4,1,4
  230         2,19,  1,1,1,4
  240   MEM2  2,20,  1,4,1,4
  300   CON4  3,  3,  4
  310   CON5  3,  1,600,  2,600,  3,600
  320   CON6  3,  1,4,2
  330   MEM1  3,10,  2,4,1,4,  5,5,2,3
  340         3,19,  1,1,1,4
  350   MEM2  3,20,  1,4,1,4,  4,5,2,3
  360   MEM3  3,30,  1,5,2,3
  370   MEM4  3,30,  1,5,2,3
        C     ------  LOAD
 1000   JLD1      1,  1,100,  2,100,  3,  60,  4,  10
 2000   MLD1  1,  2,  21,,  1.0,  600,,,,,  1,3,1,4
 2010         1,  2,  21,,  0.1,  600,,,,,  4,4,1,4
 2020         2,  2,  21,,  2.0,  600,,,,,  1,3,1,4
 2030         2,  2,  21,,  0.2,  600,,,,,  4,4,1,4
 2040         3,  2,  21,,  2.0,  600,,,,,  1,3,1,4
 2050         3,  2,  21,,  0.1,  600,,,,,  4,4,1,4,  5,5,2,3
 2060         3,  2,  21,,  0.1,  600,,,,,  4,4,1,4
        C
  500   O-B2  1,  4,1
  510   O-B3  2,  2,1,  2,2
  520         3,  2,1,  2,2
  530   O-B4  1,  1
10001JLD1      1,  2,100,  3,100,  4,60,  5,10
CAT  RF001
CAT  STF001
OFF
/EOJ
```

BSN=F021，　BRT=09－51－04

表・5　出力例

EX-B1 - 23
(FRAME 3)

***** MEMBER STRESS *****

YU-YD	XL-XR	L	MCU/MBU	MCD/MBD	QCU/QBU	QCD/PBU	NCU/NB	MCU-F	MCD-F	MGL	MGR	QGL	QGR	MGL-F	MGR-F
5- 4	2- 3	1	-0.36	-0.76	0.32	-0.32	1.39T	-0.4	-0.8	0.36	0.36	0.1	-0.1	0.4	0.4
		B	0.00	0.00	2.18	1.27	2.53C	(UL-DR)							
		B	0.00	0.00	2.18	-1.27	2.53T	(UR-DL)							
		2	0.59	0.44	-0.30	0.30	0.54C	0.6	0.4	-0.59	0.59	-0.6	-0.6	-0.6	0.6
		B	0.00	0.00	0.04	0.02	0.05C	(UL-DR)							
		B	0.00	0.00	-0.04	0.02	0.05C	(UR-DL)							
5- 4	3- 4	1	-0.36	-0.76	0.32	-0.32	1.39C	-0.4	-0.8	0.00	0.00	0.0	0.0	0.0	0.0
		2	-0.59	-0.44	0.30	-0.30	0.54C	-0.6	-0.4	0.00	0.00	0.0	0.0	0.0	0.0
4- 3	1- 2	1	-3.29	-1.79	1.45	-1.45	1.15T	-3.3	-1.8	3.29	3.59	1.1	-1.1	3.3	3.6
		2	2.17	4.09	-2.05	2.05	1.32C	2.2	5.0	-2.17	1.00	-1.3	-0.9	-2.2	1.0
4- 3	2- 3	1	-2.50	-1.75	1.22	-1.22	7.75T	-2.5	-1.8	-0.33	-0.33	-0.1	0.1	-0.3	-0.3
		B	0.00	0.00	10.87	6.34	12.59C	(UL-DR)							
		B	0.00	0.00	10.87	-6.34	12.59T	(UR-DL)							
		2	-0.01	-0.30	0.09	-0.09	2.50C	-0.0	-0.3	-1.43	1.43	-1.1	-1.1	-1.4	1.4
		B	0.00	0.00	0.20	0.12	0.23C	(UL-DR)							
		B	0.00	0.00	-0.20	0.12	0.23C	(UR-DL)							
4- 3	3- 4	1	-2.50	-1.75	1.22	-1.22	7.75C	-2.5	-1.8	3.59	3.29	1.1	-1.1	3.6	3.3
		2	0.01	0.30	-0.09	0.09	2.50C	0.0	0.3	-1.00	2.17	-0.9	-1.3	-1.0	2.2
4- 3	4- 4	1	-3.29	-1.79	1.45	-1.45	1.15C	-3.3	-1.8	0.00	0.00	0.0	0.0	0.0	0.0
		2	-2.17	-4.93	2.05	-2.05	1.32C	-2.2	-5.0	0.00	0.00	0.0	0.0	0.0	0.0
3- 2	1- 2	1	-3.68	-2.26	1.70	-1.70	2.95T	-3.7	-2.3	5.47	5.33	1.8	-1.8	5.5	5.3
		2	7.34	6.88	-4.06	4.06	12.00C	7.3	6.9	-12.33	15.78	-10.7	-11.8	-12.3	15.8
3- 2	2- 3	1	-4.81	-3.81	2.46	-2.46	31.47T	-4.8	-3.8	1.23	1.23	0.4	-0.4	1.2	1.2
		B	0.00	0.00	32.17	18.77	37.25C	(UL-DR)							
		B	0.00	0.00	32.17	-18.77	37.25T	(UR-DL)							
		2	-0.46	-0.32	0.22	-0.22	24.56C	-0.5	-0.3	-15.03	15.03	-11.2	-11.2	-15.0	15.0
		B	0.00	0.00	1.94	1.13	2.24C	(UL-DR)							
		B	0.00	0.00	-1.94	1.13	2.24C	(UR-DL)							

EX-B1 - 25

***** LATERAL FORCE DISTRIBUTION / BUILDING *****

YU-YD	L	DSP	Q-EX	Q-C	Q-B	Q(C+B)	Q-REACT	Q-IN	Q-UNBL	PERCENT	Q-C	Q-B	Q(C+B)	Q-RACT	Q-IN
5- 4	1	0.73	10.0	1.3	6.7	10.0	0.0	10.0	0.0		12.72	87.28	100.00	0.00	100.00
5- 4	2	-0.00	0.0	-0.0	-0.0	-0.0	0.0	-0.0	0.0		0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
4- 3	1	0.63	70.0	26.5	43.5	70.0	0.0	70.0	0.0		37.87	62.13	100.00	0.00	100.00
4- 3	2	-0.00	0.0	-0.0	-0.0	-0.0	0.0	-0.0	0.0		0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
3- 2	1	0.49	170.0	41.3	128.7	170.0	0.0	170.0	0.0		24.29	75.71	100.00	0.00	100.00
3- 2	2	-0.00	0.0	-0.0	-0.0	-0.0	0.0	-0.0	0.0		0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
2- 1	1	0.26	270.0	86.0	184.0	270.0	0.0	270.0	0.0		31.86	68.14	100.00	0.00	100.00
2- 1	2	-0.00	0.0	-0.0	-0.0	-0.0	0.0	-0.0	0.0		0.00	0.00	0.00	0.00	0.00

すぐれた居住性を創造する

軽量気泡コンクリート

シポレックス

SIPOREX



軽量

比重0.5

コンクリート1/4の重量

断熱

コンクリートの10倍の断熱性

耐火

法定耐火材料

宝塚市・I邸
設計　シポレックス販売株式会社
施工　シポレックス販売株式会社
使用場所　ヤネ・ユカ・カベ・マジキリ

◆シポレックスは工場、住宅から超高層ビルまであらゆる建物の屋根・床・壁・間仕切・耐火被覆に使用されますが次の建物には特に最適です。

1　工期短縮を要するすべての建物
2　空調を要する工場・倉庫事務所住宅等
3　鉄骨大張間の工場・体育館等
4　軽量化を要する高層建築物・軟弱地盤の建物
5　鉄骨耐火構造の建物

シポレックス販売株式会社

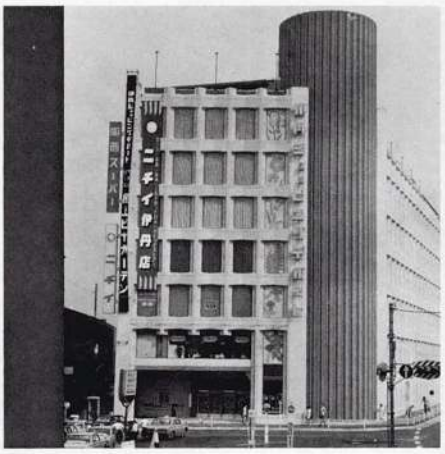
本社・東京支店　東京都千代田区神田司町2－6（平沼ビル）
電話　東京（256）代表3451
大阪支店　大阪市西区立売堀北通1－90（第三富士ビル）
電話　大阪（538）代表0521
名古屋支店　名古屋市中村区広小路西通3－2（大商ビル）
電話　名古屋（581）代表7421

□ 写真と概要をどしどしお送りください。
凡例：a．所在地　b．建築面積　c．延面積　d．構造規模　e．工　期



730.　大阪大学蛋白質研究所

設計：大阪大学施設部
施工：鹿島建設KK
a．大阪府吹田市山田上　大阪大学吹田地内
b．1,478 m²
c．8,326.67 m²
d．SRC造、9F
e．昭和45年11月～昭和46年12月



731.　伊丹ショッピングデパート

設計：KK 吉田建築事務所
施工：KK 浜田組
a．伊丹市若松町401
b．1,883.7 m²
c．16,052.5 m²
d．SRC造、8F、B1、PH2
e．昭和45年4月～昭和46年4月



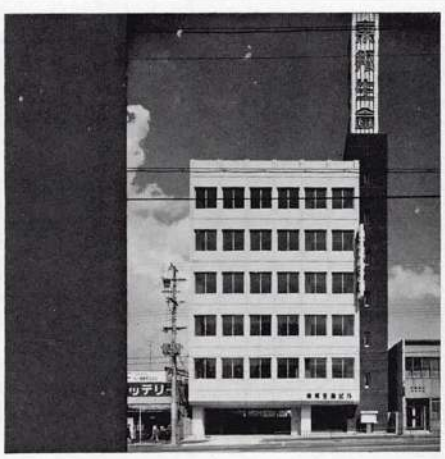
732.　南京都信用金庫本店

設計：KK 田中・小西建築事務所
施工：大成建設KK 大阪支店
a．京都市宇治市宇治字文字2番地
b．886.14 m²
c．5,503.64 m²
d．SRC造、7F、B1、PH1
e．昭和45年6月～昭和46年8月



733.　大供ビルディング

設計：阪神土木工業KK
施工：阪神土木工業KK
a．岡山市大供町1丁目2番2号
b．281.25 m²
c．3,059.45 m²
d．SRC造、9F、B2、P1
e．昭和45年11月～昭和46年10月



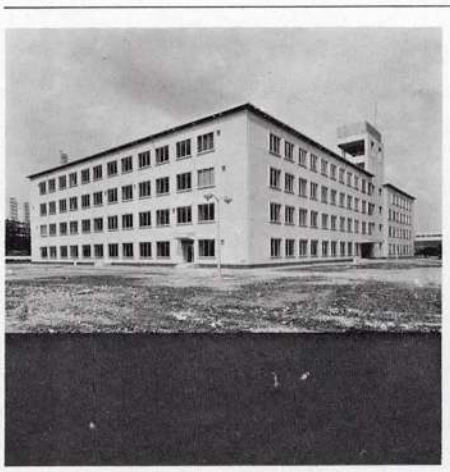
734.　東邦生命保険(相)十三ビル

設計：東久世建築設計事務所
施工：大成建設KK 大阪支店
a．大阪市東淀川区十三西の町1-1
b．251.97 m²
c．1,627.05 m²
d．RC造、6F、B1、P1
e．昭和45年12月～昭和46年9月



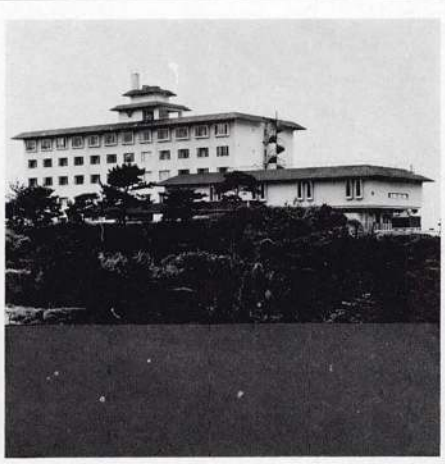
735.　高松市農協会館

設計：KK石本建築事務所大阪支所
施工：KK穴吹工務店
a．高松市塩上町3－2－1
b．360.850 m²
c．2,357.229 m²
d．RC造、6F、B1
e．昭和45年9月～昭和46年5月



736.　大阪府立大学工学部7号館

設計：大阪府建築部営繕課
　　久米建築事務所
施工：大日本土木KK 大阪支店
a．堺市百舌鳥梅町4丁
b．1,141.25 m²
c．4,612.61 m²
d．RC造、4F、B1、PH2
e．昭和45年10月～昭和46年9月



737.　鳥羽シーサイドホテル

設計：KK 富家建築事務所
施工：大日本土木KK 大阪支店
a．鳥羽市安楽島町字安久志1084
b．2,287.71 m²
c．7,360.29 m²
d．RC造、5F、B1、P2
e．昭和45年10月～昭和46年7月



738.　近江八幡市庁舎

設計：KK 田中・小西建築事務所
施工：清水建設KK 大阪支店
a．近江八幡市桜の町
b．本館1,343.72m²、その他427.25m²
c．本館4,728.98m²、その他490.25m²
d．RC造、4F、P2
e．昭和45年11月～昭和46年11月



なめらかな肌ざわり、美しい7色のカラー

TOTO のホーローバスには、ピンク・ブルー・グリーン・イエロー・アイボリー・ベージュ・青磁の7色のカラーと白色があります。

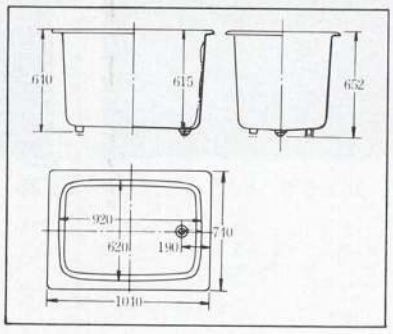
TOTO鋳鉄ホーローバス

FB 70 ¥48,000
(排水金具付)

和洋折中形エプロンなしバス

1,210×720×555
容量 250ℓ
専用フロフタ Y9152 #10(#20)
¥2,750

このほかにも、たくさんのホーローバスがあります。右記までご請求下さい。カタログを差し上げます。



TOTO
東陶機器株式会社
(旧社名　東洋陶器株式会社)
本社
〒802 北九州市小倉区篠崎町458
TEL (093)－93－5151
大阪営業所
〒541 大阪市東区高麗橋5の32
TEL(06)－203－5701



前列左から：**大堀富司**・**東野茂**・矢口伊三郎先生・堀口甚吉先生・亀井貴一先生・**渡辺厚**
後列左から：**東正治**・**勝浦孝蔵**・**林芳政**・**中村利行**・**田畑久雄**・**毛利誠**・**桝本宗三郎**・**森本治**・**榎原恒二**・**山田瑛之祐**

大阪　梅田　多幸梅にて　　昭和47年１月15日

クラスメート

81　〔旧西野田職工学校　昭和16年３月卒〕

母校を巣立ってより30年、その昔の美少年達？もとうが立って、白髪の目立つ中年男となり果てた。しかし皆年相応の立場にいて、毎日忙しく飛び廻っているよう　。

１月15日の成人の日に南窓会をするときめてもう何年になるか、昭和32年くらいから毎年欠かさずやっているので、同級会としては成績抜群？ではないかと思っている。工業学校の卒業生は、やはり皆学校で学んだ学科に関連のある職業についているので、お互いに顔を合せても話題にバラエティがなくて単調になりがちなのは少こし残念だが、毎年１回東海地方から四国までの面々が旧交を温めあうのは、寒い冬の１日の楽しい集いである。

今日集ったのを、学校時代の出席簿の順に紹介させていただくと次のようになる。

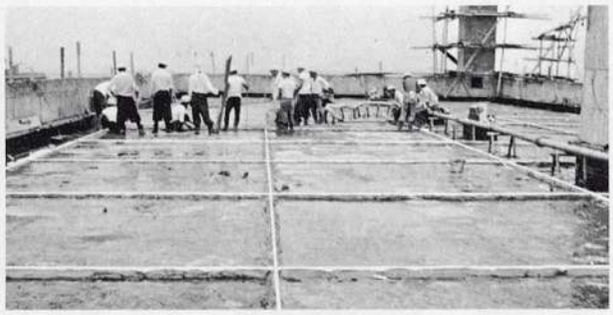
東　親からうけついだ家業をさらに発展させ八面六臂の活躍中の白光建設主。**榎原**　大林組のベテラン現業マン、目下東海の地にてトヨタ自動車の工場建設に従事。**大堀**　清水建設に永く、目下は大阪支店の見積部に席を置いて、厳しい受注競争の前線にいる。**勝浦**　永らく村角建設にいて重きをなしていたが、最近共同建設に移つって再度活躍中。杉本岡崎に居と業を構えて、いそがしく、本日は欠席。その昔のモダンボーイ。**田畑**　堅実に家業の建築業を伸ばしつつある。いつまでも若いマジメ人間。**東野**　横河建築設計事務所に席を置いて、人間はもちろん、設計する建物もガッチリ堅い建築家。**中村**　四国高松に設計事務所を構え、四国はもとより、大阪までのしてきている活動家。**林**　ただ１人建築を業としない男、事務機・文具の販売を古くから自営している大人。**桝本**　大来プレハブに新天地を見出し、販途の拡大に東奔西走、意気軒昂の営業マン。**毛利**　大林組工務部の重鎮、仮設計画、指導に忙しくかけめぐっている。**森本**　清水建設は水島の建築関係のボスとして、目下は倉敷地方にも進出中。**山田**　わが南窓会唯一のお役人、大阪府の建築部営繕工事課に席を置く紳士。**渡辺**　鹿島建設の倉敷で指導的地位にあり、森本と仕事をとりあいしている。美しい町倉敷に根をおろしたらしい。

ついでに「南窓会」のいわれをのべさせてもらうと、今はもう改築されてなくなったが、母校西野田職校の５年生の製図教室の南の窓をとったものである。週のうちほとんどの時間をこの教室ですごし、特に製図の時間などは先生が指示を与えて去られるや否や、冬の日だまりを求めて南の窓に集り、学期末に苦しまねばならないことを知りつつ、腕白坊主どもがワイワイと騒ぎながらすごしたものである。特に僕達の時は１年先輩が操り上げ卒業で３学期を待たずに卒業していったため、最高学年を２年経験したので、この部屋を一番永く使った組である。今日見えられた先生はもとより、今は亡き大石先生、名古屋におられる坂本先生、奈良におられる田中先生によくしかられた思い出の多い教室の南の窓だった。その時の22人の坊主どもも、卒業後間もなく天津で若い命を散らせた「徳田」をはじめ、戦争に命を断った、「池条」「奥田」「蔵田」「宮本」「山地」や、その後病で亡くなった、「大野」「小林」を欠き、今は14名となった。亡き前記の友の冥福を祈る。おわりに、僕達の私事のようなこの文に目を通してくださった読者と、この誌面を与えてくださった編集者にお礼を申しあげて拙文を終りたい。　（大堀記）

防水層の保護と軽量、断熱に

東邦のパーライトコンクリート PC－D工法

（歩行用及び防水下地用）



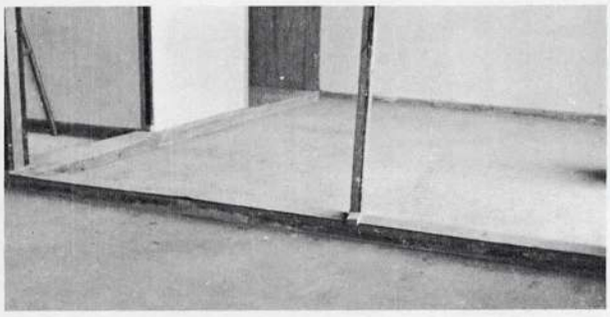
東邦パーライトコンクリートＰＣ－Ｄ工法採用の京都工芸繊維大学
（設計　教育施設研究所、施工　ＫＫ大林組）

作業が一工程省け工期の短縮と コストが安くなる合理化工法

- 防水層の押えに使用し仕上モルタルの要らない金ゴテ一パツ仕上工法
- デッキプレートの軽量化や露出防水下地、または貼物下地にナラシモルタルの要らない金ゴテ一パツ仕上工法

畳下地の省力化と塩ビ系タイル下地の防湿、防温、軽量化、断熱（結露防止）に

東邦のパーライトモルタル PM－C工法



東邦パーライトモルタルＰＭ－Ｃ（普通タタミ下地）採用
の住友電工西島社宅（設計施工　ＫＫ竹中工務店）

- タタミ下地の床組（大工仕事）が全く要らないので**工期短縮とコストが安くなる**
- 床組しないので建物の**ボリュームの節約ができる**
- 無機質 100％絶対耐火それに多孔性材料のため吸温、遮音に優れている
- **独立気泡**の東邦パーライトと**防水液を使用した完全防水パーライトモルタル**であるため、湿気を全く透さない
- **比重・断熱共木材並１：３**
（比重0.85kg／ℓ、熱伝導率0.14kcal／mhc）

遂に出た…ベニヤ仮枠コンクリート下地の**かべ**、天井の一パツ吹付仕上工法

ネオパールスキン®

化粧、吸音、防湿、断熱（結露防止）と多目的用に

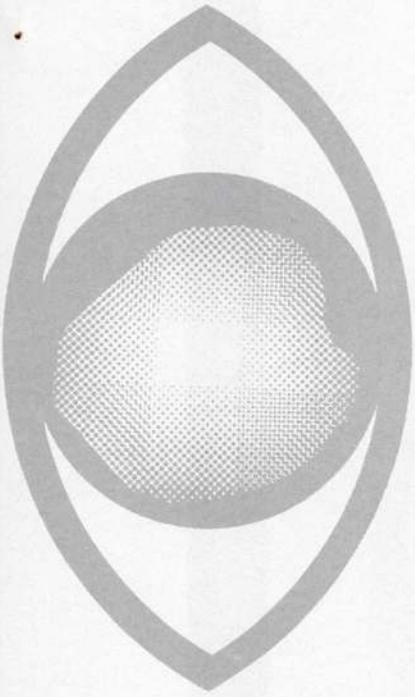
- ベニヤ仮枠コンクリート下地（天井及びかべ）に直接吹付して剥離の心配がない
- **かべ面は金ゴテ押え**すれば聚洛壁タイプの表面強度のあるソフトでデラックスなムードである（ネオパールスキンの特徴）
- 一工程で仕上るので**工期の短縮とコストが安くなる**
- 下地はボード類、鉄板類、石綿板、モルタルなど何んでもよい
- 標準色20色と特別色もできる



ネオパールスキンをベニヤ仮枠コンクリート下地の天井（吹放し）壁（金ゴテ押え仕上）採用の西宮トラピスト修道院
（設計　村野森建築事務所、施工　ＫＫ竹中工務店）

東邦パーライト株式会社
（旧共栄）
大阪市東区森之宮西の町５９４　TEL代表06(941)９２４３

建築の眼



□専門知識と隣接知識

70年代は、たとえばアポロ計画のように、これまでに開発された多種多様な個別技術をシステム的に集積して新しい飛躍を遂げる時代といわれる。また一方では、これまでの技術中心、生産第一主義に代って、社会的、人間的、精神的な面に重点を置いて新しい文明の開発を進めてゆく時代ともいわれている。

われわれの建築界においても最近は建築単体を計画する場合でも都市あるいは地域社会という枠の中で、日照、騒音、大気汚染などの環境問題、交通、廃棄物処理など、その建物が建設されることによって引起される複雑多岐な現象をあらゆる角度からとらえた上で慎重に意志決定を行なう必要に迫られている。

このような状況のもとで新しい社会が要請している建築を創ってゆくには、建築家を中心として各分野の専門家が持っている知識の集積が是非とも必要であるが、専門家のチームワークによる開発手法は現実にはまだ軌道にのっていないようである。これにはいろんな理由が考えられるが、最大の問題は専門家同士の境界におこる「谷間の存在」であるという。建築と土木、工学と社会学、行政と経済といったような専門領域の交叉する地点に空白ができて、ひとつの課題をシステム的に検討してゆくことができないのである。

この問題を解決するためには境界領域の専門家を育成することが必要であるが、それとともにそれぞれの分野の専門家が各自の専門領域に関連の深い隣接領域まで専門知識を拡大して「谷間」を埋めてゆくことも非常に大切なことであろう。特に次代を担う若い建築家は未来の豊かな社会を築いてゆくために柔軟な頭脳を駆使して、専門分野に精通するだけではなく幅広く深い隣接知識を身につけるように努力すべきである。（Y）

□身のまわりの空間

以前、冬の居間の座についたとき、その座のまわりは、いろいろの土地柄の逸話に包まれていたと思い起される。少年のうろおぼえにすぎないけれども、信楽焼の火鉢、姫路で買ってきた火箸、南部の鉄瓶、大和の欠餅、和泉の蜜柑、など、たちまち数えあげられるぐらいである。したがってまた。その座は、それらの風土にまつわる豊富な自然と生産と人間関係の脈絡を綴る話題を、いつも潜在させていたのであって、そこからは絶えず、ひとつひとつの地域独自のなりわいを通じての社会的役割や、またその役割のわれわれ自身の生活空間における意味とが流れでてきて、日常の会話のなかに組み入れられていたはずであった。かくして、いろいろの地域社会、あるいは地域的自然が、強い独自性をもって互いに結びつけられたなかに、われわれ自身がそのときいるところの町や地域社会の像もまた形造られ、位置づけられていたのである。風土的伝統に根ざしたコミュニティの文化は、これらの逸話を媒体として堅固な実体をそなえるに至ったといえるであろう。いま私の居間では、××社製の石油ストーブの中で、どこの国からきたか知れない灯油が炎をあげているだけである。（K）

□大阪の水

多分、テレビで見たように思う〝コーちゃん〟こと越路吹雪さんが舟に乗り唱いながら大阪の川を下るという趣向のものだった。銀橋をくぐり、中の島公園の傍を流れ、ビル街の中を抜け海に出る、そんな風のものだった。水の上から見る大阪の都心の美しさ、シャンソン風の歌につれて水の上に影を落し流れ移る大阪の街と人、川と大阪、堀割りと大阪、水のほとりで生き続けてきたこの街の息吹きが身にしみる想いがした。もう10年程になる。今、大阪の水は死んでしまった。高速道路で水面はかくれ堀は埋められ市民は水を捨ててしまった。大阪には緑がない、広場もない、公園も驚く程少ない。軒を並べて商いをしてきたこの街の住人にとってそれらのものはなくても良かったものだったかも知れぬ。しかし大阪には水があった。狭い街路を抜けると水面があり風が吹き通り緑もあった。水面は物資の通う路であり、広場であり公園でもあった。

水の上の祭りを創った市民、舟で小屋入りする役者を橋の上で迎えた市民、家の内から水面に通ずる階段を作った市民、その市民が今では水を追いやってしまった。そして人工の川を見るために地下に入る。彼らは自分達が捨てたものがどんなに大きく、とり返しのつかぬものであったかにまだ気がつかぬように思える。それにしても地下街の床を流れる水に見入る彼らのまなざしの暗さ。（M）

□建設関係の諸学科

「高等学校学習指導要領」に記載されている工業関係学科のうち、建設関係には建築科と土木科および工芸科（産業工芸・室内装備）のほかに参考例学科としての設備工業科があり、毎年建設界に就職している多数の若人はこれら諸学科の出身者であると思われる。ところが、昨秋改訂された指導要領（48年度から実施）では、建築科・設備工業科・土木科・地質工学科・環境工学科・インテリヤ科などとなり、かなり充実されてきた。地質工学科とは、現在の採鉱科を改編して建造物の基礎工事のための諸技術も含め、環境工学科は都市上下水道や公害防除などの技術を内容とし、インテリヤ科は室内空間の設計・施工、家具製造関係の一領域を確立するため工芸科の体質を積極的に改善したものである。

一方、高校進学率は急速に伸び、48年度には88%になるといわれているが、最近の職業科軽視の風潮のため工業高校への志願者数の減少は慢性化し、私達工業教育関係者の頭痛の種となっている。

さて、新指導要領によって教育された最初の卒業生が建設界の戦列に加わるのは51年の春であるが、地盤沈下しつつある工業高校に果して新学科が設置されるようになるであろうか。工業高校の振興策について業界のご意見も伺いたい次第である。（I）

山本純孝
安井建築設計事務所神戸事務所長

紙野桂人
大阪大学工学部助教授

森谷晋作
近畿地建営繕設計官

乾亮三
大阪府立西野田工業高等学校定時制主事

一月号より六月号まで上記四氏で担当

旭硝子の線入板ガラス

プロテックス®

消防署員は——うん，乙種防火戸だね

デザイナーは——この線がアクセントになっている

どろぼうは——ここは，遠慮しとこう

コントラクターは——やっぱりプロテックスか



専門家（プロ）なら わかる

線入板ガラス「プロテックス」の種類

- ■磨プロテックス　6.8mm 10mm
- ■霞プロテックス　6.8mm
- ■サンブロンズ磨プロテックス　6.8mm
- ■サングレー磨プロテックス　6.8mm

建設省認定　乙種防火戸第85号（スチール枠防火戸），第103号（アルミ枠防火戸）

旭硝子

本社■東京都千代田区丸の内2−1−2（千代田ビル）
〒100　TEL(03)218−5379　建材営業部
支店■東京・大阪・小倉・名古屋・札幌・仙台

建築と社会

1972
Vol.53

600号記念号 2

表紙デザイン：表紙デザイン小委員会 & 島村　昇

The Architectural Association of Japan

会　　告　泉北三原台パイロットハウスフェアのご案内。実務に直結した建築工事別説明会（第2回）「建築鉄骨の現場溶接」。大阪で施工中の超高層ビル見学会シリーズ（第2回）大阪国際ビルディング新築工事の見学会。京阪くずは体育文化センター並びにくずはモール街新築工事の見学会。大阪で施工中の超高層ビル見学会シリーズ（第3回）大阪ロイヤルホテル新館新築工事の見学会。創立記念日の集い―記念講和・映画と祝賀パーティ。第7回若い会員の集い「船をみる会」。……9

法令コーナー54.　建築協定（菱田公造）……13

読者の頁　建築金物界に58年（安田誠一）。超高層住宅のシステム化に成功……15

レポート　西日本総合開発の基本構想……関西経済連合会…16

データ通信と建築4.　DEMOS　FRAP（BLD）……守谷　一彦…19

スケッチブック　最近竣工した新築9点（№730～738）……25

クラスメート81.　西野田職工学校　昭和16年3月卒……27
（大堀富司・毛利誠・田畑久雄・森本治・東野茂ほか9名）

建築の眼　専門知識と隣接知識（山本純孝）　身のまわりの空間（紙野桂人）……29
大　阪　の　水（森谷晋作）　建設関係の諸学科（乾　亮三）

海外写真　マオリの家と彫刻2……写真と文・岩宮　武二…33

作品作風　大阪の近代建築―「建築と社会」誌より複写―……大正6年より昭和16年まで約50点…34

―特集＝600号記念号―

1 巻頭の言「建築と社会」600号発行を記念して……塚本　猛次・岡田　孝男… 41

2 大正・昭和前期の都市・住宅・建築論・住宅コンペの紹介と主要論文復刻（○印復刻）
大正・昭和前期の都市問題……三輪　嘉男… 42
○片岡　安　我国都市改良計画の将来(上)(下)大正6年……44
○関　　一　都市計画の財政観　大正9年……49
大正期の住宅問題……安田　　孝… 50
○片岡　安　我国の住宅改良第一策（下）大正6年……52
○片岡　安　細民住宅に就て　大正8年……53
大正・昭和期関西都市計画年表……安田　丑作… 54
大正・昭和の建築運動……竹嶋　祥夫… 62
○中尾　保　日本のインターナショナル建築運動　昭和12年……64
○ブルノー・タウト　建築と社会（上野伊三郎訳）昭和11年……66
○村野藤吾　様式の上にあれ(上)(中)(下)(結)大正8年……75
（読後感……村野　藤吾……68）
日本建築協会住宅コンペの歩み　大正10年（1921）～昭和8年（1933）……坂本勝比古… 76
第十一集　谷本蘇牛のマンガ復刻　昭和3年…… 80

3 編集を通じてみた人脈と社会
創刊号発刊当初の編集を通じて……佐藤四郎／松井昭光… 82
発刊の辞と改題「建築と社会」・目次・会報復刻……84
昭和前期の編集を通じて―対談……岡田　孝男／松井昭光… 87
大正・昭和前期の都市計画の人脈……中沢誠一郎／三輪嘉男… 91

技術の頁114.　設備部門　電子計算機が駆使するダブルデッキエレベータシステム……吉田　三雄… 93

都市の開発的保存 4.　ZÜRICH―川の下の高速道路……鳴海　邦碩… 97

月報　日本建築協会月間の動き（昭和46年12月分）…… 92

編集人　松井　昭光
印刷　昭和47年2月20日
発行　昭和47年2月25日
発行人　福中　定三郎
発行所　（社）日本建築協会
大阪市東区北浜3―37
電　大阪 231―9648
振替口座　大阪 39975
印刷者　網野　栄
印刷所　（株）研文社
大阪市北区堂山町66
電　大阪 361―2091
売価　1部 300円・送料共

昭和46年度編集委員会

編集委員長　知見　義夫　岩口　勝　小林　満
島田　家弘　安田　誠一　中山　富久　片口　幸彦
山田　勝成　永谷　二郎　塚本　正司
小沢　信嘉　藤沢　隆

編集理事
岡橋作太郎　安田　丑作　小島　孜　垂水　英司
北垣　智造　安田　孝　池田　恵次　藪谷　信保
西嶋徳太郎　竹嶋　祥夫　森埜　和枝　松尾　純
小林　清　片方　信也　安永　耕二　松原　徹雄
奥島　正一　森本　信明　永井　一彦　鈴木　俊世
浅沼猪之吉　三輪　嘉男　平内　祥央　三谷真喜子
白井　周二　加藤　満　中馬　宗武　中谷麻差男
今元　康彦

◀次号特集予告：インテリアデザイン
A　インテリアデザイン論・インテリアデザイン分野における職域・インテリアデザインを構成するエレメント・人間生活の演出とインテリアデザイン・インテリアとエクステリア
B　未来の生活とインテリアのイメージ図案

◀4月号特集予告：都市交通問題
1. 都市交通システムのあり方
2. 交通機関の最適選択論
3. 自動車交通の現状と問題
4. 居住環境と道路建設
5. 宅地開発における通勤問題
6. 都市交通における物流問題
7. トピックス
道路公害反対府民集会・陸橋と歩道・ノーカー運動と歩行者天国・新交通システムの紹介

KENTIKU TO SYAKAI

Cover design: N. Simamura

(Architecture and Society)
A Journal of "The Architectural Association of Japan"
No. 2 Vol 53, February 1972

Editor: *Akimitu Matui*
Publisher: *Teisaburo Hukunaka*
Published by
The Architectural Association of Japan.
37, 3-tyome, kitahama, Higasi-ku, Osaka, Japan.
Price: *single copy price* ¥ *300*

CONTENTS

Column for Laws & Ordinances about Architecture ..... dy *K.Hisida* 9
Column for Readers 13
Report 16
Data Communication and Architecture ..... by *K.Moriya* 19
Column of New Buildings 25
Class-mates 27
Essayes ("Kentiku no Me") ..... by *S.Yamamoto, K.Kamino, S.Moritani & R.Inui* 29
Photograph: The MAORI Build and its Sculpture 2 ..... by *T.Iwamiya* 33
Modern Architecture at OSAKA (1917~1941) 34

SPECIAL FEATURES ON THE MEMORIAL OF 600TH ISSUE

[1] Foreword ..... by *T.Tsukamoto & T.Okada* 41
[2] Commentary on City Planning, Housing Problems, Architectural Theory and Competition of House Design and Reprint on Essential Papers ..... by *Y.Miwa, T.Yasuda, Y.Takesima, & K.Sakamoto* 42
[3] Chronology of City Planing ..... by *K.Yasuda* 54
[4] Retrospection of Editing ..... by *S.Sato, T.Okada, S.Nakazawa & A.Matui* 82

COLUMN OF ENGINEERING

114 System of Double-deck Elevator ..... by *M.Yosida* 93

CONSERVATION OF HISTORICAL ENVIRONMENT IN DEVELOPPING URBAN SPACE 4—ZÜRICH ..... by *K.Narumi* 97

BULLETIN 9,92

日本建築協会図書案内

お申し込みは日本建築協会へ。〒 541 大阪市東区北浜3—37 TEL 06—231—9648・9649・9640・5936

既刊

■ 設備技術者のための 建築の知識
■B5判 9P活字一段横組400頁（折込図面50枚）
■定価 2,300円 会員特価 2,000円 送料 250円
■発刊 44年9月

■ 鉄骨のデザイン ■実例と考え方
■B5判 8P活字一段横組 400頁（設計図面 88枚）
■定価 2,500円 会員特価 2,200円 送料 250円
■発刊 45年2月

■ 建築の風力係数
執筆者 工学博士 石崎澄雄（京都大学教授）
■A5判 9P活字一段横組 100頁
■定価 350円 会員特価 300円 送料 55円
■発刊 42年10月

近刊

■ 建物および設備の保全
■編集：清水寿栄次

最新刊

■ 建築基礎工法と実例
■B5判（182×257mm）9ポイント活字一段横組 約500頁，本文 特別上質紙，表紙 特クロース上製，特製函入
■定価 3,500円 送料 250円
■発刊 昭和47年1月末
■編集 委員長 山肩邦男，幹事 宮川達郎・山口安男・多々見市蔵



海外写真

マオリの家と彫刻 2

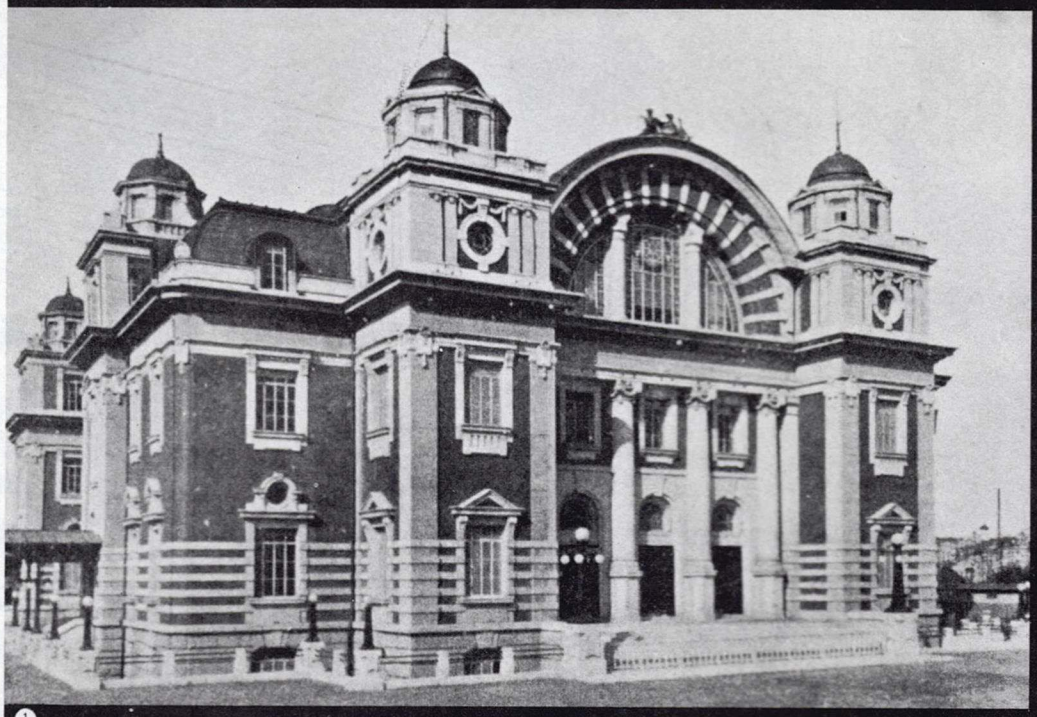
写真と文 岩宮武二

マオリ族の彫刻は独自特有のもの。家の内外いたるところに刻みつけられている。朱色に塗られた異形の人体の特異な表現は呪術的で、その印象はきわめて強烈である。舌を出しているさまは、彼等の踊りにもとり入れられ、呪術性を強調する。

写真は、マオリの住居、いわば主家にあたる外側一面に刻みつけられたもの。

大阪の近代建築

600号記念
大正６年～昭和16年
建築と社会第１集～第24集



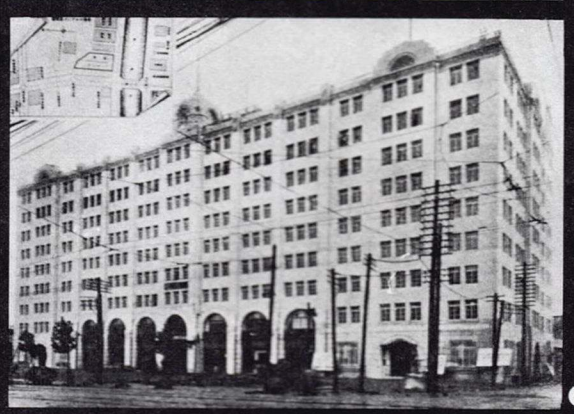
①



②

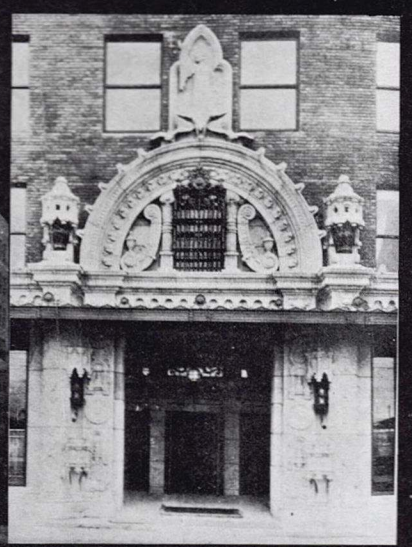


③



④



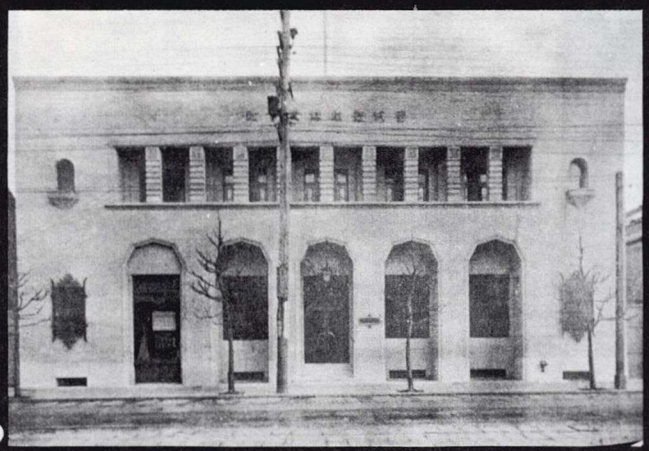


⑤

本号の作品作風欄は、とくに「建築と社会」600号にちなみ、創刊号より第24集までの大正６年～昭和16年に竣工した大阪の近代建築約50点を拾って集録したものである。

作品は大阪市内（一部府下を含む）に限った。写真は「大阪中央郵便局」１点をのぞいて、すべて「建築と社会」誌より複写したものである。このなかには、「朝日会館」などのように再開発で現存していないものや、「堂島ビル」などのように、外観がすっかり変ってしまっているものもある。いずれにせよ、当時の面影を示すものとして、そのまゝ年代順に掲載した。建物名は写真番号で後のリストを参照のこと。設計者・施工者名は当時の呼称に従い、竣工年、掲載号も付記した。

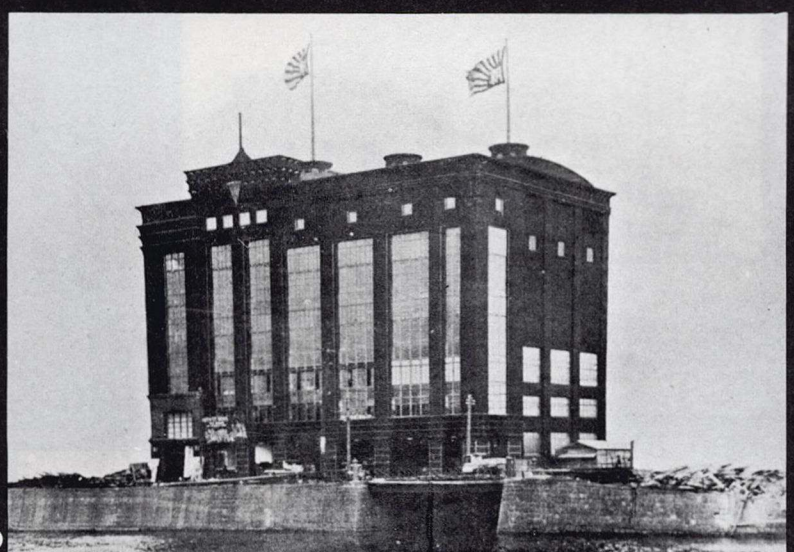
ここに集録以外に、もれている大阪の名建築もかなりあろうかと思われるが、それはご容恕ねがいたい。大阪における近代建築の歩みを知る一助になれば幸いである。



⑥



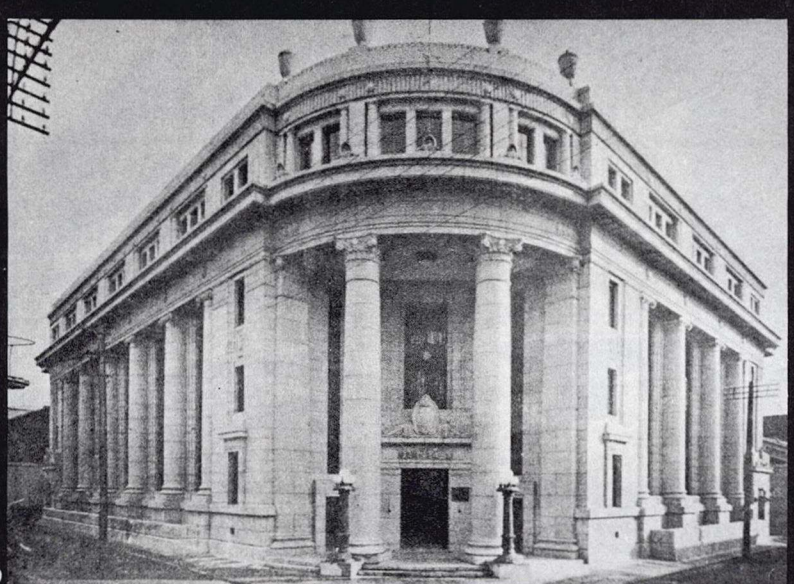
⑦



⑨



⑧



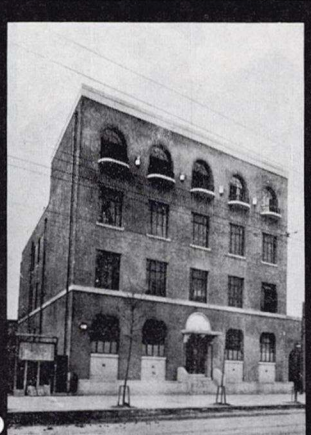
⑩



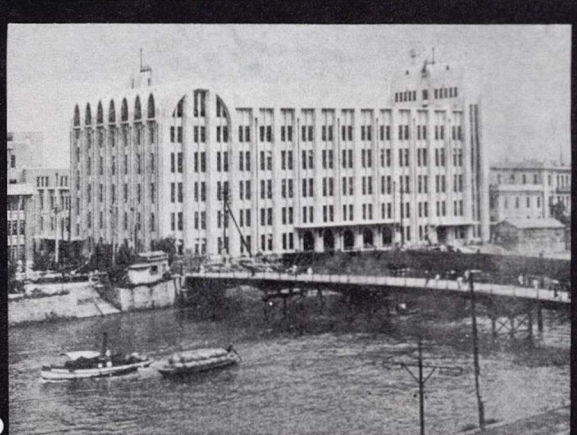
⑪



⑭



⑫



⑬



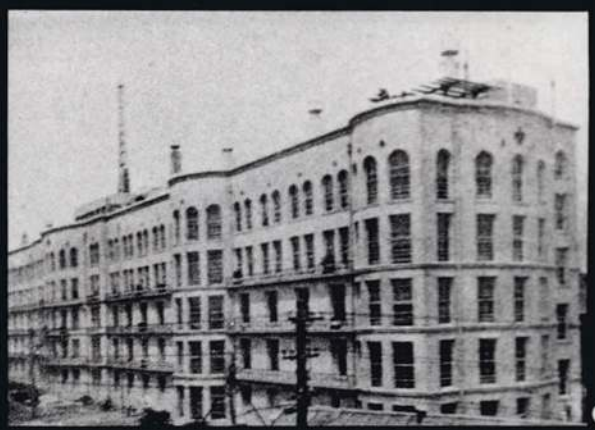
⑮



⑯



⑰



⑱





⑲



㉑



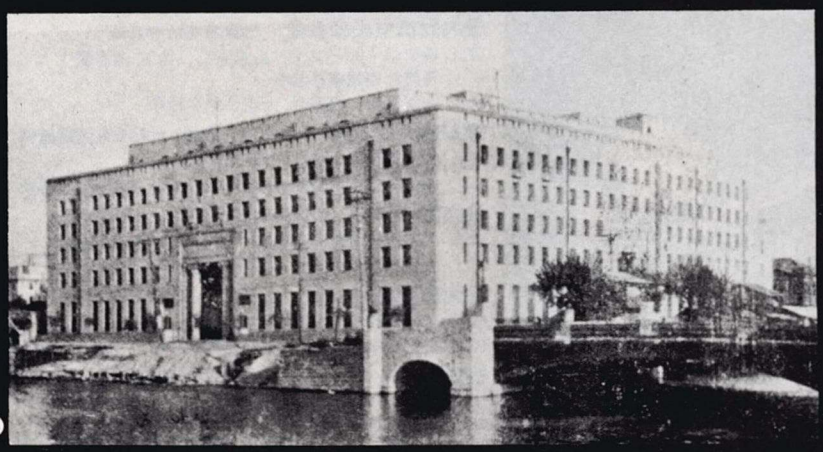
⑳



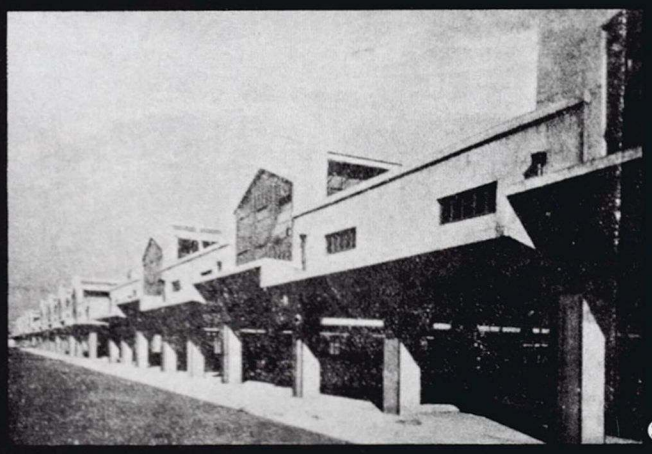
㉒



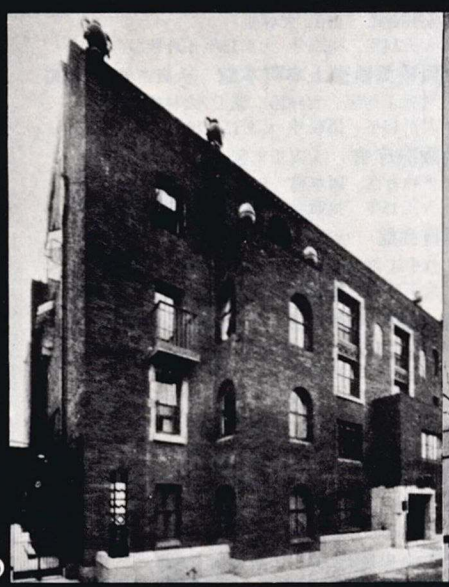
㉓



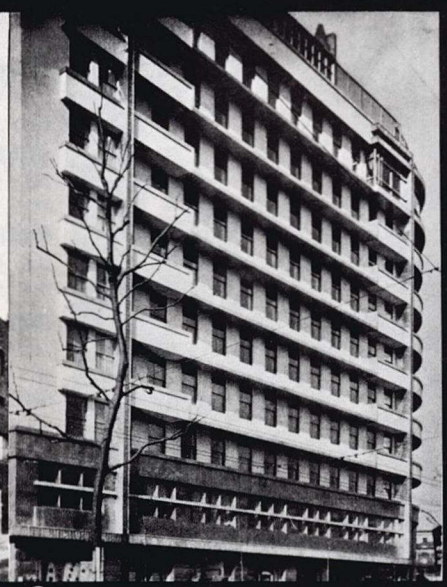
24



27



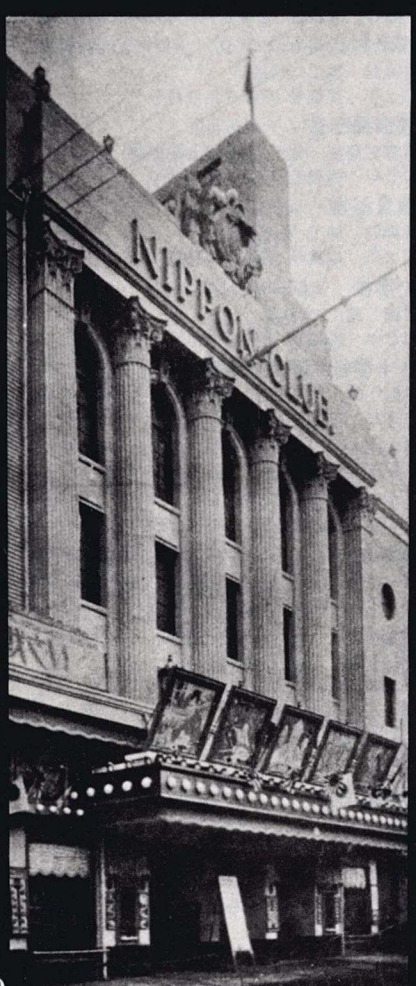
25



26



28



29

30

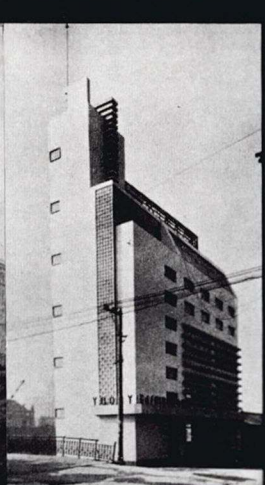


31





32

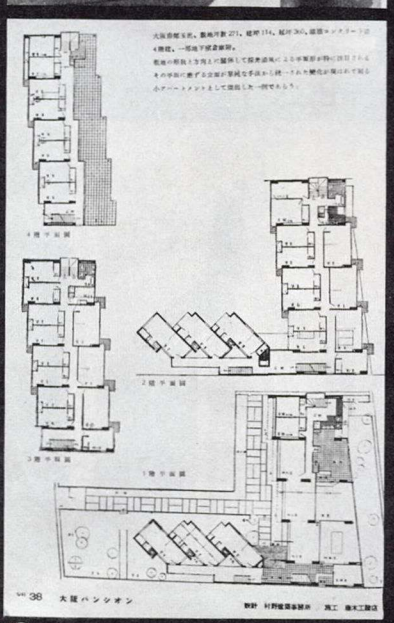


33



34





大阪市都市計画…敷地面積271、建坪174、延坪360、鉄筋コンクリート造4階建、一部地下室倉庫附。

都市の郊外と市内とに関係して設計…その平面形の特徴…

小アパートメントとして…

4階平面図
2階平面図
3階平面図
1階平面図

No. 38 大阪パンシオン 設計 村野建築事務所 施工 藤木工務店

35



36

❶**大阪市中央公会堂**　大阪市北区中之島
設計 岡田信一郎（コンペ当選案）　施工 清水組
長野片岡建築事務所
竣工 大正7年　掲載号 大正7年2月号

❷**三越大阪支店**　（スケッチ三色刷）大阪市東区高麗橋
設計 横河工務所　施工 竹中工務店
竣工 西館大正6年・東館 大正9年　掲載号 大正6年2月号

❸**大阪市庁舎**　大阪市北区中之島
設計 大阪市庁舎臨時建築部　施工 錢高組、鴻池組
竣工 大正10年　掲載号 大正10年5月号

❹**大阪堂島ビルディング**　大阪市北区堂島
設計 竹中工務店　施工 竹中工務店
竣工 大正12年　掲載号 大正12年7月号

❺**大阪ビルディング**　大阪市北区宗是町
設計 渡辺節　施工 大林組
竣工 大正14年　掲載号 大正14年11月号

❻**野村証券株式会社**　大阪市東区瓦町
設計 安井武雄　施工 大林組
竣工 大正14年　掲載号 大正15年4月号

❼**大阪電気軌道上本町本館**　大阪市東区上本町
設計 大軌工務店、大林組　施工 大林組
竣工 大正15年　掲載号 大正15年10月号

❽**大阪府庁舎**　大阪市東区大手前
設計 平林金吾、岡本馨　施工 大林組、清水組
竣工 大正15年　掲載号 大正15年12月号

❾**朝日会館**　大阪市北区中之島
設計 竹中工務店　施工 竹中工務店
竣工 大正15年　掲載号 大正15月11月号

❿**第一銀行大阪支店**　大阪市東区高麗橋
設計 西村好時　施工 清水組
竣工 大正15年　掲載号 昭和2年5月号

⓫**江商ビルディング**　大阪市北区中之島
設計 設楽建築事務所　施工 大林組
竣工 大正15年　掲載号 大正15年9月号

⓬**大阪市経営「九條共同宿泊所」**　大阪市港区境川町
設計 不詳　施工 不詳
竣工 大正15年　掲載号 大正15年7月号

⓭**大阪中央電信局**　大阪市北区堂島
設計 逓信省　施工 大林組
竣工 昭和2年　掲載号 昭和2年9月号

⓮**高麗橋野村ビルディング**　大阪市東区高麗橋
設計 安井武雄　施工 大林組
竣工 昭和2年　掲載号 昭和3年3月号

⓯**大阪鉄道局庁舎**　大阪市北区
設計 鉄道省工務局　施工 清水組大阪支店
竣工 昭和3年　掲載号 昭和3年6月号

⓰**大阪噴泉浴場**　大阪市浪速区
設計 岡部顯則　施工 安藤組
竣工 昭年2年　掲載号 昭和3年11月号

⓱**集英小学校**　大阪市東区今橋
設計 宗兵蔵　施工 大林組
竣工 昭和2年　掲載号 昭和3年1月号

⓲**日本赤十字社大阪支部病院**　大阪市天王寺区筆ヶ崎
設計 岡田信一郎、木子七郎　施工 大倉土木株式会社
竣工 昭和4年　掲載号 昭和4年6月号

⓳**阪急ビルディング**　大阪市北区梅田
設計 竹中工務店（鷲尾九郎）　施工 竹中工務店
ホール天井壁画（伊東忠太）
竣工 昭和4年　掲載号 昭和4年6月号

⓴**心斎橋森永キャンデーストア**　大阪市南区心斎橋
設計 岡部建築事務所　施工 大東建設工務店
竣工 昭和4年　掲載号 昭和4年5月号

㉑**曽根崎警察署**　大阪市北区曽根崎
設計 大阪府営繕課　施工 大林組
竣工 昭和4年　掲載号 昭和4年7月号

㉒**文楽座**　大阪市南区鰻谷
設計 八木建築事務所　施工 大阪橋本組
竣工 昭和4年　掲載号 昭和5年2月号

㉓**生駒時計店本店**　大阪市東区平野町
設計 宗建築事務所　施工 大林組
竣工 昭和5年　掲載号 昭和5年11月号

㉔**住友ビルディング**　大阪市東区北浜
設計 住友合資工作部　施工 大林組
（長谷部鋭吉、竹腰健造）
竣工 昭和5年　掲載号 昭和5年12月号

㉕**中央電気倶楽部**　大阪市北区堂島
設計 葛野建築事務所　施工 大林組
竣工 昭和5年　掲載号 昭和5年12月号

㉖**朝日ビルディング**　大阪市北区中之島
設計 竹中工務店　施工 竹中工務店
竣工 昭和6年　掲載号 昭和7年2月号

㉗**大阪市中央卸売市場**　大阪市此花区
設計 大阪市産業部　施工 錢高組
竣工 昭和6年　掲載号 昭和6年1月号

㉘**日本綿業会館**　大阪市東区備後町
設計 渡辺節　施工 清水組大阪支店
竣工 昭和6年　掲載号 昭和7年7月号

㉙**日本倶楽部**　大阪市浪花区霞町
設計 僊石建築事務所　施工 大林組
竣工 昭和7年　掲載号 昭和7年3月号

㉚**キネマ・パレス**　大阪市浪速区大国町
設計 池田建築事務所　施工 不詳
竣工 昭和7年　掲載号 昭和7年4月号

㉛**大阪歌舞伎座**　大阪市南区難波新地
設計 大林組　施工 大林組
竣工 昭和7年　掲載号 昭和7年11月号

㉜**南海ビルディング**　大阪市南区難波新地
設計 久野建築事務所　施工 大林組
竣工 昭和7年　掲載号 昭和7年11月号

㉝**淀屋橋ビルディング**　大阪市北区中之島
設計 竹中工務店(早良俊夫)　施工 竹中工務店
竣工 昭和7年　掲載号 昭和8年1月号

㉞**大阪瓦斯ビルディング**　大阪市東区平野町
設計 安井建築事務所　施工 大林組
竣工 昭和7年　掲載号 昭和8年7月号

㉟**大阪パンシオン**　大阪市西成区玉出町
設計 村野藤吾　施工 藤木工務店
竣工 昭和7年　掲載号 昭和8年7月号

㊱**伊藤萬商店**　大阪市東区本町
設計 小笠原建築事務所　施工 大林組
竣工 昭和8年　掲載号 昭和8年7月号

㊲**大阪府立今宮中学校**　大阪市浪速区宮津町
設計 大阪府営繕課　施工 大林組
竣工 昭和8年　掲載号 昭和9年2月号

㊳**大丸大阪店**　大阪市南区心斎橋
設計 ヴォーリス建築事務所　施工 竹中工務店
竣工 昭和9年　掲載号 昭和9年7月号

㊴**大阪市立刀根山病院**　大阪府豊中市
設計 大阪市土木部建築課　施工 池田勘蔵
竣工 昭和9年　掲載号 昭和10年2月号

㊵**新大阪ホテル**　大阪市北区中之島
設計 大阪市臨時ホテル建設事務所　施工 清水組、大林組
竣工 昭和9年　掲載号 昭和10年3月号

㊶**そごう百貨店**　大阪市南区心斎橋
設計 村野建築事務所　施工 大倉土木株式会社
竣工 昭和10年　掲載号 昭和10年11月号

㊷**大阪株式取引所**　大阪市東区北浜
設計 長谷部竹腰建築事務所　施工大林組
竣工 昭和10年　掲載号 昭和10年6月号

㊸**帝塚山学院**　大阪市住吉区帝塚山
設計 岡部建築事務所　施工 藤木工務店
竣工 昭和10年　掲載号 昭和10年12月号

㊹**大阪市立商科大学学部**　大阪市住吉区
設計 大阪市建築課　施工 鹿島組
竣工 昭和11年　掲載号 昭和11年3月号

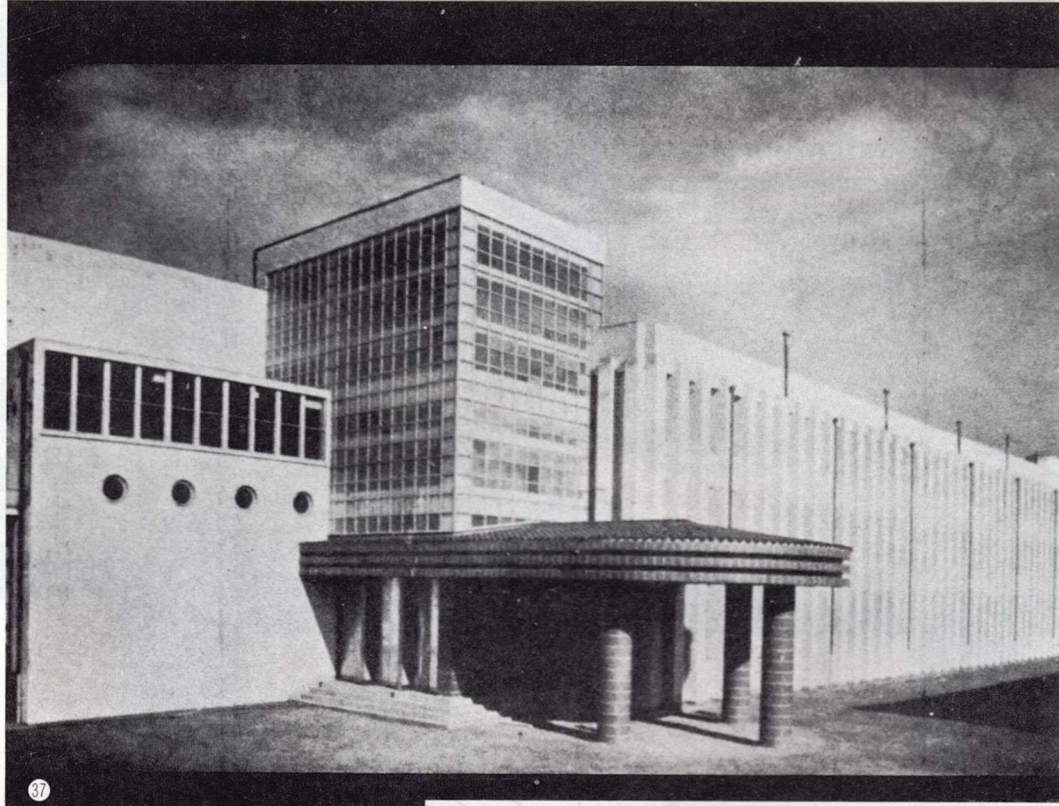
㊺**大阪放送会館(設計競技図案)**　大阪市東区馬場町
設計 渡辺仁　施工 清水組
竣工 昭和11年 掲載号 昭和8年2月号(競技設計)、昭和11年7月号

㊻**大阪市美術館**　大阪市天王寺区茶臼山
設計 大阪市建築課　施工 大林組
竣工 昭和11年　掲載号 昭和11年6月号

㊼**大阪中央郵便局**　大阪市北区梅田
設計 郵政省建築課(吉田鉄郎)　施工 清水組
竣工 昭和14年

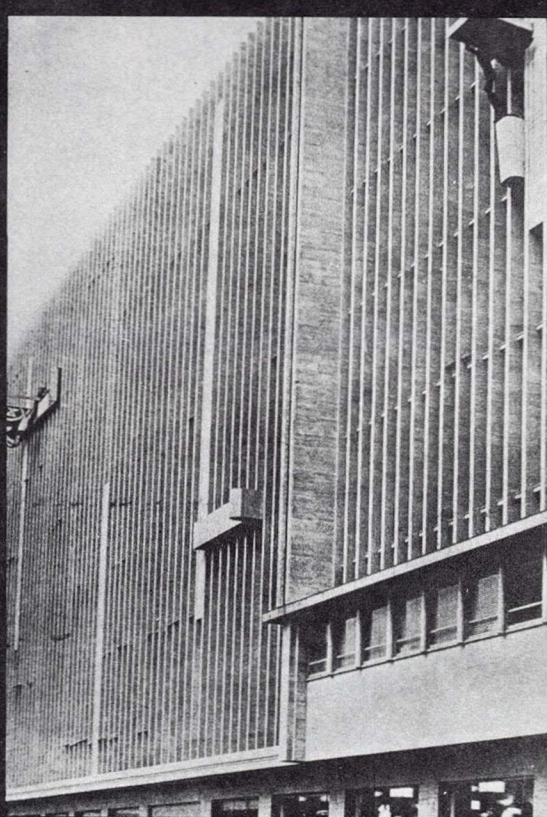
㊽**石原産業海運株式会社**　大阪市西区肥後橋
設計 村野建築事務所　施工 清水組
竣工 昭和16年　掲裁号 昭和16年6月号

掲載号とあるのは「建築と社会」誌

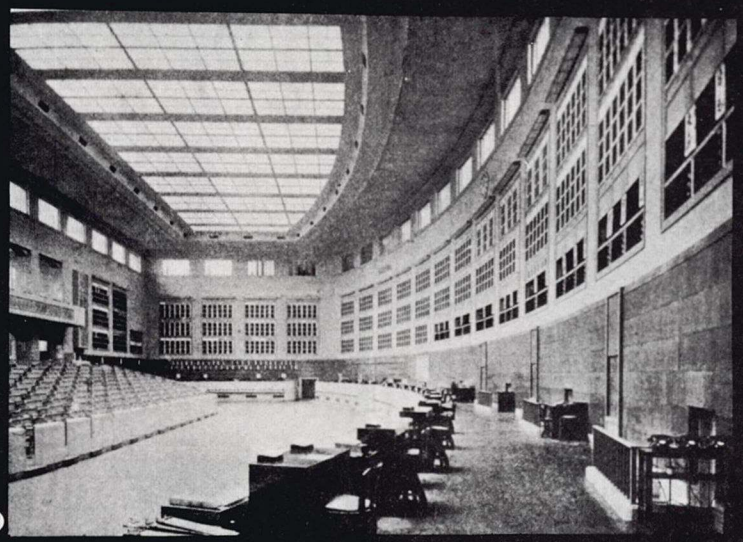

37


38


39


41


40



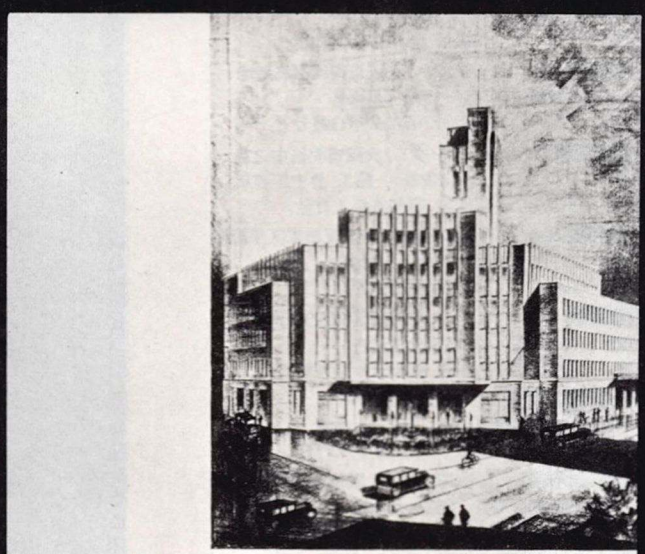
42

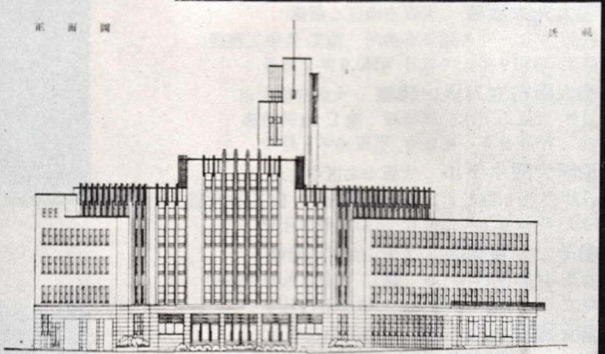


43

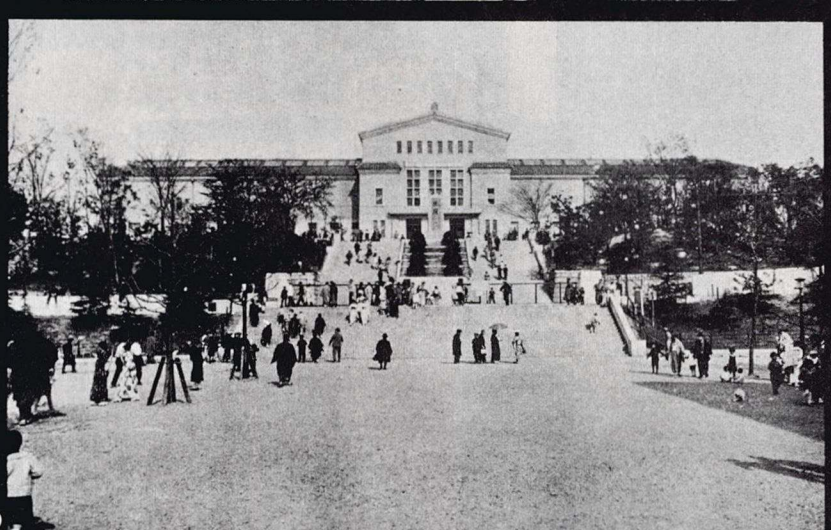


44





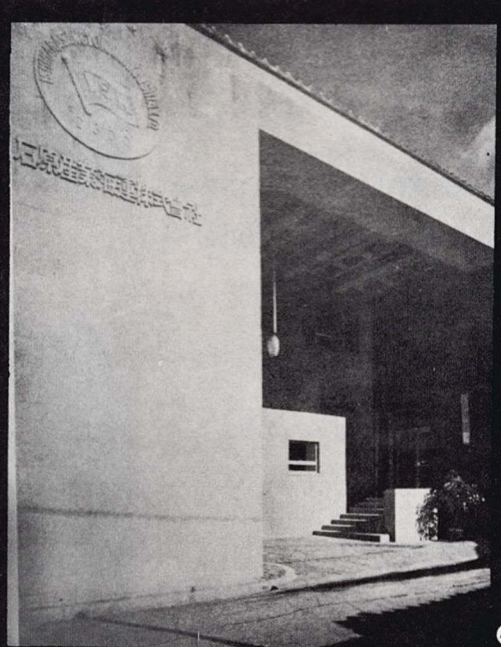
45



46



47



48

特集:　600号記念号

「建築と社会」600号発行を記念して

日本建築協会会長　塚本猛次

本会誌「建築と社会」は本号をもって，ちょうど600号を数えるにいたりました。

かえりみますれば，大正6年，本会が関西建築協会として，大阪に呱々の声をあげて以来，その会誌として，当初は「関西建築協会雑誌」と称し，翌年に「日本建築協会雑誌」，つづいて大正9年1月号より，「建築と社会」と改題して発行してきたのでありますが，五十数年の幾星霜をのりこえ，会とともに歩みつづけてきた，わが国有数の建築雑誌として，その存在はつとに知られるところであります。

本誌は，創刊号の「発刊の辞」にありますように，「此の進展期に際し，社会を指導する大抱負の下に，我が国建築界の堅実なる発展を期し，科学的に組織ある文明的都市の建設を計るべき急要の時期なるを覚悟し，以て将に鳴らんとする暁鐘第一の金鋼杵たらんと欲す」という精神のもとに創刊されたものであります。大正9年に「建築と社会」と改題されたときにも「一層，社会的触接を期するの名実相充当せむことを冀うと共に，嶷乎たる躍進的機運に先むぜんことを欲す，維れ，爰に，我誌名を復び更改する所以也」とうたっております。

半世紀以上にわたって，歴代の会長，理事，編集委員長，編集委員，会員諸君の不断の努力によって，大正から昭和へと，その時代時代の都市，住宅，防災，技術，設計，施工，新建築，設備，材料など，建築のあらゆる分野にわたる諸問題をとりあげて，その普及と啓蒙につとめ，その記録を後世に伝えてきたことは大きな歴史的功績であり，かつ社会的貢献であるといわねばなりません。

とくに，関西における建築界の歴史的なできごとは，いまや，600号におよぶ本誌をひもとくことなくしては語れないといってよいほどであると思います。ここに，あらためて，こんにちまでつづけてこられた会員諸君の不断の努力とご協力に対して，感謝の念と敬意を払うものであります。

先達たちの発刊の意図を汚すことなく，さらに一層の努力とご協力を本誌によせられんことを願って，600号発行を記念するあいさつといたします。

600号記念号編集特別委員会委員
（順序不同）
岡田　孝男
坂本勝比古
滝沢　真弓
小林　清
岡橋作太郎
佐野　正一
白石　博三
鳥田　家弘
垂水　英司
三輪　嘉男
松尾　純
安田　孝
竹嶋　祥夫
安田　丑作
永谷　二郎
池田　恵次
松井　昭光

600号記念号編集特別委員長　岡田孝男

建築協会50周年記念特集号は，昭和42年に出ました。雑誌「建築と社会」は，そのときに600号になっていたはずですが，戦中戦後休刊したことがあるので，今年ようやく600号に達し記念号を特集することになりました。

協会の何周年記念号ではなくて，雑誌の600号記念ですから，あまり正面きって固くならないように，またつい5年前に出た50周年記念号の記事と重複しないように，軽い読み物にする方針で，大正の創刊期から昭和の初期（10年頃）までに焦点を合わせ，創刊号の復刻，興味のある論文の再録，小住宅コンペのブーム，都市問題などを取りあげ，インターヴューなど，委員がおのおの手分けして当り，本記念号の編集を了しました。

ここに委員一同の名を列ねて，報告申し上げます。

大正・昭和前期の都市問題

三輪嘉男

「建築と社会」草創期の社会的背景

「建築と社会」の創刊号が発行されたのは，大正6年のことである。この初期の「建築と社会」には，とくに都市問題に関する論文や論評が多い。これは片岡安初代会長の特色であり，当時の社会的背景のしからしめるところであった。すなわち大正3年に始まった第1次大戦の4年間を通じて，連合軍の兵站部を担当したわが国の産業は，飛躍的発展を遂げ，多くの部門が世界第1位の生産高をあげるに至った。したがって全国各都市の発展はめざましく，明治41年61市を数え，都市人口の全国総人口に対する割合は15%に過ぎなかったが，第1次大戦後には急激に増加し，第1回の国勢調査が実施された大正9年には83市となり，18%にのぼり，大正14年には101市となり，都市人口の比率は22%に達するに至った。

この時期には郊外電車が発達し，郊外地が開発され，都市化が進むとともに，大正7年の米騒動，大正9年にはわが国最初のメーデーが行われ，大正10年は神戸の三菱造船所についで川崎造船所の大ストライキが勃発して1カ月半におよぶ未曽有の労働攻勢が起こった。これと相前後して大正8年に都市計画法と市街地建築物法が成立し，内務省に都市計画課，府県には都市計画地方委員会や建築課が設置され，大正9年に内務省，府県に社会局，社会課がおかれ，大正10年に住宅対策として住宅組合法が制定された。また大正11年には内務省の市町村課から都市課が分離した。

市政近代化の夜明け

大正初期のわが国の市政運営の実情は，ただ開明期であり，東京市が市役所の編制でいちおう近代行政の色彩をおびるようになったのは，後藤新平が市長になった大正9年以後のことであり，大阪市も大正3年東京高商教授であった関一が招かれて池上市長の高級助役に就任してから次第に面目を改めたのであった。第1次大戦後数年にして東京，大阪のような大都市だけでも，いちおう近代都市行政の形態をとるにいたったことは一大進歩であったが，その他の多くの都市は旧態依然たるものがあり，六大都市とその他の都市との間に，人口でも大きな開きがあるように，その他多くのことにみられる共通の現象であった。

都市調査研究機関の誕生

大正6年には全国市長会の前身，全国各市区連合協議会では，帝国大学に都市研究科の講座の新設をその筋に建議するという一項があって，都市問題が次第に重要視される気運に向かいつつあったことを証明しているが，同じく大正6年3月に，関西建築協会が片岡安を会長として創立され，関西建築協会雑誌(のち「建築と社会」と改題)の創刊号が9月に発行された。大正7年には協会の第1回通俗講演会が開かれ，都市住宅問題（関一），大阪市区改正について（片岡安），デモクラシーと建築（佐野利器），大阪港の将来（直木倫太郎)の講演があった。この大正6年には内務省に内務大臣後藤新平を会長として都市研究会が設立され，その機関誌「都市公論」が大正7年4月に創刊された。また大正10年，11年，13年の3回にわたって都市計画講習会が，都市研究会の主催で開かれ，講習録を出版している。大正11年11月には都市研究会，建築学会，土木学会の主催で，全国都市計画協議会が初めて開催された。（これが終戦後も，都市計画協会として都市研究会をひきついだ形で継続し，「都市公論」から「新都市」へ機関誌を改題している。）

大正8年2月には大原社会問題研究所が開設され，その姉妹機関である労働科学研究所が大正10年7月に設けられた倉敷労働科学研究所を母体として生まれた。

大正11年2月には東京市政調査会が，後藤新平を会長として設立され，その機関誌である「都市問題」は大正14年5月に創刊された。大阪では，大正14年10月に関一を会長として大阪都市協会が設立され，その機関誌「大大阪」が大正14年12月に創刊された。（戦後，大阪都市協会の機関誌は「大阪人」となってPR的色彩が強くなり「大大阪」はその編集内容からみて大阪市都市問題研究会の機関誌「都市問題研究」がひきついだとみてよかろう）都市学会は，昭和3年の日本社会学会大会が「都市」を研究テーマにえらんだのを契機として東京帝国大学内に発足し，史学，経済学，法律学，医学，建築学などの学生，研究者も加え，西洋史の今井登志喜教授を会長として，定期的に研究会を開催していたが，のち再編成があって地理学の木内信蔵氏らが中心となり，四谷の細民街の調査を行なった。

このように相ついで各種の調査研究機関が生まれたのは，第1次大戦後の経済界の飛躍的発展によるところも多いのであろうが，同時に科学的な調査研究によらなければ，解決することのできない難問題が相ついで起こったことが，大きな動機となっていることは否定しがたい。

全国都市問題会議の開催

昭和2年5月19日から3日間，第1回全国都市問題会議が大阪市で開かれた。関一大阪市長の発案で大阪市の外廓団体である大阪都市協会の主催によった。当時地方には市長会もしくは協議会の名のもとに地方都市の協議機関が作られたり，また大都市の間には事務協議会，議長会，統計協議会，社会事業協議会，中央卸売市場協議会などがあり，また教育，衛生，水道などの各種事業についての全国的協議機関も存在した。しかしこれらはいずれも第1次世界大戦後の都市の拡大発展によって．市政の上に各種の共通の問題が発生し，しかも単独の市町村では解決できない広域的なものもあったので，相互の連携あるいは情報交換のために設置の必要が痛感された結果であった。第1回の主報告は片岡安の「防火と建築」，小浜浄鉱の「不良住宅改善」，直木倫太郎の「土地区画整理」，打下吉延・関一の「自由空地並に公園」であった。

第2回全国都市問題会議は東京市政調査会の主催によって，その前年新設された日比谷公会堂ならびに市政講堂を会場として，昭和5年10月6日から3日間にわたって開催された，その主報告は池田宏の「都市の郊外地統制」，内山新之助・古川静夫の「街路交通の統制」，河北一郎・堀切善次郎の「受益者負担金」で，それぞれ慎重な実証的研究討議が行なわれた。また，この会議を恒久的かつ独立的な組織のものにしようとする提案があり，昭和6年4月1日をもって恒久的組織が確立した。第3回からは会議自体を独立させ，東京市政調査会が事務局となっておおむね隔年に開催された。（戦後は東京市政調査会が事務局を担当した日本都市連盟主催のもとに昭和23年以来毎年開かれてきた。日本都市連盟が全国市長会に合体した昭和27年以降は，全国市長会および東京市政調査会の共同主催によって，また昭和34年以降は開催市との三者共同主催で同じく毎年開催されてきた。）

建築物法成立へ関西建築協会の活躍

復刻版として掲載した片岡安会長の論文「我国都市改良計画の将来，(上)，(下)」は，関一助役を委員長とし，片岡会長や京大教授（土木）大藤高彦ら9名を委員とした大阪市都市改良計画調査委員会での片岡委員の意見と思われる。35周年記念座談会の今林氏の言を借りると，「この頃片岡さんが中心で建築物法ができた。最初の博覧会にいたるまで，協会で骨を折ったのは建築物法で，各国の建築条例や論文を翻訳しろ，というわけで割り当てられてやった。最初の雑誌から見ると各号ともものっている。そのうちに建築物法と都市計画法ができた。協会はその間貢献したわけだ。」「建築と社会」昭和28年12月号　P.9

さらに15周年記念座談会での片岡会長自身の言を引用すればつぎのとおりである。

「建築物法，建築条例の制定を急がねばならぬ。これは建築学会も過去20年努力して案を作ったけれども，そのまま東京市長の引出しに入ったままだ。それでは仕様がないというので建築学会では建築条例実行促進委員会ができたが，一回も開かずそのままになっているということを知っていたので，これは関西の団体が中心となって後藤新平さんが内務大臣だから，これを動かすに限ると思って，関西建築協会で徹底的に了解を得べく努力したいことを諮った。そして建築学会，都市協会，建築士会に働きかけ，この四つの団体が一緒にやろうということで，この原案はこっちから書いていった通りにして，後藤さんと会い建議案を説明した。所が後藤さんは，それは技術家論で世の中の事は複雑なものでそう簡単なものじゃないよと一蹴する。諄々と説いてこれは書生論でも技術家論でもない。世界各国の都市とも建築物法のない所はない。建築物は現代文化の中心をなすものだから，貴下のような事を言っては困る。内務省に最近都市計画課というものが出来たが，この骨は市区改正であるが，同時にパラレルに行くものは建築で，都市計画課を内務省に作った位なら，どうしてもこういうものは当っておく必要があると言って私は直ぐ大阪へ帰った。後藤内相も直ぐ水野錬太郎次官，池田宏都市計画課長にこの案を見せた。そうすると水野氏もこれは内務行政の中枢をなすべき問題であって，内務行政はこれからこの方に向って行かねばならぬと思っている。それを建築の方面の人がそういう事を言ってきたのは渡りに舟で大いに尽力してもらはねばならぬというので，後藤さんはびっくりして直ぐ会いたいといってきた。そこで2月6日（大正7年）に会った。そうするともうすっかり話が変っていて内務省は大賛成だ，大いに尽力してくれ，至急調査会の予算をとるから……ということで，委員となるべき各方面の会長なり代表者，衛生学の柴里博士，土木の連中，建築では佐野君と僕と塚本君が4団体の代表者というので呼ばれた。建築と都市の問題とを一緒にして都市計画課を作るようになったから諸君ご尽力願いたいというので……6月に委員会ができ，大正7年夏から12月まで1週1回づつ僕はその委員会に行った。建築の方では佐野君，内田君，笠原君も出た。大正8年の春にそれが通過してしまった。

そういう関係でこっちの協会では，都市計画関係の問題は非常に研究をした訳だ。

（「建築と社会」昭和7年10月号　P.42～44）

都市計画法の矛盾

都市と建築に関する最初の統一的な法規として，都市計画法と建築物法は，統制法としての性格は一貫していたが，より積極的に健全な都市と建築を誘導しようとする規定はなく，イギリスなどのように健康な住宅の供給という建設的な事業も伴なっていなかった。このことは大正期のデモクラシーのように，きわめて観念的な社会的関心と，現実の社会的立場によったものといえよう。

「建築と社会」の誌上においても，大正14年に都市計画地方委員会の職員と，市の都市計画部の職員との間で前後5回にわたって，都市計画についての質疑がかわされているのも，都市計画法自身がもつ矛盾の故と思われる。

すなわち「所有権に大なる制限を加える地域制が，それに対して保護を与うべき何等の施設をも計画されないで，単独に施行されることは喜ぶよりむしろ憂ふべきことではあるまいか。地域の決定を喜ぶに止まられず，更に工業地域に在りては，運河，港湾，鉄道等の工業繁栄誘致策の要があり，住居及商業地域に在りては土地の宅地としての利用を増進せしむる土地区画整理の如き施設が肝要であるというようなことを市民に吹き込み，其の自覚を促し，理解を求められたかったのである。」との意見が出ているが，都市計画委員会は，審議機関に止まり，地方公共団体は，決定事項の実施機関にすぎない。ビーアドが指摘したように，「都市計画法は権限と責任を分割している。しかも委員会は執行機関ではないのである。ナポレオンがかつて言ったように，"参謀会議が戦争をしたためしはない。"」

- 「市民の理解を基調とする都市計画」伊東俊雄　建築と社会　大正14年6月号
- 「吾人に家無し安ぞ祖国あらむ一都市計画に就いて」白井和夫　建築と社会大正14年8月号
- 「誤解される都市計画と理解されざる其の法制」　田中清志　建築と社会　大正14年9月号
- 「都市計画に対する市民の理解に就いて田中氏に答ふ」伊東俊雄建築と社会大正14年10月号
- 「続誤解されたる都市計画」　田中清志　建築と社会　大正14年11月号
- 「東京の行政と政治」C.A.ビーアド　昭和39年　P.45

大阪の煤煙防止運動

第1次大戦とともに大阪はますます「煤煙の都市」となり，住友伸銅所の煤煙や，春日出発電所の降灰などを始めとし，煤煙に苦しむ市民の苦情はいよいよ甚しくなった。この煤煙問題を解決しようとして，大阪都市協会の一つの事業として「大阪煤煙防止調査委員会」が昭和2年に生れた。従来は工場の工場監督の所管上，大阪府で煤煙防止について関与していたが，今回は大阪市が中心となって，煤煙の被害調査，燃料燃焼装置の改善指導，煤煙防止の取締について三つの小委員会に分れて研究活動し，宣伝普及の目的をもって，わが国に初めての全市における大空中浄化運動を昭和3年9月に開催し，百貨店で「空気と衛生」という展覧会を開いたり，講演会，懇談会などを行なった。ついで昭和6年10月に第2回目の空中浄化運動を行ない，内務大臣と大阪府知事に本会長の名をもって煤煙防止取締規則を発布して頂きたいという建議書を提出した。その結果，昭和7年6月に全国で初めての煤煙防止取締規則が発布され，煤煙防止問題のエポックを形成するに至った。

「煤煙防止運動の沿革」　安達将総　燃料協会誌　昭和8年12月号

関市長の田園郊外論

明治末年から大正年代にかけて，大都市圏では郊外電車の開発にしたがって，郊外地が急速に開発され，工業化の進展にともなう都市化も加わって，大都市周辺には中小都市の発展が目立ち，連坦都市化の方向が強くなってきた。ここで集中主義と分散主義の都市計画が展開する。さらに両者をまとめた第三の考え方として関市長の田園郊外論がある。「我国では田園都市と田園郊外との差別さへ無視する田園都市賛成論者があるには驚く外ない。

英国の田園都市論者は田園都市と田園郊外とは根本的に区別すべきものであって田園都市は純粋の英国流の思想であり，田園郊外は独逸流であると言うている。私はこの点において田園都市が一つの空想であることを思はざるをえない。田園都市は一つの帰農運動である。大都市は一つの脅威なりと言う考から出発している大都市撲滅論である。

この論は現今の大都市市民の心理状態を無視したものであって，洵に結構な議論であるが，其の実現は近き将来にはむつかしいものである。少くとも現時の住宅政策には余り役に立たない。そこで私の主張は田園郊外の発達である。大都市を組織する周囲の住宅区域は小中心点を囲繞する田園郊外である。」　関　一　「住宅問題と都市計画」　大正12年　P.109～110

関　一　「田園都市」建築と社会　大正11年11月，12月号

都市計画から地方計画へ

関市長の田園郊外論は，都市計画から展開してきた地方計画論とも考えられる。昭和8年には都市計画法の改正によって，市制をとるところは指定をまたずすべて都市計画法の適用を受け，さらに主務大臣が指定する町村も適用を受けることになった。この改正によって地方計画が問題となってきたのである。昭和11年の第3回全国都市計画協議会における中沢誠一郎課長の近畿地方計画についての発表によれば，近畿2府5県をその区域とし，市街地計画と非市街地計画の区分を考え，非市街地計画を緑地計画と呼び，公開地と生産地を含めて市街化を誘導するような事業や計画を禁止し，さらに建築制限を加えることを提案している。また都市計画愛知地方委員会の中村網技師は，地方計画夜明け前として，その制度化へ3つの方法をあげている。第1は現在の都市計画法を廃止し，他に強力な地方計画法をつくる。第2は現在の都市計画法をそのままとし，その他の諸法令を統制し綜合計画を確立するために地方計画法を制定する。第3は別に地方計画法は設けず，都市計画法を改正して都市以外の部分にも法の運用ができるようにする。これらの案はいずれも地方計画を実際化しようとする都市計画委員会職員の具体的運動であったが，さらに広く町村をも包含し，国土全般にわたって総合計画を樹立しようとする国土計画に関する制度要綱も提出された。しかし地方計画の制度化については，戦争の進展とともに国防的な国土計画に肩代りされて消えていったのである。

中沢誠一郎「近畿地方計画について」都市公論　昭和11年8月号
中沢誠一郎「都市計画より地方計画へ」建築と社会　昭和11年8月号
中村　網「地方計画夜明け前」建築と社会　昭和11年8月号

（みわ　よしお　大阪市立大学講師）

復刻論文

「関西建築協会雑誌」第一集第七号・第八号
（大正七年五月・六月）

我国都市改良計画の将来

片岡安

第一集には、本会の創始者、片岡博士の論文が数多く収録されているが、これは、片岡博士の都市計画に関する長大論文で（上）（下）二号に分れている。（上）は大正七年五月（下）は同年六月に発行。



我國都市改良計畫の將來

會員　片岡安

一緒論
二交通政策との關係
三市内交通機關の積極計畫
四街路系統の改正……幅員と踏面築造
五建築制限と經濟問題
六衞生工事
七改良計畫實施の法規と財源
八結論
一緒論

都市改良運動は、二十世紀の一大潮流にして、歐米の各都市にては大は首都より小は人口數千の小邑に至るまで一齊に其將來發展を考慮したる計畫を樹てざるはなしと言ふような有樣である。而して其改良運動の動機たるや各國それ〳〵事情を異にすと雖も、其間に一貫せる原因と見るべきものは、現代都市の著しき膨脹と社會衞生の進歩と此二つである。

現代都市の膨脹の傾向は如何に之を妨がんとするも到底其目的を達することは出來ないのである其著しき事實の二三を擧ぐれば、英京倫敦は一八七〇年來毎十年間に約百萬人を增加しつゝありて現る一九一三年のセンサスに據れば倫敦の人口は八百四十七萬人であるから遠からず一千萬人の人口を抱擁する大都市となるものと見ることが出來る。又紐育の如きは其口に增加率は最近の十年間は百二十萬人以上を算しつゝあるから現在五百三十三萬人（千九百十四年のセンサス）の人口は今後四十年を出ずして矢張り一千萬人の大歟に達するであろふと思はれる、若し此南大都市が一千萬人の人口を算せる時期が實現するものとすれば、彼等の現時の交通系統も街路組織も又公園設備や上水下水の設備も全く其用をなさぬような羽目に立到るのである。然らば之を人爲的に强制して其膨脹を戒る程度に制限すべきやと言ふに之又非常に六ケ敷きことがあるから知れぬ、要するに此南大都市の近時の膨脹趨勢は正さに破竹の勢を呈しつゝある爲めに、其交通整理と衞生設備の施設の困難は容易からぬものがあるのであつて、今后此南都市の都市改良計畫の實現力は到底其膨脹し來る趨勢と並行し得ざることは明了である、故に其實現力の行詰りは自然人口集中の趨勢を漸次喰止めることであろふと思はれる。

巴里、伯林の大都市を始め、米國の市俄古、費府、ブエノスアイレス、リオデジヤネロ、セントルイス、ボストン、バルチモア、ロスアンゼルス、又歐洲の維那、モスコー、漢堡、ブタペスト、ワルソー

グラスゴー、リバプール、マンチエスター、ブラッセルス、ミユンヘン、及我國の東京、大阪、京都、名古屋、神戸、横濱は、何れも近代都市の膨脹趨勢を著しく發揮しつゝあるを見るのである、中にも市俄古の如きは最近の增加率は毎十ケ年に付き平均五十萬人を示し、伯林や巴里の十ケ年增加率三十萬乃至二十萬人なるに比すれば正さに倍加の高率である、我東京市と大阪市の人口增加率は大約十ケ年間に三十萬人以上であるから、幾年かの後には伯林や巴里以上に其規模の大を改ゆるようになるかも知れぬ。今後三十年を經れば東京の人口は三百萬、大阪のそれは二百五十萬人となるのは恐らく間違の少き推定と見るべく、神戸、名古屋、京都及横濱は又それ〳〵七八十萬の人口を算するに至るものと見ねばならぬ。人或は之を一の杞憂と見るかも知れぬが、現時の大資本主義や統一主義が國民經濟の基礎である以上、上述の都市膨脹の趨勢は所詮免かれぬものと思はねばならぬ。之れ現代文明國民が親身其處理に苦心を要する都市改良の計畫の緊切なる所以である。

都市計畫に關する著述及學說は今日に於ては可なり夥しく之を見るけれども、都市の美觀論を中心として立論されるものゝ多きは、歐米各國の都市としては自然的の境涯であるかも知れぬ。歐米の都市は歐洲にありては十八世紀以來米國にありては十九世紀の半ば以來、都市の建設及其改善には不斷力を盡しつゝ來たのであるから、今急に其都市の骨子及肉係たるべき街路系統と建築に大改築を企てることは、容易からぬ仕事である。故に其計畫を更に立て直すが如きは言ふべくして行ふべからざる如く思はれたのとは、猶我國が現時市區改正の斷行に躊躇しつゝあると同じき苦境であつたと見られる。然しながら巴里はナポレオン三世の時市長オースマン男爵の大改造計畫を承認

して一九〇〇年まで四十年間に亘りて其實現に努力したことや伯林や、維那其他の大都市が中古式の城砦を取毀ちなどして都市の中樞街を新たに建設し新發展地區を計畫した如きは可なり大膽なる果斷であつたと言ふべきである。

之を世界の大勢に見るに歐米の都市は最近に至り彼等の大膽なる改良計畫も漸次行詰りとなりつゝあるやに思はれる、固より都市によりそれ〳〵事情を異にするのであるから一概に之を論ずることは出來ないけれども、歐米の大都市に於ける上述の如き人口の甚しき集中はそれと相比例して交通量の激增を來たし、從來園滑に共流通をなしつゝあつた街路も漸次混亂雜音を極むるの有樣となつて來たから、已むを得ず地下鐵道を建設するやら、佳宅地區を外帶に求むるやら、或は郊外住宅を發展するなどあらゆる手段を講じつゝあると言ふ始末である。乍併吾人は之を以て都市內部交通の徹底的解決法を見る譯にゆかないのである、倫敦にては市の中樞區域には路面軌道の敷設を禁じてあるけれども、交通混亂の爲めに毎年五百人以上の死者を生じ、漸次其數を增しつゝあると言ふことである、又紐育にては今や第五街の交通は行詰りの狀態とでも言ふべく、最近紐育鐵道會社が敢行せる「サービス」誌に依れば、同市第五街（中央大繼貫街路）の四十二丁目より三十四丁目に達するには、其距離僅かに半哩なるに拘らず、自働車にて二十五分間を要せること珍しからず、歩行者の力如て之を追ひ抜くの滑稽を演ずる場合多しと言ふ、紐育の如く人口二十人毎に一臺の自働車を所有する處にては、自働車の群集は遂に斯かる混亂を來たすの已むを得ざる立至るは敢て怪むことを要せざれども、文明の利器も用ゆるに由なきに立至らしむるは又一方街路系統や其幅員が

時代の進歩に遅れつゝあるを證明するものと言はねばならぬ。

交通上の障害は今や歐米大都市の何れもが痛切に苦めつゝ問題にして、今後更に激增せんとせる其交通量を如何に處理せんとするやは、彼等の今後の改良計畫に現はるゝことであろふ。之を我國の現時に考ふるも其傾向は漸次顯著となり、東京、大阪、京都等の都市の大通りは今や已に交通の雜沓を來たしつゝある箇所少からぬのであつて、其軌道敷設と其運轉も行詰り居るような狀態である。若し今後の膨脹と發展を推定する時は街路系統と其幅員の改正は一刻も早く其研究を遂げて永遠の計畫を樹立せねばならぬことを信せしむるのである。

都市膨脹の現代の傾向は殆んど之を防止するに由なきものとすれば、其人口の集中より生ずる衞生上の危險は交通障害以上に深き注意を拂ふべき問題でなくてはならぬ、急性の傳染病たる虎疫、窒扶斯、赤痢、ペスト等はもとより、慢性傳染病たる各種の結核病等は主として都會の密集地を襲ふものであるから、其防備即ち衞生設備の完全なる施設を以て其危險を防ぐことは、文明都市の一大義務にして、又同時に其誇とすべき處である。最近二十年間に歐米の都市が其衞生狀態を改善し其住民の健康を增進したることは、近代に特筆すべき事實にして、人口集中より生ずる衞生狀態の低下を防止せると同時に、積極的に之を向上したる其事績は、全く衞生學の進歩と衞生工事の發達とに歸すべきである。世界最大の都市たる倫敦が今は世界に於ける最良健康地の一となつたなどは、全く其徹底せる衞生設備の賜であると言ふことが出來る。我國の都市は近時非常に其衞生狀態を向上したけれども、實は歐米都市のそれに及はざること遠きものがあるのみならず、吾人をして言はしむれば、それとても最早此儘に行詰りの狀態となりつゝあるのである。何を以て然か言ふかと言ふに、都市衞生狀態の根源たる下水設備の不完全と、結核療養所の幼稚なること、食糧品檢査、建築行政の不備等は凡て之れ都市衞生の向上を積極に助ける所以ではない。我國都市の都市としての義務は此點に於て特に甚しく缺げて居るのである。今日歐米の都市にてはたとへ人口一萬に充たざる小邑とても、下水設備を備へざるはよく、又建築行政の施行されざる處はないのである。其他現代の文明國都市としては當然なさねばならぬ事柄にして我國都市が未だ手を着けざるもの甚だ多いことは、吾人の常に遺憾とするところである、而して其施設の方法が識者の間に餘り攻究されざるを知る毎に、吾人は我國の今後の發展上何となし一種の淋しさを感せざるを得ないのである。吾人が數年前より我國都市の改良計畫が緊急なるを唱へたるは、必ずしも歐米各國の文人園藝士等の高唱せし都市美觀の保存より出發せるものではなく、全く現代の文明國として當然享有すべき都市の完全なる設備即ち交通の安全と衞生施設の完備を期待するからである。而して其計畫を立つるには必ず財政の根源を探求するを要するのである、若し財源を得るに由なき計畫ならば空想空論として立消へとなるのであるから、實際問題たる都市改良計畫には必ず其に根源たる財政を顧慮して、其都市が實施し得たるような設計を立てねばならぬのである。唯徒らに蒐大なる理想案を計畫するは却て都市改良の機運を挫折せしめるの虞あるけれども、又徐りに現在の財政狀態にのみ拘泥して萎縮せる姑息案を企畫するは策の得たるものではない、宜しく將來の發展を見越し、それに相應せる計畫を立て財政上合理的の方策を攻究すべきである。

二　交通政策との關係

都市の發展は內外兩樣の方面の刺撃及充實計畫に依るものであることは、現代の大都市の現狀が凡て之を證明しつゝあると言ひ得る。殊に近時益々其傾向を著しくしつゝある大資本主義は凡ての物資の都市集中を激勵し、大都市をして益々大ならしめ、其富を增し、其人を增し、其內容を益々複雜ならしめねば已まぬのである。其結果は都市計畫の緊急なるを叫ばしめるのであるが、又同時に都市計畫の適當なる遂行を阻碍するものがあると言ふも差支がない、若し都市の發展を恐れ其膨脹を呪ふならば其原因たるべき內外兩方面の充實計畫を疎略にし、務めて其實施を忌るを以て得策とするのであるが、現代の國家主義は決して斯かる退嬰主義を許さぬのである。

都市の外延的計畫の最大なるものを交通政策とすれば、外部との交通の利便大なるに從ひ其都市の發展を急速ならしめることは、現代の經濟組織上必然の結果であつて敢て其理由を敷衍するの要はない、而して其外的交通線中海面との連絡が最も重大なる要素をなすのであつて、陸上の大連絡線と相待つて其都市の經濟能力を高めるのである。我國の都市にありても大阪、神戸、名古屋、横濱及東京は何れも其海面に於ける連絡により其經濟上の發展を助けられて來たことは多大のものであるが、さて現時の狀態はこれを以て來るべき今後の經濟活動に勝へ得るものと言ひ得るや否やは、敢て識者を待つまでもなく輕用自なことである。

東京市に於ける築港問題は十數年前一時喧しく討論されたけれども有や無やの間に葬られて、近

來は其發達さへも閉こへない、大阪は明治三十年以來二千萬圓を投じて十年間に其築港の外膽だけを仕上げたけれども、最近までは未完成の儘で其利用さへ出來かつたのみならず、築港事業中止を決心した位であつた。近來漸く其機運を提へて其計畫完成に着手したのは遲蒔ながら其發展を望ばざるを得ない。神戶の築港は國家的事業として十年以來着々進行中なれば其完成も近きことであろふ、又橫濱は其築港完成以來已に二十餘年を經て居るが今や其規模の小なるを感じつゝあるような始末である。名古屋の港築も近來出來上りたるもゝ其規模の小なると陸上との連絡惡しき缺點である。一般に我國の重要港の設備に於て見る甚しき缺點は其陸上との連絡惡しきことであつて折角の良港も其交通利便の一半を失ひつゝあると言ふも過言ではない。之を歐米の諸都市の築港設備に見るに我國都市が如何にも姑息なるを感せずには居られぬのである。

獨逸の濱傑はエルベ河口より六十哩以上を遡りた河港であるにも拘らず世界最良のものたらしめんとして、其築港計畫に二億萬圓を費したと言ふことである、又英吉利のリバプール市は其築港に四億萬圓を投じ、マンチエスター及ニューカツスルは各一億七千萬圓以上を其港灣修築に費したのである、殊にマンチエスター市が今より二十四年前に已に海洋より三十五哩半の大運河を開鑿して海面との直接交通を計つたのは大膽なる積極政策として大に稱賛されたのである。而して此等の都市の著しき發展は其海面交通政策に負ふところ大なるは言ふまでもないのである。今試みに我國の著名なる港が費したる築費を見るに左の如し。

大阪築港工事費（大正四年度迄の分）　二千二百八十八萬圓

外に附帶事業費　三百四十五萬圓

（公債の利子支出は除く）

神戶築港工事費　一千七百七十五萬圓

外に南防波堤工費　二百萬圓

橫濱築港工事費　一千〇四十八萬圓

外に防波堤延築費　百萬圓

每年港內浚渫費　十萬圓

名古屋築港工事費（大正五年度迄の分）　五百九十四萬圓

外に中河運河の設計（未完の分）

第一區　五百二十五萬圓

第二區　三百〇三十萬圓

第三區　三百九十萬圓

四日市築港工事費（施工中の分）　三百四十八萬圓

基隆築港工事費（既出の分）　九百萬圓

打狗築港工事費（同）　四百七十三萬圓

次に鐵道關の計畫、其線路の普及運轉系統等即ち陸上交通機關の設備を考ふるに、其利便が都市發展に大關係を有するに敢て海面連絡には讓らざるものがある。獨逸に於て早くも鐵道國有を斷行し其統一せる運營組織を立て、大都市間の急速且つ大量運轉の計畫を實施したのは有名なる事實にして、獨逸都市が最近四十年間に世界に比類なき程長足の發展をなせしも、一は其鐵道政策の爲めであると言はれて居るのである。即ち。

		四〇六六七	三七六
市	臟	二四四、	五二二
東	京	八一九〇	五〇九
大	阪	一五一、	二八一
京	都	六四、	四四二
		九四八、	三五一

（右ハ飯本信一著「都市及電氣鐵道」及本邦各都市統計書ニヨル）

デユツセルドルフ市　七〇、〇〇〇人（一八七一年）三五六、〇〇〇人（一九一二年）

フランクフルト、アム、マイン　八〇、〇〇〇人（一八七一年）四一一、〇〇〇人（一九一〇年）

ケルン　一四四、八〇〇人（一八八〇年）五一一、〇四二人（一九一〇年）

ドレスデン　二二〇、八〇〇人（一八八〇年）五四六、八二二人（一九一〇年）

の如きは其實例であつて、同時に彼等が其發展に應する爲めに市外郊地を所有し、將來の都市計畫地を豫定した事實と相待つて、之を一貫せる賢明なる處置であつたと言ふことが出來る、殊にフランクフルト、アム、マインの如きは其人口二十萬に充たざる時に、其鐵道停車場に二千萬圓を投じて其經營をなし、都市發展に伴ふべき工場地や住宅地を其郊外地に豫定したのである。之を見時の我國都市の支離滅裂なる都市經營法に比するに實に雲泥の差を見出さゝるを得ない。鐵道幹線が其都市に接觸する停車場は其都市の大な關にして、交通利便の第一歩であるから其配置及設備更に進んで其運輸實力が如何に其都市の發展に影響するやは茲に論議するまでもない問題であるが、不幸にして我國の都市を經營するものは未だ曾て此問題に就て深き研究をなしたものはない、從つて未だ現狀改善の考案を發表したものを見出さぬのである。

港灣埋築や鐵道停車場の問題は所謂國家の交通政策より出發すべきものにして、一個一個の都市が後是論議すべきではないと言ふ見方もあるかも知れぬ。乍併それは餘りに國家と國民とを乖離した考である、國家の施設は局部局部の發展を考へずしては所詮完全なる進行をなすべきものではない國家の運運は或る特殊の場合を除くの外は各地方殊に大都市の發展の積算であるので、各都市が其發展の著しきものある時に其國は榮ゆるのである。若し其國の都市が何等發展の事績を擧げざるもののあらば其國は貧弱なる劣等國となりつゝあるものと見ねばならぬ。此意味に於て國家の交通政策と都市發展の順序とは、最も深き關係あるものと斷定せざるを得ない。

吾人をして忌憚なく言はしめば、我國都市の從來の施設は國家の交通政策に何等の要求をしたことがない、又國家の交通政策も、都市將來の發展に付き深き注意を拂つたとも思へぬ。東京灣築港の如き、大阪臨港鐵道の如き、各大都市の停車場の如き、寔に緊切なる都市施設であるにも拘らず國家は常に之を冷淡に取扱ひ、都市當局者も敢て之に付き深く研究をなさなかつたのである。吾人は我國都市計畫の緊急なるを考ふる毎に、さし當り第一着に達着すべき鐵關を交通政策との關係に

あるを思ふものである、唯徒らに市內の街路系統に沒頭したり、市の美觀とか、公園遊園の設備に寓心するは其根本を考へざるの甚しきものである、而して之を事實問題として取扱ふ場合に、吾人は第一着に東京ステーションの改築、大阪停車場、神戶停車場の位置變更等中々重大な問題に觸れねばならぬのである、若しそれ京阪、京濱間の運輸改善或は東京神戶間の急速運轉等の問題に至りては、純粹なる鐵道事項である如く見ゆれども、矢張り其影響は凡て大都市發展に關係を有するのである。

三　市內交通機關の積極計畫

都市が發展するに從ひ市內の交通頻度を增すこと著しきものあるは、現代都市の特徵の一である世界に於ける最大都市たる倫敦に於ける市內交通激增の統計を見るに、一九〇三年より一九一一年までの間に其人口の增加は百分の九に過ぎざるに、其交通量の增加は地下鐵道乘客は五割以上、路面軌道のそれは十割以上、乘合車のそれは九割以上であつて、幹線鐵道の乘降客を加へざるも、倫敦全體の交通客は約六割八分を增したのである。而して大都市の交通量激增は獨り倫敦に止まらず獨逸、佛蘭西、墺匈國、亞米合衆國等の大都市に於ても之と同じき現象を發見するのである、紐育市內交通機關乘客延人員の如きは、一八七二年には一億三千八百萬人にして大正三年の大阪市電の運搬したる延人員と大差なきものなりしに、一八八二年には約倍數の二億五千萬人となり、一九〇六年には八億三千六百萬と言ふ三倍以上の數字を示し、次の十年目なる一九一六年には其又五割增なる十二億萬人となつたのである。而して紐育市役所の發表するところによれば一九一一年度に於

ける世界大都市の市內交通機關の運搬したる延人員は。

倫　敦　十六億五千九百萬人

紐　育　十一億五千萬人

維　納　八億八千六百萬人

伯　林　七億六千萬人

巴　里　七億一千五百萬人

市俄古　六億五千九百萬人

費　府　四億六千七百萬人

ありとの事である。而してその後今日まで五年間に更に激增をなしたのであるが、此次大戰亂の爲めに或は著しく減少をなした都市あるやも計られぬ。之を都市の人口に割當てゝ見る時は何れも其都市の人口一人に對し一ケ年三百回內外の乘車をなすことを知るのである。乍併それとしても交通機關の發達に伴ひ更に更に增加すべき運命にあるものと見ねばならぬ。

我國の都市が其唯一交通機關たる路面軌道にて運搬しつゝある乘客は大正三年度に於て東京は二億五千七百萬、大阪は一億一千萬、京都は二千二百萬に過ぎざれども、本年の如きは各都市何れも少くとも其數割を增加しつゝあるようである。之を我都市の膨脹と及交通量累加增進の大勢より考ふるに、近き將來には其市民一人に付き一ケ年三百回乘車と言ふ標準に達すること必ずしも空想ではあるまい、して見ると、東京の人口二百五十萬、大阪の人口二百萬に達したる十年後の狀態は如

何と言ふに。

東　京　七億五千萬人

大　阪　六億萬人

の延人員を運搬すべき市內交通機關を要する譯である。乍併斯かゝる大量の運搬は唯一の路面軌道にては到底不可能のことであるから、地下鐵道及高架線路を建設して其機能を發揮するより外に途はないのである。

上述の如く我國の都市の市內交通機關は到底現時の儘では都市發展の順路を助けることは出來ないのみならず、自然の進路を防害するの感あるものではないかと思はれる、市內高速交通機關の敷設は其缺陷を助ける爲めのみではなく、都市の面積擴張さるゝに從ひ交通の爲めに費す時間を減縮する意味に於ても亦緊急の問題となるのである。

更に都市が其郊外の住宅地區を衛生上の安全圈とする現代の傾向は、市內急速交通機關の要求を益々切ならしめるのである、我東京市や大阪市は已に其必要を多少感じて來たのは事實である、郊外の電鐵の經營漸次發展するに從ひ、市內交通機關の積極的計畫は今や我國大都市の必然の責務となつて來たと言ふことが出來る。

四　街路系統の改正……幅員と踏査

都市計畫の根本義たる其內外の交通機關と共に其骨組をなすべき街路の計畫は、都市としての最後の運命を決定すべき責任あるものである。街路の系統を完全にし適當なる幅員を決定することは

實際問題としては非常に困難なることであつて、唯之を圖上に描寫する如き單純なる事柄ではない殊に中古以來繁榮として存在する舊市街を縱橫無盡に改造する如きは餘程の信念と充分の財源を持たねば出來ぬことである。若し新開地に其計畫を立つるならば、其計畫には十分なる理想を發現出來るけれども、實際現存の都市築造物を破壞して新たなる線路を造り出す計畫には餘からぬ制限を受くるのは當然である、況して財源を造り出すことの更に困難なる事情あるに於ては、其難解の方程式たる言はすして明である。

世界各國の都市が如何なる街路系統を有するやと言ふに其大勢より分類する時は（一）基盤格子式（二）放射式（又は蜘蛛網式）（三）基盤格子斜角線入り、の三樣あると言ひ得れども、中古以來時勢の變遷により漸次に發展したる都市に於ては以上の形式を種々混用して居るのである、又地形上それ等の形式に全く外づれたるものゝあるのは當然の結果である。而して古來都市の建設者が如何なる打算をなして其街路系統を研究したかの苦心に就ては、何等文獻に徵すべきものなく、從つて其理論的立場を吟味する譯にゆかないけれども、古代希臘や羅馬の都市の地圖を繙き又は中古の歐羅巴都市の配置を見或は我國維新前の各藩城下の市街を見れば、其建設にはそれ〴〵甚深く注意を拂つたことは十分に觀察されるのである。吾人は今茲にそれ等の建設當時の苦心經營の跡を尋ねるの時間を有せぬのであるが、其研究の結果は恐らく現代の都市計畫の精神と一致するものを發見することゝ必然であると思ふのである。

吾人は今茲に歐洲都市が其中古以來の街路系統を如何にして改造しつゝ來りしかの經營談を一々

取調べる餘裕を持たねばならぬが、彼等が十九世紀の下半期に入り、產業經濟の組織一變と共に屢言すれば其統一せる交通政策確立以來其都市の改造に着手せし趨勢は見逃す譯にゆかない。而して其都市膨脹の現實の現象は益々其改造計畫の緊急なる感ぜしめ朝野一齊に其實行の機運を會得したのである、國逸の各都市は一般に其の計畫を徹底的に實行したのであるが、佛蘭西の巴里壞向國の維那等も亦大膽なる改造計畫を實行した實例である、獨り英吉利の都市は倫敦を始め何れも其改造の機運を覺ること遲かりしは彼國將來の爲めに大に惜しむべき事である。倫敦の街路系統は世界最大の都市ならずとも甚だ不秩序不整頓のものとして批難すべきものであるが、現時の如く人口八百二十五萬を算し、世界最大の富と實力を有し又世界無比の交通頻繁なる都市としては到底之を批難せずには居られぬのである、如何に御國自慢又困襲尊重の英國人も近來大に其非を自覺したのは事實にして、戰前に市の理事者は打擲ふて大陸都市の改良計畫の視察に出懸けたのは正さに其覺醒の實證である。

之に反し巴里は自今約五十年前時の市長オースマン男爵の大改造計畫を承認し着々其實施を怠らず遂に一種の巴里式放射線街路系統を築き上げ歐洲に於ける最美最善の都市を現出したのである、人若し其改良計畫以前に巴里地圖を見ながら如何にも狹くるしき中古式亂雜の都市であつたかを感するであろふ。吾人は巴里の街路系統を理想的のものと思ふものではないけれども、中古以來の蕾都市を修正改造して仕上げた市街としては實に能く其系統の調和、街路幅員の適宜、公園、遊園及公舘の配置等に成功したものと思ふのである。

巴里の改正プランと相待つて都市の街路系統として世界の双璧とせらるゝ北米合衆國首都ワシントンの市街は全く新しき計畫であつたので、唯ポトマック河流と其附近の地形に適合する爲めに多少の制限を有したのみであつた、一七九一年（自今百二十六年前）佛人ランファン氏は第一世大統領ワシントンの劃に應じ其計畫に着手し一種の斜線入格子形のプランを作成したのである、爾來其プランは忠實に實施されて現時の如き模範的都市を形造つたのである。然るに此と相前後して其街路系統を全てた紐育市は其地形の關係もあつたであろふが全く直角式の縱貫橫斷の街路系統を採用した、同市は人口未だ十萬に充たざる時一八一〇年（今より約百年前）其時の調査委員の報告に基き人口二十五萬を標準として、現在の如き系統のものを實施するに定めたのである。其縱貫道路は幅員百呎にして間隔は百間乃至百五十間に配置され、橫斷街路は約七十間毎に十間幅のものを造つたのであるが、其膨脹は其標準とせし二十五萬の人口は忽ちに超過して今は其二十倍なる五百萬以上をも算するように成り、街衢々膨脹の趨勢を高めつゝあるのである。故に今日紐育市民が現時の街路系統及配置の爲めに苦しみつゝあるのは當然であつて敢て怪しむ要はない。現時紐育市に於ては其中樞區域たるマンハッタン區の街路改造計畫は緊急の事に屬するのであるが、奈何にせん其地所の價格餘りに高きと、又其建築物が所謂高層の大建築を以て充たされ、到底之を擴張することは出來ないのである。我國の都市は今や中古の封建時代の都市より一躍して現代文明に浩ふべき實質を具備せねばならぬ時期に達したのであるが、紐育の實例は以て旅鑑となすべきではないかと思はれる、幸にして我國の都市は東京を始め其他の大都市何れも地價未だ比較的低廉にして、又大した高價の建築物も出來て居ないのであるから、街路系統の改正と其整理は今を措ては將來決して其時期は來ないかも知れぬのである、永遠的街路系統の確立は實に焦眉の急と言はねばならぬ。

東京の市區改正委員會が今日まで設置其街路系統の整理をなし來りしは、上述の意味に於て其だ賞明ある手段と言ふべきであつたけれども、不幸にも帝都發展の將來を達觀せざる計畫の下に其實行をなしたのは吾人の甚だ遺憾に感するところである。乍併我東京市は紐育市の如く永久的堅固の高層建築の未だ出現せず、地價の價格も彼の十分の一にも充たざる現狀の間に、第二の永遠的街路系統の整理案を確立して其斷行を企畫するを目下の急務とする。而して東京市以外の大都市就中大阪、京都、名古屋等の都市も今や東京と同樣の市區改正條例を布かるゝことゝなつたのであるから、吾人は一刻も早く此等の都市が其街路系統の永遠的計畫を確定して、正さに來らんとする其膨脹發展に備へねばならぬことを鑑遣さるを得ない。

當都市の街路系統を變改造することの困難は已に遙べた通りであるが、吾人は我東京及其他の大都市の實際問題として之を取扱ふ際に其計畫を立つる爲めには非常に多くの紛糾せる事項を一齊の爭等に觀察せねばならぬことの困難を痛切に感ずるのである、其中に就て最も重要なる項目と見らるゝもの二三を擧ぐれば。

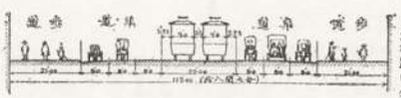
一　港灣埠橋と幹線街路の連絡
一　鐵道終點驛と市中心地區の連絡
一　商業中心地區と幹線街路の關係

一　行政公舘の配置
一　遊園地、公園其他の娯樂場と幹線街路の連絡
一　交通量のセンサスと其增加の豫定
一　幹線交互の連絡と市內交通機關の關係

等にして、其何れもがそれ〳〵現在の我國の都市にては十分の設備を有して居ないのであるから其連絡たるべき街路系統の整理の如きは容易にはゆかない、況して現在無頓着にアヂコチラに散在する遊園地や、行政公舘又は其他の大建築を結び付けたり、或は鐵道終點驛の不利なる位地を生かさねばならなかつたりすることの事情あるに於てをや、又更に現在の商業放棄の地區を切り取り其建物を取崩すような荒療治を成るべく輕微ならしめんことの工夫が實際上の緊急なる要求であるに於てをや。

街路系統整理の設計は新たなる地區に都市を計畫するよりも餘程困難であることは、實際的に市街改造の計畫に接觸するものゝ外は、餘り其眞相を知らぬのであるが、其困難の最初は幹線及中心地の擇定にして其最後は財政問題であることを知らねばならぬ、都市財政の實際問題は凡て此等の計畫に對する最大なる發言權を有するのであつて、我國都市改良の實行力の少きは主として其發言者のピキトーによるのである、吾人は後章に於て少しく其問題を遙べて見たい。

街路系統の研究と共に最も重大なる項目は其街路の幅員である、從來我國にては街路幅員の大なるを一種の贅澤と思つた時代もあつたけれども、近時交通量の增大なるに從ひ愈其幅員の適當の大さが街路の生命であることを感ずるに至つたのである。今試みに大都市の幹線街路幅員の適當なる大さを計算するに。



歩道　二十一尺
車道　七十尺

幹線街路の必要なる幅員の最小限は十八間七分となる若し廣道の如き意味にて植樹をなし並歩道を取る場合には更に兩側又は各歩道の一方に四五間の幅員を要するであろ、歐米各國の都市には其公舘地域又は公園廣道の連絡幹線には路面の軌道を敷設せしめずして且つ並歩道乘馬道を並用するようであるが、それ等は交通の利便以外に市民の行樂を助ける意味でなるべく其觀を增すことを目的とするのである。巴里のシャン、ゼリゼー廣道、伯林のウンテル、デン、リンデン街並那のリングストラッセー、漢堡のリーベル、バール　何牙利のアンドラシー街、華盛頓のペンシルベニヤ、アベニュー、倫敦のヴキトリヤ、エンバンクメント、エデンバラ市のプリンセス街等は何れも單純なる交通の幹線街路と見做すべきものではなく、むしろ其都市の晴れの場所として其文化の程度を示し又其美觀を誇る一の表看版と見ねばならぬ。

幹線街路の必要なる幅員の最小限は十八間七分とするも、更に其都市發展の將來に應じ得る爲には、或程度の餘裕を考へ置かねばならぬのである。紐育市の縱貫幹線街路は百呎の幅員を有し路面軌道の敷設なきも今は其狹隘なる爲めに非常に苦痛を感じて居ることや倫敦市の街路が一般に狹隘にして警官の指揮により漸く其交通の整理をなしつゝある現狀等に考へ合ふ時は、我國の大都市は唯現在の交通量のみに拘泥せず、將來の激增せんとする交通量を十分に推測して、現時の我東京の銀座日本橋通りを始め、市區の中心度脈の場所に於ける街路は其系統の一貫せざると共に其幅員の狹隘なることは著しき事實である。

（倫敦にはウヰットホール通りは百二十呎百四十五呎の幅員あれども、其交通なるレヂント街が僅かに八十五呎カデー街が七十五呎オクスフォード街が六十四呎ら外はないのである、我東京にては丸の内の大通りは百二十呎にて幹線街路として必用なる幅員を有するも其連絡線たる外濠を渡りたる街路は七十呎内外に減ぜられ居るのである、又交通量の最大なる日本橋通りは其幅員に九十呎に過ぎないのである大阪市の現時の實際幅員に於ては一大改都市たる資格を有つて居ないのである）

街路面の鋪造は我國都市に於ても近時漸く識者の批難が起つて來たのである、從來、草履や下駄にて緩つくりと練り歩いた時代には、現時の如く土砂又は砂利を踏み固めた路面にても差支がなかつたのであるが、今や交通量の激增に加へて人力車、荷車、自働車等重量の大なるもの運搬が生じ、しかも其急速と利便の大なるを要することの切なる時代になつたのである、然るに路面は依然として土砂踏み固めの式には其塵埃を沒することを得ず到底大都市の街路と思はれぬ程慘じめなものである。路面修策の盤は今や議論の問題ではなく、實行の時代となつて來たのであるが、さて如何にして其實行を期するやと言ふに之も矢張り其財源の爲めに窮するのである。

現代の科學と其實驗が敎ふる處によれば、市街地の街路路面の築造はコンクリート土臺の上にアスファルトを敷くか、ウードブロックを敷くか又はマカダム敷となすかを最良となすのである。もし歩道ならばコンクリート、ブロックを敷き並べるも良しいのである。此等は歐米の各國都市の已に實驗をなしつゝあるところであつて、我國に於て更に實驗をなして見るの要はないようなものであるが、東京や大阪にてはそれ〳〵或る街路に其部分的試設を施し其結果を研究中である。其成績に關しては多少の批難を聞くけれども主として施工の不完全から生じた結果とし見る譯にゆかない。今假りにアスファルト敷の路面築造を一般に採用するものとして其工費を計算する時は、我東京や大阪が現在の主要街路にのみ之を適用するとしても、何れも二千萬圓以上の工費を要するのであつて、然かも其維持補除等の費用亦每年百萬圓以上を計上せねばならぬことを知る時は、之れ又可なり難解の問題である。

公舘の配置は街路系統の決定には重要なる關係あるは言ふまでもなきことにして、最近發達しつつある亞米利加都市は殊に此の問題を重要視して居るようである。國會議事堂、國務省、市廳舍、寺院、大劇場等は即ち其中心樞子となるべき性質の公舘にして、廣場の中心とか其正面の衝き當りの場所とか占據すべき筈のものである、又此等の各箇が彼此相對稱して街路系統中の重鎭をなし環境の調和と其美觀を發揚せねばならぬ、我帝都たる東京市の公舘は日比谷の三公舘が霞ケ關に向つて並列せる以外に其配置を深く考究したと見るべきものは一つもないのである、此回建築されんとする國會議事堂の位地の如きも、唯其地形の優勝なると市中心地に近きだけであつて、帝都の街路系統と果して適當なる連絡調和を保ち得るや否や甚だ疑問である、其他大藏省始め國務省にして今後新築すべきもの、數箇は多いのであるから、此等の建物の凡ての配置を一刻も早く確定し置きて將來其全部竣成の際に於ける現境の調和を考へねばならぬ。議事堂の配置もそれ一箇としての適當な配置より更に一歩を進めて帝都の中樞樣子たる適當の位地と配置を考ふべきではないかと思はれる。鐵道停車場も交通連絡の中心地としての外に公舘として重大なる位置を占むるものである、博物館、美術館、圖書舘、警察署、其他各所の行政用公舘は何れも街路系統の重要分子をなすものであるから、其配置及計畫は決して個々別に考ふべきものでない、然るに我國大都市の現狀に於ては大体に其理解をなしたものは甚だ少いのである。唯幸なることは此等從來の公舘も主として時代の要求に後れたる間に合せものが多いのであるから、今後更に將來永遠の建築をなす際殊に此の意味に於て注意を拂ふべきである。

街路系統を新たに立つる場合に放射線狀の組織を取るべきや或は基盤格子形式を得策とするやは主として其地勢より打算せねばならぬから、一概に之を論ずる譯にはゆかない。しかし人口五十萬以上或は更に漸次增加せんとする大都市にあつては一箇の市中心より四方に放射するが如き極端なる細絲網式のものは實際上甚だ不便にして、到底適當なる交通系統たることは出來ない、之れ主として大面積の各地點が其位地を明示するには Coordinate system より外に簡單明瞭なる方法はないからである、而して Polar system たる放射線式表示は其位地指定錯りに Difficult であるから或る小都市又は小區域にては大した不便なりとするも、稍大きな都市にてはどうしても不便が多いのである又地積利用し意味に於て放射線式の街路は一般に不利益が多いことも事實であるから、街路系

統を樹立するには大体直角式又はそれを基礎としたる縦横線を用ひ、地形に應じて或は斜角線を入れ或は大廣道を配置し、游園地を其間に遘梅するを美しとする。華盛頓のプランは正さに此理想に近きものであるが、吾人が今後我國都市の新開地の計畫に彼の形式を其儘に利用し得る場合は少いかも知れぬ。要するに舊都市の外郭に發展する地域の街路系統整理は我國都市の最も緊急とするところであるが、其現實の問題に就ては未だ誰れ一人研究を發表した人のないのは甚だ心細き次第である英吉利に於ては一九〇九年住居法と共に都市計畫法は法律となりて發布され、主として新開の市街に向つて其街路整理を命じ同時に又國法の保護を與へて居るのである。吾人は東京市區改正條例の如き立派な法律を有するのであるから、此法律に準據して舊市街の街路系統大改正と共に郊外新開地域の街路系統整正の實行を期さねばならぬ、それにしても其計畫の調査が少しも出來て居ないような現時の狀態は、吾人は現代の文明都市民として甚だ恥かしく感ずるところである。（未完）

□ユートピヤ□

箕田平五郎氏は建築學會大會の晩餐會の當夜、次の樣な面白い話をぜられた。

「私は三十年か五十年かの未來の夢を見ました。其時分には現市長にも會ふことも考ふることも出來ぬまじき市長を戴き市參事會員は現代氏長が憤慨された樣に老爺の番頭が若主人をごつく顧す樣な人達でなく、出來る丈市長を輔佐し市會議員は市の榮譽幸福のために献身的努力をする人達であり、又市の各方面の顧問技師等は總て名譽職で市長はよく經濟上の問題も了解して居られ實行に可能なる計畫を立てられる。市民も赤裸々に我家の數苻を誇るように市の爲めに情と風なく金を擲出するのみならず、此の横には幾何の資金を分擔した此の公園には自分は幾百圓を投じたいふ風に市を愛する人達であります、其時分の東京は上下和合して和氣藹々たる一家の樣であります。私はこの私の見た「ユートピヤ」が近き將來に感苻や實現せられることゝ信じて居ります」

一夕の老爺なる夢物語、含味すれば意義頗る深重、千言萬語の名論卓說も及ばざるものがある。



我國都市改良計畫の將來（下）

會員　片岡安

五　建築制限と經濟問題

都市の改良計畫の核子は其交通問題であるけれども、其都市の實質を形成するものは其街路に面する建築であるから、如何に都市全体の街路系統が改良されても其建築が現代の文明を容るゝようなものに改良されぬ以上其都市の實質は事實に於て改良されぬのである。故に歐米各國にては都市の建築を改良せん爲めには色々の手段を取つて居るのである。建築法規は即ち其大綱を示すものであつて、市民の自覺と相待ち其都市建築の改善進歩を實現しつゝあることは吾人の大に注意すべき点である。

之を我國の現狀に見よ、都市建築として其義務を盡しつゝあるもの果して幾何ありや、概ね中古式其儘の木造脆弱の非科學的構造物にして、一朝の火災に烏有に歸するもの滔々皆然らざるはないのである、少しく強き颶風の襲來せんか、被害頻々として修理を加へざれば業務にも差支を生ずる場合少しとせず、生活と營業の不安より曳いて一般經濟の不安定ともなり、國家に對する不利益は容易ならぬものがあるにも拘らず、一般社會からは左程のことゝも思はれて居ないようである。我國民の自覺すべきこと多々あるならんが、都市建築大改造の急要を覺ることは、最も緊急なることの一とつでなくてはならぬ。

歐米各國の都市が現時實施しつゝある建築法令は我國の都市には直ちに參考とすることは不可能である、何となれば彼にありては十八世紀の始めより一般民間の建物と雖も大体煉瓦石構造の永久的のものとなつたのであるから、建築法令によりて其部分部分を漸次に改良せしめることに依つて都市改善の目的を達せらるゝのであるが、我にありては建築構造の根底より改善するの要があるから、彼の取締法の如き手緩き手段にては若しそれを實施するとしても百年二百年の年間を要して尚ほ徹底的の統一は覺束ないものと思はねばならぬ。即ち我國都市の建築を如何にして改善するやは約まり我國獨特の方法を攻究せねばならぬ譯なのである。

我國の都市中殊に帝都や其他の重要都市は今や一刻も早く其建築制限の國法發布を欲するのである、若し吾人はあらゆる犧牲を拂つて街路系統の改正を斷行するも其改正されたる幹線街路に沿ふてさへ矢張り非文明非科學的の建物を並べられては、骨組のみの改良に過ぎずして其實質は少しも改善されぬことになるのである。我國現時の社會が一般に科學應用の緊要なるに氣付かざる趨勢に考ふる時は、よし都市街路の永遠的計畫が實行されても、其建築を科學的及經濟的合理の構築物に改善することは殆ど束縛ないと見ねばならぬ、故に此際吾人は一刻も早く少くとも重要都市だけに實施せしむべき建築改造の法律を制定し、一般市民をして其據る處を知らしむるの急要なるを感ずるものである。

建築の構造に一定の制限を設くることは、都市改良計畫の主要なる部分である以上、從來東京市に實施せられたる市區改正條例が約三十年前から合理的のものと認められながら、其建築制限が國法上緊要のことであると認められなかつたのは、甚だ不可思議のことと言はねばならぬ。之れ一に建築技術家が社會指導の任を自覺し得なかつた爲めであつて、又他の反面には我國の過渡時代の文明が凡てに上ベすりをなしつゝ來たから、永久經濟の根底たる本式の建築などは全く考へ及ばなかつたからである。吾人は我國の都市建築制限の方法即ち其大綱と細目に亘る問題に就て相當の意見を有し、之を社會一般に敷衍するの義務を感ずるのであるが、此篇に於ては其餘白を見出さぬから、他日別に之を發表することゝし、茲には主として其制限と箇人及社會の經濟に關する實際的痛切なる問題にのみ少しく觸れて見たい。

大都市の幹線街路に面する建築を防火構造の永久建築たらしめることは其制限の基礎であるから若し其實施の際經濟上箇人に苦痛を與へざるものとすれば其制限は輿論の迎ふるところとなり直ちに實行出來る筈である。然るに我國の一般社會は朝野の別なく此点に關し何等の理解を有せず唯何ごとなしに半永久の不安定の家屋が採算上有益なものと妄斷して居るようである。故に若し法律によりて永久的防火構造の家屋に改造を命せんとするも、市民は一齊に其無法なるを叫ぶことであろふと思はれる。之れ吾人の深く遺憾とするところである。

大都市の幹線街路に面する建築を主として事務用（營業店舗又は職業事務）に供せらるゝを原則とするか故に、建物の築造費其物が營業上收支相償ふものでなくてはならぬ、唯都市美觀の爲めとか業務誇張の虚勢の爲めとか或は空漠なる意味の体裁とかの爲めに收支相償はぬような工費を投ずることは三つの物數寄者の外に望まれないことである。若しそれが半永久的の低き木造家屋であつたにしても、或は工費の總金高が少額にて資本家として大した苦痛なきにしても、其業務執行上支拂ふべき適當の賃貸料が其投資の利廻りとならぬような建築ならば、之を一般に强制すべき性質のものと見る譯にゆかない、之に反し其建物が永久的防火構造のものにして最初の投資なり大なるものも、其實用上の賃貸料金が其投資に十分相當得らるゝものとすれば、それこそ十分に强制するここの出來るものと言ひ得る。吾人は丁度現代の船舶が主として鐵船に變じ、之と同じく、或はそれ以上の速度に木造家屋が鐵筋コンクリート又は鐵骨煉瓦造の建築に改造さるゝ運命にあるものと信ずべき幾多の理由を有するのである。

大都市の幹線街路は其幅員前後のものとすれば其れに面する建物も大体五六階以上百呎きものと假定し、其階數は四階以上七階を適當とする、而して其工費を計上して見るに（戰前の工費）

鐵骨煉瓦造（エレベーター付、暖房其他一切の設備付）

床坪平面一坪に付き　工　費　三百圓内外

鐵筋コンクリート造（設備同上）

床坪平面一坪に付き　工　費　貳百五拾圓内外

であるから、今假りに地所（一坪七百圓）五百坪を購入し建坪四百坪七階の鐵筋コンクリート建物を築造したりとすれば其採算は次の通りとなる、

地所購入費　叁拾五萬圓

建　築　費　七拾萬圓（毬床坪二千八百坪一坪貳百五拾圓として）

合　計　百〇五萬圓

而して其有効床面積は總床面坪の七掛けとし約二千坪を得るのである、之を一坪一ケ月最低五圓最高七圓平均六圓とすれば、一ケ月賃貸料金收入壹萬貳千圓之を一ケ年に積算し拾四萬四千圓となる。其内投資に對し六朱の利子（建築費の三十五ケ年償却、電燈、暖房の經費、諸稅等を合算すれば六萬叁千圓　投資百〇五萬圓に對する利子（年六朱）

貳　萬　圓　建築費七拾萬圓の三十五ケ年償却年度割

參　萬　圓　電燈、暖房、經營費及償却積立

貳　萬　圓　諸稅及雜費

合　計　拾參萬參千圓

差　引　壹萬壹千圓　積立金

以上は唯其一例に過ぎず、其面積の大小、階數の多少及地所の商業的價値の如何等により、種々の變化あるときは當然なれども、以上の數字は過不及なき平均の採算にして、何ちらかと言へば實際よりは餘程内輪に見た計算である。乍然現時の戰時相場に於ては以上の如き採算は凡て其基礎を失ふのであるから若し之を實施せんとすれば更に他の研究を要するもの思はねばならぬ。

一般社會に於ては木造の二階程度の半永久燃燒質建物でさへ新築すること能ては可なり大きい苦痛を感するのに、永久的の防火構造の堂々たる建築を造ることは、所詮手薄の資產にては不可能であると して殆んど一顧をだも與へざる風潮に慣らされて居るのである、然るに其採算上の問題を實際的に調査する時は上述の如く永久的構造物は明かに經濟上合理的にして、木造の低き建築こそ却て不經濟の極であることが和解るのである。殊に木造建築は戰亂濟みたる後も漸次に騰貴すべき運命を有するに拘らず、コンクリート構造應用科學の進歩と共に次第に低廉なる成績を擧げ得る傾向が眼前に横たわるに於ては、吾人は我國民一般をして此永久建築が經濟の原則に稱ふものであることを十分に徹底するまでに叫ばねばならぬ。之れ即ち輿論となりて法律制定を促すであろふ。

一体建築法規は法律としては寔に簡易なものなるも、我國現時の亂脈なる都市狀態を救濟するには先づ幹線街路に面する建築を全部改築せしめて、永久的科學的の建築たらしめる爲めに、緊要此上もない偉大なる法典なのである。吾人は其制定が一刻も早く成功せんことを望んで已まない。

六　衞生工事

歐米の都市は今や一として組織系統ある衞生設備を有せざるはないと言ふも過言ではない、都市の凡ての施設の中で衞生設備の根底たる下水工事ほど重大なものはないのであつて、文明國の市民は下水の不完全なるを以て一の恥辱と考ふること、猶ほ目に文字なきものが自から卑下するに等しきものがある。都市としては下水工事を完成せしむるを其經營の基礎と考へて居るのである。もとより歐米の都市も下水工事の緊要なるを見出せしは最近三四十年來のことに屬し、それ以前にありては唯都分都分隨意に低地に向つて溝水を流したのであつて、我國都市の現時の狀態と變つて居なかつたのである。然るに衞生生理學の進歩は現時の如き組織的衞生設備の急要なるを認め、衞生工學の進歩は遂に其設備を實現せしめたのである。而して下水工事の完備したる後の都市の健康狀態は其向上實に顯著なるものありて、上水の普及と相待ちて一般の急性傳染病の襲來を一擲するに至つたことは現代文明の最も誇りとするところである。

然るに我國の都市は帝都を始め大阪、京都の如き何れも未だ下水組織を完成するに至らず、獨り大阪は其商業中心地たる船場に暗渠式下水系統を有すれども、其不完全にして之を現代の衞生工學の立場より見れば依然たる間に合せのものにしか見る譯に行かない。近來場末方面に下水系統の普及を實施しつゝあれども未だ以て我大阪市の永遠的計畫と一致したものと言ふことには六ケ敷いのである。東京市は十數年來大問題として計議されて居つたのであるが、大正元年に約四千萬圓の工費を以て全市に互る現代式の下水計畫を實行すると決した、而して若しその通り實行が進めば大正十六年には完成する筈であつたけれども、途中色々の機械替が起り、今は始ど何ら計畫に逆戻りをなして居るようである。

京都市に至つては未だ下水工事の設計さへも出來て居ない、毎年赤痢、窯扶斯等の傳染病に甚しく苦められて居ると言ふような狀態である、名古屋市は最近に市の中央部の下水道が完成したと言ふことであるが全市に亘つての計畫は未だ出來ないのである。其他の都市に至つては殖民地の二三

都市を除きては、殆んど下水工事を施工したところはないのであつて、嚆矢来の因襲上其甚しき欠陥に氣付かざるまでいある。

世界各國の都市が漸次其市民の健康向上を確實に保證せんとする時代に、獨り我國の都市は衛生の危害防禦の根本計畫の樹立を忘りつゝあるは文明國民として甚だしき恥辱と感せざるを得ないのである。衛路系統確立と共に大下水や技管下水の系統を定め都市全体の汚水塞水を完全に排除する計畫を樹つることは、我都市目下の急務にあらずや。然し其計畫に伴ふ財源に窮して各都市ともに之を手控へて居る事實は我國現時の富の程度としては致方なしと言ふ論者もあれど、吾人斯かる意見には同意する譯には行かないのである。水道は收益伴ふが故に之を布設し、下水は收益上の利益を生せざるが故に何時までも放擲して顧みざるが如き不合理や其短見は到底都市改良計畫を考ふるものゝ容るべき意見ではない。一貫せる方針なき部分的の施設は決して眞正の改良計畫ではないのである。

衛生上の施設は下水工事を其根本とすれども、其他には上水の普及を徹底せしめ食料品檢査、結核療養所、衛生博物館の建設等其項目甚だ多岐に亙り、到底其梗概をも茲に述ぶることを得ざるを遺憾とする。

七　改良計畫實施の法規と財源

都市改良の計畫を實施するにはそれ〳〵法律の力に依りて、其統一せる永遠的の施工を保證するを要するは勿論にして、個人の利害よりも更に大なる都市全体の永遠の福祉を基礎として計畫を立つる爲めには可なり大なる權力が伴はねばならぬ譯である。然るに嚆矢各國の都市改良計畫に見るに、必ずしも法律の力を用ひず、單に行政命令により比較的平易に大膽なる改良計畫が實施されて居るのは、個人の權利思想の發達したる歐米に於ては稍不可解のやうにも思はれる。尚更に驚くべきは建築法規の細則にして、單に行政上の取扱に過ぎざる樣の問題が、凡て法律の成文となつて居ることである。又都市の市長は或る場合には都市永遠の利益の爲めには絶大の權力を以て個人の施設に干渉し得るが如き、或は亞米利加の一二の州に於けるが如く、都市が改良工事の爲めに地價差益稅を賦課し得る等其組織は少しも一定せずして、しかも實績を擧くることに於て其だ順序なるものがある。吾人の聞く處によれば一般に獨逸の都市は其改良計畫實施に際し官民一致して其成効に努力すると言ふことである、亞米利加の或る有名なる都市計畫論者は其官民一致せる都市改良熱を以て一種の獨逸氣風と稱へて居るのである。

英吉利にては都市計畫法は一九〇九年に法律となつて發布されて居るけれども、勞働者住宅法と共に一つの法律に編纂されたのであつて、實は市外の新開地の整理を強制するに過ぎない。我國に於ける東京市區改正條例の方がむしろ法律としてはより以上實用的のものであるかも知れぬ、而して其發布は英吉利の都市計畫法よりも二十年も早く發布されて居るのであるから、若し都市改良事業が法律の力によりてのみ其成績が擧かるものならば、我國の帝都は今や非常に立派に其成績を擧けて居る譯であるが、事實は之を否認するを奈何ともすることが出來ぬ。

要するに都市計畫の實施に際しては歐洲の二三國にて專ら認めらるゝ地帶收用法又は獨乙に於て主として行はるゝ市街地區劃整理法を最も有効なるものとする、東京市區改正條例に附屬せる市區改正土地建物處分規則（明治二十二年一月勅令）は稍それに似よりたるものにして、一般土地收用法の如き範圍なものではないが、其第三條に規定しある「本則第一條ニ依リ買上タルモノハ原價ヲ以テ特ニ蓄所有者ニ拂下グベシ……」と言ふが如き部分は全く現代の都市計畫の精神と一致せざるものである。此回東京市區改正條例及土地建物處分規則は大阪京都及び內務大臣に於て特に必要と認めたる都市に其全部及一部を實施することを得と言ふ法律案が議會を通過したのは吾人の最も愉快に感するところであると同時に、吾人は今後其法律の精神に依り積極的の永遠計畫を立て其實施の一日も早く達ばれんことを祈るものである。けれども更に一歩を進めて地帶收用及市街地區劃整理制度の必要を唱ふるものである。

都市計畫の實施に伴ふ財源の問題は共凡ての計畫を生かすか殺すかと言ふ最後の試否權の存するところで、其計畫實施の困難は常に永遠的の都市計畫を萎縮せしめるのである、甚しきは初めより都市改良の計畫を立案せしめざる毒藥となることが多いのである。歐米都市の如く其市民が現在の經常費を負擔する以外に、其永遠計畫に對する費用を十分に負擔し得る處にては、必ずしも難問ではないかも知れぬが、我國の都市の如く永遠計畫の爲めに負擔を受くるを苦しむ處にては、其財政計畫を立つるに困難するのは當然である。乍併困難なりとて之を顧みざるに於ては都市の將來は全く暗黑であるから、東京市區改正條例は率先して其前途の光明を見出さん所存であつたのである。東京市區改正に對しては法律は左の特別稅を徵集することを認めたのである。

一地　租　　地租百分ノ十二年以內但シ耕地ヲ除ク
一營業稅並ニ雜種稅　獨方稅十分ノ四以內
一家　屋　稅　同上
一其他勅令ヲ以テ指定シタルモノ

東京市は以上の賦課の外官有河岸地の下附を受け其河岸地より收入する金額をも使用することを許されて今日まで其市區改正を續行して來たのである。東京市は其事業の爲めに費したる工費は約參千萬圓なりと雖も、東京の如き大都市の市區改正事業に參千萬圓や五千萬圓には到底本當の永遠計畫を實行出來ないは明かな話である、巴里がオースマン計畫を實行する爲めに約五億萬圓を投し、伯林が壹億六千萬圓を投して新街路の經營をなしたことや、倫敦市が其幹線街路の修正に貳億萬圓を投下しつゝあることを考ふると上述の如き小額の賦課にては、徹底的の計畫實行は不可能と言はねばならぬ。

吾人は街路改正に要する工費及下水道築造に要するものは其改良されて生ずる土地の價格騰貴の幾分かを徵集して之を支辨すべきものと思ふのである。亞米利加の二三の州は已に之を實行して居ると言ふ事である、もとより其賦課の比率は愼重に研究して其改良街路に面する土地が幾何、都市全体として又幾割と言ふ風に十分其分擔を公平ならしめる事は緊要である。下水道に至つては其中樞機關及本線は市全体に屬すれども支線が支配する宅地に於て之を負擔するは當然であると思はれる。唯從來の如く我國の一般地主が都市が如何に改良されても其改良により生ずる利益を自己の幸運の如く解釋する地主魂性を棄てゝ慮心平氣に其時代機運を看破し、市民の眞正の幸福は都市全体の改良事業の圓滿なる進行にあることに考へ、斯かる負擔に甘んぜんことを慫慂せざるを得ない。

八　結　論

我國の都市は其改良計畫の緊急なるを自覺すること他の文明國に比して甚だ遲れたのである、明治の初年故井上〔馨〕侯爵が銀座通りの建築を改造し當時に在ては稍其氣分も見へしが、全く皮相的の西洋模倣に過ぎざりしが故に、社會を動かすに足らずして其の氣分は立消へとなり、明治二十一年勅令によりて東京市區改正條例が發布されし時より、東京市のみは茲に都市改良の發端を開き本式の計畫實行に取係つたのであつた、然れども政府の二三人士に多少の理解があつただけで、朝野共に現代都市の發展の趨勢を看破する底の識見に缺けて居た爲めに、折角の立派な法律も餘り其實績を擧ぐるに至らなかつたのは返すゝも惜むべきである。

幸にして近時吾人の高唱せる都市計畫の眞意は世の運動と共に社會一般に認識さるゝに至つたのは、我國將來の爲めに歡喜に勝へぬところである、吾人は此機會に乘じて我國の重要都市の改造計畫を立てゝ其實行を期し、以て正さに疲らんとする我國の積極的膨脹政策と一致することを理想とせねばならぬ、若し我國は將來三流四流の貧弱國と漸次に落ち行くものとすれば、必ずしも都市の大改造を計畫するの要なく、萬事自然の趨勢に任して差支がないのであるが、吾人は斯かる消極的選擇主義に傾くことは出來ない。

して見ると吾人は今後如何なる方針により我國の重要都市改良の案を立てるかと言ふことは、實に我國の今後進むべき文明街道の分岐點に於て其積極か消極か何れの路を取るべきかを定めるようなものである。上述の諸論は凡て吾人をして其積極路に入らねばならぬことを敎ふるものである。積極的方針之れ即ち吾人の一刻も離すことの出來ないモットーでなくてはならぬのである。獨逸都市が最近三十年間に著しく其發達を確實にし尚將來多々益便するの勢を有てるのは全く其積極的計畫に依るのである。

我國都市の今後の採るべき改良計畫は

一、築港を完備せしめて水運の利便を計り、鐵道驛を擴築して陸運の缺點を除き、且つ倉庫地帶と運輸機關の連絡を圓滑にすること
一、市內交通機關の積極的企畫をなすこと
一、街路系統の永遠計畫を立てゝ可及的迅速に其實行をなすこと
一、都市建築の統一と其經濟的價値を發揮すること
一、衛生設備を徹底せしめて都市住民の健康向上を保證すること

等の諸項目にして其何れの一を缺くも完備せる組織的の文明都市として發展することは出來ないのである。而して此等の計畫は財政上の問題を要するは勿論なれども、財政なるものはもともと彈力性のものにして姑息なる現狀休養的のものとするも、積極的永遠のものとするも、一に其市民の緊張力如何によるのであることを考へ、市民として經濟上の活動を增す毎に益々其負擔力を倍加

し得るものなるを見越して、其都市百年の先を推定し、其假定の上に立案をなすべきである。都市が其發展計畫の初めに當り市外地を買收し置く如きは、明かに積極計畫の一である、又大運河を開鑿して市外帶地を一齊に適好なる工場敷地となすが如き、或は高燥なる郊外地帶を開拓して遊園地や住宅地を建設する等、現狀を一歩超越して少しく永遠の計畫を立つるならば、其計畫は初め多少の資本を固定するも、十數年を出ずして財政上にも有益なる結果を齎らすこと易々たるものがある。

現東京市長田尻博士は東京灣の大築港と、それより房總半島を開鑿して鹿島灘へ直通する大運河を造るを東京市永遠の計畫とせねばならぬと唱へらるゝのは、吾人と大体に於て其所見を一にするものであるが、房總半島開鑿の運河は果して經濟上効を奏するものなるや否や甚だ疑はしいのである。もしう東京市東部一帶の地に大運河を開鑿して、之を利根川と結び、其沿岸一帶を工場地區とすることは最も緊急にして且つ永遠の計畫であるやに思はれる。それにしても東京市は何故に築港計畫と言ふ都市發展の根本問題を忘却して居るやは不可解のことである。東京市民たるものはもより國務に忠ならんものは、我帝都の將來の爲めに此根本計畫の畫策を一刻も早く研究して其實行を期すべきである。又鐵道終點驛の計畫の如きも、之を現時の儘に見通がすことは帝都の發展上甚だしき障碍であることを知る時は、何故に此重大問題が未だに朝野一般有識者の間に閑却されて居るかは嘆はしい次第である。

我國各大都市の市內交通機關の不完全なる現時の狀態は如何にして之を整理するや、又更に一歩を進めて將來の計畫は如何にして之を處理するやの問題に就ては朝野共に未だ十分なる定見を有せぬのである。此等は寧ろ大なる苦痛を感せぬ事柄である爲めに、たとへ多少共重大なるに氣が付いたとて、容易に市民の奮起を促がすに足らないから、吾人は非常の勇氣を以て其緊急なるを一般市民に愬へ十分に自覺するまで奮鬪せねばならぬのである。田尻博士は『東京市街系統の改正と共に東西と南北に地下鐵道建設の急要はあれども、自分の腹案によれば其地下線だけに五億萬圓に近き工費を要するから、我國の經濟にては先づまづ六ケ敷きことゝ思ふ』と言はれて居るのは或る程度までは吾人の意見に近寄りつゝあるものである。田尻博士は技術上の問題を容易く攻究さるゝ利便なかりし事情の下に、如上の意見を有せらるゝのは敢て之を批難すべきではない。むしろ其達觀の明識には敬服するのであるが、更に一歩を進めて各方面の技能達識者の意見を徵し、此問題を研究せられんことを望まざるを得ない。

大阪市の街路系統大改造と共に地下鐵道建設は又有力なる意見たるを失はぬのである、殊に安治川、尻無川、木津川の三川を橫斷する西部外輪の街路は、什うしても渡船では之を連絡する譯にゆかない。紐育市はブルークリンとの間に四大鐵橋と十箇の河底隧道を以て其連絡を計つて居るのに比較するのではないけれども、少くとも一線路だけは隧道を以て完全なる連絡系統の建設を企つるの要がある。又南北及東西の一等道路の中央の地下に一大副道交通機關を建設することも其街路築造の時に之を實施することゝ或は策の得たるものであるかも知れぬ。紐育のクヰンス、プールバアルに於ける地下鐵道は、世界に於ける最高價のものなりしと言はれて居るが、其工費は一呎千七百圓に過ぎないから、我大阪市に於て新設街路築造の際に之を實施するとすれば、南北幹線三哩、東

北幹線五哩として、其工事多少困難なればとて五千萬圓内以にて之を竣工せしめ得るのである、此等は突飛なる積極案の如く解する人もあるならんが、現時の趨勢より將來の發展を打算すれば最早斯かる計畫は研究を急がねばならぬ時期に逢して居ると思はねばならぬ。

街路系統の大改造は今や各都市とも其急務なるを感じつゝあるから、早晩其計畫は出來上りて實施も運はるゝであろふと思はれるが、吾人の最も懸念に勝へざるは、我國の各都市とも大体に於て現代の都市を深く理解せざる人の多きことである。田尻博士の如き都市行政の權威たる人が『東京市は餘りに散漫に流れて理無意味に擴がりつゝあるから、高層建築を建てゝ之を中樞に緊縮せしめ街路の延長を短縮すると同時に其系統の整理をなさねばならぬ』と言ふことを發表されて居る如きは如何にも驚くべき謬見である。街路系統の整理の緊急なるは別に問題にならぬとして、東京市の面積が人口の割合に廣く過ぎると言ふ如きは一の忌諱であると今茲に賛言を要せぬのである。田尻博士は最近の事實と世界的趨勢を數量的に知られぬ爲めに斯かる謬見に陷られたのであるから、吾人は之を深く追窮するを好まねけれども、一般人士を誤ること大なるを思ふ時は或程度までは其妄を叱して置かねばならぬ。

現代の都市は發展と膨脹を以て其特徴とするのである。故に其地積の擴がり行くことは又自然の趨勢でなくてはならぬ。此に於て吾人は其街路系統を整理し其幅員を擴め其擴大延長を何處までも助成して亂雜不秩序に陷らぬように導くの要がある。若し其亂雜不秩序を以て單に面積の利用不充分なる爲めと見做すならば、之れ全く統計的數字を無視したる局部論であつて一顧の値さへもないのである。商業中樞區域が溜が上にも其地積を利用するのは經濟上自然の趨勢であつて、我國の帝都や大商工都市にても現に其傾向を示し居るのである。然しながら東京の如く已に世界有數の密集都市を更に此上に密集せしめんとすることは始んど常識の許さゞるところであるから、如何に高層建築が市の中樞區域に出來たとて、それで東京市の廣表を縮めるが如きは事實上も不可能であり又行政上からも行ふべきことではない。街路系統の大改造は其連接町村より更に其郊外地にまでも及ばざれば實實の都市計畫ではないのである。

我國の各都市が今日まで其建築行政を顧みざりしは、都市經營上の一大缺陷であるけれども、更に之を徹底的に考ふる時はむしろ僥倖であつたようにも思はれる。其交通政策との關係其市内交通機關や街路系統の整理等の計畫なき以上建築行政などはそもそも未來に屑するから、生中のものゝ實施されて居ない方が結局便利であつたかと思はれる、乍併實質自年の長計たる都市計畫の立案と共に、其都市建築は最も善く統一されて實質上の優良を制限されねばならぬのである。都市建築法規の重大なるは近來朝野を通じて十分に認められて來たから、吾人は今後其制定と其實施の爲めに献身的の努力を惜んではならぬ。

建築行政と共に都市の内容充實の一大問題は其衛生設備にして、我國の各都市が今後最も深き理解を以て其實行を急がねばならぬものゝ一に屬する。我國の都市は上水工事に於て稍見るべきものあれども、下水設備に於ては全く文明都市と言ふの資格がないと言ふも過言ではない。其結果として恐らくべき傳染病は常に市内に潜伏して、市民を不斷惱ましつゝあること、猶は警察なき都會に强盜の出沒するが如きものがある。此等は現代文明國の都市には見るべからざる恥辱にも値する事實であるから、吾人は最善の努力を此方面の建設に盡さゞれば我國都市の改良も管形骸のみに止まりつゝあるに反し、我國の都市は帝都に於てさへ少しも其向上の成績を示し得ないことに想到すれば、此問題は今や吾人を追遣しつゝある窮狀に瀕するを知らねばならぬ。

而して以上の諸問題は相寄りて一連の頓狀をなしつゝ都市計畫の一大目標より出發する大綱である、其大綱は一に懸つて財源と言ふ巨人の手腕に委ねられて居るのであつて、其緊張せる牽引力を發揮すると、弛緩荒廢の狀態に棄てらるゝとは其巨人の力量如何に依ることを知らねばならぬ。從來我國民は朝野共に其力量の乏しきに慣れて、都市計畫の目標に追ひ行くことの不可能を感じ、何時までも其實行を企てざりしは、事實上已むを得ざる事情もあつたと見られる、けれども我國は何時までも斯かる退嬰主義消極手段にのみ齷齪すべきではない。世界の經濟は日進月歩の傾向を益々强大に進捗せしめつゝあり、我國民のそれは今は昔日の如き遅々たるものではない、況して今後の發展期して待つべきものあるに於てはは、當昔日の習慣に拘泥して何時までも現狀を瞞縫するに止まる譯にゆかないのである。財源の如き彈力性の大なるものに向つて、唯々休養をとれ事とするは決して策の得たるものではない。吾人は我國の大都市は今日其發展計畫を確立しても、何時までも其實施の出來ない程貧弱なものではないことを信ずるものである、世の先覺者は朝野を論せず此緊急なる爲めに奮起せんことを切望して已まない。（畢）

復刻論文

「建築と社会」第三集一号（大正九年一月号）

都市計畫の財政觀

関一

大正時代には、本会名誉賛助員だった当時の大阪市助役、後に大阪の名市長といわれた関一氏の講演論旨がいくつか収録されている。

「都市住宅問題」（第一集14号）「田園都市論」（第五集10・11号）などあるが、以下に都市計画についての財政観を復刻する。



都市計畫の財政觀

法學博士　關　一

一

都市なるものは、一國文化の中心にして而も最高の中心なり。斯は、我邦に於ても、歐洲に於ても、最も重要視されある問題にして、殊に、我大阪市も、斯の問題を重要視し居り、而して、大阪市の現狀は、交通及住居に對して殆むど行詰りの狀態なり。就中、電車の如きも今日の狀態には最早不充分にして、高速度のものを必要とし居り、其他、住居問題に關しても現今の如く或一種の人に委して置くが如きは、最早事情の容さざることなれり。又、衛生問題に就ても、下水問題に關しても、屎尿問題に到りても、現在の狀態にては、斯の大都市として行詰りのことなれり。

茲に於て、都市計畫の要に漸次高調され來り斯の現狀を打破して、新しきものを作らむとするの要求と成れり。而して、之に對しては、各種の法制を定むること必要なり。是に就いては先般定められたる『東京市道路改正條例』及び『市街地建築物法』其他之等の附屬法令等に據つて施行さるべきなり。斯くの如く法制の定められたることは寔に欣ぶべき事なれども、之を完全に運用し遺憾なからしむることは、非常に困難なる事項なり。而して、其困難の中に其最たるものは、實に、都市計畫に要する財政上の問題也。

斯の財源に就ては、亞米利加に於ける都市計畫の權威者ネルソンリースの書ける本に『亞米利加の都市にては、漸次都市計畫を行ひ、之に對し種々の努力をなして、設計其他の事を爲し、立派な報告書を作りて各方面に送られたとき、各市の市民は非常に欣び、今にも第二のParis を實見されむと欣びしが、扨て、幾等の費用を要するやの質問と成り、設計者は之に對して正直に答ふるや、幾多の人々は斯の設計者に對して批難を加へ、折角市民の熱心も冷却して、惜むべくも、斯の立派なる設計書は、徒らに展覽會に於ける陳列物となりて、終に闇に葬むられる』との意味なる事を述べあり、這は探つて以て戒鑑とすべき問題也。

斯の問題に對する我智識階級の考を察するに蓋し二箇の思潮あるを覺ゆ。都市計畫法に衛生其他の項目存するが、共に『美觀』なる事項を考慮に入るべきや否やに仍つて議論の生ずる處なり。都市計畫に美觀を入ることは勿論結構な事項なるも、斯の計畫は其計畫の都度財政を考慮せざれば可なりとの說と、今は斯る贅澤なる計畫を樹つべきの時代にあらず、先づ、國防教育等の如き國家に必要なる經費を支出して若し財政に餘裕あらば、都市計畫の如き問題を考ふるも可なりとの說あり。斯の二者果して孰れを採るべきか、予の考ふる處に據れば、斯の兩者孰れも缺當なりと言ふべからず。言ふが如く美觀に重きを置くは勿論結構なるも、其財政に就て大体の問題を取決めずして之を行ふが如きは寔に無謀にして、前述米人の云ふ如く、寧に空論に終るのみ。而て、後者の如きも亦誤れり。蓋し、都市計畫なるものは、國防若くは教育等と同時に論ずべきもの非ずして、全然性質の異れる問題なり。國防は勿論必要なるも之より直ちに金錢上の利益を擧ぐべからず、即ち償格に算定したる利益は起らざるなり。教育の如きも亦爾。されど、斯の事業は無形の利、即ち、藝術の發達、死亡率の減退、其以外に金錢的利益を生ずるや——多少後年の事にはあるも——。英國の Gbon Barns 曰く『都市計畫は、一年で勘定すれば損失、五箇年では少しの利益、十年二十年後には非常に利ある Investment なりと思ふに到らむ』と。都市計畫は一の事業にして、大利益ある一の Investment なり。今、大阪市に一億圓を投じて種々の方面に市區改正の効果を生ずれば、地價騰貴し、全市千七百萬坪の上に一億圓を割當つれば六圓、十年とすれば六十錢なり。最近の騰貴は六十錢の負擔だけに非ず。宅地には六百廿萬坪あるも、一年に一圓何十錢かの割當には過ぎず。騰貴せる地價の一部を割きて斯の計畫を施行せば、Gbon Barns の言へる如く一の大 Investment なり。今日の如く、路面鉄を用ふれば速力を減ず、例へば、大阪市の堺筋線の如き一時間八十圓を損せり。又、混雜の爲一日に十八圓損するとして、一日七十萬乃至九十萬を先づ六十萬人とすれば、實に十萬時間を損じ、一萬人の勞働力を徒費するに等しき勘定と成り、之を一箇年に積れば、實に三百六十萬人の勞働力を損する割合となるなり。故に、其五%又は六%の利子を投ずるも可ならずや。

元來 Town Blanning 又は City Blanning は Self-Sustaining ならざるべからず。大阪市民の力を以てして一億圓の投資を爲すは、決して不可能に非ず。予は、Town Blanning は一の事業にして、投ずる資本は一の Investment なりと云へり、斯の資本を如何にして集むるかは重大なる問題なり。而して、予は、利を得る者ありとする處の公正なる方法に據るべしと思惟す。東京市は、附加税の如く一般行政費の如く成して其財源を得むとするが如きも、更に攻究を要す言すれば、租税の賦課方法に於て公平をさへ得ば、事業の遂行は決して困難ならざるなり。現に行ひつつある電車、水道の如く、夫れに藉りて利益を得る者より幾分を拂はする事は必要なるも、下水道事業は奈何。這は當然只のものなりと。換言すれば、排水の爲に地價の騰貴を來すも、地主は一般の財源たるべく自己の負擔に非ず賦の如く、其負擔を多額の經費を要し、其費額八百萬圓の中四百萬圓は、兩側の地主に於て負擔せり。這は、苦痛なく最も公平なる方法なり。其結果として、負擔方法を異にせり。利益の多寡に仍て不均一なる課税をなせば比較的大事業を爲し得べし。

益に附言せざるべからざるは、其方法の完全に行はれ難き一事なり。其事業に賛成するも、費用の点に關しては市自身に於て負擔すべし、地價の騰貴は自分の利する處にして自分の有なり。市民が斯の計畫の必要を自覺せば地價騰貴に依りて利する一部を提供せず事足なるなり。都市計畫を財政の方面より見るも、之に對する市民の強き自覺を要す道路法其他に於て斯の分賦方法を規定せるも、其實行は極めて大切也。

（校閲を經す、本文全責在記者）

大正期の住宅問題

安田　孝

Ⅰ．明治期の住宅問題

わが国で都市下層階級の住宅事情が本格的に注目されるようになったのは19世紀末になってからのことであり，1899年（明治32）横山源之助の「日本の下層社会」および1903年（明治36）農商務省工務局の「職工事情」は，その頃の不良住宅地区および労働者階級の住宅事情の悲惨さを示すものとして有名である。

明治維新による武士階層の解体，商人，職人社会の秩序の急激な解体によって住宅事情の複雑化，多様化，および広範化がもたらされたものと考えられるが，極貧層の劣悪な住宅は封建時代より存在していたのであり，明治の前半期を通じて封建的社会制度からひきつがれた前提条件の影響も大きかったのである。川名氏によればそれは，「(1)近世都市の武家の町としての市街地形態，(2)近世都市における商工業の発展にともなう都市への人口流入の増大，借家の建設，借家比率の上昇，そして町民間の階層分化とその典型例としての表借家と裏借家とによる身分的差別，(3)家作に対する倹約に関する制限と格式に関する制限が加えられており，そのため借家は質的にきわめて低いものに押し止められていた。(4)家持と借家との間の封建的従属関係，および家主の借家に対する支配の公権による援護，(5)江戸中期から幕末にかけての凶作などを契機とする農民の都市流入の増大，インフレの増進のため中下層町民の貧窮化がはなはだしさを加えており，都市における貧民が増大していた。(6)都市下層民は小手工業者を除いては，小売商業やサービス業に依存するものが多く，市況の停滞による影響が大きく，失業状態に近い者が増大していた。」などとしてまとめられている。しかも明治初期の工業は江戸時代の延長上にあって，日常生活の需要をみたす消費財の生産が手工業を中心として展開しており，その生産の担い手は一群の職人であった。それらの職人は家内労働者の立場にあり，維新後も裏借家住いを続けていたのである。この手工業も工場制機械生産による産業部門の発展にともなって衰退し，また明治15年の不況時代を通じて職人のうちから工場労働者に転じる者と同時に車夫や日傭などに転落するものが続出していた。こうした職人をはじめとする下層階級者の居住地は裏借家として続いており，その地区環境は下水は流通悪く不潔であり，裏露路の上水井は共同便所，芥溜から2，3尺しか離れておらず，水は濁って臭気もはげしく飲用に適せぬものが多かったという。当時の裏長屋の最悪のものとして記録されている東京新銀町23番地の例では，一戸当床面積3坪前後であり，これに3人前後の家族が住んでいたことになっている。井戸も便所も芥溜も共同で，広くもない空地にならんでいるという形態が裏長屋の一般的様相であったとされている。そして東京では明治10年代にコレラ，腸チブスが流行しており，そのため衛生実態調査が行なわれたりしているが，予防のためには内務省より府県などへ"便所下水芥溜ノ構造及掃除ノ不行届ヨリ其不潔物自然飲水ニ混シ各種流行病ノ源トナルモノ"が少なくないので"修繕掃除ノ方法"をとるよう命令している。また同12年には"厠構造並屎尿汲取規則"が布告されている。

一方，市街地の形態は既述のごとく江戸時代からの形骸を受けついで，道路幅員が狭い，橋梁が弱体（これは戦略的配慮による），港湾，運河の未整備などの基本的欠陥を有していたのである。したがって近代産業都市としての発展のうえで，交通問題を中心とする都市改造が第一の課題としてあげられており，東京，大阪などにおいて市区改正の要請が高まったのであるが，東京市区改正意見書でも改良事業は道路，橋梁河川の改正にとどまっていた。そして労働者階層の住宅問題が論議の対象となるにはほど遠いものであったが，この時期に形成され，拡大した労働者階層の住宅地の実態が長く都市における住宅問題の基底となってゆくのである。

この間，日本の資本主義は明治27年の日清戦争を転機として原始蓄積期より産業資本確立期へと発展し，工場労働者は飛躍的に増大しつづけたが，貧困者階層もそれに応じて増加していた。急成長による労働力の不足で紡績会社の間で工員の争奪戦が展開されたのもこの頃である。しかし賃金は辛うじて最低生活を支えられる程度のものであり，一方，労働条件の方は徹夜作業を含む過酷なものであった。しばらく後には生活水準の低い遠方の農村地域から出かせぎ女工を集め，寄宿舎に収容することが行なわれたり，また関西では「指定下宿」といわれるものがあったが，いずれも居住条件が劣悪であった。その頃の事情は「日本の下層社会」，「職工事情」，「女工哀史」に詳しくえがかれているが，明治30年には伝染病予防法の公布（1922.10.1施行）があり，翌明治31年には全国細民状況調査が実施されていることなど，細民住宅問題の重要性が意識されはじめていた。市区改正問題が論議されていたころは道路，橋梁，河川が中心であったし，建築物の都市的見地あるいは防災的見地からの取締りもきわめて貧弱であったが，次第に社会悪としての指摘と保護救済の対象として「細民の住宅」と「職工の住宅」に住宅問題が意識されはじめた。1912年（明治45）内務省地方局「細民調査」にもとづく同年「細民部落改善協議会」において「居住に関する事項（住宅道路，上水下水の施設，その他）」が数項の項目と並び議題とされているのをはじめとして，生活難一般のなかにうずもれていた問題が提出されだし，後年の住宅対策が行われるまでの道程を歩み出していた。

Ⅱ．大正期の住宅問題

明治後期における日本資本主義の発展と，それにともなう都市居住者の住宅問題は，大正3年7月から始まった第一次大戦による大戦景気によって一段とはげしさを加えた。この間の都市の膨張は，たとえば大阪市で20年間に100万人に近い人口増加としてあらわれていることでも想像されよう。この好景気によって市民の生活面での向上がもたされると，狭苦しい間借生活から借家生活に移ろうとする要求が生まれたり，またサラリーマン階層の増加による住宅需要の増大があった一方で，建築材料，労賃などが一般物価とともに上昇していたため，貸家建築が手控えられるようになって，住宅供給は円滑に展開しなかった。

当時の住宅不足の実態は，大阪市内における空家比率の低下によく示されている。市内の住宅総戸数に対する空家戸数の比率は，大正4年の5.47%から5年には0.48%に急激に減少し，以後さらに減少を続け8年には0.15%にまで低下していた。当時大阪市内外の人口は年間約10万人の増加をみていたが，家屋の増加は5,000戸内外にすぎなかったといわれているから，住宅不足が大きく展開することは想定されるところであるが，その要因としては前記のごとく住宅需要の増加と住宅供給面の後退とがあげられる。

そして，このような住宅供給面での後退は一般賃金労働者に対してさえスラム地区への居住を余儀なくさせていた。この間の事情は，大正9年の「東京市内各区の細民窟調査」によっても知り得る。住宅不足が全市的広がりをもって問題になっていたため，生活困窮者へのしわ寄せはいっそうはなはだしかったとみられる。

一方，市街地の形態としては，都市の急激な膨張と居住環境の悪化に対して何回か建築条例の草案が検討されながらも，実をむすぶにいたらず，低収入階層の受け入れの場となった借家群にあっては，質的な向上はほとんど望みえなかったのである。少し時代はあとになるが，昭和

6，7年にかけて，大阪において旧市域の周辺と新市域にまたがる地域を対象とする住宅調査が実施されている。（『実地調査の結果からみた大阪市内の住宅』昭和6年5月～7年3月）この調査の結果によると表通りに面する住宅は43.9%で過半数の56.1%は裏家であり，平家の長屋が全戸数の22.2%，2階建の長屋が73.3%であるが，建蔽率が80%をこえるものが47.5%にもおよび，その上北面する住宅が約20%もあるという状況が記録されているから，その環境のひどさは想像されよう。

こういった状況に対し1919年（大正8），「都市計画法」と「市街地建築物法」の制定が行なわれた。この2法――とくに「建築物法」により都市住宅は一応環境，建物，設備について統一的に制限規制され，衛生上，保安上の規定をはじめてもったことになる。また，前記の量的住宅問題に関しては，同じく1919年（大正8）以降いわゆる公共団体および公益団体に「公益住宅」を建設させるための資金融通が計られ，さらに1921年（大正10）「住宅組合法」を制定して互助的仕組を利用して中層階級に持家を与える方策を持った。しかし，大量の住宅不足の時期にあって政府がとった政策は，そのいずれもが大きな効果をもたらしえず，一般の住宅供給は，あげて民間の貸家企業者の手にゆだねられていたが，民間貸家の供給は，後の恐慌期まで見送られていた。そして，量的住宅難の激しさは家賃の値上げ，敷金の増加，権利金の要求などとなって家主対借家人の間の紛争が多くなり，訴訟におよぶ者も増加して，住宅争議が急増している。このような背景のもとに大正8年には東京市で社会局が設置され，大阪市でも大正9年に社会部を新設して，その中に住宅係を置いて市営住宅などの居住施設の管理経営，貸家貸間紹介の係を設けて一般の貸家貸間の需給の円滑化につとめている。

明治30年代の「日本の下層社会」，「職工事情」により明らかにされつつあった都市下層民の住宅問題の重要性は大正年間に入って，半世紀以上前にすでにスタートをきっていた英国のシャフツベリー法（1851）にはじまる一連の不良住宅改良，住宅立法あるいはE・ハワードの田園都市論などの西欧の消息がよく学ばれ，いくつかの論考をみることによって一段と意識が高められていた。片岡安「現代都市の研究」（1917），佐野利器，小川市太郎「現代都市の問題」（1921），小川市太郎「住宅及土地問題」（1922），片岡安「都市と建築」（1923），関一「住宅問題と都市計画」など，いずれも都市計画と都市住宅問題と銘うって，西欧とくに英国・ドイツの行政および田園都市に話題を集中している。大正年間は日本の建築関係者にとって，はじめて住宅対策が都市の住宅建築という形で意識にのぼった時期であり，都市問題としての見地，公共的な見地と住宅建築が，住宅問題への解答として具体的に考察されていた。

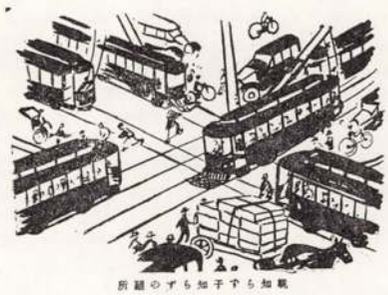
「建築と社会」創刊前後の時期は建築学会では都市問題に関する協議会の開催，都市計画常置委員会開催，住宅問題部会の設置など都市計画，住宅問題に関する活動が盛んに行われ，建築雑誌にも住宅問題と都市に関する論文が多く掲載されていたが，「建築と社会」でも片岡安「我国の住宅改良第一策」「都市住宅の建設について」他，関一「都市住宅政策」「都市住宅問題」をはじめとして当時の大阪の細民住宅に関する調査記録，欧米の住宅問題，住宅政策の紹介，わが国の住宅政策に関する提言などが多く発表されている。

こうして，諸外国の先例に学び，わが国での調査もいくらか行われ，いくつかの対策も試みられたが，西欧においては住居法などの住宅に重点をおいた立法を実現させていたのにくらべると，わが国では，住宅の面からみると都市計画中の間接的規制あるいは中産階級に対する住宅供給の範囲内での試行経験をわずかながら行い得ただけであって，下層階級の住宅の質改善が直接対策の日程にのぼったのは「不良住宅地区改良法」の公布された1927年（昭和2）になってからである。

引用および参考文献

- 「都市計画と都市構造　第Ⅱ部　都市問題に関する研究　第3章　住宅問題の展開」川名吉エ門　東京都立大学都市研究会編
- 「建築学大系2，都市論・住宅問題　Ⅳ住宅問題」
- 「住宅問題入門」　早川，和田，西川編，有斐閣
- 大阪市住宅年報　第4号　昭和元年
- 大阪市住宅年報　1954年

（やすだ　たかし　大阪大学工学部助手）



所謂のずら如子すら如載





物価るす滅骨を口人行進

第3集　大正9年10月号

大正・昭和前期関西都市計画年表

安田丑作（神戸大学助手）
蟇目有弘（神戸大学大学院生）
蔭山幸紀（神戸大学大学院生）

この年表は，1912年(大正元年)から1945年(昭和20年)終戦までの34年間におけるわが国の都市計画，都市問題，住宅問題に関する事項についてとりまとめたものであり，特に大阪を中心とした関西の動向を明らかにすることに主眼をおいている。年表は大略次のような内容から構成されている。

1）項目は，大きく「都市事情・災害・一般社会」「都市政策・住宇政策」および「建築協会」の3つに分れており，年ごとに対照させつつ前二者については日本と関西の事象にそれぞれ分類されている。なお，関西についての事項でとくに示されないものは大阪市のそれを指す。

2）「都市事情・災害・一般社会」には，時代の背景となる社会事情の他，災害，国鉄・私鉄・バス・路面電車・地下鉄など都市交通機関についての事項が集録されている。

3）「都市政策・住宅政策」には，いわゆる関係法令・条令などの制定，改廃，法定都市計画の適用，計画決定，事業決定の他，各種都市調査，行政区域の変更，官公庁機構についての項目が含まれており，さらに公共施設・公益施設などの建設事業もあげてある。

4）「建築協会」については，その活動記録および雑誌「建築と社会」に掲載された論説のうち都市計画・災害・住宅問題に関係する主要なものについて，そのテーマ・題目を集録している。

5）本年表を作成するにあたって，関西の事象については，今回新たに「明治・大正大阪市史」（昭和8年刊行）・「昭和大阪市史」（昭和29年刊行）・「神戸市史」（昭和37年刊行）・「西宮市史」（昭和42年刊行）・「尼崎市史」（昭和45年刊行）・「奈良市史」（昭和45年刊行）など各市の市史類を中心にしてまとめたが，その他下記の文献を参考資料とした。

① 日本建築学会編：建築学大系2―都市論・住宅問題― 1969.4（彰国社）
② 日本建築学会編：建築学大系26―都市計画― 1971.1（彰国社）
③ 東京都立大学都市研究会編：都市構造と都市計画 1968.
④ 早川和男他編著：住宅問題入門 1968.12（有斐閣）
⑤ 近代日本総合年表 1968.11（岩波書店）
⑥ 工学院大学都市計画研究室編：都市計画・住宅問題年表 1968.10
⑦ 嶋本恒雄編：大阪都市計画年表 1971.4（大阪市）
⑧ 藤本篤著：大阪府の歴史 1969.9（山川出版会）
⑨ 八木哲浩，石田善人著：兵庫県の歴史 1971.6（山川出版会）
⑩ 赤松俊秀，山本四郎編著：京都府の歴史 1969.11（山川出版会）
⑪ 嶋田勝次他編：建築界と建築協会50年の歩み 1967.3「建築と社会」

ところで，この年表で取り扱っている大正期のわが国では，第1次世界大戦および戦後の好況を背景とした工業化が進展するとともに，大都市を中心とした市街化が急速に進んだ。一方，こうした資本主義の発展に伴う諸矛盾は大都市における都市問題・住宅問題として大きくクローズアップされ，大正8年には，都市計画法・市街地建築物法の公布をみるに至った。こうして，都市問題・住宅問題がようやく社会的行政的にも取りあげられるようになり，関東大震災を契機として防災問題・都市計画に対する一般の関心はいっそう強まる。またこれを機に，市街地を対象とした土地区画整理事業が実施されるようになる。関西でも，私鉄・路面電車・バスなどの都市交通機関の発展は大阪・神戸をはじめとする中心都市の構造を大きく変化させ始めた。また，大正6年「関西建築協会」が発足するとともに「関西建築協会雑誌」（後の「建築と社会」）を発刊するが，その誌上にも，都市計画・住宅問題についての論説が数多くみられ，当初から都市計画に対する深い関心がうかがえる。

昭和にはいってからは，恐慌と不況に悩まされつつも工業生産額は着実に増加し，満州事変以後の軍需景気もあって，引き続き都市の産業は活発化し，都市人口は増加する。一方，都市計画行政の面では，基本的には大正期のそれを踏襲しつつも，街路事業・区画整理事業をはじめ各種の開発事業が実施に移されるようになる。また，関西ではこの時期に大阪の御堂筋などの主要幹線道路の整備が終わるとともに，阪神間をはじめとする私鉄沿線での住宅地の開発が急速に進む。しかし，戦争の激化とともに都市計画行政は次第に戦時的色彩を帯びるようになり，都市計画事業も停滞し始める。また，このごろの「建築と社会」の論調にもこうした傾向が強くうかがえる。

大正・昭和前期の流れをごく大雑把にまとめると，以上のようにいうことができようが，この時代はわが国における都市形成および近代都市計画の展開を語るうえで見逃すことができない。この時代の都市問題・住宅問題については，三輪嘉男，安田孝の両氏が本誌で詳しく論及されているので参照されたい。

この年表作成作業は標記の者が担当したが，前記両氏にはいろいろご意見，ご協力をいただいた。記して謝意を表したい。なお，項目の設定および事象の選択については，紙面が限られていることもあって必ずしも適切とはいい難いが，もちろんその責は筆者等にある。

項目 / 年号	都市事情・災害・一般社会・交通関係		都市政策・住宅政策・建設事業		建築協会 「建築と社会」に掲載された主要論説
	日本	関西	日本	関西	
1912 明45 大1	天皇死去大正と改元，軍閥横暴に対する憲政擁護運動起る，松本大火。 東海道線特急列車運転開始，樺太庭員鉄道全通。	大阪難波新地大火，大阪日日新聞創刊。 阪堺電鉄支線宿院・大浜間開通，大阪市電堺筋線開通，大阪市電玉造線開通，箕面有馬電気軌道有馬電気会社買収，南海鉄道電燈電力事業開始，大阪市電福島・曾根崎線開通，高野登山鉄道汐見橋・長野間に電車を併用，阪堺電気軌道全線開通，神戸市電布引線開通，神戸を起点とする南洋航路開始，山陰線香住・浜坂間開通し京都・出雲今市間全通。	内務省細民部落改善協議会設置。	大阪市電乗車料均一制度施行，大阪臨時港湾調査会設置，大阪自動車取締規則制定，大阪市庁舎北区堂島浜通新庁舎に移転，兵庫県建築取締規則公布。 京都市上水道完成，大阪日本橋架設，大阪新世界ルナパーク開設。	
1913 大2	東京神田大火，沼津市大火，東京深川大火，武生大火，函館大火，「職工の住居と生活」(宇野利右衛門) 刊行，憲政擁護運動盛ん。	宇治川水力発電K.K.送電開始，武石浩波鳴尾・大阪・京都の都市連絡飛行行なう。 大阪市電霞町線開通，阪堺電気軌道・阪南電気軌道会社合併，京阪電鉄支線中書島・宇治間開通，大阪市電靱・本町線開通，関西線放出・中野町間開通，大阪電車貨物輸送を開始，能勢電鉄開業，神戸市電兵庫線開通。	朝鮮総督府市街建築取締規則公布，長屋構造制限改正公布，建築学会東京市建築条例案を答申。	大阪屎尿処分市営調査委員設置。 大阪天王寺公会堂設立，大阪信濃橋架設，木津川運河起工，神戸第4突堤完成。	
1914 大3	衰退著しい大阪土木建築業組合存続を決定，第1次世界大戦勃発，対独宣戦布告。 京浜間電車開通。	摂河泉で陸軍大演習実施 大阪電気軌道上六・奈良間開通。 大阪・大社間鉄道開通，阪堺電気鉄道今池・平野間開通，阪神電鉄北大阪線開業，生駒トンネル開通。	公共団体の管理する公共用土地物件の使用に関する法律公布，汚物取扱営業取締規則公布。	大阪市役所港湾課大阪市役所港湾部となる，神戸市市区改正調査委員会発足。 大阪安堂寺橋架設，大阪柴島水源池竣工，大阪船津橋竣工，大阪千歳運河竣工。	
1915 大4	木材・煉瓦・セメントなど暴落，二十一カ条条約調印。	大阪市電西道頓堀・天王寺線，天神橋西筋線松島・宇治川線，九条・高津線開通，阪神電鉄伝法線延長特許，南海鉄道阪堺電気軌道合併，南海鉄道高野支線開通，神戸・サンフランシスコ航路開始，篠山軽便鉄道K.K.開設。	愛知県湯屋営業取締規則公布。	大阪市例規調査委員廃止，大阪市例規審査委員設置，大阪第1回下水道公債起す，大阪市区境界変更調査委員設置。 大阪天満市場・淀川埋立地に建設，大阪市立天王寺動物園開設，大阪天保山運河支線起工，大阪難波橋・大正橋架設。	
1916 大5	函館大火，日本建築士会創立，経済調査会設置，東京土木建築業組合創立。	大阪職工組合期成同志会設立。 大阪市電難波・木津線，西野田・福島線開通，播州鉄道開通。	工場監督官設置，工場法施行。	大阪天満青物市場規約及市場区域変更，大阪天保町区と西区一条通一丁目外29カ町区と合併，大阪築港調査委員会設置，尼崎市制実施。 大阪木津川運河竣工，大阪福島第1号桟橋竣工，大阪日本橋街園開設，財界不況のため築港工事一時中止。	
1917 大6	住宅改良会創立，衛生工業協会創立，「現代都市の研究」(片岡安) 刊行。	大阪特別市制期成同盟会創立，淀川大洪水。 兵庫電気軌道塩屋・明石間延長，神戸電気K.K.神戸市買収。大阪電気創設市営として営業開始。		大阪港経界決定，大阪都市改良計画調査会設置，大阪市臨時市営屎尿汲取行なう。 大阪天保山運河支線竣工，大阪西野田公園・清水谷小公園・築港遊園地開設，大阪桜川埋立。	協会創立（事務所片岡建築事務所内），災害委員会成立，「関西建築協会雑誌」発刊。

項目 / 年号	都市事情・災害・一般社会・交通関係		都市政策・住宅政策・建設事業		建築協会 「建築と社会」に掲載された主要論説
	日本	関西	日本	関西	
1918 大7	建築学会都市問題に関する協議会開催，帝都建築蓄産会貸家を建築し貸付け開始，シベリア出兵宣言，富山県に米騒動起こり全国に波及，第1次大戦終了。	阪神土地会社設立，大阪工業試験所創立，大阪木材市場会社設立，大阪・神戸米騒動，神戸焼打事件。 箕面有馬電気鉄道阪神急行電鉄と改称，大阪市電野田線開通，大軌鋼索線開通，大阪北方直通線開通，南海鉄道羽衣高師浜間開通，京都電車市営となる。	都市計画調査会官制公布，都市計画調査会委員任命，東京市区改正条令大阪・神戸・京都・名古屋・横浜に準用指定，茨城県屋上制限規則公布。	大阪市会特別市制施行建議案可決，大阪市区改良部を設置，大阪市に救済係設置，大阪市内16方面に方面委員設置，大阪市会の特別市制運動始まる，京都市区改正委員会設置。 大阪九条・御蔵跡・阿波座小公園開設，大阪木津川第2塵芥焼却場設立，大阪中央公会堂竣工，大阪福町堀起工，大阪築港工事再開。	第1回大会通俗講演会開催都市住宅問題（関一）・大正市区改正について（片岡安）・デモクラシーと建築（佐野利器）・大阪港の将来（直木倫太郎）。 「我国都市改良計画の将来（上）・（下）」（片岡安），「都市計画と市民的訓練」（葛野壮一郎），「我国の住宅改良第一策（上中下）」（片岡安），「大阪市の細民住宅に就て（1）～（3）」（K.U.生），「都市住宅問題」（関一）。「都市大火の危険」（片岡安）。
1919 大8	横浜大火，米沢大火，日本土木建築請負業者連合会設立，パリ講和会議開会，普選期成大会開催，北京に五四運動起こる，協調会設立。	神戸高等工業学校創立，淀川左岸水害予防組合設立，東成郡榎本村外2カ町より大阪市編入を大阪府に請願。 阪神急行電鉄創立，京阪電鉄城北支線特許。	都市計画法・市街地建築物法公布，都市計画委員会官制公布，道路法公布，大蔵省預金部資金の低利融資による公益住宅建設開始，私設鉄道法・軽便鉄道法を廃し軌道法・地方鉄道法を公布，結核予防法公布，都市計画法施行令・都市計画審議会令公布，大蔵省預金部資金の低利融資による公益住宅の建設開始，東京市に社会局設置。	大阪市区改正委員任命，大阪市会道路面の建議案可決，小学校設備完成規定制定，大阪市会第3回水道拡張工事施工を議決，大阪市区改正設計調査案作成，大阪市区改正設計認可，明石市制実施。 大阪西九条小公園開設，大阪市共同宿泊所経営，大阪市民博物館開設，大阪市託児所経営，大阪第6号整船岸工事起工，大阪鶴町・桜宮市営住宅建設，大阪市立児童相談所開設，大阪第3回水道工事着手，大阪第1号整船岸工事起工。	日本建築協会と改称・会誌を「日本建築協会雑誌」と改題。 「都市と住宅問題」（阪西由蔵談），「都市住宅政策」（関一談），「都市住宅の建設に就て（上）・（下）」（片岡安）。
1920 大9	東京府住宅協会設立，生活改善同盟会第1回委員会開催，東京府住宅協会設立，全国普選期成連合結成，戦後第1次反動恐慌勃発，日本最初の大衆メーデー。 東京地下鉄会社設立。	大阪経営会社創立。 神戸姫路電気鉄道K.K.設立，阪神急行電鉄神戸・伊丹線開通，大阪市電九条・高津連絡線開通。	内務省社会局設置，市街地建築物法施行令公布，道路公債法公布，市街地建築物法施行規則制定，都市計画審議会令公布，市街地建築物法東京・大阪・京都・横浜・神戸・名古屋の6市に適用，第1回国勢調査施行，鉄道院廃止，鉄道省設置，東京市内各区の細民窟調査実施。	大阪府都市計画課新設，大阪市自動車取締施行規則制定，大阪市区改良部都市計画部と改称，都市計画中央委員会・都市計画大阪地方委員任命，大阪市屎尿市営調査会開催，大阪市会特別市制施行建議案可決。 大阪岩崎橋竣工，大阪天保山桟橋工事起工，大阪今市市営住宅建設，大阪常安橋架設，大阪岩崎運河竣工，大阪千両橋・海部橋架設，大阪鶴町・玉出市営住宅建設。	会誌を「建築と社会」と改題，市街地建築物法に関する講演会開催，改良住宅設計展覧会開催，生活改造博覧会開催。 「都市計画の財政観」（関一），「米国に於ける住居経営（1）～（4）」（M・T生訳），「生活改善と我国の住宅」（片岡安），「英国に於ける住宅政策（1）～（3）」（大阪市発表），「田園都市」（関一）。
1921 大10	東京左官工業組合工友会創立，東京浅草大火，函館大火，苫小牧大火，協調会全国俸給生活者調査実施，生活改善同盟会「住宅の間取及設備の改善」発表，「現代都市の問題」（佐野利器・小川市太郎）刊行，国有財産法公布，郡制廃止に関する法律公布，ワシントン軍縮会議開催。	大阪住宅調節共安会発足。大阪借家人大会開催，大阪借家人 同盟成立。 北大阪電鉄本線の支線開業，赤穂鉄道K.K.赤穂・有年間開通，南海鉄道平野線特許，大阪市電築港北海岸直線，霞町・玉造線，桜川・中之島線，天王寺・阿倍野線開通，阪急電鉄今津線開通，大軌西大寺・郡山間開通。	借地法・借家法公布，住宅組合法公布，内務省社会局6大都市細民集団地区調査実施，内務省耐火構造奨励を通牒，東京市最初の市営住宅日島に竣工，東京市営鉄筋ブロック造共同住宅起工，内務省と協調会全国各都市3000戸家賃調査。	大阪第1次都市計画事業着手，大阪市都市改良計画調査委員会廃止，都市計画調査委員設置，大阪有料屎尿汲取施行，大阪市第1次大阪都市計画事業認可，大阪市区境界変更調査委員廃止，市域変更調査の委員設置，大阪都市計画特別税徴収，大阪泉屋町外11カ町区に福町1丁目外9カ町を加える，大阪西区春日出町外10カ町区に島船町加える，大阪西区1条通1丁目外29カ町区に新福崎町1丁目外5カ町を加える，西成郡豊崎町より大阪市編入を大阪府に請願。 大阪木津川改修工事起工，大阪市立図書館開設，大阪鶴橋・平野市営住宅建設，大阪清水橋・藤中橋架設，大阪北中島市営住宅建設，大阪第2号整船岸工事起工，大阪市乳児院経営開始，奈良上水道給水開始，神戸市立図書館開設。	事務所移転5月京町堀不動貯蓄ビル・9月絹笠町大江ビル，法制委員会成立，材料委員会成立。 「都市生活と住宅（上）・（下）」（片岡安），「欧米の住宅問題に就て（上）・（中）・（下）」（直木倫太郎），「住宅難の緩和政策について」（柿崎鉄吾）。

項目 / 年号	都市事業・災害・一般社会・交通関係		都市政策・住宅政策・建設事業		建築協会 「建築と社会」に掲載された主要論説
	日本	関西	日本	関西	
1922 大11	建築学会・都市研究会・土木学会の3会連合で全国都市計画協議会開催，「住宅及土地問題」（小川市太郎）刊行，対華9ヵ国条約調印，国勢院国富調査発表総財産860億円と推定，第2次反動恐慌勃発，健康保険法公布，日本共産党創立，普通選挙調査会設置。	大阪水崎町借家人組合成立，大阪家主同盟築港会成立，大阪特別市制実施要望の陳情書を発送，大阪借家人同盟会結成，大阪鶴町借家人互助会成立，阪急・阪神・南海沿線分譲住宅地開発，有限責任阪神建築利用組合の組織を申請。 大阪電気軌道・生駒鋼索鉄道合併，新京阪鉄道会社設立，京阪電気鉄道梅田支線特許，神戸市電山手線開通，大阪市電鶴町線開通，大阪市電安治川・築港線開通，大軌四条畷線・城東線・玉造線特許，阪堺電鉄本線特許，大阪市電梅田善源寺町線開通，大阪鉄道寝屋川線特許，大阪市電松島・恩加島線開通，日本航空堺・四国間定期航空を開始，淡路鉄道宇山市村間開通，大阪市電西野田・桜島線開通。	借地借家調停法公布，内務省に都市計画局設置，鉄道敷設法公布，内務省6大都市に防火地区指定，東京府中等階級住宅調査実施，名古屋市住宅調査実施，東京市社会局家主8000名に貸家の有無を調査。	岸和田市制実施，大阪特別市制建議案三度市会で可決，大阪都市計画区域決定，神戸都市計画区域決定，大阪交通取締規則施行，大阪長柄運河に河川法適用，大阪都市計画事業路面改良受益者負担規定・道路新設拡張受益者負担規定・負担区画および負担金額規定公布，大阪枝川水利調査委員設置，京都市防火地区指定，大阪市立衛生試験所で降下媒煙塵量等の調査開始，大阪都市計画第1期下水道事業認可。 天保山桟橋竣工　大阪榎並市営住宅建設，大阪堀川市営住宅建設，大阪市営共同宿舎新設，大阪木津小公園・新世界街園開設，寝屋川改修工事起工，屎尿処理工場を兵庫県津名郡假屋町に設立。	桜ヶ丘住宅改造博覧会開催。 「私は住宅問題を斯う考えます」（伊藤真雄），・「貧乏人と住宅問題（上）・（下）」（楠原祖一郎）。
1923 大12	土木学会震災復興に関する建議書政府および市に提出，「住宅問題と都市計画」（関一）刊行，「東京市政論」（チャールス・ビーアド）刊行，甘粕事件（大杉栄ら殺害），国民精神作興に関する詔書発布，虎ノ門事件。 小田急鉄道設立。	大日本公道会設立，大阪土木建築業組合賃率標準定める。 大阪鉄道浅香山・中村線特許，阪神国道電軌本線・支線特許，阪和電気本線特許，日本航空K.K.大阪・別府間定期航空開始，神戸姫路電気鉄道明石・姫路間開通，新京阪鉄道稗島支線特許，市電寝屋川谷町線開通，阪急新千里山線開通，大阪小型タクシー自動車K.K.設立。	都市計画法適用の都市第1次指定（尼崎他25都市），市街地特殊建築物耐火構造規則制定，市街地建築物法の規定による工業地域内特別地区規則公布，帝都復興審議会官制公布，帝都復興院設置，東京市会都市計画事業および特別市制につき意見書提出，特別都市計画法制定，ガス事業法公布，東京府および神奈川県の市街地建築物法適用地域内仮設建築物等に関する件公布。 同潤会最初の木造住宅着工。	大阪特別市制施行建議案市会で可決，大阪第1次都市計画事業街路新設拡張，大阪市営貸家貸間紹介事業開始，大阪都市計画区域内防火地区指定認可，大阪都市計画防火地区公布施行，大阪市会近接町村編入の建議案可決，神戸市防火地区・高度地区指定，堺市都市計画発足。 大阪桜宮公園・扇町公園・恵美須町街園開設，大阪市立運動場開場，大正運河起工，大阪第7号整船岸工事起工，大阪堀江橋架設，新平野川竣工。	事務所移転堂島ビル三階，都市計画委員会発足・帝都復興案検討。 10月号「関東大震災特集号」，「住宅問題発生の源泉」（江村郊郎），「住宅政策論（上）・（下）」（楠原祖一郎），「共同住宅の経営」（葛野壮一郎）。
1924 大13	青森県八戸大火，建築学会耐火建築の強制・助長，土地区画整理の施行実施を建議，帝都復興建築会社設立，「建築新潮」創刊，第2次憲政擁護運動起る，大蔵省預金部興銀・勧銀に復興資金貸出し，加藤高明三派内閣成立，内務省工業都市の失業者105,000と発表。	阪急電鉄立退借家人有志同盟会設立，大阪借家人同盟成立，大阪借家人有志同盟会成立，京都市借家人連合保護会設立，大阪木材相互市場創立。 阪神電鉄伝法線開通，大阪鉄道天王寺・円比線特許，阪急電鉄尼崎線・伊丹延長線・甲陽線特許，大阪鉄道路線電化，大阪電気軌道網索延長線特許，南海鉄道和歌浦延長線特許，新京阪鉄道新庄支線特許。	帝都復興院廃止・復興局設置，内務省都市計画局廃止，特殊建築物耐火構造施行規則公布，借地・借家臨時処理法公布，「防火地域建築補助規則」公布，同潤会設立。	大阪阪南土地区画整理組合成立，臨時中央卸売市場調査委員会設置，大阪府知事より東成・西成両郡市域編入に関し諮問，更生第1次大阪都市計画事業認可・告示，神戸市用途地域決定。 大阪都市計画第2期下水道改良事業着手，大阪今橋・浮島橋・幸橋架設，大阪中津川改修工事竣工，大阪築港別途計画の桜島堺外埋立着手，大阪小路市営住宅建設，大阪六軒屋川護岸工事開始，甲子園球場完成。	都計委京都都市計画参考資料図研究，春季大会通俗講演会／日本における住宅の変遷とその将来（武田五一）。 「都市生活と震害防止」（渡辺鉄蔵）。

項目 / 年号	都市事情・災害・一般社会・交通関係		都市政策・住宅政策・建設事業		建築協会「建築と社会」に掲載された主要論説
	日本	関西	日本	関西	
1925 大14	建築士会建築士法案を発表し制定を提唱，関東大豪雨，復興建築会社創立，「住宅論」(佐野利器) 刊行，「労働者宿泊所実査記」(仲節夫) 刊行，農商務省廃止，商工省・農林省設置，治安維持法公布，普通選挙法公布。雑誌「新建築」発刊。	大阪都市協会創立。 大阪市電天満橋善源寺町線開通，大阪電気軌道東大阪土地会社合併。京阪・京津両電鉄合併，神戸摩耶ケーブル開通，阪神電鉄住吉・大石間特許，新京阪鉄道天六・淡路間開業，大阪市電上本町・下味原町線開通，比叡山ケーブル開通，奈良バス営業開始，淡路鉄道洲本・福良間全通，南海高野線全通。	東京都で交通調査施行，東京市の地下鉄敷設計画成立，震災予防評議会管制公布，第2回国勢調査施行・失業統計調査実施，東京府社会課空家状況調査実施，同潤会最初の住宅貸付開始。 同潤会最初のＲＣアパート着工，同潤会仮設住宅撤廃開始。	大阪東成・西成両郡市域に編入，大阪市会特別市制促進案可決，大阪都市計画用途地域認可，大阪第2回市域拡張，大阪都市計画地域公示，大阪第4回水道拡張工事認可，大阪都市計画地域制施行，大阪市露宿者調査，大阪市失業調査，都島・友淵土地区画整理組合設立，西宮市制実施。 大阪都市計画第1期下水道事業竣工，神戸市第1期街路事業完了，大阪豊崎市営住宅設立，間屋橋…水分橋・浮島橋・汐見橋・住吉橋・上大和橋架設，今宮市営食堂設置，大阪第1突堤甲種及第1・2突堤乙種荷揚場起工，日和橋工事着手，住吉大阪市営住宅建設，鶴町市営食堂設置，福島公園開設，神崎川改修竣工。	大阪記念博覧会開催，震災通俗講演会開催／北丹地方の震災視察団報告（赤川憲太）。 「住宅問題の統計的研究」(楠原祖一郎)
1926 大15 昭1	建築学会市政調査会連名で防火地区共同建築法案を建議，健康保険法施行，全国に青年訓練所開設，日本放送協会設立，天皇死去。	淀川右岸水害予防組合結成。 阪和電気鉄道KK創立，阪神電鉄阪神国道連絡線特許，阪和電鉄支線特許，阪神電鉄甲子園支線開通，阪神国道電軌開通。	内務省社会局不衛生地区調査実施，６大都市行政監督特例公布，閣議決定に基づき不良住宅改良事業に着手，道路法施行令公布，東京市社会局社会事業３カ年計画着手，内閣統計局第１次家計調査開始。 同潤会青山・柳島第１期アパート竣工。	大阪高速度交通機関線路計画認可，大阪市会配水管増設計画を議決，大阪第１次都市計画事業追加認可，大阪生野・住之江・第２阪南・城北土地区画整理組合設立，大阪市会特別市制促進案可決，大阪改正市制実施，神戸大日土地区画整理組合設立。 肥後橋竣工，あやめ池遊園地開設，大阪長良・九条・西野田市営食堂設置，宇和橋・西二橋・鷺島橋架設，大阪桜島第２号棧橋工事起工，尻無川南整船岸工事起工，大阪都市計画街路御堂筋線着工。	協会社団法人認可される，事務所移転中之島江商ビル。 「不良住宅地区法要綱を見て」(伊藤倉雄)，「核心に触れざる住宅問題」(手賀周)，「下層階級住宅政策の確立」(糸安新九郎)。
1927 昭2	銀行法公布，公益質屋法公布，第1回全国都市問題会議大阪で開催，田中義一内閣成立，第１次山東出兵，ジュネーブ３国軍縮会議決裂。	北丹地震。 宇治電・兵庫電軌合併し宇治川電気鉄道部設立，大阪市営バス運行開始，神戸市電須磨線開通，宇治川電気・神戸姫路電気鉄道買収，大阪市電梅田空心町線開通，神戸市街自動車・神港タクシー合併，参宮急行電鉄設立，阪堺電鉄開通，大阪市電長柄橋筋線開通，京都府京阪国道起工，淀川貨物駅開業，大阪市電三軒家・新千歳町線開通。	不良住宅地区改良法公布，大学令改正市立大学設置可能となる，震災地バラック建築除却期限延期を公布，土地賃貸価格調査法公布施行，防火地区内借地権処理法公布，工場付属寄宿舎規則，東京郊外の放射状道路30線の建設決定。	神戸市都市計画網告示，大阪寝屋川附近の都市計画事業認可，神戸市葺合区新川不良住宅地区改良臨時調査会設置，大阪市煤煙防止調査委員会設置，神戸市苅藻島運河開設埋立案認可，股ケ池・菫之荘・瑞光寺土地区画整理組合設立。 大阪都市計画第２期下水道事業竣工，大阪今宮共同宿泊所改築工事竣成，京都市松ケ崎浄水場完成，京都疏上浄水場第１期拡張事業完成，桜島第１号棧橋完成，堂島大橋竣工，渡辺橋竣工。	事務所移転土佐堀大同ビル，地震と建築通俗講演会開催／丹後地方震火災実地踏査報告（増田清）。 ４月号「震災号」，「防火と建築」(片岡安)，「我国住宅の将来」(片岡安)，「不良住宅地区改良問題」(岡崎早太郎)，「都市と住宅問題」(磯村達)。
1928 昭3	第１回ＣＩＡＭ総会開く(ラ・サラ)，三・一五事件，治安維持法改悪公布，パリ不戦条約に調印。	六甲山山火事，東大阪床上浸水，大阪空中浄化運動起る。雑誌「デザイン」発刊。 神戸市街自動車KK神港タクシーKKの合併社が市内乗合バスの営業を開始，阪神電鉄・阪神国道電軌合併，大阪市電堂島大橋線開通，神明バス運転開始，山陽電鉄姫路直通運転を開始，神戸市電高松線開通，大阪新京阪線開通，神戸有馬電気鉄道営業開始，大阪梅田貨物専用駅開業，神戸海岸鉄道線開通，大阪臨港線開通，大阪市電大手前上本町線開通。	東京市衛生試験所に家屋検査所開設，東京市社会局労働者の生活改善のため簡易宿泊所を建設。 同潤会最初の分譲住宅着工，日本商工会議所設立。	大阪市不良住宅地区指定，天王寺・野田・佃・深江・墨江・西平野・今里片江・西長居土地整理組合設立，神戸市第３期街路事業計画認可，総合大阪都市計画なる，大阪市役所都市計画部を廃し土木部に合併，大阪都市計画高速鉄道建設事業認可，大阪舟行密度調査実施，神戸市会市庁舎及公会堂新築計画案を可決，大阪駅附近都市計画事業認可。 神戸市苅藻埋立工事苅藻島運河開設工事起工，神戸市諏訪山公園開設，裏六甲ドライブウェイ完成。	法制委／都市計画実施方法並計画について・建築士法案について・美観地区・風致地区指定促進について，建築知識普及展覧会開催／災害とその予防など。 １月号「都市問題号」，「都市計画事業の一大危機」(片岡安)。

項目／年号	都市事情・災害・一般社会・交通関係		都市政策・住宅政策・建設事業		建築協会 「建築と社会」に掲載された主要論説
	日本	関西	日本	関西	
1929 昭4	救護法公布，国宝保存法制定，浜口民政党内閣成立，社会政策審議会設置。	大阪緑化運動実施，大阪暴風高潮浸水，川西航空機KK設立，神戸借地借家協調会設立。 大阪臨港鉄道竣工，大阪城東貨物北線開通，阪和電鉄開通，阪神国道バス運転開始，大阪市電城南線開通。	工場付属寄宿舎規則改正公布，家屋賃貸価格調査令公布施行，農漁村不良住宅改善施設案検討される，同潤会「住宅管理事務章程」制定。 同潤会虎ノ門に事務所兼独身アパート竣工。	森小路・上中島・片江中川・北船場・神崎川・京阪沿線・崇禅寺・西中島・西田辺・今福・大宮土地区画整理組合設立，神戸市住宅職業調査施行，京都伏見町市制施行，西灘村・六甲村・西郷四丁目神戸市に合併。 大阪木津川飛行場開設，神戸商工会議所新築，堂島可動堰完成，大阪港第1次修築工事完成，大阪市今宮改良住宅竣工，寝屋川塵芥焼却場完成，東横堀川高麗橋・土佐堀川越中橋竣工，北安治川通線東芦分橋・西芦分橋竣工，表六甲ドライブウェー完成。	住宅委員会発足，貸家建築展覧会生活改善展覧会（滋賀県社会科主催）。 2月号「震災予防特集号」・4月号「防火建築特集号」・7月号「都市美観特集号」・「我国の住宅はいかにして改造されるか」（片岡安）。
1930 昭5	第2回全国都市問題会議東京で開催，東京の大工600人組合結成，金解禁実施，臨時産業審議会設置。	阪神電鉄特急運転を開始，京阪電鉄・新京阪鉄道合併，大阪高速鉄道第1期工事着工，大阪市バス梅田・本町4丁目間営業開始，平野町線拡張工事竣工，阪和線全通，大阪地下鉄起工，参宮急行大和・山田間開通，神戸市営バス運転開始。	第3回国勢調査施行，帝都復興事業完成，東京市社会局住宅建設10カ年計画決定，東京市住宅調査実施，同潤会第1回共同住宅居住者生活調査実施，同潤会各種住宅設計公募また不良住宅地区改良事業報告刊行。	京都市風致地区指定，墨江・住吉園南・伝法・阪神国道・榎並荘・平野・清水土地区画整理組合成立，兵庫県土地区画整理組合協会成立，神戸背山開発計画決定，大阪用途地域第1回変更。 桜島第2号棧橋完成，木津川松島橋竣工，大阪桜宮橋新築，大阪梅町修築工事その1。	法制委／六大都市病院規則研究・建築物の高さに関する研究，震火災と建築大講演会開催，産業合理化展開催，婦人と住宅に関する展覧会開催。
1931 昭6	借地借家人同盟結成，重要産業統制法公布，満州事変勃発，金輸出禁止。	大阪暴風・積雪，神戸新聞社・大阪時事新報社・京都新聞社と合併し三都合同新聞KK設立，大阪出水浸水，大阪空中浄化運動を行なう。 参宮急行電鉄大阪・宇治山田間開通，京阪電鉄西院四条大宮間地下乗入実現，城東貨物南線開通，大阪市電都島守口線開通，神戸市内国鉄高架線開通。	自動車交通事業法公布，重要産業統制法公布，内閣統計局第2次家計調査実施，東京旧市域で不良住宅調査実施。	鷹合・港・姫ノ里・姫島福・淡路土地区画整理組合成立，京都市・伏見市等27町村合併右京区伏見区新設，神戸市行政区設置布告8区となる，神戸市土木部を創設，神戸市大手土地区画整理事業完成，大阪市用途地域第2回変更，大阪市住宅調査実施，奈良市都市計画区域決定，神戸市葺合区新川不良住宅改良事業着手。 大阪中央卸売市場開設，神戸市苅藻島埋立運河完工，大阪島屋町・常吉町地先埋立起工，六甲山ロープウェー開通，神戸市臨港鉄道敷設工事着手，大阪城公園竣工，大阪市電松島南恩加島線第6線の第4期線着手。	法制委／土地区画整理組合・公園存置の件検討，香里園改善住宅博共催，神戸鈴蘭台生活改善住宅展開催。 8月号「建築と都市問題特集号」，「京阪神地方住宅の調査概説」（酒井勇三郎），「住宅改良と都市計画」（藤田進一郎）。
1932 昭7	救護法実施，第3回全国都市問題会議名古屋市で開催，労働者災害扶助法実施，上海事変勃発，満州国建国宣言，五・一五事件。	大阪浸水，神戸市最初の大防空演習。 大阪城東線高架天王寺京橋間開通，京都市トロリーバス運転開始，大阪省線片町線開通。	東京市域拡張15区から20区になる，市街地建築物法施行令・施行規則の改正，不動産融資及損失補償法公布。	大阪市第1次都市計画事業更生の認可，大阪市用途地域第3回変更，神路・浜口土地区画整理組合成立，大阪第2次都市計画事業認可，大阪府媒煙防止規則制定施行，大阪15区制を採用。 神戸市東須磨北部土地区画整理事業完了，尻無川南築船岸完成，新淀川十三大橋開通，梅町北築船岸完成，六甲山ケーブル開通，大阪昭和橋完成，神戸市中央卸売市場落成，神戸市兵庫第1突堤完成，大阪神崎川水系改良工事起工，大阪東横堀川等27河川改修工事完了，辰巳橋・筑前橋竣工。	事務所移転朝日ビル，法制委／耐火構造家屋税率に関する意見書検討，住宅委／実用小住宅誌刊行，15周年記念緑ヶ丘保健住宅博開催，大美野田園都市住宅展，通俗大講演会開催。

項目／年号	都市事情・災害・一般社会・交通関係		都市政策・住宅政策・建設事業		建築協会「建築と社会」に掲載された主要論説
	日本	関西	日本	関西	
1933 昭8	東北三陸地方大津波，国際連盟脱退通告，米穀統制法公布。	大阪高潮。 宇治川電気鉄道部独立して山陽電気鉄道となる，大阪城東線大阪天王寺間高架電車運転開始，国鉄山陰本線全通，大阪地下鉄梅田心斎橋間開通，大帆上六・布施間高架となる，第1次阪神電鉄三宮地下乗入。	都市計画法改正（都市計画法適用と市および指定町村に拡大），東京緑地計画協議会発足，アパート建築規則公布。	大阪都市計画風致地区認可，大阪都市計画事業道路新設拡策受益者負担に関する内務省令公布，我孫子・桜川・中加賀屋土地区画整理組合成立。 大阪京阪国道開通，大阪公園新設拡張事業起工，神戸市兵庫新川運河改修工事着手，大阪淀川低水工事起工，神明国道完成。	設備委員会発足，法制委／市街地建築物法改正の件討議，都計委／大阪駅前整理事業について，千里山住宅博開催，瑞光住宅博開催，新興建築講演会開催。 4月号と6月号に小住宅のプランの研究（岡田孝男）。
1934 昭9	第4回全国都市問題会議東京で開催，函館大火，室戸台風，対華侵略天羽声明発表，帝人疑獄事件発覚，陸軍省「国防の本義とその強化」を頒布。	神戸市自動車営業組合発足，近畿防空大演習実施，関西大風水害，大阪左官組合結成。 省線吹田明石間電化開通，六甲縦走自動車道路完成，国鉄神戸駅完成。	内務省都会地特別土地増加税および特別閑地税の調査施行，同潤会アパート居住者生計調査開始。	大阪駅前都市計画事業変更の認可，北生野土地区画整理組合成立，大阪都市計画美観地区認可，大阪中之島公園美観地区に指定，須磨町神戸市に合併。 神戸市魚崎町横尾土地区画整理事業完了，大阪城北公園開園，大阪新大橋竣工，北港修築工事起工，大阪梅町修築工事その2起工，天神橋竣工。	都計委／函館大火復興に対する建議，都市武装委員会発足，函館市大火視察講演会開催，大空への武装展覧会開催。 「大阪市の風水害と復興」（関一），「都市環境と其の改善問題」（都市計画委員会・法制委員会）。
1935 昭10	神戸・大阪・名古屋・京都の自動車運送業者ガソリン料金高騰に抗議スト，天皇機関説問題化。	河内大和に強震，京阪神大水害，京都鴨川大氾濫，阪神防空演習実施，阪神防空演習燈火管制要領設定，「明治・大正大阪市史」完成。 阪堺電鉄芦原橋・浜寺間開通，大阪市バス難波・住吉線開通，大阪地下鉄梅田・難波間開通。	6大都市監督特例拡大，不良住宅地区改良法実施，東京府社会課集合住宅の調査を実施，第4回国税調査施行，第3回全国都市計画協議会開催，市街地建築物法及施行令・施行規則の改正施行。	大阪市第4回交通調査実施，大阪市中野・放出・花見・塚本・大阪駅前・西加賀屋・商大附近土地区画整理組合設立。 梅田西桟船岸完成，大阪港復興修築工事完成，淀屋橋・大江橋完成，神戸市東部埋立工事起工，神戸市再度山ドライブウェー完成，神戸市再度公園・須磨浦公園開園，京都市船岡山公園開園。	法制委／市街地建築物法について，住宅委／私室及特殊住宅街について，武装委／防火・避難施設について。 「都市発展に於ける交通機関の地位」（和田・荒木・西山），「大火に対する都市の防備」（中沢誠一郎）。
1936 昭11	米穀自治管理法公布，第5回全国都市問題会議京都で開催，二・二六事件起こる，左翼文化団体一斉検挙，東北振興電力会社国策会社として設立，日独防共協定締結。	神戸銀行創立。 大阪市電土佐堀南線開通，阪神電鉄地下鉄三宮・元町間営業開始，阪急電鉄高架線西灘・三宮営業開始。	特殊建築物規則公布，東北興業株式会社法公布，同潤会東北地方農山漁村住宅改善調査委員会第1回会合開く。	豊中市制実施，大阪駅前建物高さの最低限度区域に関する大阪府令公布，小阪都市計画一団地の住宅経営内務省告示，大阪市都市計画街路・運河事業認可，大阪市防火地域第1回変更，大阪市用途地域第4回変更，阪神上水道市町村組合設立，大阪市不良住宅地区調査実施，大阪市釜口・御崎・野里・西放出・城東・南加賀屋土地区画整理組合設立。 大船橋・道頓堀橋完成，六甲登山道路完成，奈良天辻トンネル開通，吉野熊野国立公園指定，大阪市立美術館開館，神戸中突堤完成，伝法中橋・正蓮寺橋竣工。	法制委／防火防空建築物普及の件，武装委／防火地区完成促進の件，大阪における特殊建築物規則に関する講演会開催。 8月号「都市計画特集号」，「都市計画より地方計画へ」（中沢誠一郎），「都市計画夜明け前」（中村綱）。
1937 昭12	保健所法公布施行，「住宅問題と都市計画」（関一）刊行，第1回全国都市美協議会開催，国際住宅及都市計画会議開催，中日戦争勃発，軍需工業動員法など戦時統制3法公布，国民精神総動員実施要綱発表，企画院設置，日独伊防共協定調印。	大阪市電交通労働組合結成，近畿防空演習実施，大阪交通KK設立。 神戸三木電鉄広野・鈴蘭台営業開始，京都・吹田間省線電車開通，国鉄神戸・大阪複々線開通，南海高架線開通。	運送法制定，防空法施行，工場事業管理令公布施行，鉄鋼工作物製造許可規則公布，家屋賃貸価格の改訂に関する勅令公布。	大阪市第3次都市計画事業認可，大阪市用途地域第5回変更，神戸市六甲山系一帯風致地区に指定，大阪市今津・北島・毛馬・田島・諏訪・南住吉土地区画整理組合設立，布施市制実施，福知山市制実施，彦根市制実施。 御堂筋道路完成，大波橋完成，神戸港第5・第6突堤完成，神戸和田岬防波堤完成，神戸市防潮堤工事着工，阪神上水道第1期工事着工，大阪電気科学館完成，神戸港東部埋立認可。	住宅委／田園住宅地見学，武装委／防空法案討審の件，大阪下水に関する講演会，市街地建築物法についての講演会開催。 「本邦都市住宅の改善の根本問題」（平野真三），「現下の住宅問題と住宅の質の問題」（西山卯三）。
1938 昭13	物資総動員計画決定発表，国家総動員法施行，各市民館に銃後生業斡旋所を併設，第6回全国都市問題会議京城で開催，社会事業法制定，都市学会創立，建築設備研究会設立，国家総動員法公布。	阪神大風水害，戦時市民生活運動開始。 関西急行開通し上六・名古屋間連絡なる，大阪私人経営の青バス市に買収，神戸三木電鉄鈴蘭台・三木間開通，地下鉄梅田・天王寺間全通。	厚生省設置，陸上交通事業調整法公布，電力国家管理法および日本発送電KK法施行，労働者用共同住宅建設勧奨，市街地建築物法に空地地区制など新設，中央物価委員会地代家賃騰貴抑制答申。	大阪市都市計画街路・墓地事業認可，大阪市第2回防火地域変更，大阪駅前区画整理による土地使用区域指定。 神戸市六甲都賀土地区画整理事業完了，大阪港第2次修築第1期工事完成，松屋町筋道路完成，大阪都市計画第3期下水道事業竣工。	武装委／防空実験，住宅委／住宅防護研究，都市防火講演会開催（神戸・大阪・京都にて）／木造都市防火改修方法，防空と建築展開催。

項目 / 年号	都市事情・災害・一般社会・交通関係		都市政策・住宅政策・建設事業		建築協会 「建築と社会」に掲載された主要論説
	日本	関西	日本	関西	
1939 昭14	都市学会「都市不良住宅に関する文献目録」刊行，同潤会住宅問題調査委員会設置，東京市「工場労務者の住宅難問題と一団地の住宅経営」刊行，国民徴用令公布，物価統制令等総動員法6勅令公布。	陸軍枚方製造所爆発事故発生，十三大火，大阪市「本市に於ける借家の調査」刊行。	労働者住宅損失補償制度要綱公布，第5回国勢調査実施，労務者住宅供給3カ年計画決定，防空建築規制制定，木造建物建築統制規則の公布，市街地建築物法及施行令・施行規則改正施行，地代家賃統制令公布。	大阪市都市計画河川改修認可，大阪市公園緑地事業認可，大阪市交通量調査実施，大阪市上水道増設改良事業施行，神戸市灘深江土地区画整理事業完了，池田市制実施。 大阪第2飛行場設置　真田山・新淀川公園開園。	武装委／灯火管制困難の工場設備について，時局と建築材料展開催。 「時局に於ける大阪市の住宅施設」(新名種夫)。
1940 昭15	決戦非常措置令公布，第7回全国都市問題会議東京で開催，静岡大火，都市学会「本邦都市に於ける特定地区調査項目」刊行，国民生活新体制要綱，日独伊三国同盟締結，大政翼賛会発会，賃金統制令公布，大日本産業報国会設立，経済新体制要綱案発表。	大阪市第4期戦時市民生活運動実施，安治川口駅でガソリン車転覆事故発生，大阪府職業指導委員会設置。 大阪乗合自動車KK大阪市に統合，南海電鉄・阪和電鉄を合併南海山手線となる，大阪電気軌道・参宮急行電鉄合併関西急行電鉄と改称。	海運統制国策要綱制定，第5回国勢調査施行，地代家賃統制令公布，宅地建物等価格統制令公布，国土計画設定要綱，国土計画基本方針策定労務者住宅建設指針発表，労務者住宅建設損失補償制度実施，住宅対策委員会設置，家屋税法公布。	大阪市第1回市民調査実施，大阪駅前土地区画整理事業竣工，神戸市本山村中野・六甲篠原・六甲八幡・御影町天神土地区画整理事業完了，中津工業住宅供用開始，大阪市町会規程制定，吹田・洲本・芦屋・伊丹市制実施。 神戸港東部内国貿易地帯埋立工事完成，大阪湊第2次修築第2期工事起工，大阪駅前地下道完成，京都蹴上浄水場第2期拡張事業，山科浄水場完成，大阪瓜破公園開園，京都嵐山公園開園，奈良伯母峰トンネル開通　城北運河完成。	住宅委／満州移民住宅の研究，空襲に関する講演会開催，建築文化展覧会開催。 「住宅論の社会的性格」(奥井復太郎)，「国民住居の標準」(高山英華)。
1941 昭16	六大都市道路会議神戸で開催，同潤会解散住宅営団に吸収，日本損保協会設立，学術振興会「東北地方農山漁村住宅改善調査報告」刊行，東条内閣成立，太平洋戦争開始，物資統制令公布施行。	大阪市第1期市民生活新体制運動実施，西大阪一帯高潮来襲，大阪土木建築工業組合設立。 大阪・桜島間省線電車開通。	都市計画法改正，借地法・借家法改正，帝都高速度交通営団法公布，配電統制令公布，港湾運送業統制令制定，住宅営団設立，共同住宅建築規則公布，貸家組合法公布，防空法改正で建物疎開・工場分散等公布。	住宅営団大阪支所開業，第2回大阪市民調査実施，大阪市住宅調査施行，鶴町緑地・服部緑地等都市計画認可。 京都賀茂川公園開園。	住宅委／応急住宅研究，法制委／市街地建築物法発刊，武装委／防空壕築造指導，防空建築施設に関する講演会開催，市民防空壕展覧会開催。 「これからの都市住宅」(中野順次郎)。
1942 昭17	第8回全国都市問題会議神戸で開催，東京・名古屋・神戸空襲，「住宅問題」(西山夘三)刊行，衣料切符制実施，翼賛選挙実施，企業整備令公布　青壮年の国民登録実施，産業統制法公布。	大阪港湾運送業を大阪港運・大阪港石炭運送・大阪河川運送の三社に統合。 関西汽船営業開始，大阪地下鉄大国町・花園町間開通。	陸運非常体制実施の閣議決定，技術院設置，戦時災害保護法公布，工場建築規制区域指定，建築物資配給統制要綱発表。 関門トンネル開通，大阪市立少年保養所開設。	大阪市電気供給事業停止，神戸市本山村森・本山村中央・須磨茶園畑土地区画整理事業完了，大阪市行政区域変更調査委員会設置，第3回大阪市民調査実施，泉大津・相生市制実施。 大阪生玉公園開園，京都西京極運動公園開園。	四会合併問題起る，住宅委／集合住宅研究，武装委／都市防空・偽装など研究，25周年記念菖蒲池厚生住宅展開催，建築と防空展開催，都市防空大講演会開催。 11月号「都市計画特集号」。
1943 昭18	東京府貸家組合連合会創立，東京府住宅協会住宅交換相談所開設，大東亜建築営団設立，軍需会社法公布，軍需・運輸通信・農商の3省設置。	近畿土木建築統制組合設立。 関急・大鉄合併，阪急電鉄・京阪電鉄合併，京阪神急行電鉄設立，神明バス・神戸市バスに統合，播丹鉄道国に移管加古川線として開業，国鉄有馬線営業休止，阪神電鉄武庫川線営業開始。	東京・大阪両市および周辺に防空空地指定，市町村制および府県制改正法公布，京浜・中京・阪神・北九州の主要都市を防空都市に指定し疎開計画を決定，用途地域停止の勅令。居住用建物標準規格告示，工作物築造統制規則公布，東京都制実施　工場公害及災害規則施行，都市疎開実施要綱発表。	大阪市住宅交換斡旋事務を開始，明石鳴門海峡トンネル期成同盟会準備委員会を結成，大阪市二十二区に増区，大阪市都市疎開実施要綱決定，兵庫県都市疎開実施本部設置，神戸市防災本部設置非常災害計画を樹立，舞鶴市制実施。 京都巨椋池干拓完成。	四会合併問題討議続く，住宅委／都市共同住宅仮装の件，法制委／法令発刊の件討議続く，南方建築展覧会開催。 「住宅営団　労務者住宅問題の研究」(矢田鉄蔵)。
1944 昭19	「国民住居論攷」(西山夘三)刊行，土木学会地下建設委員会設置，米機東京初爆撃。	大阪高潮来襲。 阪堺電鉄・大阪市電に買収，国鉄南海山手線買収，関西急行・南海鉄道と合併近畿日本鉄道と改称，大阪市電玉造今里線開通。	重要工場疎開令公布。	大阪市人口調査施行，近畿行政協議会開催，神戸市西垂水・長田土地区画整理事業完了。 大阪港中央突堤完成，安治川河底トンネル完成。	四会合併，新団体発足決定，住宅委員会のみわずかに活動，その他は活動停止，会誌3月号をもって休刊。
1945 昭20	本土大空襲開始，本土作戦計画決定，戦時緊急措置法公布，米広島に原爆投下，天皇ポツダム宣言受諾と降伏を放送。	神戸大空襲。		大阪市人口調査施行，神戸市荒田3丁目・灘青木土地区画整理事業完了。 京都伏見港修築工事完成。	建築学会との合併は当分延期することに常務会で決定。

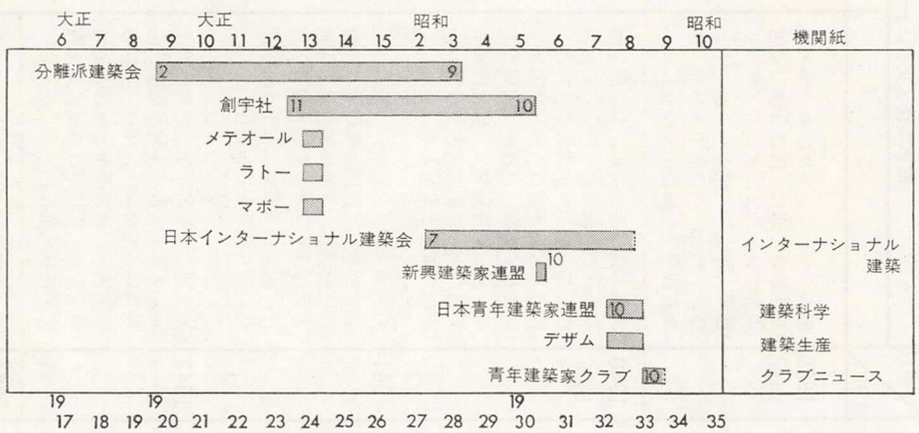
大正・昭和の建築運動

竹　嶋　祥　夫

明治時代における「国民的様式」に対する関心の高まり，また議院建築の問題，などの建築文化の領域における大きな動きは，わが国の建築の飛躍と生長を物語るものであったが，建築設計は大正８年の議院建築懸賞競技案が象徴しているように大正時代に入ってからも依然としてクラシックの機械的模倣による様式の選択と組合せ，という方法から抜け切ることはできなかった。しかしながら，一部の人々によってではあるが，模倣や追随をしりぞけ，自我を確立し，正しい建築観を把握しようとする努力が始まっていた。村野藤吾氏の「様式の上にあれ」はこの競技案に前後して発表されたものであり，この時代の先端をいく人の建築に対する考え方をうかがい知ることができる。この翌年の大正９年，日本の建築運動の嚆矢をなした分離派建築会が誕生した。「われわれは立つ，過去建築圏より分離し，……」の宣言文にも見られるように，分離派の特徴は当時の停滞的な建築制作の方法に対して創作を標榜したところにあった。形式的な言い方をすれば，ゼツェッションの思想を表現主義の形式で日本に実現しようとした，と言えよう。この会はさきにのべたように先人の成果を受けつぐ面とそれを克服しようとした面があり，それが彼らをして建築運動という形をとらせ，対外的に働きかけたといえる。しかしながら，第３回展以後，社会的に成功をおさめた反面，そのころから無意味な曲線や曲面の乱用が目立ちはじめ，分離派の「創作」と「表現」とは形の遍歴に向わなければならないのである。創意の重視，ということがある程度一般に浸透し，誰もが当然の権利として認識するようになったとすれば，つぎにはその具体的方法を示さなくてはならない。

分離派はこのときその役割を終ったのである。分離派結成３年９カ月後，創宇社が第１回の展覧会を開いた。分離派に触発され，分離派に追随するものとして出発したが，この会の意義について竹村氏は「分離派建築会の運動が日本に於ける建築様式の鉄鎖から近代社会のための自由な建築にまで解放するために叫ばれたと見ることができるならば，創宇社建築会こそは，日本の青年建築家が建築家層としての社会的認識を確信するまでにその多大の努力が費やされた，と観られるべきであろう」（文−1）とのべられているが，分離派と異なり，下層技術者の集りであり，活動の社会的影響やそれにより同人自身が得た成果も異なっていた。そして実際的活動のできる立場でなかった同人達はしだいに方向を変換していった。すなわち「建築家が建築家としての自己の立場に自覚し始めたることの表明，その自覚を促すべき捨身提唱であろう。封建的遺産のうちに，それと近代社会との間に育てられた技術者たる建築家が，社会的個性としての自己の立場，若くは建築企業に従属する一単位としての自己の立場を明確にしようとした態度，……」（文−1）といったイデーにたち至ったこと，第二は，彼らの創作方法が合理主義的なそれに近づいていったこと，である。ただ，創宇社の場合は合理主義的方法を階級意識と結びつけることを忘れなかった。当時ようやく普遍的なものとなってゆく建築創作の方法としての合理主義は，創宇社の人々にしてみれば単に手段として駆使すべき題材にすぎなかった。グロピウスのいう国際建築で代表される当時ヨーロッパの近代建築の方向は，新しい技術的アプローチの方法としては日本で全面的に受け入れられている。しかし，その反面，それの思想的な本拠はかならずしも十分な共感を呼び起こしていないのは創宇社の場合のみならず，むしろ一般的傾向と認められる。おなじ事情は当時もうひとつの建築運動であった「日本インターナショナル建築会」においてもうかがうことができる。

日本インターナショナル建築会は1927年７月，関西に在住する建築家によって結成された（会の内容等は，「日本のインターナショナル建築運動」中尾保 参照）。その結成意図について新名氏は「日本インターナショナル建築会の結成は，明らかにこうした時代の背景に推されたものには相異ないが，シュツツガルトの住宅博覧会その他国外に於ける新建築運動の，直接の刺激によったものでは決しなかった。」「構造に無理を与えない為に，却って建築本来の機能の一部を犠牲にすることを以て，構造の合理化と呼んでいた幼稚な構造学が，関東の大震火災の刺激によって，建築の機能に従って，自由に駆使され得る程度に漸く発達して来た時であったとも言える。日本インターナショナル建築会は，むしろこうした国内的機運の下に生まれたものだと考えた方が至当であろう。」（文−2）と記述されている。このようにして生まれたインターナショナル建築会は，まず「複雑多岐なる 近代都市の 建築諸問題解決の 鍵として，まず住宅より出直すべし」（文−2）となった。こうした傾向は建築における機能主義の必然的に向うべき方向であり，世界の機能主義建築



もこの進路をとっていた。しかし，当時の日本では，時代の流れは技術的解決より社会経済的方面に，より多くの関心を持ち始めていた。インターナショナル建築会もこうした時代の流れにあって，「建築における経済的社会的要素を認識し始めたことは会としての大きな進歩ではあるが，それは純粋に技術的立場において，建築進展の完全な指導者となることの不可能さを認識する所以であった。」（文−2）

同会の解散はずっと後（正式には行なわれていないが）であるが「解散の機運はこうした認識を持ち始めた時に醸成されていた」（文−2）とみられる。こうした状勢のもとに，大阪を中心にして展覧会や実際的な活動に同人達は幅の広い活動を示しながらも，グループとしては思想的な発展も技術上の成果も乏しいままに終らねばならなかった。

この時期の建築運動の主要テーマは，建築の階級性ということであったが，同人達は彼らの立場から建築を認識しなおし，合理的制作方法と結びつけようとしたものであり，その活動はもっぱらグループ内での活動の範囲を出ることはできず，いわば建築の内部的問題に沈潜し同人的活動に終った。

創宇社やインターナショナル建築会は，このような自己の成長の度合に即した活動形式をはなれることがなかったが，1930年に生まれた新興建築家連盟は，それまでの建築運動とは異なった形をとり，これまでの諸運動を結集し，芸術と技術を統一しようとした。この連盟の意図はいわば創宇社の延長であり，しかも小グループではなし得ないところまで活動範囲を拡大しようとしたところにあった。しかしながら，一部新聞のデマのために，わずか２カ月足らずで解散のうき目を見るに至った。

かくして，分離派以後の建築運動発展の道は突如断層を経験した。

この後1932年に，建築の各種の面を研究していこうとしてＪＡＦ（日本青年建築家連盟—後に建築科学研究会）が，ＭＡＶＯ，創宇社同人，新興建築家連盟の人々によって結成された。

このころ，京都において学生によりＤＥＺＡＭというグループが結成され，研究誌「建築生産」を発表していた。その後，ＤＥＺＡＭ解散と前後して，建築科学研究会，ＤＥＺＡＭ両者により現状の建築科学研究会の内容の空虚さを批判し，青年建築家クラブが成立した。

1933年10月27日，東京神田で開かれた都下青年建築家の懇談会でふたつの綱領とも言うべき言葉が採択された。

「すなわち，

1. 建築技術者の知識と文化の向上のために.
2. 相互の親睦と共同の利益のために.

というのがそれである（文−3）。そしてクラブの基本方針として，

1. 建築上の各種の面に発生する問題を一即ち，この問題こそ日常的であるが，それらを科学的に研究して行くこと。
2. そのような研究を欲する立場におかれている広汎な主として下層建築技術家を，技術を中心にとりあげることに依って結集し，組織して行くこと。」（文−3）

の方向をとった。しかしながら，①クラブ運用のまずさ，②構成員の地位の低さ，現存知識の乏しさ—これに対し高橋氏は，「……研究自体の，殊に先進の団体の力を俟たねばならぬ研究を独力で解決せんとしたところが誤りなのである。」，「問題はむしろ，各種の文化団体との緊密な提携を提唱し，彼らと共に進むべきであったのだ。」（文−3）と述べておられる。—などの理由により，忽然と消滅してしまった。

以上，主として「建築と社会」に掲載された論文を参考あるいは引用し，大正中期〜昭和初期に至る建築運動を概観し，復刻論文の位置付けを行なったが，内容の不十分な点はお許し願いたい。

引用および参考文献

1. 創宇社建築会の新建築運動　竹村新太郎　建築と社会 VOL. 20-6
2. その時代について　—日本インターナショナル建築会の時代的背景—　新名　種夫　建築と社会 VOL. 20-6
3. 青年建築家クラブを顧みて　高橋　寿男　建築と社会 VOL. 20-6
4. 日本折衷主義と我国の建築運動　西山　卯三　建築と社会 VOL. 20-6
5. 日本の近代建築　稲垣　栄三　丸善

（たけしま　よしお　大阪大学工学部建築学）



建築と社会　昭和12年６月号より

復刻論文
「建築と社会」第20集6号　(昭和12年6月号)

日本のインターナショナル建築運動

中尾　保

「建築と社会」昭和12年6月号は「近世日本建築文化運動特集」で，
日本の建築運動が紹介されている貴重な特集号である。
日本折衷主義と我国の建築運動／西山卯三
日本のインターナショナル建築運動／中尾　保
創宇社建築会の新建築運動／竹村新太郎
青年建築家クラブ／高橋寿男
日本工作文化連盟の結成とその後の活動／市浦　健
などが集録されているが，このうち以下にインターナショナル建築運動の中尾論文を復刻する。

日本のインターナショナル建築運動

中　尾　保

断り ――私は自から第一戦にたつて高唱を渡けて来た一人であるといふことを抜きにして全くの第三者(?)の立場で記すことにする。

1927年7月2日、日本インターナショナル建築會が創立されて建築運動を始めてから丁度今年で滿10ヶ年になる。その間運動の最も激しかつたのは29年30年31年の三ヶ年で會員達は火花を散らして論爭したのもその頃で、1933年には「會の目的の大半が達せられた以上積極的運動を續ける時は却つて反感誘發を招き最初から邪道に踏らんとするものが現れてくる」といふ見解の下に運動を一時停止して靜觀することにたりその狀態のまま今日に及んでゐる。

1927年までの建築運動の大略

一體日本で所謂西洋建築と稱するものが萬態を脫し始めたのは十數年前で、東京の平和博覽會に於ける分離派の活躍からであるとせなければならぬ。勿論此大博時代のセセツシヨン式とかアールヌーボ式などがあつたが、それが本當のセセツシヨンの精神を汲んだものでもなく何んでもなかつた。何れも誤まられて傳つたもので社會は無論建築界にも大した影響がなかつた。アールヌーボーに至つては家具や器具に多少の影響があつたかも知れぬ。それよりも日本の建築家はただボンヤリと夢のやうな考方から拔け出て多少なりとも論理的に物を考へ自分の意見を發表しやうとし出したのは20年前頃からで、當時の建築界に忘れてはならぬのは後藤慶二氏の指導的態度である。氏は偉大なる未成品として中道にして倒れたが氏の藝術的な態度が漸次科學的な方向へと轉換しつゝあつたことは氏の作品を通じても容易にうかがふことが出來る。氏は當時の少壯建築家達の憧憬の的となつたが運動といふ程のものが起らなかつた。

運動らしい運動としては14,5年前の分離派の活躍を以つて嚆矢とせなければならぬ。

分離派は數名の青年建築家即ち石本喜久治、森田慶二、堀口捨己、瀧澤眞弓、山田守、矢田茂、滝澤眞弓(後の藏田氏)等の諸氏によつて組織された小さな會ではあつたが、これはわが建築界に卷き起したセンセイションは實に大たるものがあつた。分離派の主張は既成建築の圈內から分離して藝術的新形態を創くまで追究するにあつた。舊樣式模倣より一歩も出なかつた當時の一般建築界に亂打された警鐘となつた。分離派同人外の者でも分離派式と云はれた作風に浸みて行つた。

一方米國建築家フランク・ロイド・ライト氏の作になる帝國ホテルの建築がまた日本の建築界に謎として現れた。今日でこそやや批評眼の出來た日本の建築界で論議されこそすれ當時は確かに一つ驚異であつた。しかし立體派と稱するこのライト氏の作物の神髓に觸れ得ずしてそのまま數年を混亂狀態のまま經過した。



新興建築講演會講師
向つて左から・中尾、伊藤、本野、新名、中西、佐藤(武夫)の諸氏記事參照

日本インターナショナル建築會の創立

その頃歐洲ではすでに材料、構造の合理的處理と建築機能の純粹構成、機械的美觀の意識化等の動的要素が注目されつつあつた時に表現派から脫したウオルターグロピウス氏がデツソウのバウハウスの機能的校舍を完成してゐた。ル・コルビユジエ氏は新しい提案として著書や圖案を示して世界に呼びかけてゐた。

建築の世界的動向が定まりかけたことに氣づいた6名の建築家(本野精吾、上野伊三郎伊藤正文、石本喜久治、新名種夫、中尾保)は1927年7月2日京都に會し日本インターナショナル建築會設立の宣言と綱領とを日本及び外國に發表し、インターナショナル建築の日本に於ける解決へと志した。

宣　言　(1927年7月)(エスペラント及び外國文は略す)

1　人類の生存に基礎を置いて建築の諸問題を根本的に解決せんとす
2　人類の進展に伴ひ必然的に生るべき樣式を建設せんとす
3　日本に於ける問題の解決に基本を置いて世界各國の同志と提携して共同の目的に向つて進む

綱　領　(1927年7月)(エスペラント及び外國文は略す)

1　樣式の建設には傳統的形式に囚はる事を排し現代の國民性に固執せず眞正なる「ローカリテイ」に根底を置く
2　研究及創作の範圍は建築を中心として人間の生活に關する總てを含む
3　宣言の主義主張を實現せんが爲めに隨時展覽會講演會等を開催し常時研究及紹介の機關を設く



寫眞・(ABC順)
寫眞・左上から伊藤正文氏、石本喜久治氏、本野精吾氏、中西六郎氏、中尾保(筆者)、新名種夫氏、上野伊三郎氏

當時中西六郎氏は巴里に在つたが發起人の一人として歐洲各國の建築家と意見の交換を試みて多大の贊同を得た。宣言と綱領の發表が日本では認識不足から隨分誤解もされ抗議もされ相當敵もつくりまた數々のナンセンスもあつたがまたこの會に好意をよせその運動に贊意を表した建築家も相當に出來た。外國建築家から多大の應援を得た。

最初の會員

伊藤正文、石本喜久治、本野精吾、中西六郎、中尾保、新名種夫、上野伊三郎

外　國　會　員

タウト(獨) Bruno Taut――メンデルゾーン(獨)Erich Mendelsohn――リートヴエルト(和蘭) G. Rietverd――ホフマン(墺) JosefHoffmann――ウヰルス(和蘭) Jan Wils――ウート(和蘭)J. J. P.Out――ベーレンス(獨) Peter Behrens――グロピウス(獨) Walter Gropius――リユルサ(佛) AndreLurcat――ノイトラ(米) Richard Neutra

尚この會の趣旨に贊同して入會した人は

本多正遠(大阪)　竹内芳太郎(東京)　唐　信(神戸)　須本楠雄(大阪)
眞柄陳三(大阪)　白鳥義三郎(東京)　田町喜多見(東京)　安田勇吉(瀋陽)

の八氏(以上1930年)でその後山家泰、貞永眞義、宮田秀穂、平松太郎の四氏入會しその他客員として會の仕事を援助された人々に、安井武雄、今和治郎、藏田周忠、西村辰次郎、小川安一郎、川口一二、佐藤武夫、富士岡重一、角尾寬彥氏等があつた。

會　の　事　業

會が創立されるや會員は先づ新聞や雜誌に意見の發表を連續的に行ふは勿論1929年から雜誌「インターナショナル建築」を發刊して新興建築の動向を示しその精神を敎示し一方數回の展覽會數回の講演會を催すのほか1930年の國際住居協會の大會には中西六郎氏が本會を代表して參加し日本の建築の長所を世界に紹介し殊にバウハウスを始め各地での講演は各國の新聞記事を賑はした。またこの會員の作品はモデルネバウフオルメン、カサビラその外國雜誌に揭載されてしばしば好評









を博した。その間ノイトラ氏、タウト氏の來朝あり各地での講演は廣く世の注目を引き大いに啓蒙に役立つたことは事實である。

日本インターナショナル建築會の設立以來世界的な建築技術への躍進の方向が明示され一時は主義の上で敵をもつくつたが思索と技術的研究の動向が次第に明瞭となるにつれて更に多くの共感を呼びつつその歩をつづけた結果、各地に出來て行く建築の形態が明らかに實證されて來た。遂に會の組織を變更して役員を置き全國に會員を募集したるところ實に152名の參加を見るにいたつた。(1930年2月)

容員17名　當會員19名で外國會員10名を合せると實に198名の多數に上つた。この勢力と世の流れは最早何人も阻止することの出來ないといふ見通しがついたので前記の理由により33年遂に運動を停止して靜觀することとなるに至つたのである。

雜誌インターナショナル建築1930年5月號から

日本インターナショナル建築會の創設は1927年7月であつた。回顧するとすでに足かけ4年になる。會の活動を中心として捲き起した新興建築の流れは1929年に於て殊に高潮し、文化の國際化の必然性に對する認識は確實になつて來た。我等の生活の實踐的動向が國際化するに伴ふ建築の國際化は當然であり過ぎる眼前の事實である。

1929年度までは我等の活動の初年期であつたが茲に1930年を迎へて、日本に於ける新興建築と新工藝の眞の進路を指示して、研究と創作の上に更に確實な成果を得なければならぬ責務を感ずると同時に、社會の生活樣式の展開の方向を常に鋭い注意を持つて見守ることの必要を痛感する。ワート氏から會寃に送られた言葉の樣にあらゆる意味で modern mannerism を排する爲には戰々兢々な覺悟を固めよう。

入會した125名

井戸田重太郎	稻垣秀夫	石井敬吉	伊勢谷忠夫
伊勢四村郎	石谷伊三郎	井上筆一	今井重季
飯田繁二郎	飯田光明	伊藤孝一	今井健治
井口大吉郎	坂谷清春	生駒忠彦	早乘五郎
伴田榮吉	濱岡荒吉	西田芳一	西田朝男
西田　陸	西島　勇	西本重吉	星　廣文
堀　正一	堀　光知	戸田和夫	堀永一郎
戸野春太郎	荻田眞之助	大久保小輔	岡田重一
大佐和彦太郎	奥村　衛	奥山漠之助	大郷松三
小川米一	荻沼政男	大島男治	大津直彦
大賀　實	荻田幸次郎	若村寅夫	和田海夫
肘山純二	川口喜代枝	角野　孝	龜淵　弘
加村富太郎	川端與喜藏	肘足繁雄	刈谷勘太郎

川北三九郎	片山東男		
海上靜一	川田靜雄		
吉田武雄	吉岡雄三		
吉岡慶次	吉本一夫		
高橋秀雄	高綱太郎		
田中由幸	田原三千男		
田中久雄	多田正昭		
田中繁一	田中庄太郎		
竹内千代松	竹屋彌太郎		
田中芳郎	辻　直司		
深　安治	中島喜平		
並川　桂	中川松雄		
長野五郎	中西眞夫		
中西佐吉	中林孝次		
中村　勇	長田富一		
中村貞藏	肉井健一		
村木正秀	宇賀一郎	上田清藏	上田勇介
梅田秀雄	上野秀太郎	梅林道雄	植村友雄
鹿口彌太郎	野村安太郎	九鬼駒雄	久保才一
山崎達夫	山內初雄	山下彌三郎	八幡丹三
山口正城	山本利雄	山本　茂	矢野　豐
矢代幸三郎	柳澤　廖	山本義一	牧田榮次郎
松永恒五郎	增田邦二郎	分玉武男	藤本武貴
藤田研吾	扇本敏夫	扇山眞三	吉下眞藏
小林　茂	肘戶七藏	小林政一郎	近藤兵四郎
帶內達治	手賀　徹	安藤堤正	青木周市
赤岩四郎	齋藤佐太郎	清井清一	崎谷廣介
菊井伊三郎	北川菊次	湯川駿太郎	湯淺十三二
宮川菊造	三好鶴男	三戶谷和久	遠男榮次
宮崎正夫	宮田秀穗	篠原　實	新正　穗
島吉角三	肘門彌一郎	清水健二	下野芳夫
惟原克巳	東田政治	廣瀨源三郎	平島末吉
森本治一	森本文章	森　晃	角田　忠



インターナショナル建築の提唱者グロピウス氏

宣言と綱領の解說　(同會の解釋)

宣　言

1. 人類の生存に基礎を置いて建築の進路を根本的に解決せんとす。

問題は「人類の生存」といふところから出發する。人類生存の本體が何であるか。物質の集合であるか觀念の動きであるか。又は神の意志であるか。之等を探究する事は吾等の目的ではない。吾等の前に人類の生存といふ嚴然たる事實がある。本體が何であるかを究める前に事實は一つであることを認めねばならぬ。吾等は信念の基礎を茲に置くのであつて本體を究める事も亦吾等の探究の一つの領域であるかも知れぬが之等は決して終局の目的ではない。生存の本體を物質と考へても觀念と考へても、何れの考へよりするも求め得る解答は一つに歸すべきである。此の信念の前には一切のイズムは消滅する。鳥は巢を造る。彼等には科學もなければ哲學もなくまた宗教もない。けれども生に即した住居を持つ。吾人人類の巢が何であるかを求めるために吾等は全き努力を拂はんとする。科學も哲學も宗教も一切は此の目的のために何等かの役目を果すでならう。この意味において建築の進路を根本的に解決せんとするものである。

2. 人類の進展に伴ひ必然的に生るべき樣式を建設せんとす。

人類は進展する。——一切の現象は一刻も一處に止らない。必然的に生るべき樣式は刻々に變轉する。嚴密なる解釋に於ては樣式は不斷に變轉する。然しながらある期間を通じて大體に於て同じ狀態が持續すると見る事が出來る。これは歷史に徵しても明らかな事實であらう。吾等は此の一つの同じ樣な狀態を持續する間を目標として解答を求めんとするといふのである。

3. 日本に於ける問題の解決に基本を置いて世界各國の同志と提携して共同の目的に向つて進む

吾等日本人は日本の問題を除外しては一步も踏み出せない。吾等は日本に生れ日本に生長し日本に親しむ。日本に於ける問題の解決の鍵を握るものは、吾等日本人でなければならぬ。

世界各國に於ける建築思想の尖端は各の民族に向つての解決と人類としての共通性に對する解答を求むる事とこの二つの目的に向つて集中されてゐる。吾等は民族の一員として而も人類の一員として此の問題の解決に向つて全的の努力を拂はらねばならぬ。今世界の隅々に隣人の如く語り合ひ隣人の如く往來しつつある。戰爭も通商も友交もこの意味に含まる。吾等は今民族の差別が消滅する事を想像することが出來ない。然しながら日々に各民族の間が接近しつつある事は爭ふ餘地なき事實である。世界を流れる人類の共通性は次第に濃厚の度を增して行くと見る事は正しいと思はれる。吾等は此の流れに乘り此の源を尋ね、此の行先を求めて進まんとするものである。吾等の用ゆるインターナショナル建築といふ言葉はこの意味に於てのみ成り立つ。

綱　領

1. 樣式の建設には傳統的形式に據る事を排し現義の國民性に固執せず眞正なる「ローカリテイ」に根底を置く。

樣式の建設——樣式は自然に生るべくして建設すべきものではないといふ考へは正しい然しながら吾等は解答を求むるために努力せねばならぬ。建設といふ言葉はこの努力を意味する。傳統的形式に據る事を排し19世紀に於て最も盛んに行はれた過去の樣式複製應用を否定する事を意味する。嚴正なる意味に於て人類の進展は傳統の線外に出づる事は出來ぬと云ひ得る。將來の進展は眞正なる意味に傳統共者の進展である。けれども形式の複製では決してない。フランスに於ける藝術樣式の變遷の如きは最も端的にこの事實を示す好個の例である。

狹義の國民性に固執せず眞正なる「ローカリテイ」に根底を置く——國民性といふものにふり返る時吾人は狹義の國民性の解釋に誤らせられる事がある。吾等は偏狹なる見解を捨てて眞正なる民族的地色、特異性の上に立脚せねばならぬことはいふまでもない。

2. 研究及創作の範圍は建築を中心として人間の生活に關する總てを含む。

人間生活を圍む一切の範圍を包含する事を意味する。建築は吾等の研究の中心であるけれどもソレに附隨する一切の家具、工藝品等の總てをも亦研究の範圍に包含する事を得る。此の範圍を限りなく擴げる時此の生活樣式の中に成立する繪畫や彫刻は何であるか服裝は何であるか食物は何であるか……およそ生活に關する一切は吾等の直接の研究領域を圍んで限りなく展開する。

3. は說明を要せず。

人々の言葉

* 建築は常に國民的であり、尙常に個人的であるが、然し個人、民族、人類の集成する圓の中では、最後の最大のものが、他の二つを取まいてしまふ。

かくして「インターナショナル」建築の標語が出來て來る。

1928年8月、ウオルター、グロピウス、　(Walter. Gropivs)

* 1923年には既に此大地は、全く新しい精神から生れた數多くの建築によつて覆はれた。オランダ人フランス人、ドイツ人、ベルギー人スウイス人、イタリー人、アメリカ人、も亦頑強に努力してゐる

1928年2月、アンドレ、リュルサ　(Andre. Lurcat)

* インターナショナル建築とは、合理主義といふ言葉の上に世界の新建築型な作り上げることでは斷じてない。日本のローカリテイに立脚するといふ考へ方が基礎である。

1929年8月　伊藤正文

* 吾々は國際的計畫の上に、我々の希望を實現する處に、精神的及物質的に、相互に提携し、支持しあふ事を聲明する。

1928年6月　スキスデラーツ莊にて　第1回國際建築會議

* 吾々は日本建築の特殊性を、「國際的建築」に向つて取上げることなそれは日本建築を、現代建築の立場から見ることである、要求するものである。

1930年　香野雄吉

* 建築及建築部分は、その與へられたる課題がより科學的に設立され、それな事物的に解決するに當

つて、より國際的となるのである、　　── 同 上 ──

＊ 世界を流れる人類の共通性は次第に濃厚の度を増して行くと見る事は正しいと思はれる。吾等は此の流れに隨り、此の源を尋ね、此の行先を求めて進まうとする。吾等の用ふるインターナショナルと云ふ言葉は此意味に於てのみ成り立つ、

1929年8月　本 野 精 吾

＊ 文化のインターナショナライズしつつある現時に於て建築もまたインターナショナライズするは當然のことで論議するまでもない。

1930年　中 尾　　保　（早大建築講義錄）

＊ インターナショナル建築は單なる技巧や形體統一ではない從つて國々他方地方のローカリテイーによつてその形の上にも多少の差異を生ずるのは當然のことである。

1930年　中 尾　　保　（同年7月18日大阪毎日新聞）

＊ 現代の主要建築材料は鐵（Steel）とコンクリートとガラスであるが、なほ將來は科學の進歩により如何なる材料が生れて來るか知れぬ、ジュラルミン等アルミニュームの合金を始め Steel や Bronz 等の合金其他、ゴム、ファイバー等が近時建築材料の中へ浸入して來たことは大に注目せなければならぬ。石や煉瓦の時代にはその構造は石、煉瓦のもつ機能の最大限度で考案されたもので、その形態もまたこれ等の材料から生れた眞實なものであつた。材料の變化普進歩發達によつてそこに生れる構造も自ら變化してくる。構造が變る、從つて、建築の形も變つて來るのが當然であり、そこに現代建築の眞實が存するわけである、過去の建築は過去においてのみ合理的であつたが、今日新材料をもつて過去樣式を模倣することは誤れる甚だしきものである。現代の材料の機能を發達せしめてこそ現代美を感受するものである。

しかして建築は徒らに材料の機能を弄んだのみでは意義をなさぬ。そこには勿論次の條件を考慮したものでなくてはならぬ。

1. 時代の思潮と社會の變化、
2. 科學の進歩に伴ふ眞義の生活樣式の變化
3. 社會經濟の狀況
4. 建築自體の機能即ち目的性
5. 材料の機能と構造
6. 土地のローカリテイ
7. 色調、

1932年　中 尾　　保　（毎日年鑑掲載の一記）

附　記

★ 「インターナショナル」建築の標語

日本では1927年7月2日、日本インターナショナル建築會の設立宣言が最初である。

ドイツでは1923年8月デツサウのバウハウスで、グロピウス氏主催の國際新建築展覽會といふ言葉を皮切りして、「インターナショナルと建築」といふ同氏の講演があつた。更に1925年バウハウスから「インターナショナル建築」といふ畵帖を發行した。

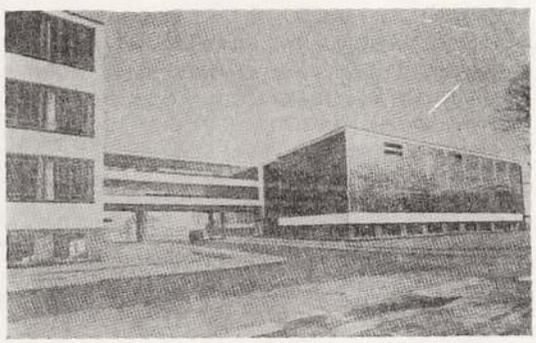
1927年「國際的新建築」と題する寫眞帖をヒルベルスアイメル氏が出した。

1928年6月スイスのザラーツ莊で「國際新建築會議」の第一回會合が催され宣言が出た。このイターナショナルには、普通の國際的といふ意味と世界化といふ意味と二つの意義を同一に使用したものである。

★ ムツソリーニとヒツトラー

建築の場合に於けるインターナショナルといふ言葉を、政治的特殊な意味を持つインターナショナルと間違へて日本でも馬鹿馬鹿しいナンセンスもあつたが、ドイツでもイタリーにでもそれがあつた。ドイツでは多少共產主義的分子がまぎれ込んだので一部の人から誤られ、バウハウスもそれがために終りをつげたが、これも認識不足の然らしめた結果である。その反對にイタリーでは、インターナショナル建築會の若き人々が展覽會を催したが、例によつてファツショの國にインターナショナルとはケシカランと抗議が出たので、若き建築家達はムツソリーニ首相を展覽會に招いて建築のインターナショナライズについてよく說明すると、ムツソ君手を打つて「よしわかつた、伊太利の建築はすべてこれに統一しやう」と出た。結局ヒツトラは馬鹿でムツソリーニはえらいといふ結論になつた。

★ 日本ではインターナショナル建築のことを國際建築、日本國際式、或はただ近代式等ととなへてゐるがその中適當な名稱が生れてくるであらう。それまでは何とでもいふがよからう。インターナショル建築の日本に於ける解決がつけばそれでよい。その神髓に觸れぬ先に邪道へ外れて行かぬやうにしてほしいものだ。



バウハウス（1926）

復刻論文

「建築と社会」第19集1号（昭和11年1月）

ブルーノ・タウト

建 築 と 社 会



ブルーノ・タウトは昭和8年に来日し，いろいろな調査を行なうかたわら，建築協会主催の講演会で，新興建築について語り，また「ニッポン文化」や，「桂離宮」にも鋭い問題を提供した国際建築家で，日本の若い建築家に多くの影響を与えた。
「建築と社会」では昭和8年6月に講演記録（日本建築と西洋建築との関係についての第一印象）があるが，ここでは「日本の建築家は図工・吉原女郎なり」と批判し，建築家の著作権にふれた寄稿文を復刻する。

建　築　と　社　會

米國建築學會名譽會員
プロフエツサー　ブルーノ・タウト

日本の新聞紙上で建築は如何なる重要さを有してゐるだらうか？

日本で新聞に建築に關する論說を書いた場合、まことに奇異な感じを抱かされるのである。讀者は“建築”と言ふ言葉が出ると、既にもう耳鼻科の醫者の特殊藥の臭ひでも嗅ぐやうな感を起すし、建築家が建築のことを書けば、それは醫者が澤山のラテン語で手術に關して記錄してゐる樣に感ずるのである。

新聞紙は殆んど全部或は全然只政治的報導のみで埋められてゐる。それも眞實の事件のみに就てではないのである。そこには、毎日毎日同じ事が、實際にはほんの些々たる事の變化、あれやこれやのジヤーナリストや議員、大使公使、大臣、等々の言が反復されて、そんな事が何を意味してゐるのか、何事が起ころうとしてゐるのか、職業政治家に非ざる者にとつては殆んど了解し難い事なのである。

斯くして新聞紙は多かれ少なかれ職業政治家の專用機關となつてしまつてゐるのである無論私はこゝで、政治が結局、事實上、各個人の生活に關したものである事に就て論筆しようとしてゐるのでない。けれども日常の考慮は矢張りもつと多くの他の事でいつぱいであり、又政治以上に、遙かに遠くに及んでゐると私は主張したい。

これ等の、普通生活に對して、より多くの興味を有し、之を重要視する人々の考へは、即、文明と文化の領域を統つてゐる。

新聞が政治の外に餘白を有する場合には、工業とその科學が大部分を占める。

藝術はその次ぎに小さな一隅を與へられてゐるが、先づ音樂と演劇、その次に繪畵、但しそれらは藝術としてではなく、娛樂としてであつて、即、神經を樂ぐるものであり、又香具師やマネージヤー、商人等の懷を肥やすのみのものである。そして建築は最後に殘された紙面で滿足しなければならないのである。

日本語から飜譯された英字新聞や、折にふれての飜譯の範圍内から觀れば、日刊新聞は全然建築批判を知らないと云へる。

新聞は大きな建築や重要な建築は無論掲載してゐるが、その寫眞の下に、それを設計建

築家の名が發表されてゐるのを私は未だ嘗て見た事がない――西洋ではこういふ事は不作法とされてゐるのである。

然しこのことに就て新聞を攻撃することは出來ない。新聞は單に事實に則してゐるに過ぎないのであつて、日本の建築家なる者がいつたい新聞にとつては存在してゐないのである。此意味に於て新聞は正しい事をしてゐるのである。

"だが日本には多數の建築家がある。又その中には眞に有能の士もあるのである！"

そこで――日本の建築家がこの國の社交界に於ける地位階級を、どつか西洋の國、例へば英國――そこにはすでに百年の歴史を有する王立英國建築家學會（ローヤル・インスチチユート・オブ・ブリテイツシユ・アーキテクト）がある――と比較すれば最も瞭かであろう。

建築家なる職業には、國法によつて保證されたる義務と權利の約束があることを記憶しなければならない。そこで日本人としては、"正しき意味に於ける建築家は日本には存在しない"と云はねばならないであろう。

勿論日本には一部に非常に眞面目に建築にいそしんでゐる人達が存在する。然しこの人々は建築上の仕事に於て、何等國法の保護を受くる事なく、その責任に就ても世人は多くを考へてゐないし、その社會的地位なるものは存在しない。であるから建築家が何をしようと別に重要視されてもゐないし、國家の大事業の上には何等の實際上の働きをも及ぼさない。特殊な愛好者のスポーツの一種ではあるが、眞面目な意味の職業とは申されない。職業としての日本の建築家は、先づこれから見出されねばならない。

建築家とその仕事に、斯くも社會的に下級的蔑視的地位を與へることの危險さは、日本に於ては他どの國に於けるよりも危險極まることである。

この國土をその背にのせてゐる鯰が、その一搖りで都市を破壞したり、灰にしたりする事なき樣、鯰を新時によつて靜まらせようとするつもりなのだろうか？

近代以前の昔大災厄があつた。然しその當時鯰の背には只一つの大きな村がのつかつてゐたに過ぎなかつた。今日では日本は精巧なる鐵道網、夥しき電話、自動車、電車、等々を有し、人口百萬の都市を有する文明國である。然しこれ等のすべては、工學技術のすべてをそのカタストローフへの競爭に傾倒するにあらずんば、往時の狀態よりも非常に敏感である。

然し日本では、こういふことは殆んどやつてゐない。こういふ事に就ては、昔の方が現在よりも餘程多くの力を盡してゐる。例へば、京都では、その昔太閤秀吉に依つて造られた堰堤は、京都の水害を悉く防禦してゐたし、群馬縣では、昔舟行のあつた河の航路を今日砂原として出水毎に流砂で埋まるに委せて、河水の海への洗下を困難にしてゐる。

日本はその近代化を誇りとしてゐるが、こういう方向に就ては反對なことをやつて居り昔時の技術の段階にも達してゐないではないか。

函館の大火、多くの火災、颱風、1935年の洪水と地震、等、今日のカタストローフは往時よりも惡性で激烈であるかの如くに見える。1923年の東京の震災の再現の危險に身を曝すことを誰か欲するものぞ？

淸田、新橋から上野に到る恐怖は、あの時よりも、より恐るべきものとなるであろう。

〝それが建築と何の關係があるんですか？〟

私は日本の人からこうした質問を受け、それに據つて、建築とは何ぞやと云ふ事についての日本人の完全なる無智を聽くのである。

私の經驗によれば、日本人にとつては、建築とは建物の裝飾の事である。建築家でも、多分一度位は平面圖をかく事を許されるのだらう。日本では建築に際してこういふ事を云ふ、"××氏のデザイン――××氏製圖"これはドイツで建築家×氏によつて建築さる"と云ふのと大分異つてゐる。つまり日本の建築家は圖工であつて、まれに自分で事務所を有してゐるが、多くの場合請負人に雇はれた圖工である。然らすむば彼は講義又はそれに似た樣な事をして生活してゐるのであつて、時々小さな家を製圖するのである。

然し、建築家が建築すると云ふことは、彼が完全に科學的に、技術的に、藝術的に製圖した建物に對して、責任を負ふ事を意味するのである。彼は然る後自身、その仕事のすべてに於ける部下の責任に任ぜねばならない。

だが、彼の權利と義務が、法律によつて確保されてゐないならば、彼はこの事を行ふことが出來ない。彼の設計圖及建築は、コツピーライトを有せねばならない。彼の許可なくしては發表することも、他に流用する事も、復製する事も、許されないのでなくてはならない。

著作物竊盜は、現代的國家に於ては處罰さるべき犯罪であるが、日本では、あまりにも日常茶飯事になつてゐて、"建築家"が彼の同業のなした計劃を失敬する――彼に尋ねもしないでコツソリと――と云ふ程度に迄達してゐる。――權利に伴つて義務が發生する。ドイツでは、建築開墾に際しては、しばしば建築家が第一に逮捕される。建築最高指導者として、最も重大なる責任を有すると云ふ裁判所の意見によつてである。こゝに既に建築家に請負人以上の一大重要さを置かれてゐる事が現はれてゐる。又その行爲については一權利と義務を以て、建築家は國法上、請負人の上に立つ。哀れなる從者の如くに請負人の下に立つと云ふ事は、建築家の特質を全然奪はれる事である。

日本の爲めに創造さるべきである處の眞の建築家なるものは、彼の建築に關して全然責任を負ふ。その事は當然彼の建築の周圍にも關心を有せしめる事となり、この事丈けでもよつて以て隣家の火災を容易に彼の建築に類燒せしめない事となる。又その爲めに、彼の建築をその近隣及その都市の一構成分子と見ることゝなる。當然彼は、全體の街、都市の一區劃、及都市全部を如何に建築すべきかを考究すべきであり颱風、地震、火災、洪水に關しては、能ふ限りの對策を最初に構ずべきは論をまたない。

斯くして彼は實地の都市計劃を始め、道路舖裝、配線、交通、堰堤構築、橋梁等、全都市計劃をインヂニアと提携してやらねばならない。この場合、國家及政府は彼の說に聽從しなければならない。國家及市の役人は、もはや彼を無視する事は出來ない。彼等はその建築家を仕事に關與せしめねばならない。

斯くして彼は又役人としての履歷なくして西洋に於けるが如く　高き地位に招聘されねばならないのである。

こういふ事は日本では全然存在しない。

すべて西洋の模倣をしてゐる癖に、此國では、先づ如何にして單なる模倣、追隨者、コツピー屋の實際の氣分を消滅せしむべきかに就ては模倣しようとしない。

最新の技術――この場合建築――の精神、意味　を、彼はまだ把握してゐない。

斯くして日本はいまだ都市計劃を有してゐない。閉鎖された研究室の中で、恰も個人の好き者の如くに單獨でその事を勉强してゐるが、それは眞美でなく實際でない。

役所の作製した地方計劃は計劃者の名を有してゐない。この計劃は恐らく專門智識皆無の多くの素人の寄り集りによつて作製されたものと覺しく、深刻なる憐憫に値する素人藝であり、實にインチキそのものである。

近頃の建築に關して私はこの國で街に關しても廣場に於ても　コムポジションの片鱗をすら見た事がない。美しい街と廣場、正しく解決された交通點、正しく建てられた紀念碑等何一つ見た事がない。

だから要するに、ある建物が何式であろうと彼れ式であろうと　結極どうでもよいのである。皆勝手に立つてゐる丈けである。

多くの人が未だ嘗て見た事もない樣なものを建てると云ふあの馬鹿氣た事は、こゝに到つて了解し得るのである。

そうしてあの哀れな建築家――圖工は、いつたい何をするのか？

彼等は多くの本を引つ掻きまはして印度をコツピーし、ルネツサンスや奈良をコツピーし、コルブユジエー、ペーターベーレンス等々をコツピーする。

帝國の語源に依れば、建築とは言葉通りに、即、指導、工事關係者、職人、請負人――日本では彼等は謝肉祭である――を支配する事である。

そして建築家は？吉原女郎である。然もそれは、伊勢神宮のある國、小堀遠州を持つ國に於ての事である。

小堀遠州が、依つて以てその偉大なる藝術を創造した處の、靜寂なる冥想は今何處！

今日は建築家には何を措いても最大の考慮を拂ふべき時である。日本の氣候は、――例へば歐洲のそれとは、全然異つてゐるのである。建築家が現代資料を以て建築を爲した場合、彼の建築は眞に良くて、全然變つたものでなければならない。即ち、その建物がパリやベルリンに建てられた時には全然使用に耐へない程のものでなくてはならない。從つて同樣に、獨、英、佛、の建築の模倣は、日本では役に立たないのである。

もう數十年もたてば、私のこの說が正しいと云ふ事が解ることであろう。

建築家である處の讀者諸氏は、多分此批判を不快に思はれるであろう。諸氏の爲めを思はなければ、こうした事を書く意味が何處にあろう。だが又他の讀者諸氏は、これは私にとつて氣持ちのよい事だろうと云はれるかもしれないが、私が日本に對して、あまり友誼的でないならば、後日故國に於て、こういふ事を云つたり書いたりしたであろう。

私がこの國で爲した如き研究と經驗の後、"建築家にとつて何等見込みのない國"と云ふ感じを抱かないで歸國する樣な西洋の建築家があり得るとは私には考へられない。

私は日本國民とその文化を愛するが故に、私はその現代生活の弱點にして、變更すべき點の何れにありやを示すことが出來るが故に、私は左程絶望しない。斯くして私は拙著"ニツポン"の次に第二冊"ニツポン文化"を書いた。これは近日明治書房から出版することになつて居り、日本の現在の藝術問題の正確なる批判的解剖を示したものである。そのすべては、私がある新日本文化の可能を信ずるが故に、この短い論說と同樣のものである。

建築はそこで第一に扱はれてゐる。

醫者が患部に觸れることは、いつも痛いことであるが、それによつて人は初めてどこが病氣であるかを知るのである。

（少林山1935年11月28日）

挿繪の寫眞は私の作であつて、如何なる問題を建築家が持つべきであるかを示す爲めに掲載する。このジードルングは建築のみを設計監督したのでなく、地方計畫道路計畫、等々をもなしたのである。　（上野伊三郎氏譯）

思想の無目的なる傾向から生じたものとすれば現代建築様式は類推して宗教と倫理的意義を附することは出來ない。つまり久遠なる建築藝術の意義は、刹那うちに流れ去らなければならない吾人が前項數節に亘つて研究したる議論は殆んど此の無目的なる建築様式の窮盡に費されたと言つてもよい。多くの人間の血と肉とを下積みとして、只一人の資本家は微笑み、冷酷なる科學者は己が計算に誤りなしと誇つて居る、かの「マッハッタン」の奇觀こそ將に煩悶せる現代建築様式の産める邪道である。

現代建築様式の煩悶は如何にして此の無目的なる傾向を宗教と倫理とに約して其の商を見出さんかと云ふに存する。換言すれば如何にして過程の眞を目的の眞に調和せしめんかと云ふにある。之れが爲めには即ち科學をヒユウマナイズする以外に吾等に殘されたる何等の方法もないと信ずるものである。蓋し私が前數項に亘つて論じたるが如く、建築行爲の一切を擧げて科學に據依し、而して近代文明の所向が科學に眞の根據を有する以上、此の志向が今後尚變じないものとすれば、科學の本性として當然様式は無常であらねばならないと云つた。而し私は今日に於ける科學の陷れる邪道に迄で信據せんとする程寛容ではなかつた積りである。

トルストイなども云つて居る様に總ての意味に於て從來の科學は多くの破綻を生じた、而してこは現歐洲戰場に於て救ふ可からざる欠陷を曝露し憮禍の原因として科學に對する呪咀が今日多くの識者に依つて高潮されるに至つたのである。つまり現代建築様式の邪道に陷りし原因は將に破綻せる科學に對する無批判なる全信頼に存するのである。されば吾等は如何にして科學を「ヒユウマナイズ」するかは自から別途の問題であるが、兎に角私は前述せし如く「ダヴィンチ」や「ガリレー」に依つて体驗せられたる「ルネッサンス」の科學精神を研究高潮することは此の問題に對する斷案と信ずるものである。これに依つて一貫せる久遠の眞理に建築様式が眞實の生命を得、吾々人類が之れに據つて「ヒユウマンウオース」や「ヒユウマンシグニフイカンス」を知ることが出來るのである。其の時こそ個人主義は人道主義と一致し、過程の眞は目的と合体し、目的の眞は過程と楔合するのである。若し世界の文化が一つになる時が來なければならないとが本來の志向であるとすれば、その時こそ建築様式は一切の事象に共鳴し、一切の差別を打ち貫いて、そこに大なる歓喜が妙なる旋律に打ちふるうであらう。「ヘレニズム」の上に「ヘブライ」の黒い法衣をまとへる「ジユリアン」が紳達の進軍の先頭につゝ立つて黒旗を巻き下す（メレジオウスキ著「神々の死」松本雲州譯）「マンバワー」の虚僞が取り除けられるであらう、總ては普遍我に歸一するであらう。一切の經濟一切の交通、一切の思想……それは總て一切の科學が世界に歸一する時にこそ、世界的理想の空中樓閣に、適確なる基礎を作り、國家主義的國粋論者に四海同胞の眞實の裝飾が施されるであらう。

吾等は、こうした人類と、紳の世界の建築とを産まんか爲め、――それは遠い將來であらうが――現實の世界から將來を仰望しよう、總て現實を歓喜し、現實の純眞性の上に人の響を打鼓らそうぞ。

それは國人の義務である、國家の責任であり世界人類共通の仰望であらねばならぬ、吾等はやがて世界が只二つの様式を産まんが爲めに、そしてそれが一切の差別を打ち貫かんが爲めに吾等は一切の交通、一切の經濟、一切の政治、一切の藝術總て一切の科學と哲學とを見なければならない、即ち吾等は文化の先驅者であらねばならぬ。（八、八、十四）

動くとも見へぬ田蝶のあゆみ哉　蕪村
海見つゝ萩やなからん此邊ほ　蕉翁

讀後感

村野藤吾

年末に岡田孝男博士よりお手紙をいたゞきそのなかに下刷のコッピーが添へられてあった。このコッピーは大正八年七月に本誌の何号かに載った拙稿である。題して、「様式の上にあれ」といふ。全く記憶はないが將に拙稿である。読んでゆくうちに次第にその当時のことが思ひ出された。「様式の上にあれ」、この「上にあれ」といふのは、ベルンハルデー（？）といふ人が書いた「アボーブ・ザ・バトル」からとったものである。この本は読んだ記憶はないが、あとで邦訳されたので或は読んだのではないかと思ふ。学生時代に、当時の早稲田大学の総長で、後に、大隈内閣の文部大臣になられた高田早苗博士が、戦後の欧州視察の際に持って帰られたもので、あちらでも、非常に評判になった本である。総長は全校の学生を集めて帰朝演説の際にこの本の内容について話をされたのを聴いて感銘したことを覚えている。それを覚えて居たのでつけた題名だと思ふ。ついでだが、高田博士は若い頃、大隈さんに従って政治運動中に壮士から背中を切られたといふ位の人であるが、見たところ、長身の貴公子然たるところがあり、その風格は、日本芸術院長の高橋誠一郎先生に似て居た。私は、建築のことも好きだが、政治や思想的な方面のことも好きであった。高等予科時代の科長で、社会主義者であり、後の労農党の委員長になられた阿部磯雄先生からうけた影響は、その後の私の人生観に決定的な感化を与へたように思ふ。社会主義者と言へば、当時では、あとから刑事がつきまとう位におそれられて居た。而し、教育家としての阿部先生は実に立派な英国風の紳士で、自からを厳にして他を許すといったところがあった。拙稿のなかで、繰り返し述べて居るように、建築家として、又、実際に設計する場合の心がまえとして、建築的諸条件を建築にする場合の思想的中心を建築家の倫理観においているところなどは、全く、阿部先生の影響ではないかと思ふ。いろ〳〵問題はあるにしても、又、凡てといふのではないにしても、当時に於ては、吾々の周囲に、天下、国家があり、理想社会に対する夢がつきまとって居た。今更ながら、教育の大切なことを思ふ。

大正八年と言へば今から五十二年前になる。あれこれと道草を喰って居たので二十七才で早稲田を出て、渡辺節先生の事務所に入ってから二年目の二十八才の夏にこの論文を書いたことになる。今日から見れば、ぎこちない文章で、恥かしいような気もする。学生時代はセセッション万能で通したのに、渡辺先生のところでは、新らしいものは一切まかりならぬといふので、大抵はアメリカ風の折衷主義をやった。今から見れば良い勉強をしたと思ふ。学校で我がまゝばかりしたので随分苦しかった。但し、この論文を書いた頃は、事務所に入って二年目だから、まだ、仕事らしい仕事はして居なかったように思ふ。学生時代にラスキンやウイリアム・モリスに傾到し、ハワードの田園都市計画などに虚無的な心を癒した。大正九年に分離派が出来たのだから、当時でも、それなりに建築論が吾々の周囲に横行し、殊に、大戦後の社会状態には敏感であった。米騒動があり、物価騰貴、住宅問題なども今日と変らぬ位深刻であった。心の安定を得るには、所詮、自分自身を振り向くより外はなく、その頃の精神的な動揺や社会観が拙稿の随所に散見され、殊に、マッハッタンの高層建築に名を借りて、この傾向を否定するような思想は五十年後の今日でも支配的で少しも変って居ない。つまり、大量消費は必らずしも、人間の幸福につながるものでないといふ考へに共通するからである。思想的に未熟で、加之、文章などもぎこちないので、全く恐縮の至極の思いもするが、青年建築家村野藤吾のひたむきな一面を見るようなので面白く、敢えて、岡田先生の御手紙に従った所以である。

る一主調を以て之れを貫くことが出來ると同じく、建築樣式に關する一切の思想史は又此の前提を以て分類綜合することが出來る。

さらば、現代は目的に眞理を認めんとするの時代か、過程に眞理を認めんとするの時代かと云へば大觀して之れを後者なりと斷言せざるを得ない。もとより、現代と雖も、之れに反する思想は儼として存じて居る、けれども十六七世紀に「ガリレー」や「ベーコン」や「デカルト」に現はれたる「ルチッサンス」の精神が近世科學文明を起して人類の文化現象の上に常に新らしい事實を寄與して以來、此の新らしい事實から新らしい思想を産みつゝあるに於ては、現代の傾向は、明かに目的よりも過程の上に眞理を認めんとしつゝあるを看取せざるを得ない。新らしい思想が先に生れて而して後新らしい事實が生ずるならば、過程よりも目的が力强い影響を建築現象の上に寄與するであろうが、それと全く反對な順序を以て、新らしい思想が生ずるとせば目的に眞理を認めるよりも寧ろ過程に眞理を認めるのが自然ではあるまいか。例へば吾人が近世初期に於ける産業狀態につきて學ぶが如く、未だ科學精神の勃興せざる時代に於ては一つの「ギルド」に於ける弟子達は年期奉公として其の間詳に彼等が主人達の手法を忠實に會得する以外に彼等がやがて來ん主人としての地位を辱しめざる方策を知らなかつた。此の場合に於て、弟子達に絕對に必要であつたものは主人の思想であつた。彼等が永い年期奉公中に於ける慘憺たる苦心は如何にして主人の全思想の精神を會得するかと云ふ事に費されたとつても過言ではなかつた。かくて承繼したる彼等の思想は「トラヂション」の領域を脫することが出來なかつたのである。從つてかゝる思想に育くまれた新らしい事實は彼等が或る目的に接近せんとするより高き階級であつたのである。而して、かゝる時代に於ける建築樣式が戰爭や巡禮や交貿等に依る異邦人の藝術思想に觸れる場合がない限り到底一つの規範より超脫すること能はずして彼等の美的及び構造的に、即ち一般建築樣式に

然るに建築が近代文化の潮流に掉して以來、其の構造及び材料の進歩と共に吾等が已に前節に於て述べし如く美的觀念の上に一大改革を起したることは當然なる出來事と云はなければならない。

眞に近代人の如何なる藝術も科學の助けなければ完成することが出來ない。從而、吾人は如何なる藝術も思想も科學の助力に依つて自由に發表することが出來得る樣になつたのである。

故に吾人は、吾人の自由の爲めには敢へて必らずしも前代の手法や樣式に據ることの必要が少なくなつたことは、今日所謂「新しい」と云ふ言葉が建築の意匠に關して一般青年建築家の中にかなり强い根定を有する當然の傾向を伺ふことに據るも明なる事實である。今日一般に學校敎育に於て「メーソンリー」とか「カーペントリー」と云ふ如き其の多くが半ば傳修に依る學課が輕視せられ計畫とか計算と云ふ如き基本學課が重要視せらることを聯想する時に、吾等は現

代建築界の主潮を知るに難くない。

而して、今日の文化意識が、將來に於ても亦變化せざるものとせば、此の傾向が尙將來に向つて進展する狀態を考ふる時に、今日一般に論せられて居るところの主義とか意義とかに關する議論のうちに大なる誤りを發見するものである。

今日に於ける一般の樣式論者は過去に於てかくありしが故に將來も亦斯くあるべしと云ひ、彼等の議論は總て過去の事實の上に根定を置いて將來を論じ、又は之れを推斷せんとして居るのである。然るに吾人が再三論じたる如く近代人の頭のうちに培はれたる科學と共に發達せる自由精神の爲めに吾人の直感は古來の殼を破つて無限活動の範圍を擴めたのである、即ち消極的に一定の規範に蠢々して居た吾人の感覺や印象が積極的に活動することが出來る樣になつたのである「クロイッチエ」の所謂「直覺の積極的加工」が出來る樣になつたのである。かくて眞理は過程のうちに存する樣になつたのである。

從而吾人はかゝる思想や研究方法を以てしては、到底眞の解釋を得ることは出來ないのであつて、つまり彼等は目的のうちに眞理を求める古い時代の聯想以外に一步も出て居ないのである。

苟も近代の文化運動の梗概だけでも知るものに取つては、かゝる議論は一種不可解なる立場にあるものと云はなければならない。過去は總て吾等の一切が過去に沒入してこそ、又、將來は總て吾等の一切が將來に合体してこそ、眞實の批判がなし得らるゝのであつて、異なれる時代に於ける吾等の批判は、決して眞實なるものとはならずして、吾等が眞に批判することを得又批判し得る「アビクチー」を有するものは只現實のみに限らるゝのである。

吾等の樣式は最早過去の事實のうちに見出し得べきものでなくして、吾等自身のうちにある處の、近代文化の惠澤が資格づける思想と、能力のうちに潛在して、之れが將來吾々の生涯に於ける建築的手段のうちに自由に表はるゝもの

對する觀念が常に前代文化の踏襲であつて一つの順當な「トラヂショナルステップ」を一段一段踏みしめて行つたとは當然の成行であつたと云はねばならない。所謂獨創などゝ云ふとや建築的革命などゝ云ふとは近代科學が眞に其の價値と「アビリチー」とを顯はすに至る迄では到底望まれないことであつたのである。故に時代の仰望は天才の出現であつた。時代は天才の出現によつて驚異と改革とを早び起すに至る迄一般民衆や一般建築家の腦裡には、深く傳統的執著心が强固な美意識を構成して居たのは蓋し當然の事實であると云ふ可きである。此の場合「時」と「力」とは建築が有機的に人生に即する爲めにはなくてならない必須の條件であつたのである。「クラシック」も、「ゴシック」も其の他一切の決定せる過去の建築樣式が一つの「スタイル」となるに至る迄では天才達によつて覺醒させられた廣大な民衆の力と永い時の助力と目的の上に眞理を認めたい古い時代には必要であつたのである。

である。かくて我等が求めんとする現實の樣式は、個性に自由なる、而して大膽なる發表以外にはあるまい。後段述ぶる如く、念々刹那にこそ樣式の創造があらう。謂ひ換ふれば創造は刹那であらねばならない。斯く考へ來れば、吾等は現代に於ける建築行爲の上に何等の目的をも認むることが出來ない。吾等の念々刹那の行爲は即ち轉成にして、此の轉成の上に吾等の知力の全幅を擧げて物の本質に對する窮極と交涉し樣とするのである。

切論すれば現代建築樣式の傾向は何等の目的をも有せぬを以て主要なる性格とする、此の點より觀察してベルグソンが創造的進化を論じて『進化と云ふものはある特別の道を指示するのではなくて終局を狙ふと云ふよりも寧ろ方向を取つて、しかも其の適應に於てさへも創造なのである』と云つて居るのはよく現代建築樣式の性向と一致して居ると思ふのである。

吾等の解する處に依れば、ベルグソンが謂ふ處の創造的進化には何等の目的がない。一切の轉變合成は果して何れを目的として進化すべきものか、如何なるか轉變合成の窮極か、如何なるが創造的進化の落處かを知るに苦しむものである。素より窮極する轉成落處ある進化がある可き筈なければ、一度窮極と落處とに行きつけば、こゝに轉成と變化とは全くなくなるのである。强いて謂ふ可くんば轉成が目的であり變化は變化が目的であらねばならぬ。念々刹那が眞でもあれば目的でもある刹那の轉成と變化とを撥無して、終に何等の目的をも捻出することは出來ない。吾等が現代建築樣式に對する頽悶は實に此處に胚胎するのである。而して、目的のない轉成と刹那の變化からは、永遠に亘に倫理、久遠に存する神を認むることは出來ない。轉成の目的には涅槃もなければ、神もない唯絕粹の時却あるのみである。

如斯論じ來れば、現代に於ける建築樣式と及び之れに關聯する吾等の思想からは、當然の經路として、宗敎と倫理的意義を生ずることは出來ない。若し、ベルグソンの哲學を以て、現代

ノルマルな思想を矯正する爲めに深き考案を要すると思ふものである。

　斷つて國粹論者を見れば吾等は勿論常に有意義なる疑多の說を與へらるゝのであるが、概觀して彼等の說は固陋である。思惟の自由と科學精神の發達にともなふ近代文化の異狀なる發展に沒反省に思惟せらるゝ其の憐れむべき過去への執着や、趣味性の偏狹が、石と煉瓦と鐵とコンクリートを以て事更らに唐破風や高欄や、軒の反りを作つて、之れ新日本の趣味性を具象したる新樣式なりと稱するが如き作物の可否を論ずることの徒勞は今日其のあとを絕たれたる如き蓋し當然の趨勢と云ふべきである。

　惟ふに初等敎育の目的が人間靈智の覺醒、自我の開放にあるが如く、海外文明の移入に依りて敎育せられ開發せられたる日本は、從來の如く、永久に精神にも亦物質的にも歐米の生徒であつてはならない。何人と雖も海外文明を模し海外文明に追從することが必らずしも文明の進歩であると思惟するものは恐らくあるまい。我が建築界も海外樣式を移入して以來已に數十年を經、此の間に失れたる犧牲や、此の間に得たる經驗は必らずしも少しとせず、然るに今尙建築界の混亂は依然として、樣式の逆迎は昨是今非の浮薄極る盲動を繼續して居る狀態である。主義開放と云ひ、又正義の開放と云ひ、乃至樣式の開放と云ふも、夫れ等は夫れ自身が、他に對して批判能力を有することに根蒂をおくものであつて、先に論じたる如く、正義も人道も乃至樣式上の一切の問題も共に、民族生理や民族心理と云ふが如き或る不可避な條件の認容に依りて、全体としての世界を光被し、合流する處に其意義を有するもので、正義人道に憧仰する吾等は、當然にも民族自決に其の根底を置くことに合理性を見出すものである。

　何時迄も他を模倣し、他に追從するものに世界に對して全体と融合すべき自我の主張もなければ、自己を他己の上に生かす、デザインの確信もあるまい。即ち批判の必要であるとは此の故である。私は先に今日の文化現象が科學に其の根據を有することを主要なる要素とする以上而して吾等が科學の上に立脚して建築上の畫策をなす以上、過去、現在、未來に於ける一切の決定せる建築樣式に據依する事の出來ない。否其の必要なきことを述べたそれは全樣式の撥無ではなくて、チグレクトである。かゝる思想の當然の結果として、樣式上の現象は無常であらねばならぬ、而してそれは、現代日本に於ける樣式上の不斷なる昨是今非の浮動ではなくて必要失れ自身を科學と人道とを以て人生に即して整頓する所の常に新らしき樣式の創造である。それは一貫せる眞理の隨時なる「アダプテーション」であり、現實の全充であらねばならぬ。

　兎に角私は如何なる海外建築樣式と雖もそれを自國に移入することにつきて現象に對する共鳴は別問題として、其の根本に於て、其の「インスチンクト」に於て一つの大なる疑念を挿むものである。而してこは吾等の肉体細胞や、日本人の血統が遺傳法則や生活上の一切の條件を對外的結婚に據る混血や機能の改造をしない限り、此の疑問を一掃することは出來ないのである、即ち批判に對する國人の思考は此の間當然起らなければならない問題であつて、苟も全世界が、全々國境を撤廢しない限り、而して、各々自身の文化を持することが正しい限り、自己保存に對する人類の正當なる欲求であらねばならない。

　然らば批判能力は如何にして養ふ可きか、それは自國文化の窮盡と、自國民性の洞察に據らなければならない、而して廣く日本樣式を開展せしめて、是を世界に光被せしめなければならない、此の意味に於て世界文化、謂ふ所の世界各國の建築に對する批判と、自國文化謂ふ所の自國建築の開展とを志す民族主義、日本主義は、日本人としての現實的運命から最も自然の主張であらねばならぬ。それは纖と、技術と、組織と、算數と、一切の科學とを有する國民が其の意志を主張し得る現實的世界の必然的要求である。それは一切の科學批判に對する哲學を有するところの國民のみが思惟し得る權利ではないか。

　但し謂ふ所の日本的建築がどんなものであるかは私にも不明であるが、それは恐らく今日以後發展する、經濟と、交通と、科學と、藝術とに對する我が建築家の正當なる研鑽と忠實なる究明と、而して據つて以て得べき批判能力の自由なる創作のみが決し得る問題であらう。

　吾人は、より世界的なれと云ふ意味に於て世界主義者や、理想派の人々と共鳴し、より國民的なれと云ふ意味に於て國粹論者や、傳統派の人々と合体する。「但しアブノルマル」な「コスモポリタニズム」と固陋なる「ナショナリズム」との二つの邪道に陷らない爲めに、そして、吾等の國家的觀念と、世界的觀念の上に、より健全なる擴充を與ふることを得るのは、獨り批判能力のみが有する特權である。

　未曾有の講和會議に於て、我が人種案も、世界的正義の最高なる權威者に依りて無視せられ文化の最高權威を誇る紳士國に依りて一蹴された、かくて正義の假面は女夜叉の如く、吾等の前に、尙恐ろしき暴戾が橫つて居るのである。吾等の行手に立ち塞る一切の沒義道なる障害は白人文明の假面と、白人正義の自己擁護のみである。

　他に隷屬して居る民族には、科學も、藝術も、哲學も、發達すべき機會は與へられない。本國人の贅澤費を作るために苦役せらるゝ領土的亡國民と、異邦人の侮蔑に答へることの出來ない文化的亡國民には、永久に科學的研究の餘裕はないのである。

　かゝる一切の悲痛なる運命より脫出せんが爲めに、而して個体存在の理由の奥に秘められたるものゝ窮盡に依りて、自己が他己のうちに調和進展せんが爲めには、唯に建築問題と謂はず一切の自主的文化を有するより外はない、廣く民衆のうちに文化を進展せしむるより外はない只一人の天才よりも平易な民衆の覺醒を希望せずには居られない、而してこは即ち謂ふ所の批判能力を有する國民のみが有する光榮ではないか。

（八、七、十五、）



樣式の上にあれ！（結論）

會員　村野藤吾

四、無目的なる現代建築樣式の煩悶と其の解決

（本項は建築評論六月號紙上に發表したのを補訂したものである）

　目的の上に眞理を認める古い思想の裡に建築樣式の本然が潛むか過程の上に眞理を認めん新らしい思想に建築樣式の如是相が存するか。即ち建築樣式は目的を有するものか有せぬものか若し有するものとせば、之れを倫理に約して、果して如何の價値を有するものか、此の疑問は往古より築海の底に橫はつて、今に至るも尙解けざる不可解の謎である。

　建築樣式に目的がありとするの、目的なしとするに勝つて眞なるか、目的なしとするの、目的ありとするより眞なるか、之れを端的に決定することは不可能なることである。何となれば、樣式が時代文化精神の複雜なる諸要素を背景として居る限りに於て、要するにそは其の時代の傾向に從ふより仕方がないからである。現代に於て此の二種の傾向を有する人々が併存して各々其の壘に據ると同じく、異世に於ても亦此の傾向が相抗して、一張一弛一進一退して居たのであつた。時代の傾向が時として過程の上に眞理を認めんとするの多きこともあれば、又時として目的の上に眞理を認めんとするの多きこともある。人類の文化生活は目的が過程と云へ

超樣式論者の唯一の依據は道德的觀念の豐富なることは再三高調したる通りであるが、單に道德的觀念と云ふ丈けでは、あまりに抽象的な言葉である。故に私はもつと具体的に斯の問題の內容につきて研究する必要がある。

吾等の道德覺醒の前提には、必然的に、個人としての自覺に次で、社會的覺醒、次で國民としての自覺より世界人としての立場を考へ、茲に初めて吾等は一個の人間としての綜合的な而も極めて復雜な自己意識が生ずるものと信ずる第一期に於て吾等に關する一切の問題が展開され次で社會的に之れを養ひ、次で國人として思索し、最後に世界人として合体する處に道德性の全充があるのである。ともすれば、吾等は「アブノルマル」な「コスモポリタン」となり、ともすれば吾等は極端なエゴイストとなつて世界的にも亦社會的にも全く盲目となり、個性完成の對照を失ふことがある。

切論して、吾等は、道德性の發展には、どうしても何れの方向からか、以上の經驗を踏まなければならない。こは單なる推論ではなくて、事實——民族生理とか民族心理等の動かす可からざる條件——に立脚する全く「ナチュラル」な現象の具体化である。米國の某女流地理學者かの說に依れば、自然に忠實なることはやがて文化生活の豐富と正廉とを齎らし、文化の發展と同時に人類は益々自然の恩惠に浴しなければならないことが眞實である限り（文明協會發行地的環境と人生を讀む）による。

吾等の論旨は聖なる實在の具象を目的とし、確固たる事實上に安住せんとすることに外ならない。

私は、斯く順々に發展する道德觀念の經程は又、建築樣式の反面でなければならないと信ずるものである。以下論ずる處の樣式問題は、「吾人は日本人なり」てふ意識に立脚して「ナショナルスタイル」に關する問題に觸れんとする考へである。

概觀して我が國の樣式と及び樣式論は二樣に分類することが出來よう、一つは國粹論者及び準國粹論者と、他は世界論者及び準世界論者である。私は假りに、前者を國家民族傳統主義者と見、後者を四海同胞人道主義者と呼ぼう、先年明治神宮懸賞に表はれたる作品を前者の代表と見ることが出來る。此の方は近來幾分其の勢力を失つた樣な觀はあるが、隱然たる傳統は今尙建築界に底流して居る。次に、最近殷んに論せらるゝ構造論及び青年建築家達の間に現はるゝ一般的思潮及び其の作品の一般的傾向は、後者に屬するものと見ることが出來る、而して國人としての意識を肯定する意味に於ては、双方異論なきが如きも、論ずる處、寫する處は自から相反するは蓋し當然の勢である、概して前者は古き建築家に後者は所謂新しき建築家のうちに表はるゝ傾向である、と見て差支ない。

如何なる國家と雖も外國文明の移入に依つて國民思想の一時大に動搖することは事實であつて、強き國民は之れを消化し、同化して、自得のものとするに反し、弱き國民は之れが爲めに滅されたることは、世界歷史の敎ふる所である而して此の間にありて、我が國民は今日まで幸にも強き國民であることを示したのであつた。例へば佛敎渡來及び夫れ以後に於ける國內の狀況や、明治維新の世界文物移入及び夫れ以後に於けるが如く、其の初頭一時大に動搖したる民心も、やがて我が民性は其の强さに一步を進めた以外に、一切の動搖は世界に雄飛する所以であつた、此の表面に現はれたる事實を掴んで、益々世界的に躍進せんとして居るのが、世界主義者の聲明で、此の事實より一步退いて、國家觀念の捧持を主張して、民性を重視し趣味に憧憬して、此の異狀なる近代的發展のうちに要約して居るのが傳統主義者と及び其の作品に見ゐる思想である。先者は益々海外文明を移入せんとし、其の據つて謂ふ處は「日本人の作爲は到底日本人の外に出でざるが故に、如何に海外樣式を移入しても、そはやがて、日本人の作爲の圈內を出ざるのみか、日本をして益々躍進せしむるに外ならない」と云ふのである。後者は、之れに反して、「海外文明の無制限なる移入はひ

いて我が國家の獨立權に危險なしとせず、否危險なりとするも、國家を異にして生れたる樣式である以上、之れを直ちに取つて用ふるは不合理なる事なしとせず、故に海外の進步せる樣式をつとめて彼等の見る處の現代日本固有の趣味と、民性を一致せしめんが爲めに、つとめて國風に變容せんとして、其の據つて立つ處は傳統の勢力である。吾人は兩者の說に尊敬すべき無多の重大なる眞理を敎へらるゝものである。

然るに、茲に、兩者の說に見ることの出來ない或る重大なる問題がある。それは即ち「批判能力」に對する論者の無反省なる點である。

惟ふに、現實的精神を注入せられ、覺醒せしめられなかつた私達の仲間の多くは、歷史、傳統、國家組織等の現實的、精神的、情意的、實的方面を觀ずして、徒らに官能生活の放縱なる空想と、理智主義的空想の、空中樓閣的建設に耽つて居るのである。かくて、當然の傾向として我國建築家中の一部の人達は當分安易なる建築界の狀態を樂觀して居る、享樂主義者とならうとして居るのである。彼等は曰く日本民族の一員たるよりも何某たることにより多くの誇りを感ずる。曰く、日本人たるよりも人間たることにより多くの權利及び義務を感ずるなどゝ云つて居るのである。人間の思想もこうなれば、個人から民族、又は、國家と云ふ現實的立脚地を飛び越えて、一躍人類へ飛翔しようとするのであつて、其の思想は全く抽象論的空想であり現實への手續順序に無頓着な、極端なる理想主義的空論である。かの佛敎文明によつて一時大に動搖したる我が國思想界も、やがて之れを消化体得したる、又基督敎の傳來によつて當時の國体擁護論者を裏切つてよく今日の文明を誘致したるが如く見ゆは、彼等建築的世界主義者の爲に萬丈の聲援をするものとして常に引用さるる實例なるが、深く彼等の思想の奥底に沈潛して考ふる時に、彼等は實に大なる誤斷に陷つて居ることを知るのである。何となれば、佛敎文明渡來當時の世界思潮と、今日の狀態とは、其の文明及び思想の內容、狀況等に大なる差異が

ある、殊に當時の日本と、現今に於ける我國の國際的地位及び思想界の狀況とは、全く異なりたる事情のもとに置れてある。尙基督敎傳導に關しても未だ必らずしも我が國に適するものならりや否や、尙疑問のうちにあつて直ちに取つて以て不都合なしと斷ずるは曖念といふべきではあるまいか、殊に一部基督敎信者中に於てさへも國敎樹立を目下の急務なりと絕叫して居る位である。而して、樣式に關する理想派の人々の思想も、丁度之れと同樣の誤斷の上に築かれて居るのである。

要之彼等は過去の事實を推して之れを將來に迄論及し樣とすれども歷史家の敎ふる處に依れば我が國近代以前に於て移入されたる文明は或る固定せる動搖少なき文明であつた。然るに、現戰亂の影響に依り、今や、世界を擧げて一切の思想は混亂し、一切の文化は動搖しつゝある世界的革命が現出せられつゝあるではないか。如斯動搖し混亂せる思想は現に我が國にも移入され一般思想界や社會制度等文化的レボリユションの既に逢着して居るが如きは、決して、過去の經驗を推して、之れを將來に迄斷定することを許されない事情があるものと信ずる、社會心理の不斷の衝動は決して人間の性情を動かすには置かないのである（文明協會發行都市の兒童高田保馬著社會學的研究）如斯人間性情の變遷に——人類の現出し得る一切の文化の根本をなす——に無頓着に論せらる推論には一顧の價値なきものと思ふ。

思想の自由と交通の至便と、科學文明の「インターナショナライズ」と人道觀念の高潮とは相互ひに交錯して共に建築樣式上世界的共通のタイプを生じつゝあることは近代建築界の特長と見ゆるが、吾等は斯の點に深き注意を拂はなければならない。

國民性の自然に適合する人道觀念や思想や科學を探究することなしに主張せらるゝ人道主義や科學的普遍方則の探究に、研究者の素質や境遇が意義を有してゐることに無頓着なる科學思想の槪念的認識の一形式に根底を有する、アプ

げに吾等は近代文明の産んだ偉人なる遊戯として、かくも壮観なる出來事を記るすに人類歴史の幾頁かを割くに躊躇しないであろう。吾等が美的先入を根こそぎにもぎ取らんとする、かくも偉大なる遊戯を何んと書くであろう。

「ストーンヘッヂ」よりスカイスクレーバー

「マスタバ」よりスカイスクレーバー。

天地根元の造りよりスカイスクレーバー。

吾等は今斯の相連續せる兩端を對照する。

唯れか斯の偉大なる皮肉の光景を云ひ表はすことが出來ようか。唯れか斯の廣大なる人類奮闘の跡を云ひ得ることが出來ようか。私は今更の如く打ち驚く。驚きはやがて靜かな心の池に投せられ感激の波紋を産みて、はてしもなく相像の波は擴がり行く。

私は限りなき悲哀の心をもて、かくも盛んなる人類が生の進軍を見送る。そして私は耐へ難き暗い心をもて獨語する。

噫々可愛想に彼等も亦死地に向つて進んで行くのか！。

あまりに壯大なる現代建築の遊戯は又あまりに慘酷であつた。彼等が盛なる建築文明の經營は、やがて死城を築くことに氣附かなかつた。多くの人々の、血や、肉や、骨を、下積みにしながら、唯一人の資本家は微笑んで居る。冷酷なる科學者は計算に誤りなきことを誇つて居る併し彼等の血液のうちには唯一滴のセンチメントも交へない。最もシムプルナ併し最も憐れな彼等は「サイエンス」と「ヒユウマニチー」とに無關心であるらしい。クリチカルサイエンスが囁らす「イデアリズム」の藥の一滴だにも飲まんとしたことはないだろう。現代建築のかゝる壯觀なる墮落はかゝる資本家や眞理を研究すると云ふ冷酷なる科學者達の虛榮の賜である。

野に咲く一輪の花だにも如かなかつたのはソロモンの榮華ばかりか、吾等が眞うに人間らしい生活をする爲めには、かく偉大なる雲際城も寒村の茅屋だにも如かないであろう。

私は時代の眞相に忠實なれ、そしてそうするのか！。

ことが最も道徳的であり嚴密なる現在主義者の立場は茲にありと主張した。加ふるに道徳と一致しない一切の美を排斥した私の心は、かゝる時代の奇形に對して其の存在と發生の理由を許さないであろう。だがこの建築的時代の寵兒を呪ふものは恐らく此の世の中で私一人かも知れない。併し私は信する、若しかゝる建築の主流が永久に世界の表面と空間とを占有する樣になれば其の時こそ人類は金〻眞理の爲に虐げられて、歴史には、唯虛榮と、野望と、爭鬪のみが殘されるであろう。私の筆はかゝる奇型の建築に對して頗る酷烈である。

そんなものは半分から折つちまへ！。

噫マスタバよりスカイスクレーバー。

ストーンヘッヂよりスカイスクレーバー。

天地根元の造りよりスカイスクレーバー。

私は斯の大きな對照のうちに沈面して、此處にも亦相容ることの出來ない、宇宙の二元的對立を感せずには居られない。更に私は疑ふ、建築は、はたして進歩したるや、建築の進歩とは一体何を意味するかを。

『一切の美は道徳と一致せざる可からず』

今日の處では一種の謎である。吾等は斯の謎を背負ひ、今や迷宮の前に佇みて永遠の扉を叩かんとす。

斯の謎！。然り斯の謎こそ、はてしなき迷路の奥に秘められたる鍵の外解くことは出來ない斯の鍵の把握こそ、斯の鍵の究盡こそ、尊むべき若き建築家達が肉を躍らし血を湧かして迷ひ歩く永久の綱であらう。

とまれ私は時代の推移と科學の發達に依る建築構造の進歩とは吾等の建築美に關する觀念を根底より改革し併而吾等が創作せんとする藝術の世界は材料や構造や或は手法の發達に依つて動搖し、此の動搖のうちにやがて純一なる或者を創造せんとする、其の觀念の根本となる處の道徳に覺醒しなければならないことを汪遠ながら書いた積りである。

敢て言ふ迄でもなく、私は公平に見て、科學の發達が齎らす建築上に於ける幾多の惠みや是認するに躊躇しない。構造が自由になつたこと耐火耐震等の危害に對して安全になつたことなどは將に近代建築界の驚異である。而し如斯建築界の異狀なる發達は、人類がより善なるより合理なるより本然なる生活欲求を助長し、並流し、誘導したのかと言はゝ、吾等は『必らずしも然らず』と、答へんとする者である。現代建築の基潮に對する私の大なる疑問はこゝにある

二重の役

凡そ善き性質の人は、其智識の進むに從て、自ら此の世に二重の役を扮演せざるべからざるを感ず、即ち實際の役と理想の役是れなり、其人に貴ふ可き所の者は凡て此感情の中に根底す



樣式の上にあれ (下)

會員 村野藤吾

一、序論
二、樣式再現は愚策のみ
三、科學の進歩と美的觀察の時代錯誤
四、國風問題と批判能力
五、無目的なる現代建築樣式の煩悶と其の解釋

四 國風問題と批判能力

超樣式に對する私の議論は叙上の三項に依つて曲りなりにも略其の意を盡されたと思ふ、然し、それは、見樣に依つては純然たる現在主義者としての立脚地に於て、既成樣式に對する一種の否定的態度とも謂われないことはない故に私は私の所論をもつと徹底させる爲めに、即ち超樣式論の根底をもつと鮮明するために、殘されたる問題につきて研究する必要がある。何となれば謂ふ迄もなく超樣式とは無樣式でなくて吾等が有する道徳觀念の統一する建築智識が人生の目的、人間の自然的な欲求に對して判斷し識別し、助長して以て、吾等に取りて「不斷に新らしき樣式の創造」に對する研究にあるからである。以下の論文は、或る意味に於て超樣式論の全肯定的解釋とも見られないこともない。

サスや、グロテスクや、雲肘木や……などはギリシャや、ゴシックや、飛鳥や……の時代に於ては最も正しいそして最も自然的のものであつた。然るに、吾等は今も尚ほ之れを美として感するであらうか？。否感ずることは正當であらうか？。

過去に於て美であつたものも、現在では必ずしも美でないものがありはしないか。又過去に於て必要であつたものも、現在では必ずしも必要でないものがありはしないだろうか。こは吾等に取つて大に考ふ可き問題であると思ふ

過去に於て面倒な構造も、今日では極めて簡單に出來る様になつたものがある、過去に於て超經濟的であつたものも、今日では經濟的でなくてはならぬものとなつたのである。例へば、雲肘木や蟇股や原色であくどく塗つた道物など私には有難すぎて決して美意識の動かないものである。又大黒柱に一尺角の樽を用ひ様として莫大なる金を費さうとすることよりも、鐵筋コンクリートの柱に樽ベニアでも張れば、五寸角で出來る上に經濟的ちやないかと云ほうとする態度に贊成するものである。

だが、私は雲肘木や蟇股や極採色や一尺角の樽柱を必ずしも必要とは思はない。併しそれは私に取りて史的考察の上に將た美的追想の上に、已が心の琴線を奏でる天使の音樂を聽き、太しき柱の圍りに圍繞する家族制度の根義に迄も私の心を引きのばさんとする。だが、切實なる必要と、そして、私の思惟とは協力し、社會的要求として、そこに本然なる道德的觀念を構成しながら、私の既定の希望は私の先入と空想を裏切つて、雲肘木を鐵のブラケットに極採色を「ペンキ」や「ワニス」に、一尺角の大黒柱を五寸角の鐵筋コンクリートに代へ、オーダーや、アーチに表はされたヘレニズムや、ヘブライの思想を、鐵やコンクリートで表はさんとするうちにより合理的なる美を感せんとするものである。私はこうした態度のうちに、より高き道德性の香を感受し、より本質的なる美的感情を移入するものである。

若し唯れか鐵のブラケットは雲肘木よりも美でなく、ペンキは極彩色よりも美でなく、五寸角の鐵筋にコンクリート柱は一尺角の樽柱に比してプロポーションが惡いと云はゝ、私は其の人に云つてやりたい。

君は千年前に生れた方が幸福だ！と。

道巾の狹い都會の眞中に、町を空中に延ばして人は年中空中生活をしなければならない様なスカイスクレーパーを建てゝ、それが狹くなれば、其の上にどん〳〵積み重ねて行く様な今日にプロポーションがどうの、ギリシャのオーダーのプロポーションがこうの、ゴシックの何處はどうの、と云つてるのは實に寒迦氣切つたことである。數十尺餘も上にある蜿蜒のモールヂングがどうあらうと、バラペットのプロポーションが少々位どうあろうと、そんなものは少し離れて見りや、ろくすつぽ見ねやしない。しいて見ようと思つて建物から離れてもすると、建物全体が他の建物の爲めに隱れてしまう様な今日の狀態に、クラシックや、ルネッサンスの考へで小言や批評をするなら私は其の人に云つてやりたい。

君は先づ世界經濟を自足經濟に、今の文化をイモ虫の狀態に返へすがいゝ！と。

私達の様式はこうした道物の先入主に在りて時代を誤判し、時代様式を建設せんとしてバラドックスとヂレムマに陷らしめる。

事實、サイエンスの進歩と、時代の轉化とは私達の過去の研究に依つて獲る一切の美意識を根底から改革しなければならないことを要求する。

若し吾等が、時代の眞相に忠實であることが建築行爲の上に最も道德的であるなれば、私達は型や色などの技葉の問題よりも、もつと科學や、材料や、之れに關聯する構造や、意匠上の理論等の根本問題の研究に依つて得たる形か色彩等の美的觀念を構成する方が、より本質的で且つよりフレキシブルなものであると思ふのである。建築家は一面に於て科學者でなければならないと云ふ私の主張は此れが爲めである。兎に角こう云ふ風に本質的に考てくれば今日吾々が有して居る色彩や彫刻やプロポーション感念を除程改革しなければならないことは勿論である。

私に取りて眞實なる美は道德である。或る不注意なる建築家は一種のとらわれたる慨念より出發して線と影との交錯を得んが爲め石の上に巧妙なる意匠をする、かくて得たる建築家の賞讃は一方に於て石工の平均生存年限を著しく短縮するのである。何と云ふ冷酷な建築家の道樂であろう。

鞭と定規とを以て鐵鎖の奴隷を叱咤し、そして完成された石の溝を吾等は最も憧仰すべき、モールヂングと呼で、之れをクラシック建築のうちに眺めて典雅と優麗との讃辭を呈する。何と云ふ慘酷なる賞讃であろう。何と云ふみじめなアイロニーであろう。

吾等は何を苦しんで二千年後の今日尊い人間の生命を縮めて迄でも石の凹凸をかくも要求するとが必要であろうか？、併し或る人々の群は

如期にして改革されたる觀念が、やがて時代の眞正なる要求として、吾等が完全なる今日の一部分だけでも全人類の上に光被するのは其の幸福增進の運動に參加する尊い使命を推行する所以だと信ずるからである。

私は是迄便宜上構造と裝飾とを別にして論じたが、併し、もと兩者は、そが眞なる意味に於て共に內容を異にする美に外ならないことは今日美學上の定說である。即ち構造に眞なること所謂コンストラクチーブルールスと、裝飾に眞なること、所謂オーナメンタルツルールスとはそが道德的に一致すると云ふ意味に於て共通相照す吾等が實用を主とするも亦美的憧仰全力を注がむも、共に其の絕對價値は同一でなければならない。吾等がしいて之れを分離し樣とする處に建築問題の祓錠があり、爭鬪がある。吾等が何れの範圍に自己の性格を見出さんとするも、要するに、建築をして其の目的を滿足させんが爲めの意味に於て、眞實に時代の眞相に忠實であるも、時代の文化に飛躍の要諦を與さんとする、尊むべき建築家の努力に依つて、相照の境地を見出すであろう。

私達は、時折、裝飾のペタクサ附いた構造物よりも鐵筋コンクリート其まゝの倉庫や、黑く塗られた鐵骨工場に、美術建築の眞の意味を感するとがあるのはよく斯の間の消息を暗示するものである。

原始人が二個の石の上に一個の石を置いたストーンヘッヂは、將に人類が始て知れる構造上の一大奇跡であつた。そして、彼等は此のあまりにシンプルな、而し、あまりに合理な壯嚴の上に、神美の桂冠を捧げて跪座した。かくも嚴肅なる美的原始的自然生活より人類は次第に都會に蝟集する様になつて以來、遂に現代に於ては、縱に通ずる暗いトンネルを昇降して、空中生活の奇觀を呈しなければならなくなつた。かくてスカイスレーパーは奇しくも現代建築様式の本流を代表する一大壯觀として Monolood の螺塔に比するべく、ピラミットの偉大にも劣るまじく見ねる。

謂ふ、そうしなければ貧弱だ！と。

だが貧弱とは一体何を意味するかを其の人達は知るまい。同時に彼等はリッチな裝飾を何と必得可きかをも知らないであろう。

吾等はこうした「バラドキシカルビユウティー」を現代建築の至る處に認めなければならないことは眞に私達に取りて大なる不滿ではないか。

吾等が書く唯一本の線のうちにも深い人性の要求と、神への捧仕と、感謝と、そして人類愛のおさへ難き涙の一滴を含んで居ることを彼等は知るまい。

私には深く刻まれたる石の彫刻よりも一度に「キャスト」された「プレーン」なコンクリート壁の方がどんなに有難いことであろう。

敢へて云ふ、私は道德に一致しない一切の美を排斥する。吾等は一個人として平等なる資格を相互に尊重しなければならないことが正當である以上、一切の思索と行爲とに先たちて道德的に覺醒しなければならない。

な問題に對して勿論私の貧弱な能力のよく解決する處でないが、之れを生物進化の現象について考察して見る。進化とは要するに、時却と、遺傳と、環境とに因る生物界の變化現象である。之れが人類界に於ては、一度進化したる人類は永遠に野蠻未開の狀に逆行するとが出來ないことを意味するものである。人類は時の進轉と共に、其の肉体及び精神の變化を意味する。從而人類の一切の所有は漸化しつゝ尙歷史上の跟跡を標しつゝエネルギー不滅の無限大圓を步むのである。

又之れを人類學的考証に依頼するに人間の頭蓋骨は、時と共に變化し、從而、腦神經組織や智的能力に影響を及ぼすことを立證して居るのである。嚴密に云へば、人間は時がたより〳〵に遷つても、それは明かに能力の變化を意味する。つまり人間の能力は時のTimeconである。こう云ふ風な考へから、私は疑もなく同一ならざる人間の性情は同一なる樣式を現出することの不可能なることを裏書するものであると信ずるものである。何となれば。歷史や對照の研究は智情の作用に憩へなければならないからである。

又樣式再現に關する研究者の側より觀察して研究者の個性は必らずその研究に影響を及ぼすものである。獨り研究者の個性ばかりでなく、その時代と時代思潮とも研究に影響を及ぼすことは到底まぬかれない事であるから、其の時代を離れて他の時代に發生したる樣式を再現し樣としても、人間の個性を全然沒却することが出來ない限り、史的研究の立場より見るも不可能の事に屬する。要するに、時代を異にしては、人間の認識の對照内容が同一對照に對して一致し得ない事は、樣式再現論者に對し、彼等の計畫の無意義と不必要を語つて餘有りと云ふべきではあるまいか。

十八世紀に於ける優秀なる英國の建築家達は斯の問題に對する最も適切なる失敗の經驗を教へて居る。當時、彼等はあらゆる史的考證と、一切の細密なる施行とを以て忠實にゴシック建築の再現を企てたのであつた。然るに此の人間

として成し得る限りの企圖も、終に眞のゴシック建築を得ることが出來なかつたと云つて居るのは、最も興味あることである。若し夫れ樣式再現と云ふことが、異世の、乃至は異邦樣式の時代的「モデフイケーション」であるなれば、それは再現にあらずして一種の模倣と云ふ可きである。吾等はかゝる不徹底なる妥協に藝術の名を冠することを恥辱だと思ふ。そして吾等はかゝる過去の特權に對して、吾等のドグマを加へることの僭越を思ふものである。

線と色との特異な交錯の齎らすいみじき旋律のうちに沈面して、そこに、時代の所有する特有な一切の世相を追想する時に、吾等はかゝる愚等に最後の望みを斷つまでもなく、十八世の終りに於て、最も精密に、且つ最も熱心に、其の不可能なることを立證されて居るのである。

然り、紫空に輝く典雅の宮は、三千年の昔、アクロポリスの丘上に建てられてこそ、眞の「クラシック」であり得た。北歐の暗雲を衝いて高く光る寺院の尖塔を望んで、打ちつゞう善男善女に天國を教へ、一切の權力より脫して市民の特權を教へたる早鐘の響き、それは總て、昔のゴシック建築のみがうける譽れであつた。時は移り人又去り、民族は滅び國境は淪り、世界は幾度となく榮枯盛衰の夢をたどりて、今は昔の影だに留めず。此の時に方り樣式の再現、それは到底不可能なる計畫である、空虛である、無意義である、憐れむべき執着の眩影である。驚くべく寬恕なる建築家等よ。

諸鄕は大英博物館内のフラグメントを組み合せて、プロポーションの正しいパースペクチーブを見樣として、卿等の尊い手を以てすることを止めよ、それで眞のクラシックは流れて來ない。それで眞のゴシックも現れて來ない。藝術的更進に對する「ヂスカレッヂ」は、こうした愚かなる間隙から侵入するのだ。

私は斯の意味をもつと擴張する。そして僭越なる未來派の樣式論者に向つて、吾等が過去の樣式再現論者に適用したる一切の言葉を其のまゝ提供して、其の噪急なるを嗤ふ。

私は嚴格なるプレゼンチストである。現在に生の享樂を實感する現在主義者吾等に、過去と未來の建築樣式を與へんとすることは不必要である、寧ろ罪惡である。

驚く可く無頓着なる美的夢遊病者等よ、卿等は實に幸福である、併し憫然である、鄕土は眞に寬大である、併し罪人である。

噫一切の費用と勞力とを計算の外に奴隸を苦使し、定規と鐵鎖の苦痛から生れた、クラシックのモールヂングやアカンサスや……の强烈なる陰影のうちから、吾等は、今日何を感ずるか、沈痛と、號泣と、哀訴と、そして、最も恐ろしき悲哀とを痛感する外に、クラシック藝術の齎らす何等の惠與をも受け樣としないのである經濟問題や勞働問題に吾等の最も純なる精神の一部をブポートせんとする現代に、こうしたモールヂクや、アカンサスを、今も尙强制せんとするのは、何と云ふ恐ろしいアイロニーであらうか。

私は將來と云ふ言葉が甚だしく獨斷的限定的であると思ふ者である。併し若し、吾等の努力と修養とを以て、追求し、憧仰して止まない理想が將來を意味するなれば、それは私に取りて幸福である。吾等の事業を遂行する唯一のモーチーブである。私はこうした理想を考へない現在論者でないことを悅ぶ。

凡そ吾等に取りて最も必要なるものは、總て完全なる今日である。之れに依りて吾等は生の滿足を實感し、理想への躍進を生命づけられるのである。過去は總て骨灰であり、將來は總て眩影に過ぎない。共に私に取りて、そは、感情の浪費であり、空虛なる必要に過ぎない。

題しらす

にほひつゝ散りにし花ぞおもほゆる
裏は綠の葉のみしげければ



樣式の上にあれ

（中）

會員　村野藤吾

一、序　論
二、樣式再現は愚策のみ
三、科學の進歩と美的觀察の時代錯誤
四、國風問題と批判能力
五、無目的なる現代建築樣式の煩悶と其の解釋

三、科學の進歩と美的觀念の時代錯誤

換言すれば樣式は時代思潮と地方的民族的精神の經緯である。反映である。

必要は遂に構造の進歩を促した。之れを動かしたるものは云ふ迄もなく科學の進歩と之れにともなふ社會組織の變化、社會狀態の進歩と之れにともなふ科學の發達である。而して之れは總て人類の自由　本能の發現であつたのである

サイエンスの發達と、社會狀態の進化とは共に俱に建築の内容を動かし、内容の動搖は樣式を動かし、樣式の動搖は構造と美的意義の變化を意味する樣になつたのである。

私は今斯の意味を擴充する。

或る時代の建築的要素は、其の時代の手法か構造か裝飾に依ることを以て、最も幸福にして且つ正當なることであると思ふ。例へばアカン

復刻論文

「日本建築協会雑誌」第二集五号～八号（大正八年五月～八月）

村野藤吾

様式の上にあれ

大正八年の青年建築家としての村野藤吾氏の思想を知る歴史的文章である。

この正月（昭和四十七年一月）に村野先生より「読後感」をいただいたので、復刻のうしろにのせた。



様式の上にあれ（上）

會員　村野藤吾

一、序　論
二、様式再現は愚策のみ
三、科學の進歩と美的觀念の時代錯誤
四、國風問題と批判能力
五、無目的なる現代建築様式の煩悶と其の解釋

一、序　論

様式の上にあれ！。

様式に關する一切の因襲から超然たれ！。

吾等は様式の上に只感覚の能力しかもたないものである。だから、既に過ぎ去つた様式でも亦現代の様式でも、様式と云ふ様式の、一切の既定事實の模寫や、再現や、復活などと云ふ、とらわれたる行爲を止せ！。

それは全く無意義である。無益である、否罪惡である。それよりも自分自からの思惟の發達と、觀念のモーラリゼーションに自からの自由意志に據れ！、と云ふのが私の結論である。私のマトウである。

斯の結論ははたして正當なりや。斯の結論の

眞相は何であるかを窮尋する爲めに、私は以上の順序に從つて之れを研究して見よう。私は斯の意味をもつて私の眞うの心の言葉で飜譯して見ようか。元來私は「様式」と云ふものを定義する事については、不必要とするものである、否無意義とするものではあるが只私の推論上便宜の爲めに、私は様式に關する過去の聯想や慨念をまとめて次の如く定義する。だが、之れを將來に迄特定し得るかどうかは、私自身にも不可解である。

『様式とは構造と裝飾との或る特有なるオルガニゼーションである』。

吾等は「何々様式」と云ふ已定條件を認める以前に、吾等は、吾等の建築的意匠を構成すべき一切の環境に忠實であり條件の「オルガニゼーション」に吾等の修養に依つて得たる理想（或は觀念）を以て之れを「オルガナイズ」仕様とするものである。

極端な謂ひ方か知らないが、實を云へば様式と云ふものが何であらうと、それは私の關するところではない。そんなことは型態學や分類學者達の閑仕事に過ぎない。

オーダーの高さが直徑の幾倍あらうと、ペヂメレトの角度が幾度あらうと、サイマレクタの格何がどんな風であらうと、それは私に取つて大した價値のあるものとはならない、此頃の様に鐵やコンクリートで機械的に、もつと痛切に云へば生産的に、どし／＼造つて行かうとする狀態では、そんな面倒な、——而し、一部の古典的な貴族的な官僚學者達にはそれは一種の物識りとするかも知れない貴重なものであらうが、——事柄を忘れまいとする爲めには、餘程細心な注意と努力とを要するのである。かくて、私達の心の底から芽生様とする最も自然的な、そして本質的な美的覺醒は、それが、成長の間もなく枯れて行く。

吾等が價値とし、そして、吾等の思索が現實と一致されなかつた時に起る苦痛の高價な反語は、如何にしてか眞實に人間を養ひ、如何にして人間により高い香を彼等の感情のうちに見出

すことを得るか、又如何にして全人類をより聖なる、より純一なる、高い境地へ歩ましむるかと云ふ、私の建築家としての義務をはたすことである。つまり私は、義理ち權を知り、之れを知ることに依つて終始し、私の修養に依つて得たる、構造と、裝飾と、而して之れを統一する或る理想を以て、私の建築行爲の最初の出發點と！様とするものである。

私の意匠するものにどんなものが出來るかわからない。それがクラシックに行かうと、それがコシックに歸らうと、それが又ルチツサンスに合体し様と、乃至は米國式であらうと、それは見る人々の權利と、獨斷とに勝手に任せる。

只私は、羅列せられたる一切の建築條件を忠實に体得する、だが之れをどうオルガナイズするかは私の權利である。教育と道德とが私の本性を、私の靈魂をめざめさしてくれる時に自覺する私の義務である。

二、様式再現は愚策のみ

不思議なここには今頃何々様式のプロポーションは幾程だから、幾程にしなければ駄目だの、此處をこうすれば何式になるから、そこをもう少し變へたらどうだ！、だのと云ふ人がまだ、我國建築界にかなり勢力を有つて居る人々の間にあるから驚く。何と云ふ愚な忠告であらう。勿論私は斯の忠告を感謝する、それは私の美的感情移入の一の參考に過ぎないものとして。

一体吾等は現在千九百十九年に生存して居るものである。然るに吾等は今日已に過ぎ去つた例へば十八世紀だの、七世紀だのと云ふ、過去の様式を眞實に再現することが出來様か？。

これが様式再現に際して起る第一の疑問である。曾て伊藤清造君の様式論中に逃べられし如く、吾等の全感情を過去に沒入しない限り、人間の能力では到底出來ないものと信ずるのであるが、此の事は單なる推論や、考察抔に依つてのみ斷することは出來ない。深く人性の神靈的生物學的に討究する必要がある。かゝる廣汎

日本建築協会住宅コンペの歩み

大正10年(1921)～昭和8年(1933)

坂　本　勝比古

1.　日本建築協会住宅コンペの史的位置

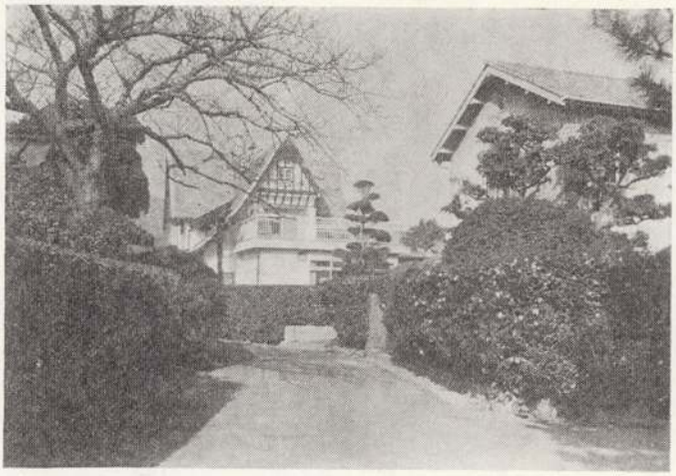
すみ切った空から陽光がふりそそぐ晩秋のある休日，わたくしは阪急沿線桜井にある桜ケ丘住宅地を訪れてみた。この住宅地は，日本建築協会にとって記念すべき画期的な事業が行なわれた場所として，かねてから聞きおよんでいたところであるが，初めてこの地を訪れてみて，わたくしは今さらのように大正時代の住宅建築がもつわが国住宅建築史上の重要性について認識を新たにした次第である。それはこの住宅地にかつて建てられた一連の住宅建築がほとんどそのままの姿で，しかも全く明るい雰囲気のなかに生きつづけていたからである。

そこには明治時代の格式張った洋風の大邸宅や，和洋両館の併存型，そして擬洋風がかったぎこちない和洋折衷住宅の名残りはみられなかった。そこにあるのは，新らしい日本の都市中流住宅が理想としたモダーンでスマートな，住宅改良の意欲に燃えて作られた一群の住宅建築の姿であった。わたくしはこの住宅建築群を通じて，大正デモクラシーと呼ばれた当時の自由と繁栄の古きよき時代を感じとることができたのである。

この住宅群は，正確にいうと大正11年11月開催された日本建築協会主催，「住宅改造博覧会」に建てられたものであり，このとき約5,000坪の住宅敷地に，27戸のいろいろなタイプの住宅作品が出品されたのである。その内訳は，宗建築事務所1戸，片岡建築事務所2戸，横河工務所1戸，葛野建築事務所1戸，真水三橋建築事務所1戸，竹中工務店2戸，大林組2戸，鴻池組1戸，橋本組1戸，銭高組1戸，横田組1戸，清水組1戸，あめりか屋1戸，ヤマトブロック1戸，田村地所部1戸，大阪住宅経営ＫＫ1戸に加えて日本建築協会から8戸が出品展示された。協会から出品されたものは，いずれも協会主催の第1回および第3回改良住宅懸賞設計図案の入選案からえらばれたものである。このようにコンペの入選案を実際に建てる方針で懸賞設計を行なった例は，住宅建築の場合，わが国ではこれが最初ではないかと思われる。

大正6年創立された日本建築協会が第1集第5号（大正7年1月）で，“社会政策と住居改良”と題した一文は，住宅改良に対する協会の積極的な意志表示を行なったものとして注目される。

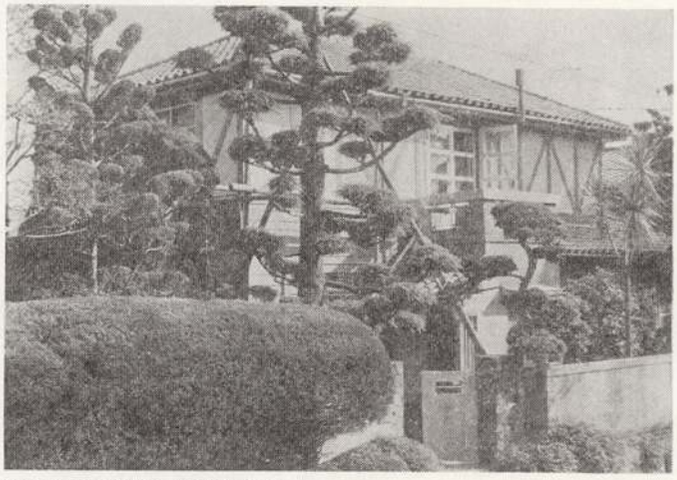
桜ケ丘住宅改造博覧会　現存住宅その1



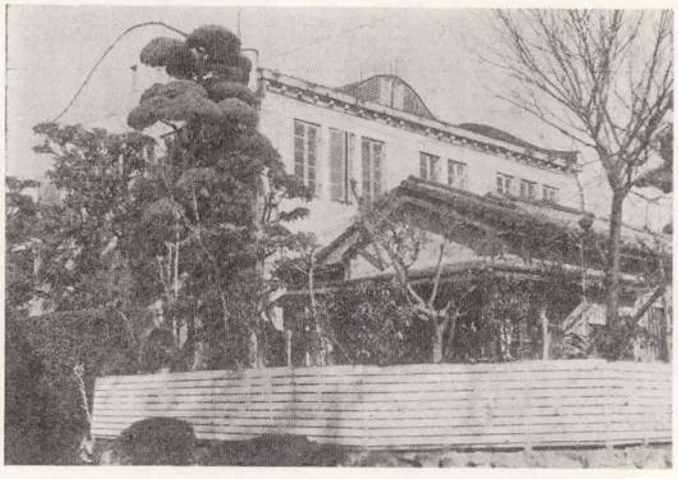
桜ケ丘住宅改造博覧会　現存住宅その2



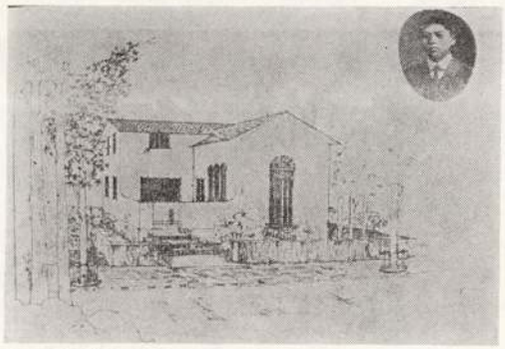
桜ケ丘住宅改造博覧会　現存住宅その3



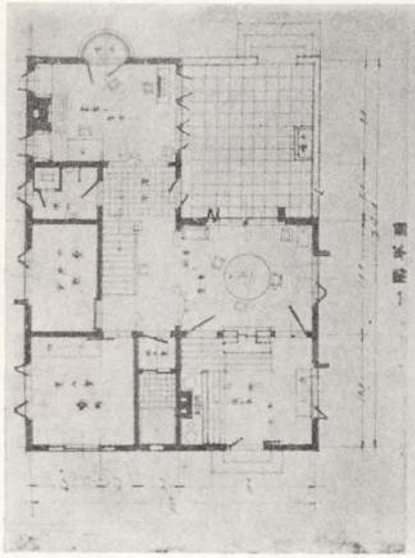
桜ケ丘住宅改造博覧会　現存住宅その4



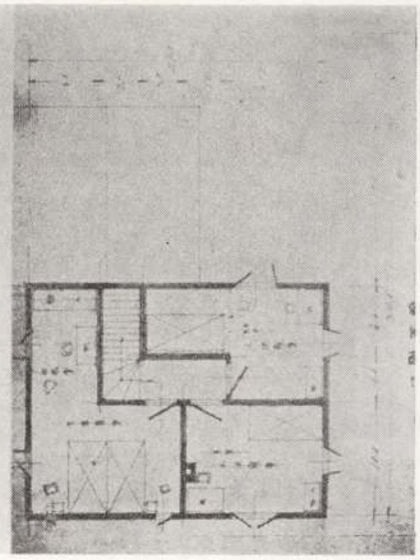
第一回懸賞募集



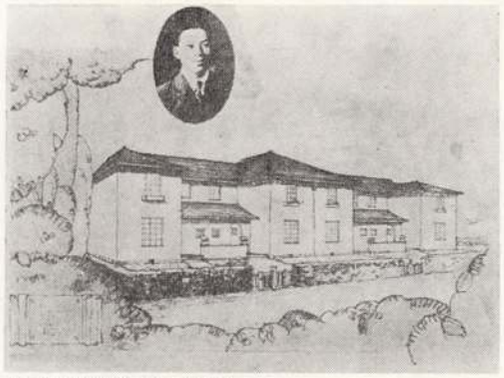
第一回改良住宅設計第一等当選　大正10年
（設計者　谷本甲子三）



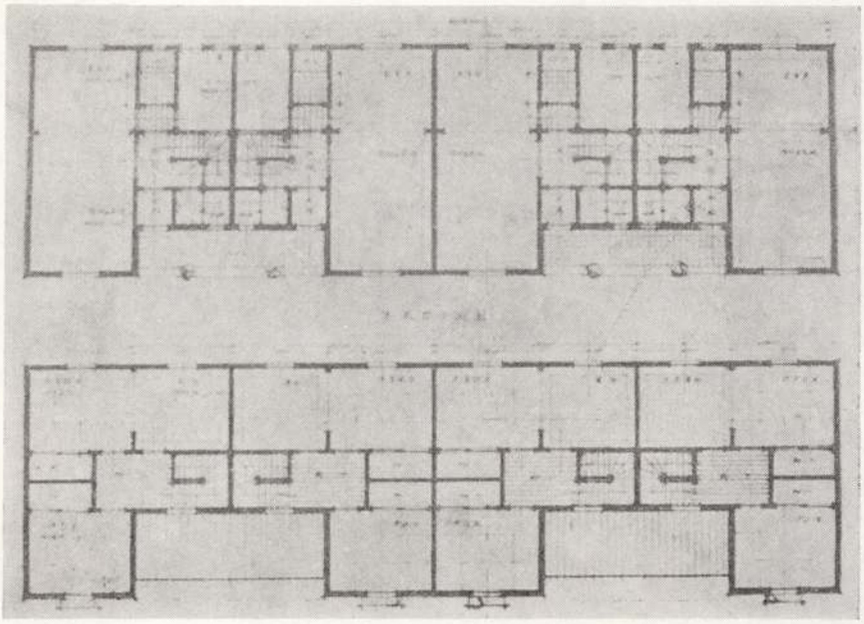
同平面図▶



第二回懸賞募集



第二回改良住宅設計第一等当選
（設計者　中村　一秀）

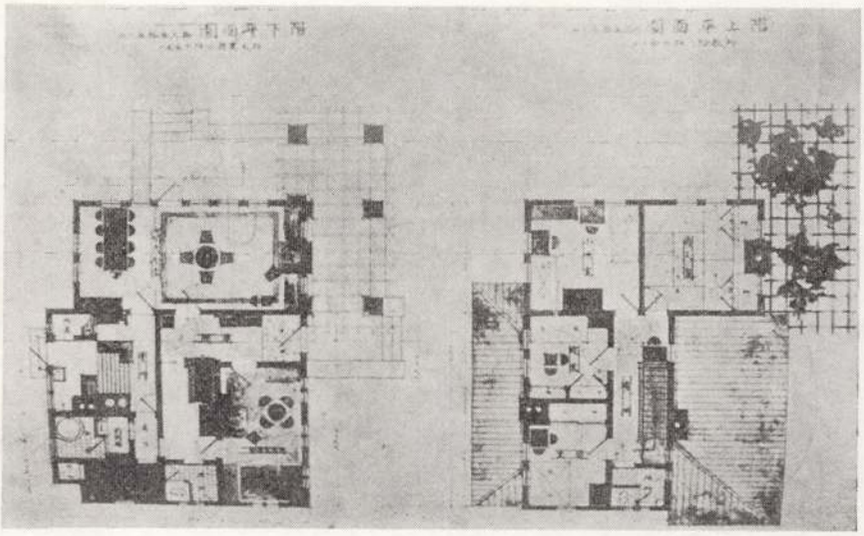


同平面図▶

第三回懸賞募集



第三回改良住宅設計第一等当選　大正11年
（設計者　大原　芳知）



同平面図▶

それによると"社会政策として国家及自治体の施設は甚だ多岐に亘り，救貧問題を始め労働取引所の活用，老衰者への給与，強制保険の実施等挙げて数ふべからざると雖，近時漸く切迫せんとする都市住居の欠陥を救済するを以て，最大急要の施設となす。……家屋の設備不良ならんか，吾人の健康は常に危殆に瀕するなり，又其状態陰鬱不快に沈滞せんか吾人の家庭は如何にして其健全なる平和を維持すべきや，居は心を移すとは古来言ひ伝ふるところにして，吾人生活の幸福を左右する根源は，実に其住居の適不適にあることを知らざるべからず，真実なる社会救済の政策は徹底的に其家屋改良を実現するに在り，我国の識者何故に此問題に想到せざるや"。（「建築と社会」第1集第5号より）とある。

このような住宅改良に対するなみなみならぬ気慨が，たんに主張のみにとどまらず，住宅改良を目的とするコンペとして現われ，さらに一大デモンストレーションとして"住宅改造博覧会"にまで発展していったとみるべきであろう。

日本建築協会の住宅コンペの歩みを顧みると，大正9年大阪住宅経営株式会社より委託を受けて，連続4戸建の都市住宅コンペを始めたのを皮切りに，大正10年中頃から同11年初めにかけての約半才の間に，連続して3回にわたる住宅コンペを，協会独自の立場で行なっている。

この意味はわが国住宅コンペ史上かなり重要であって，このとき選ばれた20数点の入選案は，当時の一般市民が住宅に求めていた住宅改良の理想の方向を示すものとして注目しなければならないであろう。またこれ以後，たとえば昭和2年6月"将来の日本の住居"と題した住宅に関する懸賞論文の募集をはじめとして，後掲のごとく，昭和8年まで18回におよぶ多くの住宅コンペの実施は，いかに日本建築協会が，都市，近郊住宅の改良に熱意をもって取り組んでいたかを示す，貴重な業績と考えることができるのである。

この時期以降，他の住宅コンペで行なわれているものは，まず，大正4年9月実施された報知新聞社主催の「住宅競技設計」を最初として，大正5年12月，同8年に行なわれた住宅改良会主催のコンペ，大正10年東京土地住宅KK主催の"新住宅図案懸賞募集"などがあり，昭和にはいって，大阪毎日新聞社主催「大毎懸賞募集健康住宅設計」(昭和3年7月)，東京朝日新聞社主催の「朝日中小住宅建築設計競技」(昭和4年)，また大正13年5月設立された同潤会の行なったコンペ，第1回「5室以内の新住宅設計」(昭和6年)，第2回「職工向分譲住宅設計図案募集」(昭和7年)，第3回「工場労務者向住宅」(昭和10年)などがあるが，住宅コンペを首尾一貫して行なっているのは日本建築協会のみのようである。

住宅展については，ほぼ同時期の大正11年東京平和博覧会，住宅展示会が行なわれているが，これは出品希望者を募っての作品展示であったため，その意図は本協会のそれと少しく異なったものであった。

したがって大正後半から昭和前期にかけて行なわれた日本建築協会主催または受託，協賛コンペの経緯は，わが国近代都市住宅発展過程のなかで重要な史的位置を占めるものであり，その出発点となった桜ケ丘住宅改造博に出品された作品の実例を現在にみることができるのは，大変興味深いものがあるといえるのである。

2. 大正期の住宅改良

さて，建築協会が行なってきたこれらの数々のコンペは，いずれも都市独立中流住宅または小住宅程度の規模のもので，延坪35坪内外，建坪で20坪前後のものが大半を占めており，住宅改造博における建築協会の意図も"現代の国民生活に適応した中流の住宅を実現して，聊か国民生活の文化向上に資益する処ありたいというのが本博覧会の目的である"としている。これはわが国の住宅が近代化していく過程で，中小住宅にその改良の方法が盛り込まれてこそ本当の進歩発展がみられるものであって，明治時代の大邸宅の洋風化とは全く違った意味でこの時期の動きをは握しなければならないのである。

したがって，大正時代後半におけるコンペの入選作やその審査評をみてうかがえることは，わが国の都市に急速に増大する人口による住宅難の緩和や，また，あらたにふえつつある中産階級層の住宅対策について，いかなる方式の住宅が適当であるのか，その規模，構造，設備とともに間取り，平面の機能を追究することによって，念願であるわが国住宅の改造，近代化を計っていることは明らかなところである。ただこのような場合においても大きな問題として提起されていたものはなにかというと，伝統的な坐式生活形態を椅子式生活形態に転換させようとすることに対する困難性であった。

この問題について，住宅改造博出品住宅についての日本建築協会の態度について，前述に引続きこれをみると，

「現代の生活は旧来の居坐式因習から進んで倚子式生活を採り入れやうとしてゐることは争はれない傾である。殊に中流生活を営むものは，日常の勤務に倚子を使用し，洋服を着用しつゝ活動して居る男子は，家に帰って畳の上に安逸を欲するよりは居坐の遺風にむしろ苦痛を感じて来た。殊に将来の国民である児童に於て然りである。従って現代の住宅は居坐の生活に加へて倚子生活も採り入れやうとしつつあるのである。唯老人並びに婦人達の習慣が此の傾向に対して尚苦痛を訴へて居るために，一足飛びに倚子式生活を丸呑みにすることが出来ないのである。従って今回の住宅改造は其調和を如何に計らんとするかが問題である。併し居住者の内容に斯く二つの相反せる傾向を有するために此両者の要求を満足せしむる手段として折衷の具体案を提出するのは止むを得ない。

従来の和風住宅を改良して漸次に此目的を達せんとする方法は最も温健な着実な運動であらう。夫れと同時に外来の洋風住宅を大膽に利用して之れを近代生活に活用しようとするの方法も決して無意義な研究ではない。前者は消極的であり，後者は積極的である。今回の住宅は後者の方針が大部分を占めている。改造住宅の名の起る所以である。」

これは和式，洋式の二重生活をしいられるようになっていた当時の生活環境を，一戸の住宅のなかでいかに解決すべきかという問題であり，これの解決が住宅改良のポイントとなるものであると考えられていた。したがって，いきなり洋風椅子式生活を基本とする急進的改良案と坐式生活形態を保持して漸進的改良を計る案とが当時の応募作品のなかに見出せるのである。

この傾向を大正10～11年の3回のコンペの概評からうかがうと，

	急進的改良案	漸進的改良案	従来の住宅に多少の改良を加える
第1回コンペ	1割	8割	1割
第2回コンペ	4割	5割	1割
第3回コンペ	8割		

となっており，急進的改良案が大半を占めるにいたっている。これは審査員の意向を応募者たちが意識した結果ともみられるが，椅子式生活への指向を当時の建築技術者たちが住宅改良の第一手段としていたことがわかる。

大正4年の報知新聞コンペでの入選案は，条件が純日本風であることの関係もあって，客間，居間，茶ノ間など畳敷きの和室を中心としたプランであり，翌5年の住宅改良会主催のコンペでは"和洋いづれの様式たるを問わず，中流改良住宅"である条件ながら，その入選案の多くは，応接室のみを洋風とし，他の諸室は和室である漸進的な改良案であった。しかし同8年の同会主催コンペでは，外観，平面とも洋風を主体としたものとかわり，本協会のコンペでも椅子式生活を主体とした積極的な住宅改良案が出されることとなる。

こうして，住宅の平面計画のうえでも，動線の集約化と，居室部と作業室部との分離を計るうえで効果の高い，いわゆる中廊下形式の採用，洋風住宅の平面計画上効率の高い広間型の導入，洋風広接間の付加，さらに居間，茶の間など家族団らんの場の重視，そして台所の改善など，今日のわれわれの住宅機能とも関係の深い平面計画上の斬新なアイデアが，このときつぎつぎに考案されている。

3. 建築協会コンペの特色

建築協会のコンペは年代順にこれをみると大要後掲の通りであるが，

日本建築協会主催または後援住宅懸賞設計競技一覧　大正9年（1920）～昭和14年（1939）

名　　称	主催または後援者	応募締切	設計要項	家族	敷地	工費	応募数
改良住宅設計懸賞募集	日本建築協会 大阪住宅経営KK	大正 9年2月10日	連続4戸建		112.5坪	15,000円	104通
第1回改良住宅懸賞図案募集	日本建築協会 (桜ケ丘住宅改造博)	10年8月31日	市街地における1戸建住家 延坪35坪　2階建	主人，主婦，老人1，子供2	50坪	約 6,000円	118通
第2回改良住宅懸賞図案募集	同　上	10年10月	市街地に建設すべき改良4戸建長屋　延100坪以内　2階建	女中1 主人，主婦 子供2	120坪	12,000円	138通
第3回改良住宅懸賞図案募集	同　上 (桜ケ丘住宅改造博)	11年1月31日	郊外地における1戸建住家 坪数任意　2階建または平家	計5～8人	150坪	12,000円	124通
阪堺電鉄田園住宅懸賞募集		14年					
懸賞論文募集「将来の日本の住居」	日本建築協会	昭和 2年6月30日	問題についての取材は自由 空想的事柄も差支えなし				
サンマーハウス設計図案懸賞募集	同　上	4年4月10日	木造平家建 建坪20坪以内		100坪 以内	経済的なること	
貸家住宅懸賞募集	同　上	4年7月					57通
大阪鉄道株式会社住宅競技設計		3年					
住宅室内設備設計図案懸賞募集	日本建築協会 大阪時事・京都日日 神戸新聞社主催	5年7月25日	中流程度の住宅における 室内の設計				
香里園改善住宅設計図案懸賞募集	日本建築協会・京都電鉄・生活改善健康住宅展覧会後援	6年7月15日	延30坪内外，木造建 丘上および山腹の平地		100坪 以内	3,500円 以内	
小住宅設計図案懸賞募集(神戸鈴蘭台)	日本建築協会	6年6月30日			100坪 内外	4,000円 以内	
メートル法に依る実用安価小住宅設計図案懸賞募集	日本建築協会	7年5月10日	大阪の近郊，記入寸法すべて「メートル」法 建坪100㎡木造2階建		300㎡	2,500円	341通
大美野田園都市住宅設計図案募集		7年8月					
緑ケ丘保健住宅		7年8月					50通
実際ニ建ツル住宅設計図案懸賞募集	日本建築協会	7年8月					
東豊中住宅競技設計		7年11月					
阪和上野芝住宅設計図案懸賞募集	日本建築協会	8年1月15日 13年2月15日	30坪以内		約100坪 内外	2,400円	111通

そのなかで着想のかわったものをみると，懸賞論文募集として"将来の日本の住居"がある。この一等当選論文加藤善吉の論文をみると，「将来の日本の住居なるものは，2,600有余年の間育くまれたる伝統的日本民族性を基調として形成されるべきものでなければならないと述べ，住宅の改良は都市計画上の地域計画（リジョナル・プランニング）をたてることが前提であることを力説するが，住宅供給対策として「アパートメントは適当でなく，元来わが国の民族性の理想は一家族一構の住宅にあり，その理想達成のため地域性の有効なる活用と区劃整理の断行，近代文明に於ける文化と自然との融合，都市と田園との結合の必要」を述べている。

また昭和7年5月に行なわれた「メートル法による実用安価小住宅設計図案懸賞募集」も協会が行なった数多くの住宅コンペのなかでもユニークなもののひとつといえるであろう。これは市街地建築物法施行令の改正により，メートル法の採用に呼応して試みられたもので，当時として時宜を得た企画であり，全国各地から341案という多数の応募がみられる。

建築協会は昭和6年から8年にかけてとくに集中していくつかのコンペを行なっているが，これらのコンペの入選案について，当時三越住宅部におられた岡田孝男氏は，6つの設計競技の応募案のなかから40案を選び，その内容を"小住宅プランの研究"と題して分析している。この研究の主意は多くの住宅コンペの当落の決定に当って，たんに審査員の主観的判断にたよるのではなく，科学的分析的判断によるべきであるとし，そのために多くの入選案のデーターを解析したものである。

また30坪前後の小住宅のプランを論ずるに当って，居室部（居間，茶ノ間，寝室，子供室，サンルーム，応接室）作業室部（便所，化粧室，浴室，台所，女中室）通路室部（玄関，広間，廊下，階段）に分け，そのうち居室部と作業室部の間に通路のあるものはもっとも便利なプランであり，これは小住宅にもっとも適当するから優秀なプランが多く，40案中の大半はこれであると述べているが，このプランは，いわゆる中廊下形式の平面形であるといえる。そしてこの科学的分析によると，その優劣は必ずしも入選案順位通りではないとしている。

日本建築協会が，昭和6年6月から同8年1月までの約1カ年半の間に，主催，後援を含めて実に8件の小住宅コンペを行なっていることや，大正10年の連続3回にわたる改良住宅コンペやまた協会のコンペが住宅のみに限られていた事情を加味してみても，その息の長い住宅改良への熱意を感じとることができる。

また，事実，日本建築協会が大正後半から昭和の前期，第2次大戦までの期間わが国都市住宅発展に果してきた役割りは，以上に述べた住宅コンペの歩みを通じてみても明確に位置付けできるものであることを深く感じるのである。

文　献

"建築と社会"バックナンバー大正6年～昭和8年
岡田孝男「小住宅プランの研究(1)，(2)」建築と社会昭和8年，4月，6月号

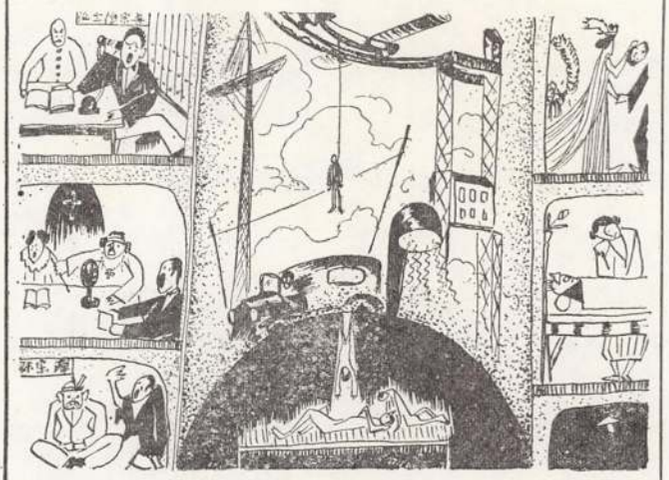
（さかもと　かつひこ　神戸市住宅局学校建設課長・工博）

「建築と社会」第11集5～9号より

五十年後

谷本蘇牛

アパートメント式醫院つまりお醫者さんの綜合ビルが建築せられるそふである、時代の要求だと言ふ、病院の向ふを張るのやない。デパートの向ふ張る小賣商人の結束とも勿論違ふそふで、患者に取つては非常に便利だと歓へてもらつた。鐵キンコンクリートの寺は神戸に建つた、五十年の後にはどふなる？各宗各派綜合のアパートメント式宗教ビルが建つ勿論坊様も身體に唆込そふな新スタイルの洋服をお召しになる、そして一一其筋家等へは出張せない事になる、死んだ方でも早速と電話で用達が出来る。



葬家「アモシ～」鳳宗丸取派です、實は昨夜宅が一寸てこねたものですからお願申します。

寺「ハイ～」下町ビルの駄三やさんですか、承知しました、では鬼穴課方の へ廻して置いて下さい、八時二十分に御經の放遣を致します、さよなら……

是れでお仕舞ひである、少し遠い所では密中輸送で運んで来る、其處で葬儀所ではこん～受附けを、其して副員電穴へほり込むと穴萬ボルトの電熱でつさりやる、勿論灰も殘らない規定の八時二十分が來ると歸命無量や讃美歌や高天原等が放遣される。

何んとけちた世の中に成つたもんだろふ、氣の弱い人は今の内に駄佛をやるんですネ。



ストップ

谷本蘇牛作

おい等の女つちやんは人會を左右する重大な任務を濟めてゐるんだよだから大臣よりもえらい人なんだよ、本當だよ交叉點へ行つて御覧。

何る程とうなづかれるものがある、ある時

あこがれの日本へ青年の士人達がやつて來て大びに等こんた事がある其れは文明の利器にではない、シリソリダンスは自分達の國許りだと思つてゐたのが日本へ來て、しかも人間ではなく自働車で自働車、さては自轉車と人間と言ふ具合に、しかも屋の掛り方一つでぶつ初めると言ふのだから嬉しがつたのも無理ではあるまい。

雨降り雨上り日和とこれではいつでも公ふ事になが日和りでも目水たや撒水の量が激しいので雨上りのぬかる道と同然である、其處でストップとやられると一勢に勢ひ餘つてお尻りがエ十度のカーブをとつてズターンと來るお互にですよ。つまりシリフリダンスな初めのである自轉車なんか洋服先生思わずつるりと來るのは先づいゝとして此處に哀れな留める者即ちお上品振つた御婦人、頭と身體の中間は泥だらけ、ブン～どなつて見ても不可効力とはちとお氣の毒でネ。

都市計畫

谷本蘇牛作

洋行歸り新歸朝ちよふ言葉はその昔、學士樣と並び立つ名譽の讃美歌否、あこがれの名稱であつた、娘持つ親心を多分に引きつけたのも昔日の夢と消えたか？。

哀れ今は昔、其の技師先生も歸朝早々設計と緣談の應接に目を廻したほく～の夢もかんたんの惡枕しばし勝ち得て出駄鼈目に設計して得意滿面此處に拾八年の年月は過ぎた。

學士博士は續々と繰出される、言わんや新歸朝は矢をいるが如くぼふぼりのわくが如く、そして新らしい新建築はどん～と作られて行つた。

其の昔彼が得意であつた殘骸は幸ひ不幸ひ其中にはさまつて昔日の影を留めて消えないのであつた、やがては保存建造物として保存でもせられよふ批評が耳を打つ、彼の良心はいらだつた。彼はひそかに火の神に祈る日が多くなつて行つた。



善良なる老技師の心を哀れみ火の神は都市計畫の神に命を下した此處に於てか彼の殘骸も取挽われる幸福な日が來た、曾我の兄弟は親の敵を打つのに十八年。彼も又十八年やつこの思ひで敵ではない殘骸を取りのぞかれる幸福に安堵の胸をなで下したのも善意に解して技師の持つ藝術的良心さも言ひ得よふよふ七年越しの梅毒が治つたさも言ひ得よふ鼻もちならぬ事であるが都市計畫は色んな意味に於て喜ばれてゐる



ビル嵐

谷本蘇牛作

天狗風を恐れる者カンバ屋のみに留まらない、世は移り星は變つても昔ながらに天狗連は相變字春氣で茶氣たつぷりやふもない近頃は都が面白とて都大路の辻の角々に續出在して大いに吹き荒されては慌に入つて御座るが是れ世にビル天狗連とか言つて若い女に恐れられてゐるのも面白い文明の副産物である。

一度び此のビル嵐が見舞ふとたれ彼の差別はない、が特に目に立つもがさんは不眞面年の婦人に引掛つたよりも恐ろしいとか、サット吹き荒すと一勢に前なぎさへて最敬禮よろしく、少しなれた者では、アルリと屑り別にケンとは言はないが、綾いて朝子をとるとらぬやアイと吹飛ばされる事は請合ひ、加圍つた事には共時百燭光のサカ～と光る頭に手をやるがすき間の光り裏れなべし、バランルにはさつさと至手を隠れて空中へ、ヨーロルはくる～舞つての打ち返す丁度大鬼の鬼氣を連想さするのもあるひは新調のその苦しさでいもあらう、勿論大事な髪にモジヤ～で結つた計りの御自慢も蒸無くではちと氣のもめる事ではある。

新くして此のビル嵐容赦出でほつさと一息御めて人間性に還るのであるが、只此の人間苦に對して大いに悩に入る者天狗と辻のいざり計りである。

地下三尺

谷木蘇牛作

ある日の事地下三尺の墓場の蔭さやらに永遠の夢を結んで居た或る亡者の耳に恐ろしい音響が音信れて来ました、其れは地下鉄道と言ふ文明の力であつた次ぎの日も又その次の日も彼等亡者は到底昔日の三尺の地下等では閑かな夢等結ぶ所の騒ぎではなかつた、そして彼は極度の神経衰弱に悩まされて行くのであつた。

ある日の事ら若い娘が自分の國を音信て来た、其の娘は自分達の想像も出来ない程のモガさんでキリストの天國さやらからやつて来たんだそふである、娘は言ふ失礼の結果だと附け加へた。

× ×

地「ではお前さんは天國さやらが淋しゆてつまり俺等の國へ男でもさがしに来たと言ひなさるのけい。

天「馬鹿におしでないよ、此の時代後れがツ

地「ちやお前の宿六でもさがしに来なすつたか、其れにしても未だ若けい様だが餘程込入つた事情つちゆう物があるでけしよう、いやとふ見えても俺等もちつさは人に知られた男伊達、今ぢや六文より無いが三途のバーに活しや少しや何んさかなるだらふ、よあ遠慮はぬらネいか

天「貴郎の言ふ事は妾にはよく意味が解しませむが妾は戀愛至上主義で性の問題等は考へちやるないの、妾は心の結婚をしましたの、妾は天國へ来ても淋しいのちやないのよ、お金なんか勿論貴郎方に頼み度いさは思つちやゐません。

地「ちやさんた御川で

天「天國もすい分騒動しくつて妾倒々神経衰弱をやつて仕舞つたの、それでつまり此の國でしばらく靜養がしたいと思つてネ地」其れなら眠目でけさ、おい等も永い年月耳にしなかつた恐ろしい音の鳴めに、困つちまつてるんだからなー

天「妾しさふしたらいいんでしよふ悲観しますわ

× ×

漫談子のアンテナを通じて亡者共の不平を今讀者諸君に放送する事さした……只今時間ですから次ぎのプログラムを

JOBK





文化村の粋

蘇牛作

文化々々とアンカ〳〵仰つしやるけれど、どれ程進ひますえ、おやじがバイでかかがママで中に出来るのがベースボールちやあるまいし、鼻たれ小僧がベビーと聞いてエハンチャン〳〵うおかしくておへそが笑つてよますわネ、まんざら、御面なはれや、大便だつてタロバーやハート型でもありますまい。

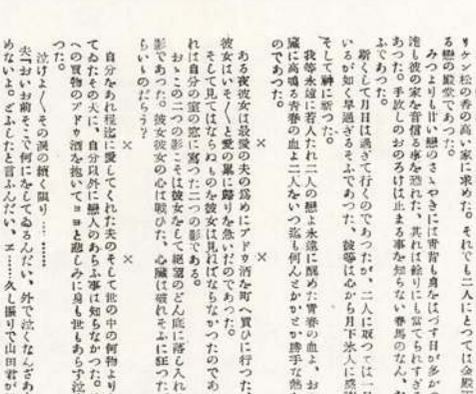
近頃は洋楽だとか何んとか言つてありやなんとすえモメン博ならば帶びでもしてゐるが関ばかりがモメン様で下駄ばきさ、もしや〳〵頭に日傘をさして首の小僧がそれでもママと呼ぶ迄文化式。

お止しなさいよ、御上の古いのを作り變へた洋服に赤い襷巻、下いちよろ〳〵はみ出してゐるのなんぞはあんまり文化の粋でもおへんで。

ひと角植えた感はよいけれどもその名にし負ふカシアもプラタースも赤ちやのおしめ干しとは贅にも椅にもなりそふにもなしお蚕い時分ですからネちつとは日本式にそ手拭ゆかたがなんかぴつかけてネこふ七三に歳みあげて圍子かなんかな左に徒ひ有手でちつくりつめつて御覧よ、アラ痛ていよ、とか何んとかいつてれ、爪引き三味線もわるくわありへんで……

本當だ〳〵漫畫子も大いに賛成する所なんだよ、實に愛たるもんだよ、大いにやり給へ文化の粋が聞いてあきれらア

文化村子曰く、あゝ貧迷猿しか文化のなんたるを理解ない輩は實に氣の毒なもんだ。と。——



モボ、タクル

蘇牛作

二人の戀は許された、彼等二人の若人は戀の巣をニ拾五圓の新住宅メゾン松の香の高い家に求めた。それでも二人にとつては金殿玉樓に優る戀の殿堂であつた。

みつよりも甘い戀のさゝやきには雪背も身をはづす目が多かつた友人滝も彼の家を音信る事を恐れた、其れは絵りにも當てられすぎるからであつた。手放しのおのろけには止まる事を知らない春馬のなん、なんだそふであつた。

暫くして月日は過ぎて行くのであつたが、二人に取つては一日も矢なるが如く早過ぎるそふであつた、彼等は心から月下氷人に感謝をした。

そして神に誓つた。

我等永遠に若人たれ二人の戀よ永遠に醒めた事の無き様にと。

× ×

ある夜彼女は最愛の夫の爲めにブドウ酒を買ひに行つた、そして彼女はいそ〳〵と愛の巣に歸りを急いだのであつた。

そして見てはならぬものを彼女は見れねばならなかつたのであつた、其れは自分の室の窓に寫つた二つの影である。

おゝこの二つの影こそは彼女をして絶望のどん底に落し入れる悪魔の影であつた。彼女彼女の心は戦ひた、心臓は破れそふに狂つたどふしたらいゝのだらう？

× ×

自分あれ程迄に愛してくれた夫のそして他の中の何物よりも信頼してゐたその犬に、自分以外に戀人のあらふ事は知らなかつた。彼女は夫への買物のブドウ酒を抱いてヨロ〳〵と悲しみに身も世もあらず泣くのであつた。

泣け〳〵その涙の紙く限り……

……

失「おい〳〵お前そこで何にをしてゐるんだい、外で泣くなんざあーみつともないよ。どふしたと言ふんだい、エ……久し振りで山田君が巴里から歸つて来て呉れて来てくれたんだヨ。早ふ入つて御ちそふでもしないかな、なーる程なんの事だい。

貧富上下老若男女一列一様悲平等、疲の折目が背で列る様な夜具が一枚枕は勿論ござ枕一個抱ざつしりとつめ込むは〳〵左右に跳返る事も許されないが、それでも何れも神明である不足を言ふ奴もない。

× ×

外は眞暗である夜氣は追々と迫つてくる時息が少しくるしく成つて来る、風が出て来るそろ〳〵微切りの雪が聞え出した、時計は十二時を打つた。鏡答しい遠中車座になつてメートルを上げてゐる殿々さ自分天狗に成つてゆく、と書間大いにもが掘つたり子の奴突然フレーとやり出しやがつた。天狗連びつくり其拍子に鏡てゐた甘子とちよいはげの平背びつくりざまちんと座つて仕舞つた。馬鹿が御来光とより遣へやがつたと見えて窓の方へ急いでゆく、其の内にぴよろりさやつて到々五六人起して仕舞つた、そふなると騒々しいからざいつもこいつも飛起きて仕舞つた。

大體の登頂人である甲子の奴相撲すぐり〳〵やつては時々もしよ〳〵やつてゐるが、エエメンクそいま〳〵やつてゐるが、エエメンクそいま〳〵しい奴だ今に見よ、三時が打つたよと云ふ間遠もなく引くこと一時に落ちる杖と笠!!ガラ〳〵〳〵、仕舞つた。温泉くん君のちよろけげの上へ落ちれたのだ、物音に驚いて再び寝ようとしく成る、相撲甲子の奴ぐ〳〵やつてゐやがる、くそいま〳〵しい奴になア。

朝食にかいるこちへの飯に味噌汁と言ひたいが實はまだ〳〵吸われば味噌汁には成らぬ程の申譯汁に香の物この香の物が一向に香ばしくないやうな味香のものであるが手前持參の雑誌もくさい引かけ昼食で遠みざつこいしよさんざ〳〵で遠んでゆく。

小屋の一夜

蘇牛作

創刊号発刊当初の編集を通じて

松井昭光

「建築と社会」は創刊号を「関西建築協会雑誌」と称していた。編集担当者は，編集理事として，葛野壮一郎，武田五一，宗兵蔵の三氏が選ばれ，編集補として，佐藤四郎，本野精吾，波江悌夫の三氏が選ばれている。須藤真金氏も波江・佐藤両氏から編集補としてやらないかとさそわれたが，間もなく帰京されたため，実質的にはできなかった。大正6年7月23日の編集会を兼ねた臨時役員会で，このスタッフで雑誌編集の具体化が相談されている。(「関西建築協会雑誌」創刊号の会報より)

第3集（大正9年）あたりから，編集理事には，池田実，葛野壮一郎，吉井長七が選ばれ，編集補には波江悌夫，佐藤四郎，江村郊邨がなっている。実際的な編集の仕事は第1集から江村郊邨が当っておられた。

大正11年ごろには，竹腰健造，中西甚作，野呂長四郎の各氏が編集理事となっている。12年には，設楽貞雄，宮本金七，13年には，佐藤彰美，本多二郎，伊藤正文らがなられている。

会誌発刊の模様については，第2号の「会報」にはつぎのように記されている。

「1. 本会雑誌は是を『関西建築協会雑誌』と名づけ初号を大正6年9月15日刊行する事を得たり。1. 初号発刊の際直ちに会員に配付し同時に建築学会正会員諸氏，各新聞社，各学会及各種協会並びに建築に関係ある各学校各専門業者及び各府県知名有力者へ寄附発送し置きたり。1. 初号発刊後祝電または祝辞を送られたる諸氏多し」とある。

「発刊の辞」については，50周年記念号の拙稿「『建築と社会』の変遷」のなかに集録したが，重要資料なので再び復刻する。「関西」をとり，「日本」を冠して，「日本建築協会雑誌」と改題されたのは，第2集第1号からであり，さらに，「建築と社会」と改題されたのは第3集の大正9年1月号よりであるが，その二つの「改題」のことばを復刻して掲げることにする。

参考までに，その当時の「目次」と「巻頭のことば」のいくつかも復刻する。

なお，創刊号の発行部数については，永らくわからなかったので，昨年11月上旬，東京の井ノ頭公園の近くにある某病院に入院中の佐藤四郎さんをお見舞した折に，このことについてたずねてみたところ，「500部ぐらいかな」という返事であった。（名誉正会員・佐藤四郎さんは89才になられたが，入院療養中とはいえ，お元気で何よりです。生存正会員で一番年長と思います。）

大正6年の第1回編集のころの思い出について，佐藤四郎さんが，「建築と社会」昭和33年1月号にくわしく書かれているので，同氏の許可を得て，以下転載させていただく。創立の動きについては，後掲の「会報」を参照ねがいたい。檄文と人脈を知る上で貴重な資料である。

創立の頃の話 —第1回編集の思い出—

佐藤四郎

私が家族をつれて初めて大阪の土を踏んだのは大正6年2月24日の朝であったが，東天下茶屋の松虫塚に適当な家を見つけてそこに引き移ったのが26日のことであった。あくる27日はじめて正式に事務所に出勤した。私は横浜市役所から大阪の茂野村建築事務所に籍を移したのだが，そのころの茂野村建築事務所というのは渡辺橋の北詰を西にはいったところで赤煉瓦造3階建の2階の川に面したとても感じのよい室であった。与えられた製図板に向ってちょっと煙草を喫っていると，片岡事務所の波江悌夫君がたづねてくれた。今夜片岡さんの招待で堂島の魚岩という料理店に大阪の建築家が大勢集るから君も出ろというのだ。2階の大広間に30人あまりの人が並んでいた。酒もうまいし，料理もうまいし，わけて芸妓がきれいなので，さすがに大阪は凄いなと感服する。このとき東京に建築学会のあるように大阪にも何か建築家の団体がほしい，建築学会はあまり学術的に偏しているから，こちらはもっと社会的な建築の面を開拓していこうぢゃないかという説が出て満場の喝采を博した。

それからこの話が各方面でいろいろと研究され，3月30日の夜中之島の大阪ホテルで関西建築協会の創立に関する議案を討議した。このときは魚岩のときよりもさらに大勢な位で京大の武田さんや住友の日高さんなども見えたのである。

4月10日の夜，堂島の電気倶楽部で関西建築協会第1回例会を開いた。それから毎月13日ごろにこの電気倶楽部で例会を開いたのである。このごろはまだ建築協会の頭に関西という文字をいただいていた。

この前後に，毎週水曜日の夕方から道頓堀のあまりはやらない珈琲店で水曜会というのがあった。10時すぎまで関西建築協会のあらゆる面について忌憚ない意見をたたかわしたもので，あるときなどは婦人の建築家が将来出現して入会を申込んできたときにそれを会員に認めるかどうか，ということで一晩中大議論をして結局まとまった結論を得られなかったこともある。水曜会に集った人々は池田実，葛野壮一郎，大林賢四郎，石田信夫，安井武雄，波江悌夫，木子七郎，浜野三郎，今林彦太郎などの諸君でそれと私と位でいつも4，5人の顔は見えていた。

7月13日の電気倶楽部における例会で雑誌発刊のことが議決され，たまたま私がかって東大の木葉会雑誌を編輯しておったことから，波江君が編輯委員に私が編輯補佐というようなことに任命された。19日片岡事務所で第1回の編輯会議を開き，片岡さんの紹介でその日の中に内淡路町の大阪活版所にゆき雑誌印刷のことにつきいろいろ交渉したが，要領を得ないで帰える。23日片岡事務所で役員会だ。片岡，波江，池田，葛野，武田の諸先生と私とで，雑誌の表紙の図案は武田先生にお願いすることにきめる。24日大阪活版所に原稿用紙の印刷をたのむ。25日電気倶楽部で臨時例会を開いたが，天神祭なので8時になっても人が集らない定員に足らぬというので協議会とし専ら雑誌発刊のことについて協議することにした。

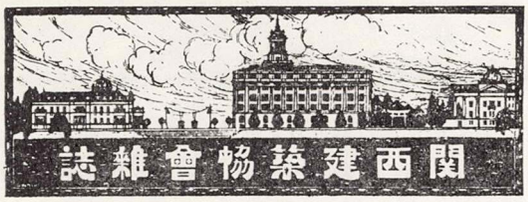
8月1日，南農人町の関西印刷所にゆき，岡本氏に面会して雑誌のことを相談したが，ここも要領を得ない。6日市田オフセットにゆき，長谷川氏に面会し表紙の印刷のことで意見をきき，そのかえりに谷田活版所に立寄る。ここも駄目だ。どこの印刷屋でも新らしい良い活字を充分に持っていないので，高級な雑誌の印刷は責任をもって引受けることができないというのである。大阪の文化面というものは他の生活面に対してずい分ひどくおくれているものだと嘆かわしくなる。8日に原稿用紙ができてきたが成績よろしからず。9日須藤まがね君と三有社という印刷屋へゆく。ここでポイント活字の新らしいのが沢山あるというので雑誌印刷のことが漸く軌道にのる。10日片岡さんの紹介で工業の日本編輯主任の江村君というのが訪ねてくれる。この人から大阪の印刷屋のことでいろいろ注意すべき有益な話をきく。11日片岡事務所で役員会あり，雑誌に関するいままでの経過を報告する。13日電気倶楽部にて関西建築協会の例会あり，武田さんから表紙の図案をうけとる。すばらしいでき栄えでとてもうれしく思う。3色版は東京の田中にたのむこととする。

このようにして原稿整理のことは波江君と江村君とにお願いし，校正その他の印刷所直接のことに私があたり，大正6年9月に，あの気品のある高雅な関西建築協会雑誌第1号がこの世に生れたのである。現在の「建築と社会」の前身である。

（「建築と社会」昭和33年1月号より）



創刊号表紙



發刊の辭

我が關西建築協會は、時代の機運に促がされ、建築技術家の覺醒に由り、大戰亂第四年の春、梅が香薫る關西の天に呱々の聲を上げたり。

思ふに、明治維新以來、我が國の文物は其のあらゆる方面に亘りて、空しく苟且主義の上に樹てられ、少しも確固たる基礎を有せず、所謂過渡時代の混沌たる狀態にありしが、時は絶ゑ間なく進みて黎明の氣は天地に漲りぬ、曉の鐘將に高く鳴らんとす。

此の進展期に際し、社會を指導する大抱負の下に、我が國建築界の堅實なる發展を期し、科學的に組織ある文明的都市の建設を計るべき急要の時期なるを覺悟し、以て將に鳴らんとする曉鐘第一の金鋼杵たらんと欲す、蓋し、其の事や大にして其の責や亦重しと云はざるべからず。

我が關西在住の建築技術家は茲に結束して起ちぬ、偏に其の任務の輕からざるを感じながら、專ら斯の偉いなる目的遂行に熱中し、從來我が國一般に措いて問はざりし都市建築の拘束改良、家屋政策、其の他文明的施設の刻下急要の問題にして苟くも建築に關連せるものは、凡て之が研究調査をなし、之を社會に發表して啓蒙の位置に立たんと期す。

天下有識の士、幸に此の誠意に同情し、斯の事業の成功に協力せらるゝあらば、豈獨り我が關西建築協會の利益のみなるならんや。

本誌は本協會活動の一部隊に過ぎずと雖も、其趣旨は本協會の目的遂行の一機關にして、今後紙面に現はるゝ熱誠なる努力は漸を逐ふて社會を刺戟し、吾人同志の目的の一部が達せらるゝ日のあらん事を確信して疑はず。

敢て抱負の一端を述べて發行の辭となす云爾。

創刊号・第１集第１号（大正６年９月）

日本建築協會雜誌

改題

建築と社會

妖雲漸く關けて、暉陽長へに燦たるの概あり。戰後第一次の去春は、實に、我日本建築協會の使命も、世界の進運と共に一躍進運を劃したる是も思出多き頭歳なりしこと當時、我會名及び我誌の革新を宣したるに仍りて、讀者の多くは之を諒せられたることゝ信ず。而して、風くも今復た其第二次迎春に方り、顧みて世界の凡ゆる方面に於ける變轉は、僅に既往三百有餘日の時間に於けるに等しかるべく、我等少くとも既に世紀を累ねたるに亦須らくむとするものあり、斯の進運に協合する處莫くむばあらず。

さればこそ我協會雜誌は茲に再び誌名を更新して、一層、社會的の觸接を翼ふと共に、期する所以也。

相當せむことを相充的機運に先むせんことを欲す、駸乎たる躍進的、我誌名を復び更改する

第３集第１号改題のことば（大正９年１月）

改題之辭

我關西建築協會は現代社會の新時運に促されて呱々の聲を擧げたる以來、既に意義ある二星霜を閲し、幾多の畫策と着實なる期圖を實行し、世上識者の多大なる後援と會員各自の熱烈なる努力とに育まれて、今や確實なる基礎と遠大なる抱負を把持して益々社會に貢獻する處あらんとす。

顧れば我協會は關西在住の建築家の協應經營に據りて其端を發せしと雖、既に本會の内容と本會の事業は漸を追ふて輪廓を大にし來り、曩に深重なる意義を体現せる我通稱『關西』の二字を保留し茲に實名『日本』を加冠するの機運到來せるを祝福せざらんとするも得べからず。

時なる哉、平和到來の第一年、朝晴雪清らなる大正八年初頭に於て我『關西建築協會』は、元服改名して『日本建築協會』となれり。我敬愛信賴する現代社會の識者は莞爾として名付親たることを快諾せらるゝを信じて疑はざる也

斯くして我協會唯一の機關雜誌たる『關西建築協會雜誌』も其多難多事なりし一年有半、其奮闘努力の實績を經歷して茲に『日本建築協會雜誌』の題名を授けられたり。さらば名實相協ふ本誌の將來は益堅實なる發展を遂げんことを期して待つべき也。

茲に前途を祝福して改題の辭となす云爾。

第２集第１号改題の辭（大正８年１月）

關西建築協會雜誌 第壹輯第壹號

目次

口繪
新裝されつゝある中ノ島一帶の遠望（三色版）
新裝せる歐米の二大都市廳舍（倫敦市・紐育市）
大阪朝日新聞本社
住友銀行大阪市船場支店
大阪市電梅田車庫及四橋交叉點の市電用建物

發刊の辭……會員：片岡安……①
都市大火の危險……會員：片岡安……②
家相問答……會員：葛野壯一郎……⑩
神殿建築と高天ヶ原……會員：波江悌夫……⑮
都市と建築……⑲
議院建築調査會に就て……淮敬生……㉙
コンクリート……會員：大蘆生……㉛
空中の庭園……須藤眞金……㉟
蘆分倉庫の爆發事件調査報告書……第四部災害調査委員會……㊴
會報……㊷
⊙序……⊙本會の創立……⊙第一回例會……⊙特別委員會
⊙第二回例會……⊙第三回例會……⊙特別理事會
⊙第四回例會……⊙臨時役員會……⊙臨時例會

廣告
⊙秋山小林商店……⊙伊藤喜商店（以上廣告）
⊙建築事務所案內……⊙建築請負業者案內……⊙須賀商會……
⊙松尾和助商店……⊙米國貿易會社……⊙大阪窯業會社……
⊙齋藤省三……⊙機セメント會社……⊙みよし組大阪支店
⊙高田商會……⊙大阪煖房商會（以上裏付）
⊙コルク工業合資會社（裏表紙）

創刊号目次復刻

日本建築協會雜誌 第貳輯第九號

目次

口繪
大阪市廳舍配景圖（三色版）
大阪市營職業紹介所（自一至八）

△建築の勃興と勞働問題……會員：片岡安……一
△都市住宅の建設に就て（下）……會員：佐々木惣一……九
△社會的感情に就て（上）……京都帝國大學法學博士：内田嘉吉……一三
△都市研究の必要（下）……都市研究會副會頭：池田宏……一八
△都市計畫に關する法制（二）……内務省都市計畫課長：吉村哲……二四
△都市計畫に就て（三）……内務事務官：三宅勘一……二九
△住宅問題と田園都市（下）……都市事情研究會員：小笠原鋤……三六
△本邦現代住宅改良の施工法（三）……會員：加藤常子女史談……四二
△女流の住宅觀……醫學博士男爵加藤照麿氏夫人：中松繁子談……四六
□新しく住宅を建てる人に
□西洋かぶれの珍し物喰ひは考へもの……前特許局長：大屋靈城……五一
△街道樹論（三）……特別賛助員農學士：谷民藏……五六
△朝鮮營林廠所管の森林一班（二）……會員：M T生……六三
△都市と社會施設（其三）……會員：江村郊郵……六九
□北米合衆國に於ける住居社會法人……特別賛助員：伊藤清造……八二
□大阪市營職業紹介所
△京都古建築觀（十三）
△調査
□横濱市大火罹災家屋に關する調査（B）
□大阪市接續町村下水道調査綱要（二）
△時報
△會報
△編輯たより

附錄

△ベルン市建築條例……（上）

第2集第9号（大正8年9月）目次復刻



災害防備之急要

近時、天災地變の人事の複雜なると與に增々繁からんとするは、果して如何なる理由なる乎、之を全く刈除し得ざるまでも、平時に於て其準備を嚴へ置けば少くとも其災禍の大半は免れ得べきものにあらざるなき乎。古代、科學的智識の幼稚なりし時期に於ては、其根本的解決の漸く途なかりしも、現時の科學は、自然原則の解剖に由りて其性質を追窮するを得。隨つて天變地異に對する準備を講ずること必しも不可能にはあらず、寧ろ、合理的の處理解し得るに至れりもの。然るに、唯目前の些事に齷齪して天地自然の大數を稽へず、人智の可能なる防備を怠り災禍の臻るに迨び初めて驚倒するが如き現時の風潮は、維れ、洪水に堤防の決壞するは現代科學の恥辱にして、畢竟文明的施設の足らざるに立證し、颶風の毎に建物の倒壞し人畜の死傷を生ずるは、中古の蠻習未だ改善せられざるを實證するにあらずや文明の空氣は精神的に又物質的に時々刻々向上せざれば之を淸新ならしむることを得ず。然るに今や文明は、片輪的に行き詰り、底滯して腐敗せんとしつゝあるに際し、頻々として災害の到るは、正に是れ天の警告にあらざるなき乎。古來、天變地異は、

會報



序

大正の御代數ふればはや六歳、甲寅の夏歐洲の大戰亂勃發してより既に三年、今や世界の國てふ國を擧げて此の大破瀾の渦中に卷き込まれつゝ前途茫々亦漠々。何人か果して此大慘劇の大團圓を豫言し得るものぞ。

聖代愈隆昌一度山東の一角に砲火飛び、南洋の邊海に砲煙擧りたるも日昇旗の飜る處亦敵影なく太平洋の波打寄する峯に平和の浦風靜かなる、實にや武威八紘に振ひ日東帝國の前途は洋々たる春の海に似たり。

文武は並び進まざるべからず。武勳赫々たる帝國の反面は如何一等國の内容果して如何大八洲を輝らす文化の光は兩洋の魚鼈を驚かし得るや否や。外交に内治に科學に文藝に教育に宗教に哲理に音樂に、はた亦商業界の前途や工業界の現狀や思ひ半ばに過ぐるもの多々慨れ然り。

吾建築界の趨勢亦一層の努力を要す、一言以て之れを掩へば「混沌たり爲明治聖代の建築界は所謂過渡期として活動したるもの汲々乎として泰西建築術の輸入咀嚼に努力したるの時機也、今や舞臺は一轉しつゝある也回轉しつゝある也否急轉しつゝある也されど大勢の歸向に着眼しつゝあるの識者を除いては多くは無我無中也只管過去の「スケール」を以て現在を測らんとす唯是明治後期の順潮に舟を放てる也而して舟中の棹夫多くは夢を貪いて太平を謳く。

關西の建築家は多くは駄眠同舟の水夫と異なるなかりしやも知れず、世に「打てば響く」の語に眞理ありとせば關西の建築家は實に太平の春夢を驚かされて醒めたる也東の岸を洗ふ波は西の岸をも打つ一波起りて萬波伴ふとかや、況んや舟中の水夫なや。

醒めたるものは覺らざるべからず、大正の建築界の前途之を如何にすべき乎、知らず建築家は自己のために建築を建てつゝ滿足すべきか否乎、建築家はあまりに目前の事務に吸々として自我的小天地に跼蹐しつゝあるにあらざるなき乎、今須らく眼界を大にして對社會的に活路を求むる要なきや否や進んでは國民を指導して國家的建築の建設に努力すべきに非ざるか、斯くして建築家は自個を離れて社會と接觸し國民と同化して以て大正の建築を建設するの急務を認めずや、果して然らば同志の糾合を謀り意思を疏通して各自の小我を捨て一致團結據つて以て社會を指導すべき團體の組織は豈徒事ならんや。

機運は自から來る。蓋し天意なるなからんや關西の建築家は東風吹く己の二月以來響に應ずる琴線の如く今更らに過去を顧みて前途の發展を期するに一致ぜり、斯界是より多事ならざるを得ず、斯くして吾關西建築協會は櫻花笑まんとする三月下旬呱々の聲を擧ぐるに至る。

本會の創立　（前記）

關西建築家の有志は大正六年の二月以來春夢閑眠漸く醒めて各々期する處ありしが謀ずれば斯界の前途を語らざるなし、さればにや片岡波江兩氏の名によりて一片の檄文飛ぶこと五十二枚期ぜずして北區魚岩樓に會する建築學會正員の關西在住者實に三十有九名要は關西の建築家の團結を謀り相互の意思を疏通して建築界の向上發展を期するに在り。依つて五名の委員を擧げて創立案を委囑するに至れり。

當日會合の案内を發せし氏名左の如し

○は出席者、◎は創立委員（イロハ順）

一井九平　◎池田寅
○石田信夫　○今林彦太郎
伊部貞吉　○原田俊雄
○濱野三郎　○橋本勉
○長谷部鋭吉　○德永庸
○大林賢四郎　○小笠原銅
○瞿盛章　◎渡邊節
◎片岡安　河合浩藏
○河合幾次　○加護谷祐太郎
○葛野壯一郎　○金剌森太郎
龜岡末吉　○田中勳
○田中大作　○田中豐輔
◎武田五一　○宗兵藏
◎波江悌夫　○中西甚作
○永瀨狂三　○内藤太郎
○牛村喜勇
○村井三吾

○野村一郎　久保田小三郎
○山田靜　山本鑑之進
○松田玄作　○吉本久吉
藤田旭之助　○松本禹象
藤井厚二　舟橋喜一
○林悉　○小林彰美
○佐藤四郎　○佐藤彰美
○木子七郎　○北村耕造
○光安梶之助　◎設樂貞雄（當日欠席）
瀨戸文吾　本野精吉

創立委員五名は三月十七日夜會合の結果有力なる團體を組織して親睦を計り併せて建築界の興隆に就き各自の意見を交換し前途の方針を確立せんため次の會則案を作成し之れを諸氏に配布し更に會合して一同の同意を得んとす

議案

會名　本會を關西建築倶樂部と稱す

目的　會員相互の親睦を計り併せて建築界の興隆に就き常に各自の意見を交換するを以て目的とす

會員　當分建築學會正員の關西在住者を以て組織す

但し會合の場合には建築學會一般會員をも招待する事なるべし

會合　毎月（十二日）一回例會として茶話會を開き春秋二季に大會を開催す（講演會及晩餐會）

役員　理事五名を選擧し庶務會計を司らしむ

理事の互選により理事長を選定す、役員の任期は一年とし内三名を半期毎に改選す

本會の創立　（後記）

大正六年三月三十日創立委員の檄文により創立總會を大阪ホテルに開く

出席者左の如し

井尻艮雄（三月來阪）　池田寅
石田信夫　今林彦太郎
伊部貞吉　原田俊雄
濱野三郎　長谷部鋭吉
德永庸　大林賢四郎
小笠原銅　瞿盛章
片岡安　葛野壯一郎
金剌森太郎　田中勳
田中大作　田中豐輔
武田五一　宗兵藏
波江悌夫　永瀨狂三
村井三吾　牛村喜勇
山本鑑之進　吉木久吉
松本禹象　藤田旭之助
舟橋喜一　藤井厚二
小林悉　佐藤彰美
佐藤四郎　木子七郎
光安梶之助　設樂貞雄
本野精吉　瀨戸文吾
高胖（來阪中にて出席）

片岡安氏押されて座長となり議案をして左の會則を議了し引續き役員の選擧を行ひ左の五名當選す

會則

會名　關西建築協會と稱す

目的　我國建築界の堅實なる發展を期するに在り

會員、當分建築學會正員の關西在住者に限る

但し會合の場合には一般有志にも及ぼすことあるべし

會合、毎月十三日例會を開き春秋二季大會を催す

會員、毎月金五十錢とす

役員、理事長一名、理事四名を選擧す、役員の任期は一年とす、理事の改選は半期毎に半數とし引き續き再選するを得ず

役員

理事長　片岡安㉟
理事　武田五一㉜　池田寅㉕
葛野壯一郎㉓　宗兵藏⑰
次點
設樂貞雄⑰　波江悌夫⑰

當日武田五一氏の發議により十年前より經續し來れる關西建築家の會合なりし「オキナ」會を解散し本協會に合併ぜん事を附議し舊會員一同の贊成にて直ちに解散し其所有財産たりし金四十三圓〇三錢を本會に寄附することに決議ぜり

尚葛野壯一郎氏の發議により先月二十七日會合の折參會並びに招待を受けたるものは定額を會金し片岡、波江兩氏の名によりて本會に寄附する事を附議し直ちに一同の贊成を得て會金は葛野氏に委托せられたり

第一回例會

日時　大正六年四月十日（都合により今月に限り十日とせり）

會場　北區堂島中二丁目中央電氣倶樂部一圓（但し晩餐會を開く）

會費　本會の着手すべき事業

（以下省略）

昭和前期の編集を通じて (対談)

岡田孝男
松井昭光(聞き手)

当時の編集人の人脈

M まず，昭和のはじめあたりの「建築と社会」の編集の人脈からお聞きしたいと思います。

O 昭和のはじめころの協会の編集係は江村恒一という人でした。江村さんは号を郊邨といい俳句もやるし，詩も作るという多芸の人でした。そのころの編集に携わる人というのは，そういうタイプの多芸の士が多かったようで，ゆっくりしたものでした。江村さんは創刊号から昭和2年までやって，昭和3年からは鷹取陽君が，その係りとなりましたが，江村さんは協会を辞してから「デザイン」という建築雑誌を発行し，インターナショナル建築会の記事を多くのせていました。4年位続きましたかな。昭和11年からは鷹取君にかわって小板常男君が編集係になり，第二次大戦まで続いたと思います。

M 編集委員はどうでしたか。

O 編集委員は波江悌夫，本間乙彦，池田谷久吉さんなどが，昭和2，3，4年ごろまでやられたと思います。昭和6年には村野藤吾さんも編集委員でした。高橋栄治さんもまとめ役として，7年，8年，9年ごろ尽力されたと思います。新名種夫さんや私も，そのころから戦争が始まるまで編集に関係しました。

M 吉田信武さんも編集委員でしたね。

O そうです。吉田さん，ほかに伊藤正文さん，三浦尚史さん，本多正道さん，桐本楠雅さん，堀口甚吉さん，宮田秀穂さんなどがありました。

特集形式

M ところで，大正時代は都市問題や住宅問題などが盛んになり，雑誌も自由投稿形式でバラエティーがありましたが，昭和になってから，特集形式が出てきましたね，そのいきさつを伺いたいのですが。

O 特集号を出すようになったのは昭和4年からです。毎月出すようになっています。たとえば，4年の1月は「御大礼記念号」，2月は「震災予防」，3月は「レストラン」，4月は「郷土建築」，5月は「小住宅」，6月も「小住宅」，7月は「都市美観」，8月は「貸家建築」，9月は「商店建築」，10月は「林泉と庭園」，11月は「照明と暖房」，12月は「防火建築」というように，昭和4年から始まり，5年も毎月特集号がつづき，6年もそうです。とくに6年は年度初めに年間の特集計画を発表しています。すなわち2月は「震災と建築」，3月は「保健と建築」，4月は「小住宅」，5月は「郷土建築」，6月は「建築実務」，7月は「新興建築」，8月は「小売店と百貨店」，9月は「小住宅」，10月は「映画館」，11月は「都市問題」，12月は「高層建築」と発表して関連原稿を募っています。実施はこの予告どおりでしたが，12月号に「劇場建築」を特集し，「高層建築」は翌年の1月にとりあげています。このように特集の予定を年度初めに発表したというのが他に例がないと思います。その後7年も8年も9年も10年も毎月特集号を出していますね。

新興建築の紹介

M 昭和7年の「創立15周年記念号」，昭和6年と8年に新興建築特集がありますね，この時分，新興建築が問題となったんじゃないかと思いますが，このへんの事情を…。

O 6年7月号，7年の4月号，8年の6月号などに特集していますね。当時は，おもにドイツ，オランダなど北欧の新興建築が問題になっていました。協会でも国際建築の欄を設けて，外国雑誌から目ぼしいものを選び転載しています。

M 岡田さんは「新建築」に多くのドイツ建築家の紹介記事を書いておられますね。

O 私は大正14年に「新建築」が大阪で創刊され，昭和5年に東京に移転するまで，編集を引受けていましたが，その関係で，ドイツの建築家に雑誌を送って文通し，その作品や文献を送ってもらって「新建築」に連載していました。ワルター・グロピウス，エリッヒ・メンデルゾーン，ハンス・ペルチッヒ，ペーター・ベーレンス，J．J．P．アウト，エミール・ファーレンカンプなどと直接文通して資料をもらったんですが，メンデルゾーンに最近の建築の写真を送ってくれというと，掲載料を出せといってきました。今の金にすると1枚5,000円位ですかね。10マルク請求してきたんです。当時1円が2マルク，1ドルが2円でした。珍らしい写真だったので払って載せましたが，グロピウスやペルチッヒなどからは沢山の資料をもらいましたが，こんなことはありませんでした。昭和2年から4年までのころです。

M タウトも「建築と社会」に寄稿していますね。

O 11年の1月号に「建築と社会」と題して，上野伊三郎さんの翻訳で寄稿していますが，当時の日本の建築界を批評して「建築家？は吉原女郎である」とまで極論していますね。その要旨は，①日本の建築家はコピーを平気でやる。これは許されないことだ。②日本では新聞に新しい建築作品が掲載されるときに，その設計者の名が書いてない。西洋では，こういうことは無作法であるとされている。③ドイツでは建築物に故障が起った場合，最初に訴えられるのは建築家だが，日本ではそうでないらしい。建築家が社会から認められていない証左だ，と痛いところを衝いています。当時より35年を経た今日にも一部通用する論で，残念なことですね。(この寄稿文は本誌に復刻しました)

インターナショナル建築運動のこと

M インターナショナル建築会が，当時，関西を中心として起きてますね。それについて……。

O 関東では分離派建築会，創宇社運動などがありましたが，関西では日本インターナショナル建築会が唯一の建築運動ですね。

M メンバーは……。

O 上野伊三郎，本野精吾，中西六郎，伊藤正文，新名種夫，中尾保，本多正道などの諸氏です。

M 中西さんは当時ヨーロッパにいて，檄を飛ばして外人建築家も会員にしたということですが……。

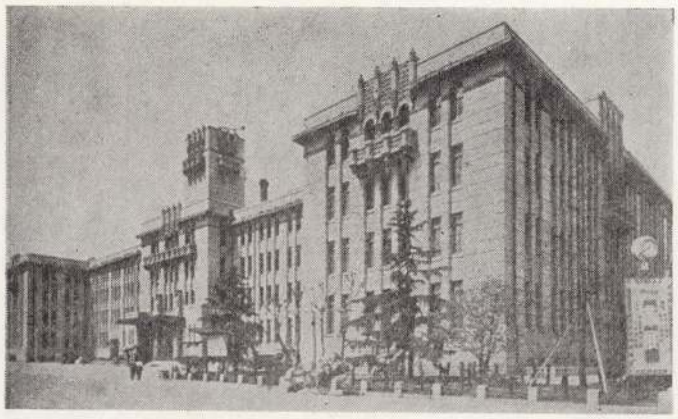
O 中西さんはフランスから帰って早々のころだったと思います。

M 結成大会は京都でやったと記録にありますが，京都のどこでしょうか。

O 京都の上野さんの家でやったと聞いてます。上野さんは，ウィーンで結婚したリッチ夫人と家庭を作っていました。リッチ夫人は室内装飾家で，そのデザインした壁紙を見たことがあります。

M だれが主だったのでしょう。

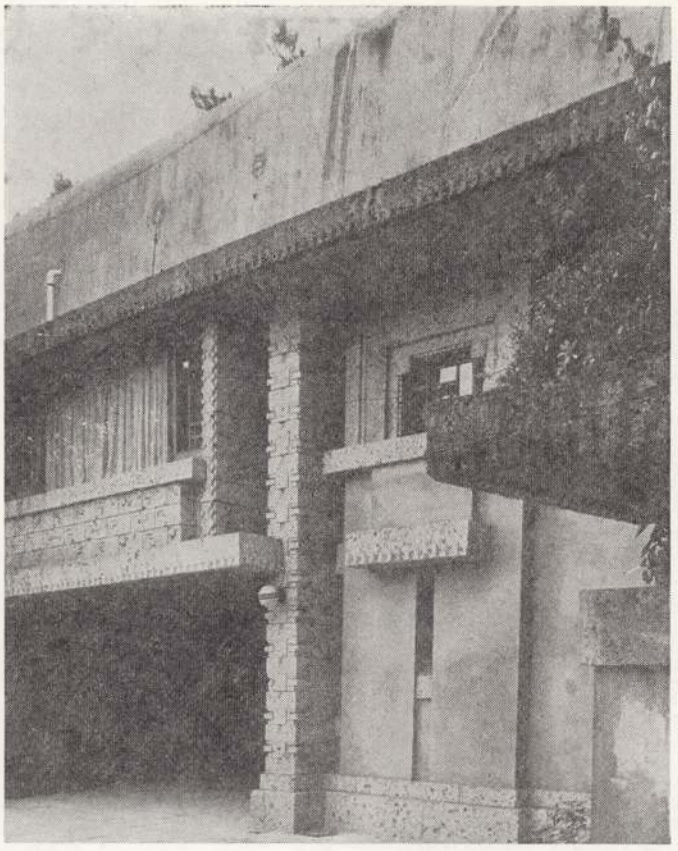
O 本野さん伊藤さん中尾さんなどが主だったと思います。もっとも，会の綱領のネタは，当時，バウハウス叢書の第1巻のグロピウスの著書 INTERNATIONALE ARCHITEKTUR です。新建築社でも，このバウハウス叢書を取次いで沢山売りました。定価は3円25銭でした。日本インターナショナル建築運動は関西でもあまり重視されず，若い建築家もついていかなかったので，いつのまにか下火になりました。



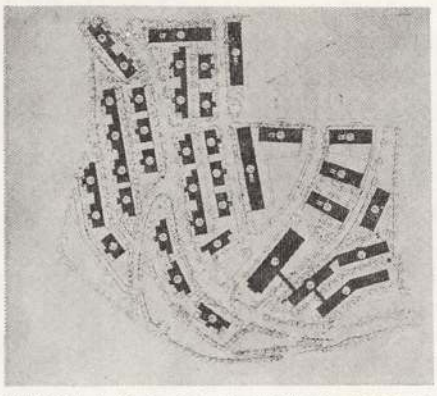
京都市庁舎（大正15年～昭和２年）　近代建築図譜より



甲子園ホテル（昭和４年～５年）　近代建築図譜より



山邑邸　（1971年12月１日撮影：松井昭光）





同潤会アパートメントハウス（左：渋谷代官山の配置図，右：青山アパート外観）「建築と社会」昭和２年８月号



朝日ビルディング　「建築と社会」昭和６年12月号

関西風水害特集

M　特集号としては，昭和９年に「関西風水害特集」をやっていますね。

O　９年11月号です。あのとき，天王寺の五重塔が倒れました。木造でした。それを天沼先生が復原されまして，できあがったのが昭和15年です。そうしたら20年の空襲で焼けたんですよ。今のは鉄骨鉄板造です。

M　室戸台風ですね，神戸もやられたんですか。

O　阪神間もひどくやられました。堺あたりでは街の中まで船があがり，いすわったことがありました。送電線の鉄塔はみなおじぎしていましたよ。協会からも調査に行っています。

都市武装特集

M　７年３月に「国防と建築」，９年７月に「都市武装」の特集がありますね，そのへんの話を……。

O　「建築と社会」のバックナンバーを見ると，昭和７年ごろから大東亜戦突入の気配が見えますね。９年７月号には，県知事，関市長，片岡会長武田先生，池田實氏，林大将，植田中将，古荘中将，寺内師団長，井関，大佐などの勇ましい論文があり，つづいて武装都市促進運動が起こされて，その展覧会部の部長に村野さん，幹事に私がなり，三越で一大展覧会を開催しています。また雑誌の原稿や写真の検閲が始まり，11年８月号には「大阪憲兵隊検閲済第８号」として，中の島地区の写真が載っています。11年12月号にはロンドン空襲の実例，12年１月号には防空建築，３月には空港と防空などの記事が現われます。

当時の新しい建築について

M　では当時の新しい建築について，お聞かせ願いましょう。当時朝日ビル，阪急ビル，南海ビル，ガスビル，十合など，つぎつぎと建っていますね。

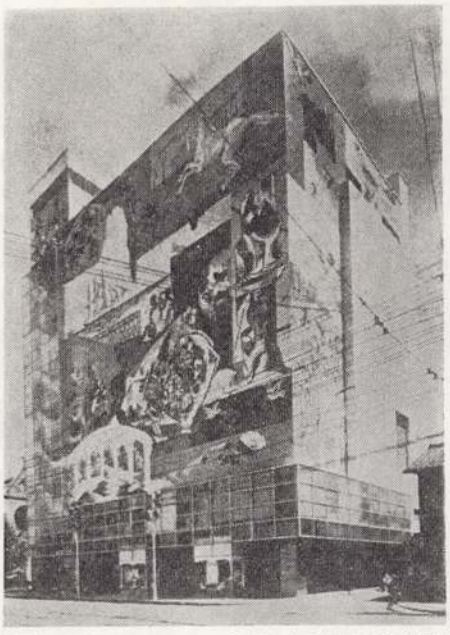
O　昭和２年から始めますか。めぼしいものだけあげると，昭和２年，京都市庁舎は武田五一先生の作。大阪の堺筋に建った中央郵便局は分離派の山田守氏の作で異彩を放っていましたが，今はとりこぼたれてありません。京都の円山公園の祇園閣は伊東忠太先生の作，祇園祭の鉾を形どったもので，当時の評判はあまりよくなかったようです。今もあります。東京では代官山のアパートができてますね。同潤会のアパートで，ＲＣのアパートとしては初期のものでしょう。東京朝日新聞社は石本喜久治さんの作。横に筋が沢山はいっていて見ばえの良い建物でした。当時メンデルゾーンがああいうスタイルでやっていましたので，ある人が，「あれはメンデルゾーンのゾーンだよ」といったそうです。

昭和３年には東大図書館，東京中央郵便局，石本さんの白木屋百貨店。

昭和４年には佐藤功一先生の日比谷公会堂，司法省の小菅刑務所，古宇田實さんの神戸商工会議所，京都の南座。



大阪瓦斯ビルディング　「建築と社会」昭和8年7月号



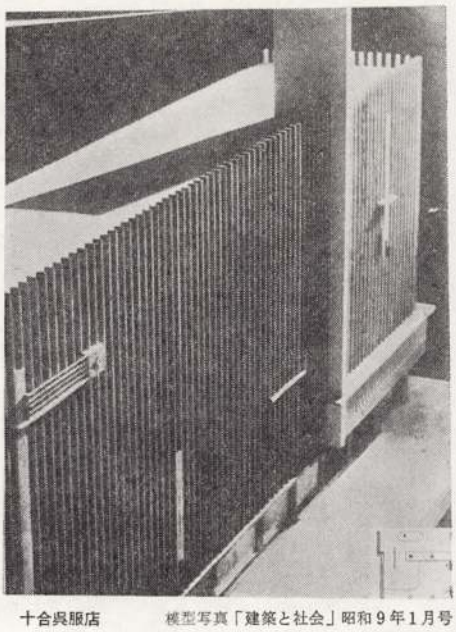
京都朝日会館　「建築と社会」昭和10年6月号



大阪城天守閣　近代建築画譜より



大阪株式取引所　「建築と社会」昭和10年6月号



十合呉服店　模型写真「建築と社会」昭和9年1月号

M　昭和5年は甲子園ホテルがありますね。

O　そうです。甲子園ホテルは，ライトの弟子の遠藤新さんの設計で，南信さんが協働しておられました。南さんには子供がなく，奥さんと二人で芦屋の山の手の見はらしのよい借家に住んでおられました。満州におられたことがあるので奥さんは支那料理が上手でした。新建築の吉岡さんや，元良勲さんと「南信亭(なんしんてい)の支那料理」といって，たびたび遊びにいきましたが，そのときにライトの設計であるといって山邑別邸を案内してもらって見たことがあります。馬の背のような傾斜地に建っていましたが，電話工事が粗末だったのか漏電するところがあり，改修工事中でした。室内は少し陰気な感じがして，床が地盤に密着しているので高床に住み慣れた日本人にはむかないのか，ほとんど住んでおられなかったようでした。生活様式の違いは悲しいものですね。ライトとしては自信のある作だったでしょうに。それから住友ビルもこの年に第二期工事が終って完成しましたね。

昭和6年には竹中工務店設計施工の朝日ビルがあります。設計は技師長（?）の石川純一郎さんで，ステンレススティールやアルミをふんだんに使っての初めての目新しい建物です。当時竹中工務店の山脇専務，この人は茶人でクラシックな人ですが，「石川君の設計は金がかかりすぎて賛成できないが，朝日新聞社のお声がかかりなので仕方がない」と嘆いておられたと聞いています。それからこの年に大阪城の天主閣ができました。市役所の建築課長だった波江悌夫さんがいろいろ資料を集めて力を入れたもので，鉄骨鉄筋，当時の建築費は35万と聞きましたが設備費など入れて40万ともいわれます。今の金にすると8億です。強度計算した人によると，石垣が弱くてそれにもたせることができぬので，石垣よりも，ずっと後退して柱を建て，カンティレバーを出して外壁を受け，石垣は遊ばせてあるとのことでした。これがRCで城を造ったはじめで，その後日本全国に多くのRCの城が建っています。天草，熊本，伏見，名古屋，会津若松城など。

M　阪急ビルと朝日ビルの特集が7年2月号にありますが，阪急ビルは昭和7年ですか。

O　昭和6年です。

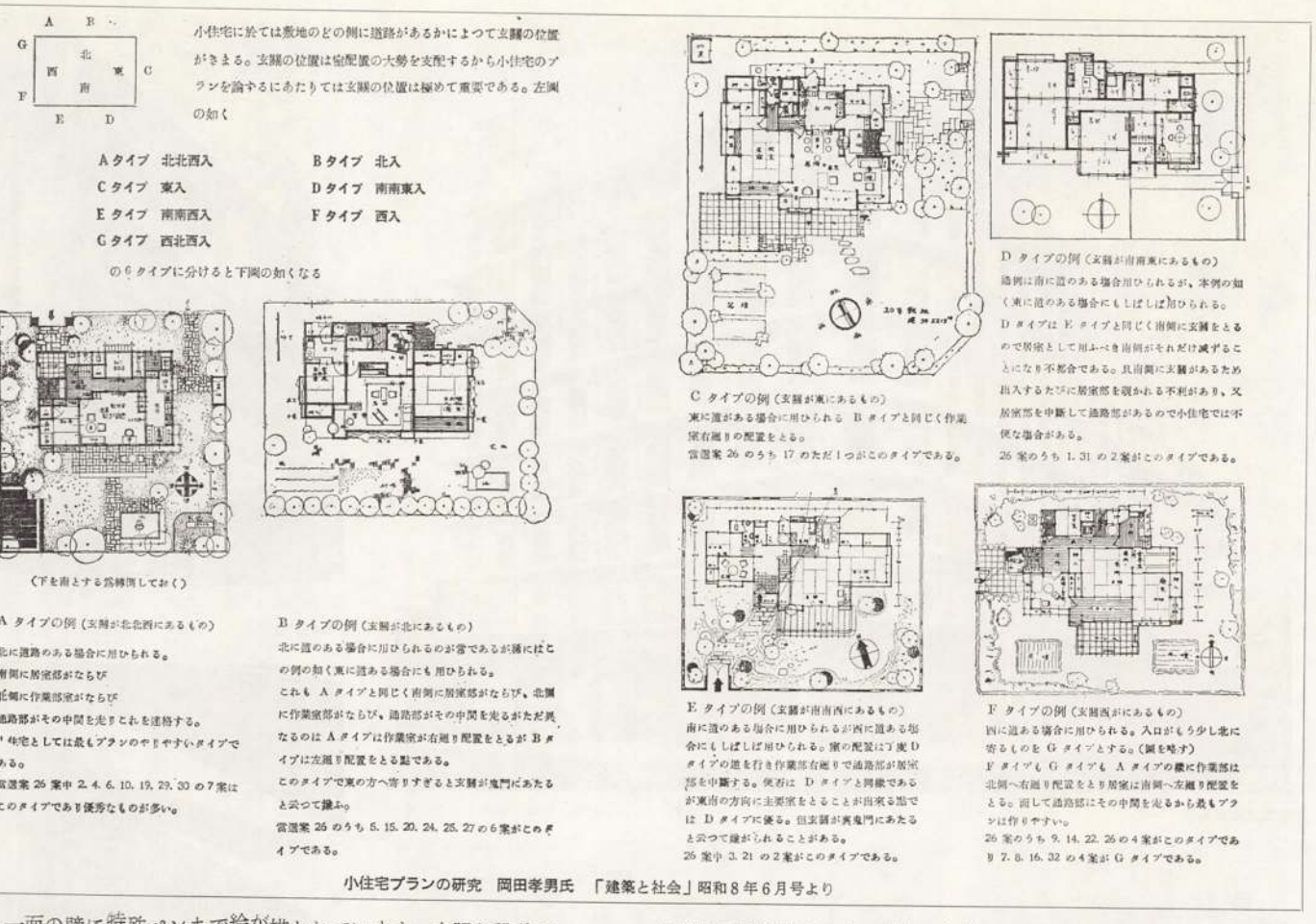
M　阪急ビルのホールの天井に伊東忠太先生図案の鳳凰などの絵がありますね。ガスビルは何年ですか。

O　ガスビルは8年です。安井武雄さんの傑作ですね。あれは実費精算式で大林組の施工です。配管は銅管を使ったゼイタクなビルと評判でした。この年に京都美術館もできました。

9年には新大阪ホテル，京都文化研究所，大丸百貨店の完成などがあります。

昭和10年には十合，京都朝日会館，大阪株式取引所がありますね。

京都の朝日会館は，石川純一郎さんの設計で，河原町の道路側には窓



小住宅プランの研究　岡田孝男氏　「建築と社会」昭和8年6月号より

がなく，一面の壁に特殊ペンキで絵が描かれています。大胆な設計で，道を通る人も仰いで見て驚いたあのです。株式取引所は竹腰健造さんの設計で，工事中に外壁の石張りがきまり，花崗石を薄く鋸引きして貼りつけてあるとききました。

十合は村野藤吾さんの設計で，縦繁の線を強調したトラバーティン貼りのスッキリしたデザインとして一時代を劃した建物でしょうね。

昭和初期の懸賞募集

M　協会の紋章は昭和7年6月に当選発表があり，1等は小清水仙之助という人です。昭和8年6月号に大阪のシビックセンターの懸賞募集がありますが，都市計画の懸賞募集は大阪ではこれが初めてでしょうね。昭和の6，7，8年ごろは小住宅の懸賞募集が盛んだったようですが，これについて……。

O　昭和の6～8年ごろは電鉄会社がその沿線の開発のために，住宅地を造成して，オトリの住宅を10～15戸位建てることが流行しました。その住宅の懸賞募集に建築協会も一枚加わって募集や審査をしたものです。私の記憶にあるものでも昭和6年は，①生活改善健康住宅。昭和7年は，②メートル法による小住宅，③緑ケ丘保健住宅，④大美野田園都市住宅，⑤実際に建つ住宅，⑥上野芝住宅などの懸賞募集で，その他，神戸鈴蘭台生活改善住宅，香里園生活改善住宅，千里山住宅，瑞光住宅などがあると思います。

M　大正11年に阪急沿線の桜ケ丘で協会が住宅博を主催したことがありますね。

O　そのころ，東京の平和博で上野公園の中に文化村が建てられましたが，どちらがさきですかね。住宅改良会（今の新住宅社の前身）でも6～8年ごろ数回小住宅の懸賞募集をしています。私の編集していた「新建築」でも昭和2年7月に小住宅の懸賞募集をしています。そしてその年の10月に街に建つ商店建築の募集をしましたところ，珍らしくドイツのバウハウスから Max Bill という人が応募してきました。当時のバウハウス流のトーフを切ったような実用一点張りの形でしたが，プランもよいので3等に当選し，50マルクを送ったこと覚えています。おそらく外国の建築家が日本の募集に応募したのはこれが初めてでしょうね。バウハウスには「新建築」を毎月送っていましたから，それを見て応募したのでしょう。プランの書き込みは日本文字だったので調べると，当時バウハウスに学んでいた東京美術学校の水谷武彦さんが日本文字を書いてくれたとのことでした。

小住宅の研究

M　岡田さんは昭和8年の4月号と6月号に小住宅のプランの研究という論文を書いておられますね。

O　あのころは，さっき申しましたように，小住宅の企画が盛んで，多くの懸賞募集があり，私も三越住宅建築部に勤めていましたので，たびたびその審査員として引っぱり出されました。そして多くの当選案を見ているうちに，共通したある物を見出し，当選案40から，帰納的に種々の法則のようなものを引き出し，逆にそれを応用して良いプランを作る方法や，プランの良否を見分ける方法を考案したものです。当時は有力な建築家は小住宅の研究など眼中になかった時代でしたから，この種の研究は他にはありませんでした。後に，大阪女専の家政科の学生にこの方法で小住宅のプランを作らせたという報告を女専（今の大阪女子大）の鷲井先生が「建築と社会」に投稿されたことがあります。

協会の事業—映画製作—

O　協会で映画をつくったことがありますよ。「愛の設計図」という題で3巻物2,500フィート。内容は懸賞募集したもの。松竹，日活，大映など数社に入札させ，P.C.L.（写真科学研究所）が落札して作ったんです。昭和9年です。

M　フィルムそのものを事務局で見たことがありますよ，空襲が出てくるんじゃないですか。

O　そうです当時は空襲とか武装都市とかいいまして，戦争においおい近づいているんですよ。まだ協会にあるなら一度見たいものですね。

M　昭和初期の「建築と社会」の編集を通じて，いろいろ興味深い話を提供くださいまして，ありがとうございました。

大正・昭和前期の都市計画の人脈

三輪嘉男

大阪府の都市計画，建築行政で大正，昭和前期にわたって活躍され，現在日本都市学会の会長として，また中沢建築事務所長として，益々元気でご活躍の中沢誠一郎先生を，松井氏とともに訪問し，主として大正昭和前期の大阪の都市計画界の人脈についておききしたことを中心としてまとめた。なお本稿は前述した「大正・昭和前期の都市問題」の続篇となるもので時間不足のため不十分なところがあり，追加訂正いただければ幸いである。（下表参照）

片岡会長と田尻東京市長との出合い

大正5年12月に，片岡会長が「現代都市の研究」を出されたが，田尻稲次郎東京市長はこれに注目し，大正6年に片岡氏を東京によんだ。このとき「日本も近代的な都市計画をやらなくてはいけない」という田尻市長の意見に，片岡氏は「建築規制を是非いれてほしい」と申し入れた。そして大正7年に都市計画調査会が発足し，内務大臣水野錬太郎が会長となり，田尻市長，佐野利器，片岡安，関一などが委員となってつくった答申には，都市建築法の制定は目下の急務なるをもって，当局は速かにその案を起算し，本会に諮問されたいと述べてあった。そこで都市計画課は特別委員であった片岡安，佐野利器，岡田文次の三氏とはかり，建築法案を作成して都市計画法案とともに，床次竹二郎内務大臣を会長とする都市計画調査会に諮問し，大正8年に公布された。

都市計画に対する市民運動

最初，都市計画主管部局を定めなければならなくなったとき，これを土木局にすべきか，地方局か，衛生局かと省議は容易に決定をみなかったが，結局これらを総合して計画するところから大臣官房におかれることとなった。府県では内務部に都市計画課がおかれるとともに，警察部に建築課がおかれた。従来自分の土地に自分の金で建てる建築物に，役所からとやかく干渉されることはないという考え方も強かったので，市街地建築物法に対する抵抗も相当強いものがあった。前田多聞都市計画課長は，「この法律は警察部で執行するのであるが，普通の警察事務とは全く様子が違っているものであるから，窓口の事務は叮嚀の上に叮嚀にして，一般の人々に不快の念を起させないようにしなければならない」といっている。昭和前期の都市計画に対する市民運動として，昭和7年御堂筋の工事中，家はほとんどたちのいたが，なかに受益者負担金の問題で，拡巾されても受益していない理由を行政裁判所に申し出て行政訴証を起して問題となっていた。また地域制の指定変更によって不適格建築物となったのが，既得権としての10年の猶余期間を，昭和2～3年の不況で延長してほしいという要望が強く，ついに猶余期間が20年になり，さらに緩和規定として撤廃されるという企業者側の抵抗運動が強かった。最近では工場跡地買収基金が設けられ，自治体で買上げる余裕ができてきたのに比べると，当時は逆に工場の要望によって地域制を再変更せざるをえなかった場合もあった。

土地区画整理の進展

都市計画は建築物を対象とした規制と，多くは道路の築造による事業によって計画を実現していくが，予算にしばられてなかなか進まなかった。大正，昭和前期に活躍したのが土地区画整理で，大正年代には大阪，京都で2，3の組合ができたのが，昭和になると名古屋を中心に各地で盛んに組合が結成され，この組合組織による郊外地の開発整備が大きく進み，これによって相当大きな公共用地が確保された。昭和14年以後は，戦時色も強まって土地価格統制令によって組合施行の魅力はなくなり，公共団体によって都市計画の上から必要度の高いものが土地区整理を行なったにすぎなかった。名古屋の都市計画地方委員会は石川栄耀らを中心として，県の都市計画関係職員および土地区画整理事業関係者などの相互連携，事務研究機関として大正14年に，都市創作会を発足させ，機関誌「都市創作」を大正14年9月に創刊させ，下村海南とともに台湾の都市行政を担当した黒谷了太郎氏のもとで名古屋の都市計画の立案や土地区画整理に活躍していた。

大阪を主とした都市計画界の人脈（大正・昭和初期）

- 内務省大臣官房都市計画課長　池田宏（大7．5）→前田多聞→山県治郎
- 内務省都市計画局長　山県治郎（大11．5）→長岡隆一郎→堀切善次郎
- 内務省大臣官房都市計画課長　篠原英太郎（大13.12）→（防空法成立）内務省計画局都市計画課（昭12）→防空局施設課（昭16）（防空研究所）（のち建築課）／国土局計画課
- 戦災復興院（昭20）
- 大阪府内務部都市計画課長　内山進之助（大9）→勝又愛治郎（大10）→小幡豊治（大11.2）→平賀周（大11.10）内藤清三郎（大12）
- 大阪府土木部都市計画課長　玉田昇次郎（昭3）→江部清夫（昭5）→沖野悟（昭6）→川崎勇（昭7）→赤間文三（昭10）→内海清（昭14.6）→那須時夫（昭14.9）→小牧孝雄（昭15）→平山秀雄（昭16）
- 大阪府警察部建築課長　池田　実（大9）→津田敏雄（大12）→中沢誠一郎（昭7）→井上信二（昭14）→堀井啓二（昭17）
  - 技師　中西甚作／平井三郎／中沢誠一郎／玉置豊次郎／松井清之助／落藤藤吉／伊東五郎／桐本楠雅
  - 中沢誠一郎→愛知県建築課長（大12）
  - 内務省計画局／防空研究所／第2技術課長（昭14）→防空研究所長（昭17）
- 大阪府警察部施設課長　堀井啓二（昭18）→益井啓吉（昭20）
- 大阪府土木部建築課長（昭21）　大村己代治
- 都市計画大阪地方委員会
  - （事務官）　大須賀厳（のち丸亀市長）（大9）→磯村　遠→？
  - （技　師）土木　内山新之助→大木外次郎→？
  - 建築　宮本長治→鳥井信→亀井幸次郎→吉田信武
  - 公園　大屋霊城→森→？
  - （技　手）　加藤善吉→田中清志（のち倉敷市助役）
- 大阪市市区改正部長：杉山清次郎（大7．5）→直木倫太郎（大7．9）
- 都市計画部長：直木倫太郎（大9．4）→坂出鳴海（大13）
- 土木部長：島　重治（昭3）→福留並喜（昭9）→？

日本建築協会

月間の動き

昭和46年12月分

理　事　会

16日　5時～5時半　於太閤園
出席者　塚本，松村，福田正副会長ほか14理事
議事(1)1月定例理事会休会の件
(2)通常総会開催の件
(3)叙勲候補者推せんの件
(4)入退会者承認の件
(5)報告事項

事　業　委　員　会

見学会小委員会
1日　6時～7時半　於会館3階会議室
出席者　堤副委員長，金子幹事ほか3名
議事(1)11月に実施した見学会の報告
(2)12月～47年2月の見学会企画について
(3)3月以降の見学会について
(4)昭和46年度役員，委員の見学と懇親会について

若い会員の集い小委員会
2日　6時～8時半　於なかいわ
出席者　柳副委員長・奥尾幹事ほか7名
議事(1)第7回「船のできるまでをみる会」の事業企画について
(2)47年第1回「日本伝統工芸をみる会」の事業企画について
(3)次年度の事業計画について
会議終了後同所において忘年懇親会を開催した。

広報小委員会
3日　6時～7時20分　於会館集会室
出席者　三品副委員長，田中幹事ほか6名
議事(1)11月24日に開催された総合設計制度の説明会について
(2)第13回（2月～3月）展示写真の実施企画について
(3)第2回各種説明会の実施企画について
(4)本年度創立記念日の集いの実施企画について
(5)会員余技展の開催時期などについて

委　員　会
16日　4時半～5時　於太閤園
出席者　北垣委員長，大橋，窪田，田村，三品，柳各副委員長，ほか3幹事
議事(1)各小委員会の事業報告
(2)12月～2月までの事業企画について
(3)本年度の事業企画について

編　集　委　員　会

4月号「都市交通問題」特集編集幹事会
6日　4時～7時半　於会館集会室
出席者　西村正輝，伊藤和雄，両特別幹事ほか3名
議事　「都市交通問題(仮称)」特集企画について

委　員　会
13日　4時～6時半　於会館集会室
出席者　鳥田委員長ほか6名
議事(1)正月号＝「冬季オリンピックと札幌」特集経過報告
(2)2月号＝「600号記念号」報告
(3)3月号＝「インテリヤ」特集報告
(4)4月号＝「都市交通問題」企画―幹事会案をもとに
(5)5月号＝「水利用」特集幹事会について
(6)6月号以降の企画について

教　育　委　員　会

建築へのコンピューター利用講習会反省会
6日　6時～8時半　於太閤園
出席者　谷口・臼井正副委員長ほか5名
受講者より寄せられたアンケートを基に講習会の反省とこんごの事業企画について検討を行い反省会終了後同所において懇親会を開催した。

出　版　委　員　会

建築基礎工法と実例幹事会
7日　6時～8時　於会館集会室
出席者　山肩委員長，山口幹事
議事(1)製本状況などについて
(2)講習会企画について

意匠計画部会
10日　5時半～7時半　於会館集会室
出席者　小林委員長ほか3名
議事　住宅の矩形図の出版企画について

住　宅　委　員　会

住宅展，総務合同小委員会
9日　5時半～7時半　於会館集会室
出席者　湯浅委員ほか8名
議事(1)住宅展および総務小委員会主査互選について
(2)小委員会活動企画について

住宅資料，スライド合同小委員会
14日　5時半～7時半　於会館集会室
出席者　高野委員ほか6名
議事(1)住宅資料，スライド各小委員会の主査互選について
(2)小委員会の活動企画について

会　勢　委　員　会

16日　3時～4時　於会館集会室
出席者　塚本，福田正副会長，小林委員長尾亀，田中各副委員長ほか5名
議事(1)委員長，副委員長互選について
(2)委員会の活動方針について

見　学　会

京都競馬場スタンド増築その他工事の見学会
（本会・大阪府建築士会・日本建築学会近畿支部共催）
2日　1時半～4時
参加者　21名
設計・監理　日本競馬施設株式会社
㈱安井建築設計事務所
施　工　京都競馬場スタンド増築その他工事共同企業体
㈱大林組・鹿島建設㈱・戸田建設㈱

竣工開館後の南ＯＳプラザ並びに竹林会館の見学会
16日　9時～11時
参加者　34名
南ＯＳプラザ新築工事
設計・施工　㈱竹中工務店
竹林会館（竹林寺建立工事）
設　計　平井建築設計事務所
施　工　㈱竹中工務店

忘　年　懇　親　会

16日　6時～8時　於太閤園
恒例により会員有志より多大の賛助後援を受けて盛大に開催，寄贈景品も多数に上り，余興も盛りたくさんで盛会をきわめた。
当日の出席者　390名

建設省の業務検査

8日　4時～5時　於会館3階会議室
建設省大臣官房文書課建設事務官小林袈裟雄氏により，協会の業務および財産状況などについて検査を実施された。

建築8団体事務局打合会

6日　0時～1時半　於大阪建設業協会
出席者　各団体事務局員9名
議事　第12回関西都市・住宅会議の残務処理について打合せ

4会連合工事請負契約約款改正委員会

15日　1時半～4時半　於日本建築学会
出席者　堀井委員長ほか5名
益田幹事より中建審専門委員会の状況報告のあと，工事請負契約改正について意見交換。

12月の入会者（敬称略）

〔団体会員　2社〕
㈱市来崎建築事務所　㈱ニホンボイラ

〔個人会員　20名〕

天野紀子	東野良平	村上忠雄
大沢軍平	松村修三	森元良久
加藤照男	松本博雄	安田勝美
川出勉	三谷真喜子	柳生寿恵
小松正宏	水谷広治	柳下文男
堂島孝司	水村俊彦	米沢時雄
林吉之	向原辰夫	

〔准会員　4名〕（氏名省略）

募　集

経理女子事務員　1名
20～30才，経験を問いません。
給与は当方規程による。
お心当りの方があればお世話下さい。
日本建築協会事務局　06―231―9648

電子計算機が駆使する
ダブルデッキエレベータシステム

吉田三雄

§1. ミニマム スペース論

高層ビルにおいて，居住者・来訪者が主として入って来る階（複数の場合もあり得る）から上階に対し，よいサービスを受けるためには，十分なエレベータ輸送能力が必要である。

30階級の超高層ビルにおいて，その要求を満足させるためには，15階級の高層ビルにおける昇降機占有面積（シャフト・ロビー・機械室面積の合計）の約2倍の面積が必要となる。（**表－1，表－2参照**）

ただし，上記の数値は表面上のもので，低層用エベレータ直上部の高層ゾーンにおける利用状況，高層用エレベータロビー直下部の低層ゾーンにおける利用価値などを考慮に入れた場合には，もっと大幅な実質増加となる。この増加率は，12階～15階を1単位とする等差数列的な傾向を本質的に持っているので，60階級や100階級の超高層ビルにおいては，15階級高層ビルにおける昇降機占有面積のおのおの4倍，7倍程度となることが推測できる。したがって，超高層ビルのプラニングにあたっては，「昇降機占有面積の増加傾向を極力抑制しながら，必要にして十分な輸送能力を，いかにして確保するか」という問題が大きくクローズアップされてきた。

この問題に対して，従来はエレベータ昇降速度の高速化とゾーニング方式のみに頼り，広い視野からの討議はなされなかったようであるが，昇降速度500m/minが実用化の段階にはいり，600m/minの実現する日も間近くなりつつあるアメリカにおいては，種々のアングルから「垂直交通システム」として，この問題が意欲的に検討されるようになってきた。

このような背景のもとに，SKY LOBBY SYSTEMとDOUBLE DECK ELEVATOR SYSTEMの両者が，超高層時代のホープとして誕生し，実施の緒につきつつある。

前者は，現在建設中の WORLD TRADE CENTER TOWER BUILDING (110—STORY, NEW YORK) などにおいて具体化しつつあるように，主として60階級以上の超高層ビルに適応性が大であると思われる。

ここでは，㈱大林組が数年前よりミニマムスペース論を展開し，十分検討し討議をつくした結果，三菱電機㈱と共同開発して，現在「大阪大林ビル」において建設中のDOUBLE DECK ELEVATOR SYSTEM (O.D.D.システム) を例にとりながら，DOUBLE DECK ELEVATOR SYSTEMS (D.D.システム) の現状，ある程度までの詳細，問題点，将来の動向などを紹介する。

§2. ダブルデッキエレベータシステムによる昇降機占有面積の節約と輸送能力の改善

エレベータシステム選択に対する従来の一般基準は，つぎに述べる「5分間輸送力」と「平均待時間」の2要素であり，占有面積に関する考察は一般的には行なわれていなかったようである。しかしながらこの考察は超高層ビルにおいては，不可欠な要素であることが一般的に認識されつつある。

(1) 5分間輸送力——量

1エレベータシステムが5分間に輸送できる人員を，サービス対象人員に対するパーセンテージで表現したものである。事務所用貸ビルは，通常11%～15%が現在の一応の基準となっている。

(2) 平均待時間——質

乗客が呼釦を押してから，かごが来るまでの時間の平均値のことで平均運転間隔の½と見ることができる。

事務所用貸ビルでは，20秒までは良，25秒までは可，30秒以上では悪いサービスといえる。ただしこれは，日本における現状であり，アメリ

表－1　高層ビルの昇降機占有面積

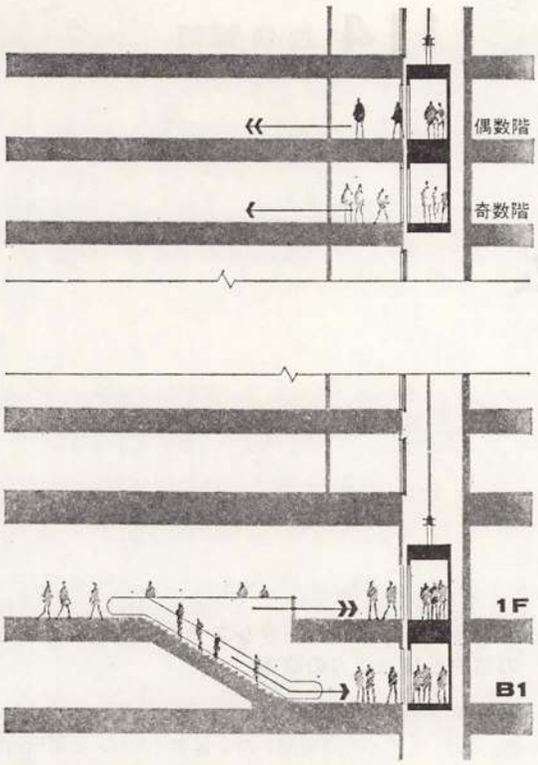
延面積（㎡）	調査対象 竣工年度	調査対象 建物数	延面積合計（㎡）	設置台数合計（台）	1台あたりの延面積（㎡）	昇降機占有面積 床面積（㎡）	昇降機占有面積 占有比（%）
10,000～20,000	44年	17	232,434	60	3,874	9,650	4.15
	45年	14	175,615	42	4,181	7,620	4.33
20,000以上	44年	13	473,305	103	4,595	22,690	4.8
	45年	7	192,883	46	4,200	9,830	5.1

注1　調査対象として，地上8階以上23階未満，延面積10,000㎡以上の国内事務所ビルに限定した。
注2　昇降機占有面積は1層あたり1台につき14㎡，かつ全階サービスとして計算した。
注3　昇降機機械室面積は，1台につき30㎡とした。

表－2　超高層ビルの昇降機占有面積

ビル略称	高層部サービス床面積（㎡）	設置台数（台）	1台当りサービス床面積（㎡）	階数	昇降機占有面積 床面積（㎡）	昇降機占有面積 占有比（%）	タワー部標準階における各種面積 床面積（㎡）	占有面積（㎡）	比率（%）
KA	136,695	40	3,420	36/3	11,708	8.6	3,505	367	10.5
H	105,694	26	4,060	40/3	9,096	8.6	2,458	264	10.7
KO	38,640	12	3,120	26/2	2,833	7.3	1,380	145	10.5
U	52,008	14	3,700	31/2	4,236	8.15	1,576	160.4	10.3
※OH	43,744	9	4,860	30/2	3,045	6.9	1,367	109	8.0

注1　サービス床面積は中間機械室を含みペントハウスを含まない。
注2　タワー部標準階は最下層ゾーンにおける諸元を示す。
注3　※はダブルデッキエレベータシステムを示す。



図—1　D.D.システムの乗降図



図—2　運行方式の種類

カにおいてはおのおのより5秒減じた数字が一般的基準となっている。

この問題に対して NEW YORK の CONSULTING ENGINEERS である CONSENTINI ASSOCIATESはつぎのような見解を発表している。—— DOUBLE DECK ELEVATOR SYSTEM はとくに50階以上の高い，幅の狭いビルで，1階あたりの収容人員が多い場合に適しており，床面積の30%節約，輸送能力25%～50%アップが可能である。

具体的に示せば，50階建ビルでは34台の普通形エレベータと同等の輸送能力を，24台のダブルデッキエレベータで確保することができる。また，具体例として，80階建の STANDARD OIL (INDIANA) BUILDING（建設中）において，必要とされるエレベータの台数を76台より40台に減らしたことを報告している。

O.D.D.システムの場合は，**表—2** に示すように昇降機占有面積が約20%節約できている。また，1台あたりの輸送能力は**表—3** に示すように約80%程度向上する見込である。

§3.　構造と運行方式

ダブルデッキエレベータのかごは，1個の大きなかご枠に，一般エレベータかご室と同じ形状の，おのおの独立したかご室を上下2段に取付けてあり，上下のかご室の床は建物の上下に隣接する2つの階床と一致して停止し，2つの階より同時に乗降できる構造になっている。

その運行状況の大要は**図—1** により推測していただけるはずであるが，O.D.D.システムにおいては，図—2に示すように，3種類の運行方式を具備しているのでその大要を述べる。

(1)　ダブルデッキ運行（D.D.運行）

主として朝夕のラッシュ時に適用する運行方式で，一周あたりの全停止数は**図—2** のごとく14回である。

(2)　シングルデッキ運行（S.D.運行）

下のかごは休止して扉の開閉は行なわず，上のかごのみで普通形エレベータとまったく同様の運行をする。交通閑散時に適用する運行方式で，1周あたりの全停止数は，**図—2** の場合30回である。

(3)　セミ・ダブルデッキ運行（S.D.D.運行）

1階，B_1 階からの乗客および1階，B_1 階へ降りる乗客には，D.D.運行と同様のサービスをする。その他の階からの乗客および乗場釦の呼びで一旦停止した後の1階，B_1階からの乗客には，S.D.運行と同様のサービスとなる。1周あたりの全停止数は，**図—2** の場合，27回である。

§4.　O.D.D.方式における運行制御方式

(1)　運行方式

図—3 は週日における平均的な運転パターン・運行方式の適用状況の予想図である。この切替動作は各種の交通情報および時間的要素により自動的に行なわれ，かつ切替えに伴うD.D.方式特有の予告放送・案内盤表示の変更・かご内操作盤の作動規制なども，必要なTime lagを経た後，自動的にフォローする。

(2)　平均待時間

表—3 は，D.D.運転時の平均待時間を，また**表—4** はS.D.運転時のそれを示す。両者の間は相当な開きがあり，とくに高層ゾーンにおいてはもっとも条件のよいときでも，待時間が50%程度S.D.運転時において長くなっている。またこれは，絶対値としても先に述べた一般的基準値の最大許容値であり，よいサービスとはいえない。実はこの点がD.D.方式における最大の問題点であり，ウイークポイントであるともいえよう。この点を改善するために，つぎに述べる O.D.D. 群管理システムを開発して，**表—4** に示すように，ある程度まで待時間を短縮できる成算を得ている。

(3)　O.D.D.群管理システム

制御システムは，普通形エレベータに多用されているパターンセレクト形群管理制御機器，ディジタル形電子計算機，およびその周辺機器より構成されている。前者は，運転パータン選択と端末機器の制御に，後者は，かご割当制御，出発階偏重制御，各種交通情報記録などの新しく

開発された付加動作に使用される。両者の有機的結合により，表—4のごとく18%～14%の待時間短縮達成の見込みであるが，正確な交通情報の収録とその解析により待時間30%短縮を達成できるような画期的手法の開発を電子計算機に期待している現状である。

§5. D.D.エレベータの経済性

輸送能力向上・昇降機占有面積の減少などの効果を定量的に取扱って，D.D.システムの昇降機当初建設費の経済的な許容限界を試算する。

個々の計画に際しては，確実なデータを基礎にして，より正確な経済比較がなされるはずであるが，ここでは下記の基本式および統計値・仮定値を使用して，基本計画ステップにおける討議資料として使用できる程度の数値を求めることを目的とした。

そこで，基本式

$$N_S \cdot P_S \geqq N_D \cdot P_D - \alpha \beta C \quad \cdots\cdots(1)$$

とおく。ここに，

N_S ： S.D.エレベータの所要台数
N_D ： D.D.エレベータの所要台数
P_S ： S.D.エレベータの単価
P_D ： D.D.エレベータの単価
α ： D.D.システム設置による占有面積減少率
β ： 昇降機占有面積比
C ： 建築全建設費

(1)式に $N_S/N_D = 3/2$, $\beta = 0.09$, $\alpha = 0.20$ を代入し，変形すると，

$$P_D/P_S \leqq 1.5 + 0.027/(N_S \cdot P_S/C) \quad \cdots\cdots(2)$$

となる。

そこで，昇降機建設費の全建設費に対する値を変化させていった場合のD.D.エレベータの経済上の許容価格を図—4に示す。

また，今度は

(1)式に $N_S/N_D = 3/2$, $\beta = 0.09$, $N_S \cdot P_S/C = 0.08$ を代入し，変形すると，

$$P_D/P_S \leqq 1.5 + 1.69\alpha \quad \cdots\cdots(3)$$

となる。

そこで，占有面積減少率を変化させていった場合の，D.D.エレベータの経済上の許容価格を図—5に示す。

両図より明らかなように，D.Dエレベータ1台あたりの建設単価は，S.D.エレベータのそれの1.8～2.0倍程度が経済的に許容される最高限度であると，概算的にはいえよう。

実際の建設価格は，日本において一例しかなく，更に研究開発費的要素がはいっているので，参考価格とはいい難いが，ほぼこの限界内である。

§6. エレベータに託す夢

技術者の描く夢のエレベータとは，どんなものであろうか？

各階のエレベータロビーのいる人の脳波をキャッチして，その行先希望階を知り，そのデータを集積して，時々刻々の全体需要を把握して，もっとも能率のよい運行方法を，短いインターバルごとに算出し，最適なかご割当を行なう——といったものではなかろうか。

これは，現在のエレクトロニック技術ではおよびもつかないことであるが，しかし夢の内容を分析するとつぎの三要素が考えられる。

A．「行先希望階別の人数の判別」
B．「上記情報の早期登録」
C．「迅速なる演算機構と指示」

Aに関しては，現行は乗客が1人でも10人でも押釦1個で表現されるので，人数の判定はできない。しかしこれは，visible な手法・音響的

表—3 ダブデッキシステムと普通形システムとの計画例

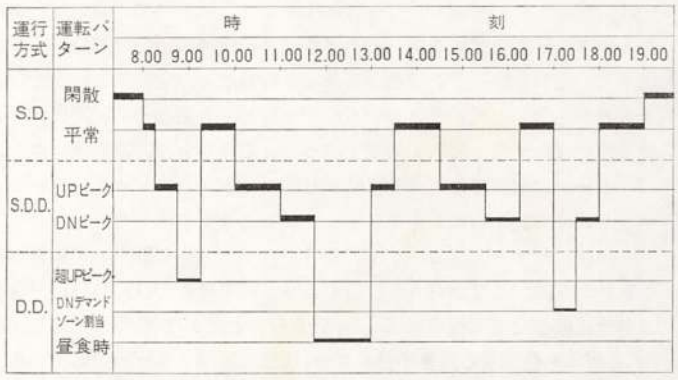
	サービスゾーン	定員(名)	台数	速度(m/min)	5分間輸送力(%)	平均待時間(秒)
O.D.D.システム	高層部	20×2	4	240	13.5	20.5
	低層部	20×2	4	150	19	16
普通形によるシステム	高層部	24	6	240	11	17.5
	低層部	24	6	150	14	15.5

注1 O.D.D.システムの数値は，D.D.運行時におけるものを示す。

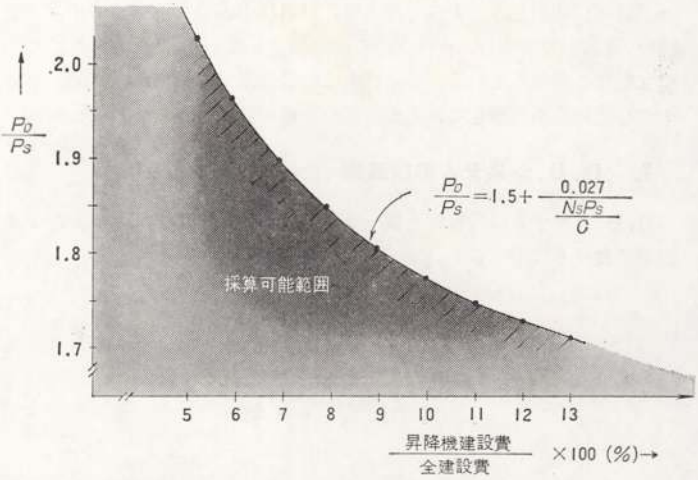
表—4 シングルデッキ運行時の平均待時間

制御システム	ゾーン	台数	平均待時間(sec) 6(%)	8(%)	10(%)	備考 ※1
従来の群管理システム	高層部	4	30	40	50	
	低層部	4	20	29	36	
O.D.D.群管理システム	高層部	4	25	33	40	※2
	低層部	4	18	25	30	

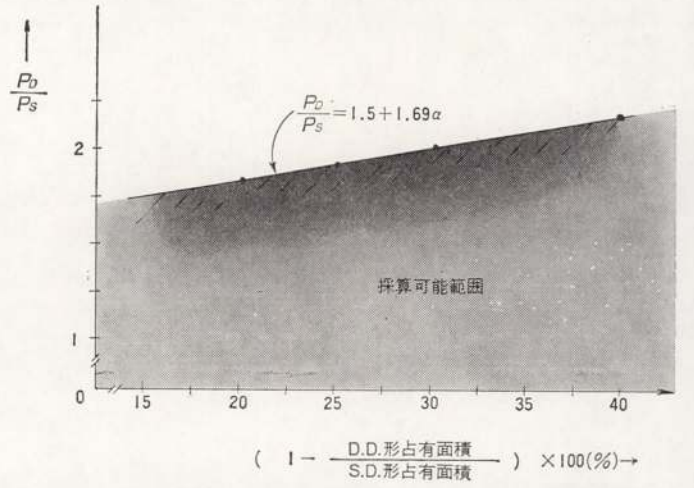
※1 5分間輸送力に相当する平常時の全輸送量
※2 他システムのシミュレイションによる計算結果よりの推測値



図—3 運行方式・運転パターンの選択予想図（O.D.D.システム）



図—4 昇降機建設設備とD.D.エレベータ単価との経済上の相関



図—5 D.D.形による昇降機占有面積減少率とD.D.エレベータ単価との経済上の相関

手法などを併用することにより，可能ではなかろうか。

Bに関しては，現行は乗客がかごに乗りこんでから行先希望階を制御系に登録しているが，これをエレベータホールで登録することにすれば，どうだろう。情報は平均待時間と乗込所要時間の和だけ早く制御系に登録され，狭いかご内での登録のわずらわしさからも解放されるであろう。登録方法については，広い視野より再検討したい。communication には tactile なもの，oral なもの，また visual なものなどがある。oral communication system は，非常に近い将来において，昇降機制御に導入されるのではなかろうか。

Cに関しては，記憶容量8K語～16K語程度(1バンクあたり)の電子計算機で処理できる可能性は，非常に大きいと思われる。以上のように思考を進めていくと，夢に近づく可能性はかなりあるといえるようである。

それではもし，実現した場合どれほど輸送能力が増加するであろうか。シミュレイションを行なっても，インプットするデータが未知であるので無意味に近いが，前記の事項を類推するひとつの手がかりになる情報があるので紹介する。

最近完成した15階建ビル（6台，1バンク）において，朝のピーク時のみオペレータ付運転をエレベータ管理人の指揮の下で行ない，非常に能率よく乗客を捌いている例がある。その輸送能力を実測したところ，もっとも進歩した群管理システムのアップピーク用パータン時における輸送能力（計算値）の約30%増であった。この事実は，群管理システムのパターンのなかでも，非常に好評な「ハードアップピークパターン」ですら，なお30%の改善余地が残っていることを示唆している。

その他のパターンにおいては，よりいっそう大きな改善の可能性があるといえるのではなかろうか。このような夢を描いて，O.D.D.システムでは正確な交通情報を収録し，分析することにより，各呼びに対し「重み」の要素を付加する演算手法により，理想に近づこうと努力している。

具体的にいえば，電子計算機の演算機能・比較機能を駆使して，エレベータ最適化制御を果たすことにより，D.D.方式のウィークポイントを補い，輸送能力強化のメリットのみを享受するために，電子計算機による付加動作を開発している。この技術は，普通形エレベータに適用しても十二分に機能を発揮して，所要台数の削減に効果あるものと思われる。

§7. D.D.システムの設置例

D.D.システムの設置例を表—5に，またO.D.D.システムの機器詳細を表—6に示す。

表—5 D.D.システムの設置例

建物名称	所在名称	用途	竣工年月	延面積(㎡)	階数	設置台数・その他
TIME-LIFE BUILDING	CHICAGO	事務所	1970.3	65,870	地上30F	低層：6台(26人×2) 高層：6台(21人×2)
JOHN HANCOCK BUILDING	BOSTON		施工中			
CANADIAN INDUSTRIAL BANK OF COMMERCE	TRONT		〃			
STANDARD OIL (INDIANA) BUILDING	CHICAGO		〃		地上80F	40台，8バンク A. 800ft/min ……8台(23人×2) B. 1,000ft/min ……8台(23人×2) C. 1,400ft/min ……8台(23人×2) D. 1,400ft/min ……8台(23人×2) E. 1,600ft/min ……8台(23人×2)
大阪 大林ビル	大阪市	事務所	施工中	50,292	地下3F 地上32F	(表—6参照)

表—6 O.D.D.方式の詳細仕様

	高層用	低層用
台数	4 台	4 台
容量（定員）	2,700kg（20人×2）	2,700kg（20人×2）
速度	240 m/分	150 m/分
電動機容量	77 KW	55 KW
停止箇所	16 箇所	15 箇所
制御方式	方式：電子計算機によるカー割当・優先制御 ベース：4カーオートセレクトパターンオート	
制御用計算機	MELCOM：350/5 F 1セット 容量：8K語 補助記憶容量：32K語	

参考文献

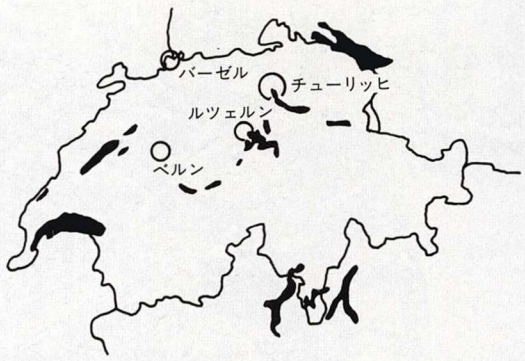
電設工業 VOL.16—№4，VOL.17—№4
最近のエレベータ・エスカレータ（木村武雄氏）
建築設備 超高層ビルにおけるエレベータ設備計画（樋口成弘氏ほか）
新建築 大阪大林ビル設備計画（堀 大成氏ほか）
カタログ各種 各社発行
FORUM—OCTOBER—1970 TECHNOLOGY
CONSULTING ENGINEER
PLANNING DOUBLE DECK ELEVATOR
SYSTEMS (W.H.WUHRMANほか)

（よしだ みつお KK大林組設備部・技術士）

ZÜRICH ——川の下の高速道路

共同研究 都市の開発的保存 4

鳴海邦碩



図－1

はじめに

1970年の万国博を契機に、大阪では阪神高速道路をはじめとする高速道路や幹線道路の整備が重点的に行なわれたが、こうした高架道路の建設によって、大阪も発展する現代都市にふさわしい景観をもつようになった。ことに中之島付近の阪神高速道路などの高架道路が入りみだれる景観は、まさに生産と流通のための巨大な装置を思わせる。西山夘三氏はこれを称して〝スパゲティをまきちらした都市〟という。

経済的に停滞しているといわれる京都も例外ではない。交通の混乱は、各地で立体交叉による処理を余儀なくさせており、東山五条の五条バイパスや、嵐山高架道路がその例である。これらの高架道路の建設にあたっては、景観保全の観点から設置反対運動が見られたが、結局なしくずしに建設は実施されてしまった。

都市が経済的に発展するためには、都市を生産と流通のための装置としなければならないという考えがある。それはある意味では正しいが、装置化は〝スパゲティをまきちらす〟ことによってのみ達成できるわけではない。こういう手法は都市の景観をガラリと変えてしまうものである。

都市は人間が住み、生活する場でもある。装置化の優先した都市の環境の中で生活することは、まさに工場の中で生活していることと同じではないだろうか。都市の施設構成およびその景観においても〝職住分離〟がなされる必要がある。というよりもむしろ、都市は人間の生活が展開する舞台としてのあり方が優先して考えられるべきではないか。

この観点からすれば、古い伝統をもつ都市・チューリッヒにおいて検討され、すでに決定案となっている、シール地区計画－都心地下高速道路の計画－は非常に興味深いものである。今回はこの計画の紹介を中心に述べてみたい。

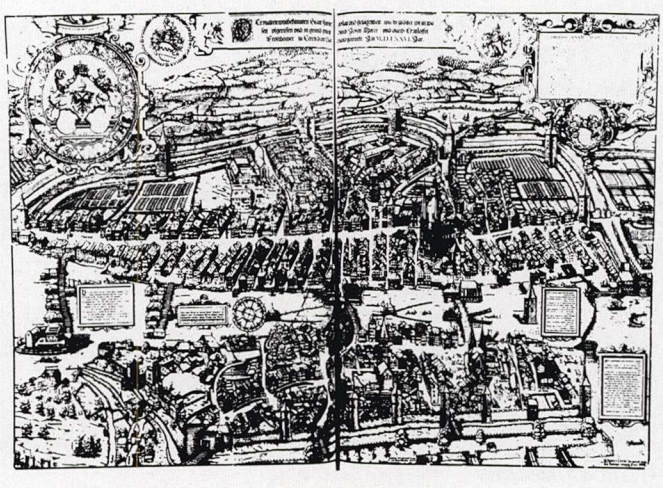
チューリッヒ・シール地区計画の背景

シール地区の〝都心地下高速道路〟の計画にはふたつの側面がある。ひとつは都心地区の自動車交通のネットワークの再編成による、都心空間の歩行者への解放であり、ひとつは、自動車道の地下化によるオープンスペースの確保および景観の保全である。前者については、このシリーズの第２回目で紹介したヨーテボリをはじめ、エッセン、ケルン、コペンハーゲン、ロッテルダムなどの多くの都市の都心において実施されている。伝統的な都心の形態をできるだけ保存し、なおかつ現代的な都市利用の行動様式に対応させる目的で交通システムが構成されている。都心を環状の自動車道路が囲み、ここから中へは一方通行のサービス道路によって導入され、都心のかなりのスペースが島状の歩行者空間となる。サービス道路に沿ってパーキングスペースが配置されており、人々はここから目的地へは徒歩やバス、路面電車で行くことになる。

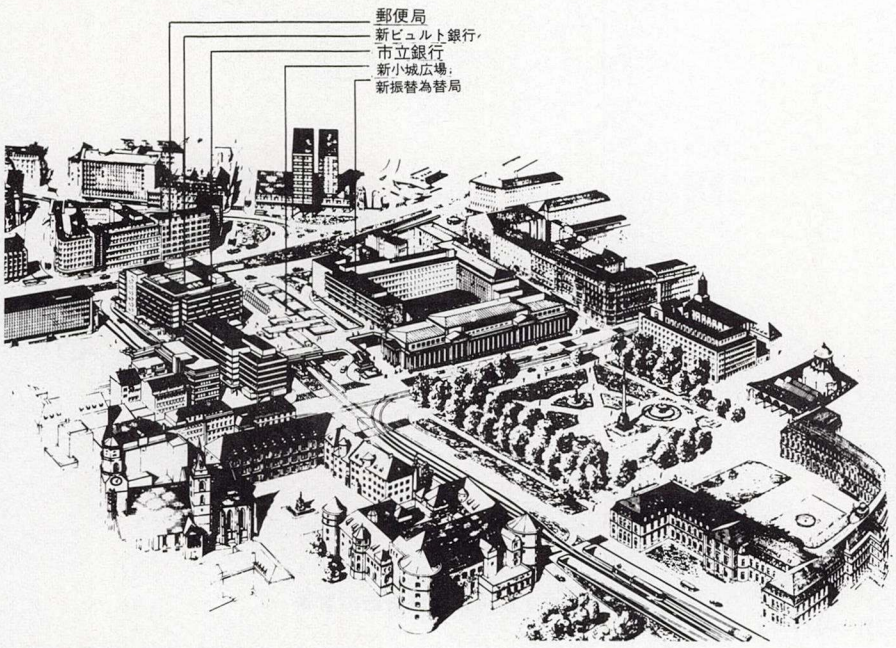
後者の手法によって実施された例には、シュツッツガルトの〝小さな城の広場〟がある。このエリアはシュツッツガルトの都心であり、宮殿や庭園などの古い施設と、銀行や商店などの新しい施設とが一体となっているエリアである。高速道路がこのエリアの地下を通っており、地上はサービス車および路面電車が走っている。新しい施設は人工土地の広場によっても結びつけられている。路面電車も近く地下に移すことが計画されている。ここでは歩行者空間をつくり出すことがそのまま、景観の保全にも役立っているのである。チューリッヒのシール地区計画はこれらのふたつの手法をさらにおし進めたものであるということができよう。



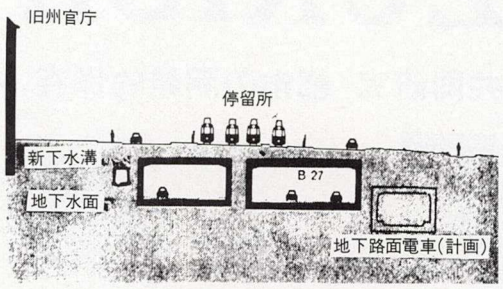
写真－１　中之島付近の景観（都市計画概要・大阪市より）



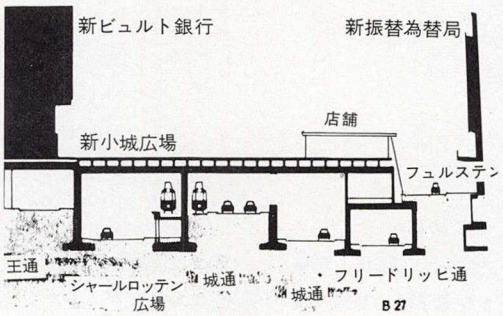
図－２　中世のチューリッヒ　参考文献（５）より



図－3　鳥かん図



図－4　道路断面図1



図－5　道路断面図2

シュツッツガルト〝小さな城の広場〟　参考文献(2)より

チューリッヒ概観

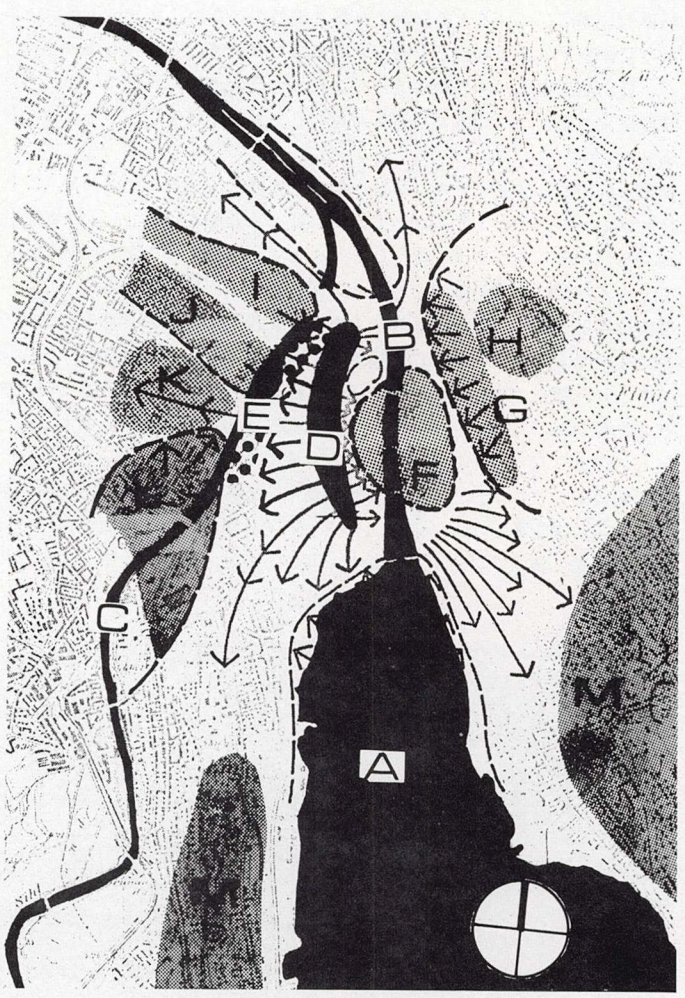
チューリッヒは人口43万を数えるスイス最大の都市である。チューリッヒはリマート川の両岸に発展し、その経済的な基盤は中世に確立したといえる。中世にはリマート川の東岸部分は大市街、西岸部分は小市街と呼ばれた。大市街は今日も中世の面影を残しており、市庁舎、教会を中心とし市街が形成され、16～18世紀に建てられた民家の多くは、美術骨董品店やレストラン、カフェとなり、若者や観光客の集まる活気のある街となっている。小市街の北にはチューリッヒ駅があり、ここから駅通りがチューリッヒ湖岸まで通じており、両側には銀行や商店が立ち並び、商業、金融の一大中心となっている。この東の地区は小市街であり、教会を中心に中世的な市街を形成している。旧市街の東はすぐチューリッヒ丘がはじまり、大学、高等学校、美術館などのある文化地区、さらにその上は州立病院を中心とした医療施設地区となっている。旧市街の西には業務地区が位置し、さらにシール川を越えて、兵舎地区、その南は下層労働者の住居地区で、下町を形成している。チューリッヒ湖をはさむ東西の斜面は、高級住宅地であり、ことに東の斜面が、日照の点から、立地が優勢である。

チューリッヒ・都心の発展

シール川はチューリッヒ湖の西側に並行する谷から流れ落ち、チューリッヒ駅のすぐ北でリマート川と合流する川である。これは小さな川であり、その景観は優れているとはいえないが、その連続性と美しい樹木は、都市計画上重要な役割りをはたしうる。ここは都心に近いにもかかわらず建て込んでいず、都心の発展をうけとめうる唯一の大きなスペースである。ここはおそかれはやかれ都心に統合されることが予想される。この地区をシール地区と呼ぶ。

1962年に国の高速道路体系の一環として、チューリッヒの高速道路の計画が議会で承認された。都心地区では、高速道路はシール川に沿って建設されるが、これは必然的にシール地区の空間的条件を決定することとなる。この変化は新しい都心の環境形成にあってきわめて重要である。

チューリッヒ市およびチューリッヒ州では、1966年から高速道路設置を前提として、シール地区の計画を検討してきた。以下はこの計画と検討の経過をまとめた報告書〝PLANUNG SIHLRAUM〟を中心に、都市の保存と開発のケーススタディーを紹介しようとするものである。



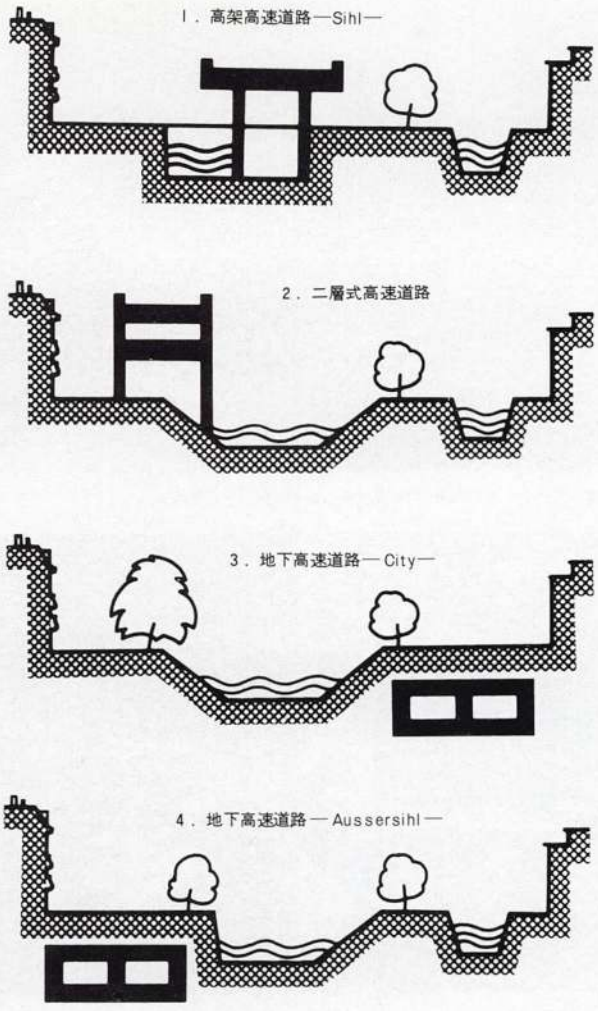
図－6　チューリッヒ都心周辺地区の構成

A．チューリッヒ湖
B．リマート川
C．シール川
D．中心業務地区
E．シール地区
F．旧市街
G．教育・文化地区
H．医療施設地区
I．国鉄
J．兵舎地区
L．下町
M．高級住宅地

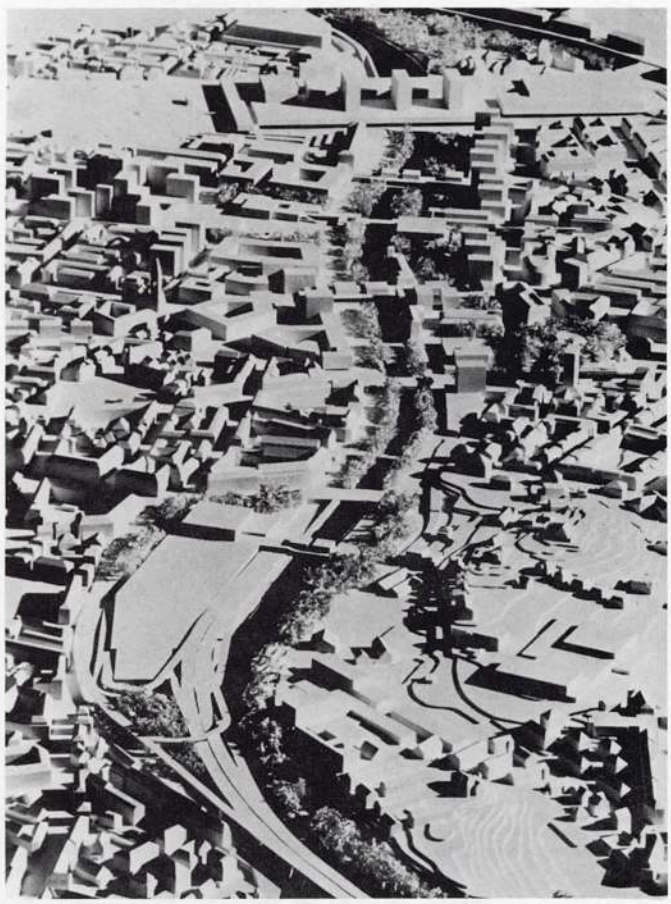
シール地区計画

1．計画の前提条件

既存の街路網と、都市高速道路の機能を区別し、おのおのを快適でスムー



図－7　高速道路4つの案　参考文献(1)より



写真－2　地下高速道路 "Aussersihl" によるシール地区計画模型　参考文献(1)より

ズな交通とするためにつぎのことが必要である。①高速道路から都心の地区街路網への直接の連結はとらない。②高速道路に直接連結された巨大なパーキング・ビルを設け、都心にきた自動車は、完全なコントロールシステムによって、最短距離で空いたパーキング・ロットに導かれる。

都心に向かう高速道路は、都市環状道路に結ばれる。通勤交通、訪問交通および一部のサービス交通は、高速道路から直接パーキング・ロットへ出入りする。パーキング・ビルは都心の周辺に位置し、人々はここから徒歩や路面電車、バス、タクシーを利用して目的地にいくことになる。このため13,000台分のパーキング・ビルを段階的に建設することが必要である。

こうした交通システムの再編成にもかかわらず、既存の街路網から、すべての自動車交通を排除してしまうことは非常にむずかしく、これは地区的なサービスのために利用されることになろう。しかし、いくつかの街路は歩行者と路面電車専用となり、歩行者空間のネットワークが形成される。（筆者注：すでに駅前通りは路面電車以外の車輌交通が排除され、歩行者空間となっている。）

2．シール地区高速道路の4つの案

高速道路の形態について、いくつかの案が検討されたが、結果的に4つの案が最後に残った。ふたつの案は高架式で、他のふたつは地下式である。どの案がよいかを最終的に決定するために、おのおのの案にしたがって開発計画を展開させてみることによって、その効果を検討してみることとなった。これらの4つの案は以下に示してある。

4つの案について、都心の発展の可能性、空間的な明晰さ、空間的な連続性、建設費の問題、長期的なコスト・ベネフィットの分析などによる検討がなされ、結果的に計画委員会は地下高速道路案（Aussersihl）を推薦することになった。

建設費が最も高いにもかかわらずこの案が選ばれたのは、公共的な利益を最優先したからである。地下の高速道路およびこれに直結するパーキング・ビルは、都心の交通を緩和し、さらにはシール地区をオープン・スペースとして解放する。ここは公共施設を中心とし、種々の都心的な施設の敷地とし、計画的都心発展をはかるとともに、リクリエーションのための空間としても利用されうる。高速道路を高架とすれば、その下を歩行者が通れるというものの、空間的な断絶をひきおこすこととなり、必然的に高速道路の両側に表裏のはっきりした空間をつくってしまう。裏となった空間は、よくあるように環境の悪化をきたすおそれがあり、そうなればこの地区の再開発の意味が薄れてしまうだろう。地下式高速道路の建設は、シール地区再開発のみならず、チューリッヒ市の都心の健全な発展の出発点となるものとして、計画委員会において推薦案として決定され、さらに、これが市および政府の議会において承認された。

計画案1．高架高速道路 "Sihl"

高速道路はシール川の上に地上から10mのところに位置する。地区道路は地上レベルにあり、歩行者道はこれらのふたつのレベルの間のブリッジとなる。将来の都市鉄道のスペースは、古い川床上にとることができる。この計画は河川エリアの大々的な改造を必要とする。住居地区を多層の交通施設から守る防御線として、高速道路に並行して、壁のような建築が計画される。新しい都心と古い都心との歩行者の連結はよく解決されていない。この計画は段階的な実現がむずかしい。というのは、川に関係するすべての工事、運河の開設、都市鉄道へのスペースの準備、新しい地区道路、附属建築物、歩行者道のブリッジ、しかも高速道路に並行する建物がスクリーンとして完成してはじめて計画が達成することになるからである。

計画案2．多層高速道路

この案は2方向の高速道路を地上より10m、16mのふたつのレベルに分け、二層にするものである。3つのパーキング・ビルとはうまく連結され、地上の道路は保存され、川岸は歩行者のためのプロムナードとして利用される。高速道路は建物と無関係にたてられるが、これは都市計画上不利である。高速道路と隣接の建物が同時建設されなければ、これまで都市の発展において無視されていたエリアをいっそう無視することにもなりかねないし、これは土地所有者の反対をひきおこす大きな原因となろう。

この案はシール川の西の地区との連続性の点において、心理的な障害となり、連結の手法も不十分である。

計画案3．地下高速道路 "City"

この案では、高速道路はシール川の右岸に位置し、1.4kmのトンネルとなる。業務ビルの地下の2,000台のパーキング・ロットが高速道路と直結される。しかし、中央駅の北では、プロムナード・エリアに墓地があるため、

高速道路は高架となる。地下化によって、シール川の土手は公園となる。古い都心と新しい都心は、うまく土手のプロムナードに連結することができる。川の東西を結ぶ歩行者道と土手のプロムナードの交叉の周辺には、商業施設よりも文化的公共的施設を配置する。地上レベルはプロムナードとし、1階のレベルは、買物のための歩行者道となる。小さな方の川は埋めたてられる。私有地にはあまりくいこまず建設できるが、すべての土地の所有者は市の指導にしたがって、土地を整備する段階で参加する必要がある。

計画案4．地下高速道路〝Aussersihl〟

この案は推薦案として決定したもので、トンネルは川の左の土手の下にある。パーキング・ビルのひとつは、既存のスポーツ施設に建てられねばならないため、スポーツ施設を移設する必要がある。(筆者注：ドイツおよびスイスの都市では、都市内の公有地は、地下駐車場を設置するという条件で、安く民間に払い下げられる。スポーツ施設は多くの場合州有地である。)地下式はシール地区をそこなわず、川はオープンのまま保存される。都心の発展は、高速道路の建設にかかわりなく行なわれうる。古い樹木が土手のプロムナードの一部に移植される。この案はむしろ文化施設をもった緑地帯の計画といえよう。

古い都心と新しい都心との間のスペースは、一体として計画することができ、新しい都心の発展を適切に誘導することができよう。歩行者道が、都心施設からシール地区に、まるで橋頭堡のようにのびてくる。この案は、都市計画にとって、きわめてフレキシビリティに富んだものである。

都市計画的な建設は、多くの段階を必要とするものであり、おのおのの段階において、できるだけ機能的に完結していることが必要である。建設のプログラム上からも、この案がもっとも適切である。

シール地区の再開発に関連して、チューリッヒ駅の再開発のアイデア・コンペが行なわれ、1971年のはじめに当選案が決定された。(筆者注：駅の再開発は日本と同様に国の管轄であり計画は別途にされる。)チューリッヒ駅の再開発はここ4、5年のうちになされることが予想される。地下高速道路の建設は、駅の再開発にあわせて行なわれ、数年後には、新しいチューリッヒの都心の交通システムが完成することになるようである。

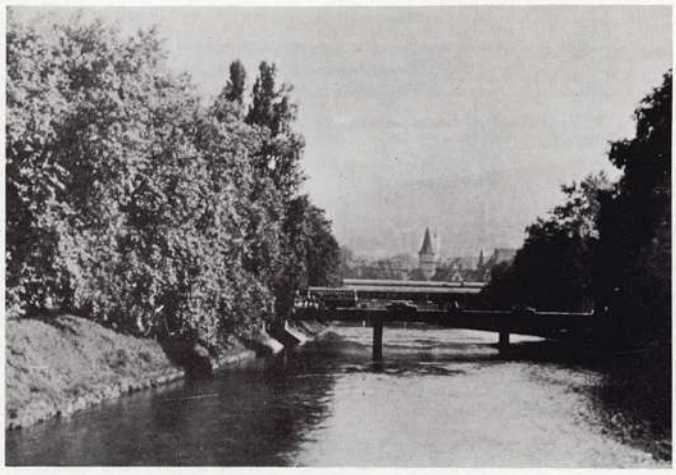
おわりに

ヨーロッパでは、都市の開発において非常に保守的である。パリの旧市街では、新しい建築物を建てることがほとんど許されないし、ドイツの多くの都市では、第2次世界大戦でその大半が破壊されたが、積極的にその復元をすすめている。それは教会や城、宮殿といった建物のみならず、一般の住宅についてもしかりである。執念深いまでの保存や再建の動きは、〝メタボリズム〟を生み出す日本人にはなかなか理解できない。

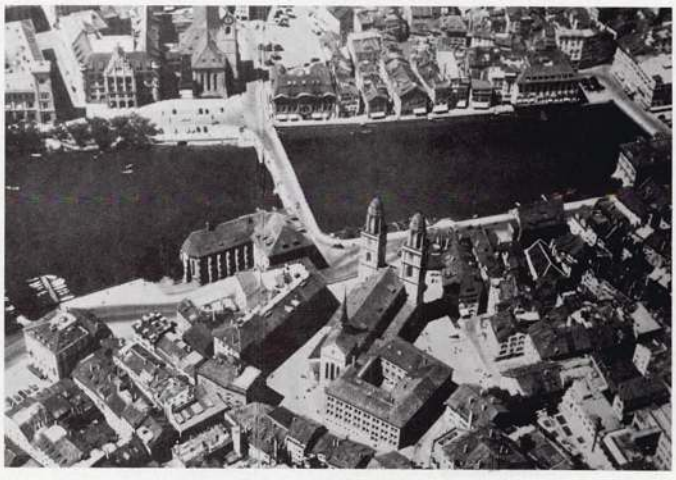
先日、都市の発展について、ドイツからきている留学生と話しあったのだが、彼はつぎのようにいう。「都市は永い時間をかけて造っていくものだ。少しづつ住みよく、少しづつ美しく、少しづつ機能的に、古い建物が完璧であるとはいえないが、新しい建物がそれ以上によいという保障はどこにもない。公共建築が機能的に使いものにならなくなり新しいものとするときは、設計競技によってもっともすぐれた案を採用する。都市は永い時間をかけて醸成していく人間集団の芸術作品なのだ。日本の都市は使いすての都市のようだ。これは仏教的な思想のためですか？」逆に、こんな質問がかえってきたが、確かにそういう側面はあろう。しかし、これを〈石の文化、木と紙の文化〉という風に簡単に片づけてしまうことはできまい。生産や流通のシステムはメタボリックに発展することが考えられるが、人間の日常的な生活は、そのようには変化しないだろう。人間の日常的な生活を中心に考えれば、ヨーロッパ流の着実な環境形成の思想の方に理があるといえよう。

日本の都市は、経済発展のための施設を中心として開発され、人間の生活のためのよりよい構成という点については、なかなかかえりみられなかった。緑地や川や原っぱといった空間は、役に立たないものとして、つぎつぎに埋められていった。しかし、こうした空間こそ、人間の日常的な生活のよりよい環境の構成に不可欠である。これからの日本の都市においては、これまで無用視されてきた空間の重要性を考え、これを保存あるいは再び創り出していく必要がある。チューリッヒのシール地区の計画は、このひとつの事例として紹介したものである。

なおシール地区計画の報告書—PLANUNG SIHLRAUM—は、大阪市公園部、宮崎研一氏の提供によるものである。紙面をかりてお礼を述べたい。



写真－3　シール川現況 駅が見える　参考文献(1)より



写真－4　リマート川両岸の旧市街　参考文献(6)より

参考文献

1. PLANUNG SIHLRAUM
Arbeitsausschuss von Kanton und Stadt Zürich 1969
2. werk 1970 Nr.9
Kleiner Schlossplatz Stuttgart
3. werk 1971 Nr.7
Bahnhof Zürich : Projekte als Programmkritik
4. Architects' Year Book 12
The pedestrianization of traditional central area
A.A.Wood
5. International History of City Development Volume II
E. A. Gutkind
6. Zürich
Verldg Oprecht Zürich

（なるみ　くにひろ　京都大学博士課程・生活空間学研究会会員）

ZÜRICH

一級建築士事務所
株式会社 **A.R.I 建築事務所**

代表取締役社長 亀井晃治

事務所 大阪市南区谷町八丁目8－2 電話 06 (768) 1405
アトリエ 東大阪市上石切町二丁目1,451－35 電話 07437 (3) 6137

RIA建築綜合研究所大阪支店

所長 山口文象
支店長 山家啓助

大阪・大阪市北区太融寺町33 大阪合同ビル 406 電話 312－9154
東京・270－5861 名古屋・262－3941

株式会社 **朝日建築事務所**

代表取締役所長 長屋齊

大阪市東区内本町橋詰町39番地 TEL 06(941)3928

株式会社 **東建築設計事務所**

代表取締役 東秀保

大阪市北区天神橋筋3－68 三海ビル 電話 (358)5598・3497

株式会社 **井上久雄建築設計事務所**

代表取締役 井上久雄

〒550 大阪市西区京町堀1丁目38 千島ビル 電話大阪 06 (443) 7338㈹7325

株式会社伊東建築設計事務所

代表取締役 伊東正也
取締役 竹原永一郎
大阪市浪速区幸町通り2－6 清光ビル 電話(562) 4343～4

株式会社 今西建築デザインルーム

代表取締役 今西茂雄

TEL 541－3051～3

株式会社 入江三宅設計事務所

代表取締役 三宅晋

本社 東京都港区芝西久保桜川町28(第10森ビル) TEL (03) 501－0286
大阪出張所 大阪市東区本町1－24(ニューホンマチビル) TEL (06) 271－0257
九州出張所 福岡市大字三宅字銭通209－1 TEL (092) 54－1493
岐阜連絡所 岐阜県各務原市鵜沼8034 TEL (0583) 82－3429

株式会社 岩崎建築設計事務所

代表取締役 岩崎徹
専務取締役 岩崎弘

本社 奈良市法蓮立花町1046番地 電話 0742(22)2217番
奈良事務所 奈良市大森町57-3(奈良県農協会館4階) 電話 0742(22)2283代表～4

株式会社 栄和設計事務所

取締役社長 小泉善重

本社 大阪市福島区堂島浜通4丁目14 TEL大阪 (452) 1651代表

株式会社 海上静一建築事務所

所長 海上静一

大阪市東区博労町2・41 中博ビル4F
TEL 261・4428～96 271・1149
〒541

株式会社 教育施設研究所

取締役社長 中尾龍彦
大阪事務所長 岩崎弘

本社 東京都港区芝西久保舟町11 第11森ビル内TEL 03(591)4281代
大阪事務所 大阪市西区立売堀北通2の27 大信ビル内TEL 06(531)0913
札幌事務所 仙台事務所 広島事務所 福岡事務所 (541)7301

共同設計株式会社

取締役社長　飯田精次郎

本　社　大阪市北区富田町9　電話 06(364)5836㈹
東京事務所　東京都渋谷区西原1丁目35番1号　電話 03(468)1878 (466)1503

経済的な計画・設計・監理

株式会社 小林得志建築事務所

代表取締役　小林得志

大阪市北区堂島北町20番地（藤田ビル内）
TEL（341）5658（代表）

株式会社 坂倉建築研究所

代表取締役　西澤文隆

東京事務所　〒107　東京都港区赤坂9－5－12　TEL 03－403－3551(代表)
大阪事務所　〒550　大阪市西区京町堀2－122　TEL 06－443－0021(代表)

株式会社昭和設計事務所

代表取締役社長　岡本行善
代表取締役専務　林唯夫

設計・監理

大阪事務所　大阪市西区西長堀北通1－8 四ツ橋ビル　TEL代表 532－0415
神戸事務所　神戸市葺合区八幡通5－6　久徳ビル　TEL078－251－0651
姫路事務所　姫路市竪町54番地　滝川ビル　TEL姫路 24－2926
姫路事務所長　河野豊蔵

高木建築デザイン スタジオ

所長　高木茂雄

大阪市南区心斎橋筋一丁目一の二　心一ビル　電話 大阪(06)252・8355 8356

株式会社 竹内建築事務所

代表取締役　内藤一真
専務取締役　林茂

大阪市南区長堀橋筋2丁目35の1（日亜ビル）　電話（211）2706～8番

橘建築事務所

所長　橘　春重

本店　東大阪市御厨16　電話 06（781）0937
分室　奈良県生駒市新旭ヶ丘　電話 07437（3）2401

株式会社 田中小西建築事務所

取締役社長　小西　岬

本社　大阪市西区阿波座南通2－60　電話 (532) 4051大代表
東京事務所　東京都千代田区神田鍛冶町3ノ3(大木ビル内)　電話 (256) 9301代表
名古屋事務所　名古屋市中区丸の内1の8番39号(三信ビル内)　電話 (211) 4035
大津事務所　大津市梅林1丁目4番15号(滋賀県教育会館内)　電話 (22) 5373～4番

株式会社 大建設計

取締役社長　高橋慶夫
取締役副社長　西嶋徳太郎
取締役副社長　千原大五郎

本社　大阪市西区京町堀2丁目75番地　電話 06（441）9351(代)
大阪本社　大阪市西区京町堀2丁目75番地　電話 06（441）9351(代)
東京本社　東京都港区新橋1丁目10番7号(大和銀行新橋ビル)　電話 03（572）4595(代)
名古屋事務所　名古屋市中区丸ノ内2丁目2番15号(東照ビル)　電話 052(221) 8566(代)
九州事務所　北九州市小倉区魚町4丁目3番8号(九源ビル)　電話 093（52）4285(代)

株式会社 地域計画 建築研究所

所長　三輪泰司

本社事務所　京都市左京区下鴨上川原町69番地　植物園電停前　TEL 075（711）2161(代)
東京事務所　東京都港区芝西久保明舟町14番地　博友ビル　TEL 03（591）0682

株式会社 東畑建築事務所

代表取締役　東畑謙三

本社・大阪事務所　大阪市東区伏見町5丁目19　電話　大阪(06)202-0391
東京事務所　東京都千代田区永田町2(永田町ビル)　電話　東京(03)581-1251
名古屋事務所　名古屋市中村区堀内町2(堀内ビル)　電話名古屋(052)571-8471
北九州支所・大分支所

株式会社 富松建築設計事務所

取締役社長　富松助六

和歌山市北坂ノ上丁一　電話　0734（31）0106(代)

中川匠建築設計事務所

中　川　匠

大阪市北区浪花町38新興ビル　電話　(371)3651
宝塚市米谷字石田18　電話宝塚(36)2391番

株式会社 日建設計

取締役社長　塚本猛次

大阪市東区横堀2丁目38番地　電話203－2361(大代表)

株式会社 日邦建築企画設計

代表取締役　中村豊

大阪市北区梅ヶ枝町114　関西ビル　〒530
電話　06(352)1767・9697

株式会社 三上建築事務所

取締役社長　三上清一

本　社　水戸市大町3丁目4番45号　電話0292　(24)0606
東京事務所　東京都千代田区神田須田町2－7(佐藤ビル内)電話　03　(253)2894

株式会社 安井建築設計事務所

代表取締役社長　佐野正一

本　社　大阪市東区島町2丁目7番地　電話06(943)1371(大代)
大阪事務所　大阪市東区島町2丁目7番地　電話06(943)1371(大代)
東京事務所　東京都千代田区平河町1丁目1番地　電話03(261)5101(代)
名古屋事務所　名古屋市中区錦3丁目24番(日本生命ビル)　電話052(961)1861(代)
神戸事務所　神戸市生田区三宮町2丁目18番地(阪神相互ビル)　電話078(321)1533(代)
九州事務所　福岡市渡辺通3丁目6番地(福岡フコク生命館)　電話092(75)3568

株式会社 U.A.(ユーエー)建築事務所

代表取締役　上田良治
専務取締役　浅井潤一

大阪市東区谷町5－30(新野村ビル)　電話768－2941～2

アイエム換気工業株式会社

代表取締役　松岡晃一郎

本社　大阪市浪速区芦原町1183番地　〒556 電話 大阪 06(561)3901大代表

青盛建材株式会社

取締役社長　青盛繁男

本　社　広島市鉄砲町5－16　TEL 21－2281
営業所　福岡・岡山・松江・下関

浅海電気株式会社

電気設備工事設計施工

代表取締役　浅海正雄

本　社	大阪市北区老松町1丁目22番地	電話 代表	06(362)8701
東京支社	東京都新宿区戸塚2丁目95番7号 千代田生命ビル内	電話 代表	03(200)5911
札幌支店	札幌市北三条東2丁目2	電話 代表	011(261)1441
名古屋支店	名古屋市北区水草町1丁目42～1	電話 代表	052(911)4381
福岡支店	福岡市今泉2丁目4番20号	電話 代表	092(74)4343
営業所	旭川営業所　姫路営業所　広島営業所　高松営業所		
出張所	苫小牧出張所　浜松出張所　光出張所		

株式会社 井上浄夫商店

取締役社長　井上浄夫

本　社　大阪市西区江戸堀1－101　電話 441－8531(代)
支　社　東京都中央区八丁堀4－2－2　電話 551－6756

大阪アスファルト事業協同組合

保証年限仕様による
アスファルト防水工事

大阪市城東区西鴫野6丁目43(工盛社内)
TEL 961－4460・962－1288

大島応用化学工業株式会社

取締役社長　田中政二

東大阪市新庄114番地　06(782)4171～3・6734～8
東京　名古屋　広島　宇部　大牟田　高松
四日市　新居浜　岡山　川崎

株式会社　川岸窯業商店

代表取締役　川岸繁夫

本店　大阪市西区靱本町2丁目98番地　TEL 大阪06代(532) 0461
営業所　姫路市北条口126番地(住友生命ビル)　TEL 姫路 0792 (82) 0999

陶磁タイル・オリエンタルモザイコ
(陶磁・ガラスを主材とする壁画構成・立体構成)

関西タイル商会

大阪市西区江戸堀北通1ノ19(オカダビル)　電話　(443) 9131(代表)

木村工桜株式会社

本社　540 大阪市東区上町13番地　電話　06 (761) 6921番
営業所　東京、名古屋、福岡
工場・八尾

製品名	
アスファルト	ルーフイング
アスファルト	フェルト
特殊	ルーフィング
A絶縁用	ルーフイング
Bベース用	ルーフイグン
Cミネラル	ルーフイング
Dエフロン	ルーフィング

ライオン印

株式会社　工盛社

大阪市城東区西鴫野6丁目43
電話 大阪　(961) 4460
(962) 1288

年限仕様による
アスファルト防水工事

大阪アスファルト事業協同組合

大阪市城東区西鴫野6丁目43(工盛社内)
電話 大阪　(961) 4460
(962) 1288

Sorijitto Sutain
カネボウ

アクリルエマルション吹付　エバーサンド
アクリルエマルションローラー仕上用塗料　エバロール
セメント系防水吹付剤　ソリジットスタイン

合同特許建材工業株式会社

本社・営業所　大阪市東住吉区駒川町3－54　TEL 06(702) 7814代表
大阪喜連工場　大阪市東住吉区喜連町527　TEL 06(701) 1735
出張所　東京、名古屋、四国、九州

株式会社　清水工業所

代表取締役　清水愛明

冷・暖房・各種流
体配管・設計施工

本社	〒531	大阪市大淀区南浜町3丁目14番地	電話 06(372)2851(代表)～7番
東京支店	〒104	東京都中央区八丁堀4の11の7(神谷ビル5階)	電話 03 (551) 8041代
群馬出張所	〒370-05	群馬県邑楽郡大泉町大字吉田2066	電話 0276(6)3394(代表)～6番
出雲出張所	〒693	島根県出雲市今市本町	電話 0853 (21) 1285番
鳥取出張所	〒680	鳥取市桜谷17の1番地	電話 0857 (23) 5051～2番
宇都宮出張所	〒320	栃木県宇都宮市御幸本町4736－12	電話 0286 (61) 0930番
君津出張所	〒299-17	千葉県君津市人見池田175－23	電話 04785 (2) 2375番

株式会社 大佛

取締役社長 佐藤四郎

京都市東山区今熊野大佛池田町九番地ノ九 電代 075（541）3344
東京営業所：東京都渋谷区上原1丁目29 電 03（467）1641

中央建材工業株式会社

防水工事

取締役社長 木下作二

本社 名古屋市千種区若水町3－26 電話 052（761）6181（代）
営業所 東京都中央区銀座7丁目10－5 電話 03（571）5229（代）

友田工業株式会社

取締役社長 友田俊夫

本社 〒534 大阪市都島区都島中通3丁目3番6号 大阪電話 06（921）0331～6

MPボイラ

株式会社 平川鉄工所

取締役社長 平川久一

MPボイラー 排煙脱硫装置
熱媒ヒータ 排水処理装置
ウエルマクレーン 濃厚廃水
（鋳鉄製小型ボイラ） 焼却処理装置

本社・大阪工場 大阪市大淀区大淀町北1－11 電話 大阪 (458)8681代
東京支店 東京都中央区八重洲6－7 城辺橋ビル 電話 東京 (272)2721代
名古屋営業所 名古屋市中区栄4－1－1 中日ビル 電話 名古屋 (262)2451代
福岡出張所 福岡市大名1－1－3 石井ビル 電話 福岡 (76) 3146
札幌出張所 札幌市北二条西2－8－1 引済ビル 電話 札幌 (281)2851-2
仙台連絡所 仙台市中央2－7－30 角川ビル 電話 仙台 (22) 6646
滋賀工場 滋賀県野洲郡野洲町大字三上2308 電話 野洲 (7) 1450代

三島工業株式会社

タイガー印
特殊ルーフィング
ルーフィング
フェルト
ターフェルト

取締役社長 大西徳二郎

本社 伊予三島市宮川1丁目8番25号 電話 0896 ③4420番
第一工場 伊予三島市宮川1丁目7番30号 電話 0896 ③5094番
第二工場 伊予三島市朝日1丁目7番16号 電話 0896 ③3856番

株式会社 矢橋大理石商店大阪支店

取締役支店長 北垣圭一

大阪市東区高麗橋2（野村ビル） TEL 202－4905
本社岐阜 TEL0584-71-1211 東京支店 TEL03-214-3561
名古屋支店 TEL052-561-3441 営業所 福岡・広島・札幌

株式会社 大 和 商 会

取締役社長 澤 井 修

大阪市南区高津町4番丁73 電話 代表 大阪06(631)6221番

TRADE MARK
アシバネ印

安 田 株 式 会 社

取締役社長 安 田 嘉 雄

本 社 大阪市南区末吉橋通一丁目一七番地 電話 大阪06(251)7091
東京営業所 東京都中央区日本橋本町四の三の六(ニンジンビル七階) 電話 東京03(242)1741

ラバシール
ウレタン・エポキシ系
合成ゴム塗膜防水剤
——責任施工——

O・Kコン
モルタルで埋めない
省力化した
コンクリート型枠締付
金具

ラバレヂン工業株式会社

取締役社長 原 淳

本 社 大阪市浪速区桜川5丁目2番地の8田坂ビル 電話 06(561)6601(代)
出張所 名古屋市北区清水町6の4 電話 052(911)6801

建築写真・カラー撮影

合名会社 つねなりすたじお

大阪市東区北浜3－40 電話(231)0141・7781

エレベータ・リフト・カーリフト
設計・製作・据付・修理

日本エレベータ工業K. K.

代表取締役 長尾正大

本 社 大阪市大淀区天神橋筋六丁目 天六阪急ビル 電話 06(351)4927(代)
東京営業所 東京都北区田端町311 東京建築興業ビル 電話 03(822)0995(代)
工 場 大阪市東淀川区小松中通5丁目6番地 電話 06(328)0363(代)

関西煖房工業株式会社

本 社 大阪市住吉区万代東6丁目3番地
TEL：672－1281(大代表)
出張所 東京営業所・名古屋・広島・福岡・徳島
工 場 和泉・堺・名古屋
テレックス：本社NO.526-7688. 和泉工場:NO.538-5898

《営業品目》
空気調和設備・給排水衛生設備
設計・施工
各種送排風機・空調機器
公害防止装置・風力輸送装置
設計・製作

日本建設株式会社

社長　生田重政

本社　大阪市東区安土町4－5　電話大阪 06(261)7591～6
支店　東京都中央区日本橋兜町2－37　電話東京 03(669)1661～6
営業所　名古屋・福岡・札幌・仙台・千葉・広島・四国

不二建設株式会社

取締役社長　山口吾郎

本社　大阪市西区阿波座上通4丁目8　〒550 電話 大阪 (06) 541－5534代表・9301代表
支店　東京都新宿区西新宿4丁目5番2号　〒160 電話 東京 (03) 377－5171代表
名古屋市中区千代田4丁目11番17号　〒460 電話名古屋 (052) 321－8481代表
出張所　大垣・京都・神戸・姫路・博多・大分

株式會社 米田工務店

代表取締役　米田良男

本社　大阪市天王寺区逢坂上ノ町7　TEL　大阪(06) 771－7771代表

日刊建設産業新聞・日刊建産速報

株式会社 日刊建設産業新聞社

取締役社長 花村茂彦　取締役支社長 山邊敏郎

大阪支社　大阪市東区淡路町1丁目14(八千代ビル)　電話 (231) 8171(代)
本社　東京都板橋区板橋町1丁目48－8　電話03(961)1691(代)
神戸支局　神戸市葺合区八幡通5丁目6－1　電話078(29)0541－2
京都支局　京都市右京区鳴滝本町11－4　電話075(463)0683

大阪で唯一の

株式会社 日刊建設新聞社

取締役社長　中山豊雄

大阪本社　大阪市東区高麗橋1丁目3（東洋ビル）　電話 202－6861(代表)

株式会社 日刊建設通信関西支社

代表取締役会長　田中一
常務取締役支社長　森三郎

大阪市西区京町堀1－6－8　電話 (444) 4451代表
本社・東京都港区西新橋2－11－4　電話 (502) 8581代表

昭和46年度通産省技術研究助成金受領

ケミカラーオーシマメタル

建築構造の大型化に、機能美と恒久性能を発揮する長尺板施工

★平板、波型及び特殊型の規格寸法

型　式	働巾㎜	ピッチ㎜	山高㎜	山　数	荷　姿
平板（S）	910~1,800	63.5			コイル
S－63波	700	63.5	16	12.5	長　尺
M－76波	685	76	18	10.5	〃
L－130波	650	130	36	5.5	〃
V_1－115波	690	115	35	7	〃
V_2－135波	675	135	42	5.5	〃
V_3－178波	712	178	38	5	〃
W－500波	500	250	130	3	〃
B－150波	600	150	33	5	〃

＊スパンドレル各種成型施工も致します。

カラフルな美しい仕上げと、くさらない、われない、大島化学のひまくてっぱん

耐酸スタンダードメタル

ニュースタンダードメタル

結露防止に

オーシマボーロメタル

固定式通風器・強力ファン通風器・連続式通風装置・屋根材・壁材・谷樋材・水切材等に使用する

Standard
PROTECTED METAL

大島応用化学工業株式会社

本　社　〒578　東大阪市新庄114番地　電話 06（782）4171代・6734代
支　店　〒792　新居浜市西原町1丁目　電話0897（33）8561（代）
営業所　東　京（電）03（580）6061（代）　宇　部（電）0836（21）6608
名古屋（電）052(241)8588代・5141　高　松（電）0878（31）4497
四日市（電）0593（45）1005　大牟田（電）09445(4)0111－2
広　島（電）0822（48）3818(代)　作業所　岡山・川崎・広島・宇部

豊かな経験と最新の技術で
街づくりにご奉仕する…

東洋シヤッター

甲・乙種防火シヤッター
その他各種シヤッター
金属製雨戸（イレンド）

東洋シャッター株式会社

本社：大阪市東区谷町5－30新野村ビル　TEL 06（762）5861代表
支店：東京 03(543)2281・名古屋 052(331)6171・大阪 06(352)4571・京都 075(313)8641
営業所：盛岡・郡山・いわき・水戸・横浜・浜松・岡崎・津・富山・舞鶴・大津・堺・尼崎・神戸・広島・福岡他全国各地

信用ある技術と伝統の

アスファルト工事 専業大店

株式会社 久保商店

大阪市北区真砂町5番地　電話　大阪 364・代表 0206～9

室谷

内装不燃材

室谷商事株式会社

本社　神戸市生田区北長狭通4－1　（英和ビル）
電話　神戸(331) 0881～3
支店　大阪市北区絹笠町50(堂ビル5階 502号室)
電話　大阪(364) 2031～4
倉庫　神戸市葺合区八幡通1－5　（電話221 2923）

OKUYAMA KAKOGYO WATER・PROOF OAM

陸屋根防水には 奥山式 特許 絶縁工法 を

カッパー防水帯

コーパータイト

新工法！
プレノテクト吹付工法

8対2の防水(冷工法)　デラタイト

特許　奥山式熱工法・冷工法綜合防水層

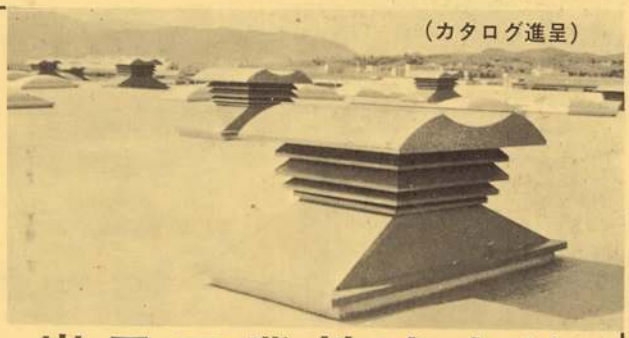
奥山化工業株式會社

本　　社　東京都中央区銀座8－4－11　電話(571)2703～4・2370・4064・0264
大阪出張所　大阪市都島区都島中通り2-3-1　電話(921) 2 4 9 7・(922) 7 2 8 0
名古屋出張所　名古屋市南区若草町33　電話(811) 3 6 6 0・3 1 0 4
札幌出張所　札幌市北三条東四丁目　電話(231) 7　5　1　1

特許　岩元式ベンチレーター
（電動式並固定型各種）

岩元式ベンチレーター　A型・B型・固定型
岩元式連塔換気装置（コンチニヤス・ベンチレーター）
新型　換気塔 NSライン　（強制換気扇付）
新型　換気塔 SFスーパー　（特殊装置による風量増幅 換気扇の能力を倍増する）
最新型　採光排気塔(風光)スーパーライン特殊増幅装置付
スカイライト工事・通風ルーバー
スチール及アルミサッシュドアー・各種シャッター製作施工
其の他　曲加工一式

（カタログ進呈）



岩元工業株式会社

大阪市東成区大今里2丁目5番22号
電　話　(981) 0615～0618

空気調和・冷暖房設備
給排水・衛生設備　設計・施工

株式会社 朝日工業社

本　社　東京都港区芝浜松町2－7　電話(434)6171(大代)
大阪支社　大阪市東淀川区加島町375　電話(302)2271(代)
支　店　北海道・仙台・名古屋・広島・福岡
営業所　釧路・函館・盛岡・横浜・静岡・京都・神戸

冷暖房　各種サッシ
給排水、衛生水道　環境衛生施設
電気　荷役運搬機械
厨房　化学鉱山機械

三機工業 株式会社 大阪支店

取締役社長　各務　節
取締役支店長　濱川幸十郎
大阪市東区北浜2丁目22番地　電話 大阪 (202) 代表3071
本　店　東京・日比谷・三信ビル
支　店　名古屋、福岡、札幌、広島、仙台、富山
出張所　横浜、金沢、静岡、高松

電気・空調・給排水衛生設備
設計施工

大阪電気暖房株式会社

取締役社長　菅谷知巳
本　社　大阪市西区江戸堀1－60　電話 (441) 8231代表
支　店　東京・名古屋・大阪・福岡
営業所　札幌・仙台・金沢・広島
出張所　盛岡・新潟・横浜・富山・豊田・福井・京都・神戸・岡山・高松・熊本・鹿児島

空気調和設備
衛生設備　設計施工

三建設備工業株式會社

大阪支店　大阪市都島区都島本通4－10－30　電話 (922)6251(代)
本　社　東京都中央区日本橋蠣殻町2－22　電話 (667)3431(大代)
支　社　名古屋・仙台・札幌・広島・福岡・金沢・新潟・横浜

給排水・衛生
暖冷房・換気　設計施工

株式会社 大阪城口研究所

取締役社長　城口庸平
大阪市北区高垣町一・電話 大阪372局7151(代)
京都市東山区大和大路正面上ル 電話 京都561局4945(代)
神戸市生田区下山手通六ノ一・電話神戸341局5892

空気調和・衛生設備
設計施工

株式会社 三晃空調

本社・本店　大阪市北区富田町16番地　電話(363)大代表1371
支　店　東京都千代田区神田小川町2丁目1番地　電話(292) 代表7751
広島市紙屋町1丁目2番22号　電話(47) 代表4535
福岡市大名1丁目8番12号　電話(76) 代表3795
出張所　名古屋・富山・福井・京都・神戸・松江

営業種目 ●空気調和設備 ●給排水衛生設備 ●塗装設備
●蒸気噴射式冷凍機／設計・製作・施工

空気調和のケンザイ 株式会社 建材社

本社・東京支店＝東京都中央区銀座6－6－7　㊫(572)7411 代
大阪支店＝大阪市北区中之島2－22　㊫(203)3721 代
名古屋支店＝名古屋市中区錦2－2－13　㊫(211)1535 代
出張所＝札幌・仙台・豊田・金沢・神戸
広島・松山・福岡・バンコック

須賀工業株式会社

空気調和 衛生設備

大阪市西区土佐堀通1丁目14　電話 441－5171
支店－東京・大阪・名古屋・京都・神戸・福岡
営業所－千葉・横浜・広島　出張所－高松・北九州

水道・衛生・暖冷房・其他管工事
設計並施工
(旧斎藤久孝事務所)

斎久工業株式会社大阪支店

大阪市北区常安町11番地
電話 大阪 (443) 5041～5番
東京本社　東京都千代田区大手町2の8番地(日本ビル)
電話 東京 (270) 7411番 (代表)
札幌営業所　札幌市南大通西4丁目1札幌道銀ビル　電話 札幌 22)5756
金沢営業所　金沢市高岡町2番16号　電話 金沢 21)2074
福井出張所　福井市御幸2の1　電話 福井 24)2436
高松出張所　高松市2番丁9　電話 高松 ㉑5195
岡山出張所　岡山市大供380の1　電話 岡山 24)5486

空気調和　地盤凍結　冷凍冷蔵

精研冷機株式会社

本　社　大阪市南区瓦屋町3番丁68番地
(オートセンタービル2階)　郵便番号542
電話 大阪 (06) 761(代)1141～8番(直通)
東京営業所　東京都千代田区九段南2丁目2番5号
(九段ビル8階)　郵便番号102
電話 東京(03) 262－3241～4番

創業 大正二年
暖冷房・換気・温湿度空気調和 設計
病院諸設備・給排水衛生・水族館設備 施工

株式会社 斎藤省三商店

東京店　東京都千代田区丸の内2の4の1　丸ビル676号　電話 212(代)3751
大阪店　大阪市西区土佐堀通1の1　大同ビル616号　電話 443代 3361
札幌店　札幌市北十条西18丁目36番地　電話 61(代)4371
名古屋店　名古屋市中区栄3の5番29号　千代田ビル514号　電話 261(代)0641
京都店　京都市南区西九条春日町48番地　電話 681(代)1781

温湿度調整装置、暖房
冷房、水道、搬送機設備
設計並ニ施工

第一工業株式会社大阪支店

大阪市北区富田町30　電話 (364) 6661(代)
本　社　東京都千代田区丸ノ内3-3-1(新東京ビル)
電話 (211) 8511・8561(代)
仙台支店　仙台市新伝馬町60
電話 (21) 4491
名古屋支店　名古屋市東区東門前町3－6
電話 (971) 3621

暖・冷房・空気温湿度調整装置
設計施工
高砂熱学

大阪支店　大阪市北区芝田町55番地(北阪急ビル9階)
電話　大阪(372)2511(代表)
本社　東京都千代田区神田駿河台4丁目2番地

平山工業株式会社
衛生・空気調和設備・設計・施工

TEL (441)㈹ 1994.(443) ㈹0331　大阪市西区江戸堀通2の2

新日本空調株式会社

大阪支店　大阪市北区堂島浜通1－25(新大ビル)
電話　(06)　344－6031(代)
本社・東京支店　東京都中央区日本橋本石町4-2(三井第二別館)
電話　(03)　279－5671(大代)
名古屋・九州・広島・札幌・東海村・北陸・大分

空気調和・恒温恒湿・冷凍・冷蔵
給排水衛生設備　設計施工
不二熱學工業株式會社

本店　大阪市南区順慶町2－50　電話 261－2436㈹
東京支店　東京都大田区西馬込1－2－1　電話 773－1231㈹
営業所　銀座・浜松・京都・神戸・福岡

MODAIR
空気調和設備
換気・除塵設備　設計施工
東洋熱工業株式会社大阪支店

大阪市西区京町堀4丁目　TEL(443)8071
本社　東京都中央区京橋2丁目9　TEL(562)1351
支店　名古屋・福岡

冷暖房・温湿度調整・水道
衛生・環境衛生施設
設計施工
山田工業株式会社

本社　大阪市西区京町堀1丁目62　電話(443)代表8161～9
支店　名古屋市中村区水主町1の12　電話(541)0966(551)1655
出張所　東京都港区赤坂2丁目3～12
赤坂ピークビル5階　電話(583)1467
神戸市生田区北長狭通7丁目1の1　電話(341)1778・4386

温湿度調整・暖冷房・換気給排水・衛生設備
設計並施工
日本管工業株式会社
代表取締役　市川繁雄

本社　京都市南区西九条豊田町20番地の1
電話(681)5101～5・夜間専用(691)1045
大阪営業所　大阪市北区天満橋筋1－37(天満橋北詰)
電話(352)3501～3
四日市営業所　四日市市浜田西末広町　電話㊿7431～3
大津出張所　大津市打出浜13－15　電話 0775 ㉒9738
津営業所　津市栄町2－111　電話⑧3610

空気調和装置・冷暖房・換気装置
ファン・ヒーター・クーラー
スチール・アルミ・サッシ・ドア・シャッター
設計・製作・施工
理研鋼機株式会社

大阪支店　大阪市東区高麗橋5－45(興銀ビル別館)
電大阪代(202)7745番
本社・工場　東京都北区神谷3の10の8
電東京代(901)3191番
空調事業部　東京都港区西麻布4-15-23(第5興和ビル)
電東京代(409)0151番
支店　名古屋・仙台

給・排水・衛生・消火・暖冷房設備
株式会社 西原衛生工業所大阪店

大阪市大淀区中津南通4丁目11　電話大阪(458)3531番
出張所＝京都・福岡

Carrier
冷暖房はCARRIERキャリア
東洋キヤリア工業(株)製品販売店・特約工事店
日本冷熱工産株式会社
本社及大阪営業所　大阪市西区土佐堀通1－16(石川ビル)
電話大阪(443)3661～5

冷房・暖房・温湿度調整装置
換気・給排水・衛生設備
設計施工
第一企業株式会社大阪支店

大阪市北区北同心町1丁目57
電話　(351)　(代表)　2808
本社　東京都文京区本郷1丁目12－5
電話　(814)　(代表)　5151
支店出張所　名古屋・福岡・札幌・仙台・高松・広島

エレベータ・リフト・カーリフト
設計・製作
日本エレベータ工業株式会社
代表取締役　長尾正大

本社　大阪市大淀区天神橋筋六(天六阪急ビル)　(351)4927代
大阪営業所　(351)4927代　サービス事業所　(328)0364代
東京営業所　(822)0995代　工場　(328)0363代

電気設備工事設計施工

浅海電気株式会社

取締役社長　浅海正雄

本　社　大阪市北区老松町1丁目22
電話大阪(362)8701
東京支社　東京都新宿区戸塚1－95－7
電話(200)5911代表
支　店　名古屋・札幌・福岡
営業所　旭川・浜松・姫路・広島・高松

電気設備 ⓔ 設計施工

朝陽電気株式会社

代表取締役　山本博三

本　社　大阪市北区中之島3の3　朝日ビルディング
TEL　代表　(385)1361
本社営業所　吹田市垂水町3－34－6
TEL　代表　(385)1361
京都営業所　京都市右京区西京極郡葛野町21番地
TEL　代表　(311)1185

電気工事設計施工

太陽工藤工事株式会社

取締役会長　西村庄市
取締役社長　小林四郎
本　社　大阪市福島区上福島北1－2
TEL(06)452－1151(代)
電力工事本部　大阪市此花区恩貴南之町73
TEL(06)462－1301(代)

電気設備工事設計施工

東光電気工事株式会社 大阪支社

支社長　姉川正男

大阪市東区高麗橋五丁目二八番地　電話大阪(202)0325～9番
本　社　東京都千代田区西神田1丁目4番地5号
支　社　札幌・仙台・丸ノ内・名古屋・福岡
出張所　旭川・白河・横浜・静岡・富山

電気工事・計装工事 設計施工

栗原工業株式会社

取締役社長　栗原信英

大阪市北区高垣町16番地(東阪急ビル)
電話　大阪(313)1101(大代)
支店　東京・名古屋・舞鶴・大阪南・神戸・広島・九州

電気工事 中 設計・施工

中本電気株式会社

取締役社長　中本正明

本　社　大阪市城東区野江東之町三丁目一五
電話大阪(931)代表7341～5
0388・2193
資材倉庫　大阪市城東区野江東之町三丁目一一　電話大阪(931)7004
奈良営業所　奈良県御所市御国通り360　電話御所2)2607・4259

電気工事設計施工

株式会社 三興社

代表取締役　林　敏夫

本　社　大阪市北区絹笠町50(堂ビル7階)
電話㊫3671(代)
支　店　東京都中央区日本橋箱崎町3丁目2番地
電話㊫1478(代)
出張所　川崎・相模原・堺・福山

各種電気工事設計施工・制御盤製作

野里電気工業株式会社

取締役社長　池内文夫

本　社　大阪市西淀川区柏里町1丁目110番地
電話大阪(472)代表1101～7
支　店　東京都品川区西五反田6丁目25番11号(福島ビル)
電話東京(491)1746(492)0182・0350
営業所　北九州市小倉区鋳物師町23番地
電話小倉(56)5665・5818
出張所　群馬・千葉・和歌山・名古屋

電気・暖冷房・空調工事設計施工

三宝電機株式会社

取締役社長　嘉納伝三

本　社　大阪市北区絹笠町五〇(堂ビル三階)
電話(364)1471(代)
支　社　東京都中央区明石町6－23(辻孝ビル)
電話(542)5641
営業所　名古屋市北区城見通二丁目二〇番地
電話(991)5131～3
出張所　神戸市・堺市・高槻市・姫路市

電気工事設計施工

富士電業株式会社

取締役社長　田中実

本　社　大阪市西区北堀江上通1丁目65
電話大阪(541)0564～7・7148～9
営業所　東京・名古屋・広島・福岡

電気工事・計装工事・設計施工

中央電気工業株式会社

取締役会長　今村　勝
取締役社長　立石行男
本　社　大阪市北区梅ケ枝町56番地
電話　大阪　大代表(312)8881
支　店　東京・名古屋・四日市・神戸・和歌山
営業所　松山・京都・草津・静岡・水島・福岡

各種電気工事設計施工

株式会社 ヤマト電気商会

取締役社長　山本永造

本　社　大阪市北区西堀川町15番地
電話大阪(364)代3056
東京支店　東京都港区新橋5－34－6　相馬ビル5階
電話東京(434)3848・(431)8435
出張所　大阪南・札幌・名古屋・四日市・松山・徳山

奉仕感謝の店

タイル工事施工

特許申請中・完全滑止タイル

サンエス
SSS タイル新発売

（カタログ進呈）

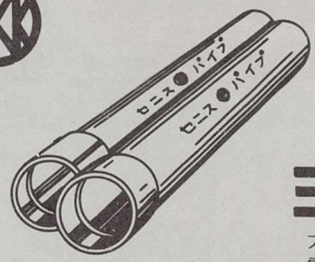
株式会社 川岸窯業商店

本　　社　大阪市西区靱本町２丁目98番地（靱本町バス停前）
電話　大阪 06（532）代０４６１
姫路営業所　姫路市北条口126番地（住友生命保険ビル３階）
電話　姫路0972（82）０９９９

窓掛、緞帳、日際、壁紙 室内装飾 絨毯、舗床材一般
東洋リノリュームの 東リカーペット 発売元

亀井株式會社

大阪市東区南久宝寺町四丁目（心斎橋筋）
電話　大阪（251）1353（代）～６・9996
営業所　名古屋・福岡



トラフ・ヒューム管
ベンチレーター・マンホール

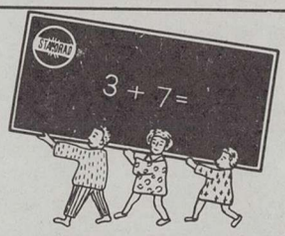
株式会社
三幸商會

大阪市北区与力町一ノ一〇
電話　大阪（358）４０３１

営業品目
● カネボウゴーレックス防水
●化粧壁材ソリジットスタイン吹付
●樹脂砂壁エバーサンド吹付
●樹脂蛭石エバテックス吹付

合同特許建材工業株式会社

本社営業所・大阪市東住吉区駒川町３－54　電話(702)代7814～６
特約代理店・東京・名古屋・金沢・広島・今治・福岡



Standard Board&Slate

フタバ黒板

大阪市東住吉区加美末次町８－92　TEL 大阪06（792）代5858

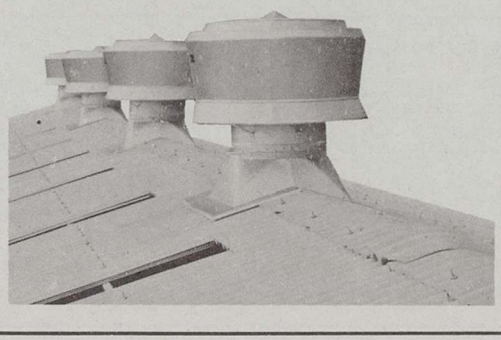
KANDAN

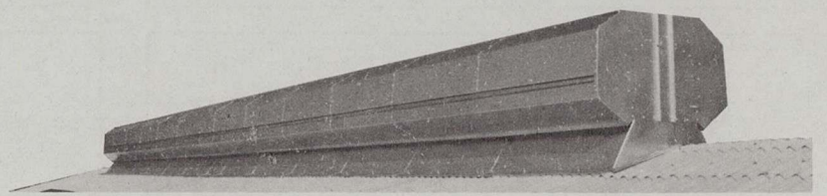
●空気調和設備　●給排水衛生設備
●各種送排風機　設計施工

関西煖房工業株式会社

本　社　大阪市住吉区万代東六丁目三番地　電話 大阪（672）大代表1281
出張所　東京・名古屋・広島・福岡　工　場　和泉・名古屋

特許　内外式電動ベンチレーター　特許　内外式コンチニアスベンチレーター
（大量自然換気方式）





内外建材株式会社

本　　社　大阪市西区江戸堀北通１－25（相生ビル）
TEL（441）3983～５・4396
大阪工場　大阪市城東区天王田町１－１４１
TEL（962）１１４９
京都工場　京都市東山区山科東野井上町
TEL075（581）０１２６

内外

N.G.C.式

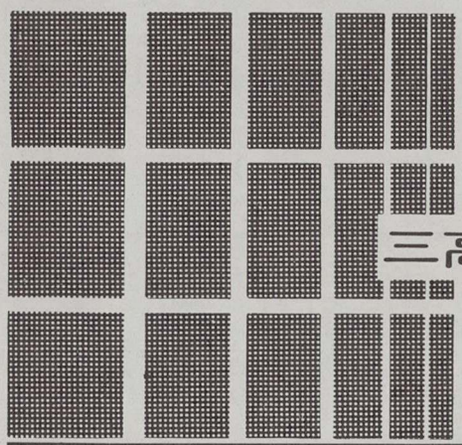
米国パブコ・アスファルトコンパウンド
米国バイヤーライト・アスファルトコンパウンド
} 販売

各種シート防工事　責任施工
新防水材リベットルーフ責任施工

内外工業株式会社

本社　大阪市阿陪野区旭町1丁目1番地30号　電話(641)3434～6
(631)0810(夜間)
工場　大阪市東住吉区桑津町3丁目16番地

責任施工
アスファルト防水工事
セメント防水工事
アスファルトモルタル床舗装工事
耐酸アスファルト（樹指）
モルタル工事



スチール
アルミ
ステンレス
／
サッシ・ドアー
カーテンウオール
シヤッター

三高式オペレーター・ドアーハンガー

TRADE MARK
M.T.K.S

株式会社 三高製作所
本社・工場　尼崎市神崎五反田280番地
電話大阪(499) 8151代表

近代建築の要求する

＊特許 小俣式 ステンレス・アルミニウム 防火シャッター

設計
製作
施工

小俣シャッター工業株式会社大阪支店
大阪支店　大阪市北区若松町30　電話大阪(364)9004・9016・4825
本社工場　東京都北区田端町1138　電話東京(893)5211～5

石綿セメントの最高水準を行く!!

アスベストバリヤ

Asbesto Barriev（硬質石綿板）

建物内外壁、間仕切、天井扉、電気室、発電所、配電室、製鋼、ガラス工場の壁、製糖、製油製薬工場の床、スカート壁などに最適。

（呈カタログ）

泉

泉石綿工業株式会社
大阪市北区同心町1の11　電話(351)3442・4078

全国で好評の……新興の内装壁材を!

新しい時代の新らしい壁
ヒル石基材の燃えぬ壁材

ダイシンコート

（特長）

耐火・耐水・耐アルカリ・防音・保温・吹付・塗付



革新塗料現る

①ソフトな感覚、優雅な味
②ペイント塗料に優る
③塗りかえ自由
④安価で塗りよい
⑤吹付施工も自由
⑥洗いも下地も自由

繊維塗料の
シンコゾール

全国有名建材店又は当社へ

新

繊維壁材（通称）わたかべ

耐水、耐アルカリ性時代来る

（特長）
漆喰・ドロマイドプラスター・セメントモルタル下地
差支なし
落ちない
塗り良い
面が強く
水に強く

すゝき・すゞか・新いすゞ・四十七宝香・錦紋・王座

●カタログお送りします



（株）新興建材工業所
大阪市西区南堀江通６丁目39番地　TEL 大阪(538)2951～5・(541)5757
営業所　東京・高槻・明石・姫路・四国・中国

発売元
新興壁材工業（株）
大阪市住吉区粉浜本町４丁目２６番地　TEL 大阪（672）１６６１～３
（株）九州新興建材工業所
福岡市上牟田八田町２６の１　TEL 福岡（41）５２２５～６

コーキングパテ

ウヅラ印

柏原瀝青株式会社

本社工場　大阪市西淀川区御幣島東２ノ５　電話大阪(471)1493～4・8267
第二工場　大阪市西淀川区御幣島西３ノ99　電話大阪(471)　０４２６

パテタイル

特許 セメント分散剤
コンクリート減水剤
リグナール
GSR
（標準型）
（早強型）
（遅延型）

自然石状積ブロック
クリプトン

型枠剝離剤
セパール

リグコン

三段ブロック

其の他コンクリート二次製品　建設材料全般

リグナール製造発売元
神戸枓料株式会社

本　社　神戸市葺合区熊内町2丁目88番地
電話078代表（23）1421・6956
東京営業所　電話03（294）6167・6177
福山出張所　電話0849（53）2027
九州出張所　電話 09686（2）0370

特許・耐酸被覆鋼板
耐久建築屋根・外壁材料
オリエンタルメタル

燃えない
われない
腐らない

長尺物・色彩自由・責任施工

品種　オリエンタルメタル（O.P.M）
オリエンタルスーパーメタル（S.P.M）
オリエンタルカラードメタル（C.P.M）
カラースーパーオリエンタルメタル（C.S.P.M）

波板規格　S小波　S大波　V波　ボックス波　Wジャンボ波

用途　平板・波板・棟包・雨押類・谷樋・竪樋・軒樋
通風器・排気ダクト・モニター

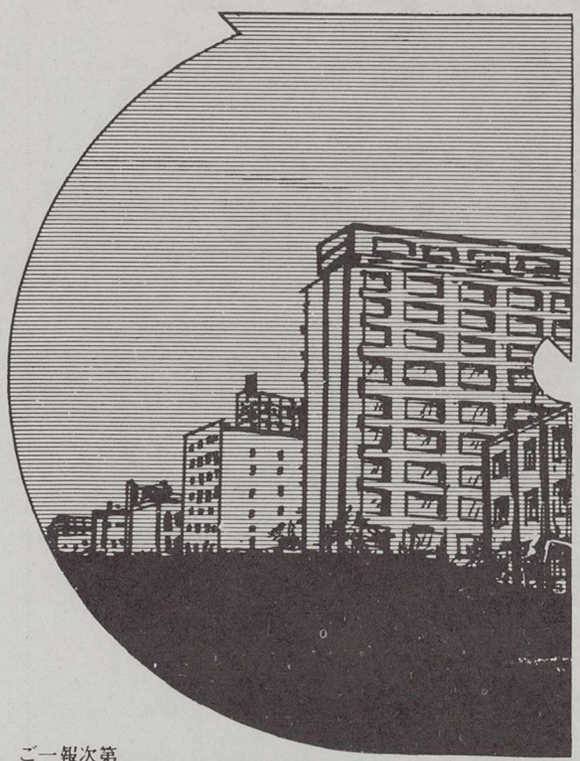
オリエンタルメタル製造株式会社

本　社　兵庫県尼崎市昭和南通り3－26松本ビル　電話　大阪（412）5131代表
東京支社及工場　埼玉県蕨市塚越5丁目6番32号　電話　蕨（42）3115～8
大阪支社及工場　兵庫県尼崎市長洲稲川新田44　電話　大阪（488）1081代表
九州支店及工場　福岡県遠賀郡水巻町頃末　電話　八幡（69）2831～4
名古屋支店及工場　名古屋市中村区泥江町1の24第2中経ビル　電話　名古屋（581）2781～4

カタログ御請求下さい。

モルタル・コンクリート用

マノール 防水剤



ご一報次第
カタログ進呈します

＊マノール防水剤はセメントの加水分解生成物である水酸化石灰と化学的に結合し、硬化機構を妨げることなくセメント粒子に撥水性を与えて毛細管の表面張力を低下させ、吸水性を減少させます。

＊ＡＥ効果により適量の空気を連行し、気孔を閉塞することなくセメント・プラスター及び砂の粒子に対し分散性を与えワーカビリティーを向上させます。また特有な粘着性によって材料分離、レイタンスの発生を防止します。

＊セメントと結合した生成物は永久不変質の物質で、水や空気中の塩類、酸類も作用せず、セメントの中性化を防ぎ、鋼材、木材等の腐蝕・腐朽を防止して構造物の耐久性を高め、その防水・防湿効力は恒久的です。

その他マノール製品

急結剤・接着剤・剥離剤・早強剤・防凍剤

エスコート（セメント起泡剤）・**エアコール**（場所打ち杭工法添加剤）

セメント混和剤・助材綜合メーカー

株式会社 **油脂化工社**

東京都品川区大井１－15－１　☎ 東京 (774) 4111代表

関東営業所	茨城県土浦市大町１２１３	☎ 土浦 (21) ５１８９
東北営業所	福島県福島市下野寺字遠原	☎ 福島 (34) ７１１１
盛岡営業所	岩手県盛岡市南大通３－12－50	☎ 盛岡 (24) ０２１３
大阪営業所	大阪市東成区東中本２－17－26	☎ 大阪 (971) ４７６５

タイプ

TAIP工法

にはハンマー不要です

〈完全無音無振動既製杭工法〉

従来の既製杭を利用して杭打施工時の
振動・騒音を完全に追放しました!!

■主な特長

1. ネジ込力を杭押込力に変えるので完全無振動無騒音です。
2. 根入長さが長く安定した支持杭が施工出来ます。
3. スライムの沈積はありません。
4. 完全に支持層に岩着させるので大きな支持力が期待出来ます。
5. 何米でもヤトイ杭で納められ地下室のある建築に最適です。



★御一報次第カタログ進呈

TAKECHI 株式会社 **武智工務所**

■本　　社　大阪市東区高麗橋２の20（高麗新ビル）ＴＥＬ大阪(202)3233(代)
■名古屋支店　名古屋市中区錦１－３－２（殖産ビル）
■福岡支店　福岡市赤坂１－15－33（第二菊陽ビル）
■営業所　東京・静岡・富山・広島・熊本・鹿児島　■工場　大阪・名古屋・鹿児島



全く新しい床タイルです

三星ピサロンは、従来のビニールタイルとは製法原料配合が全く違います。塩ビの他に最近開発された新しい共重合体の特殊樹脂を用いた画期的な新製品です。軟質プレスタイプの床タイルに比べ仕上り安定性がよく、カレンダー方式の流れ模様とは対照的な静止した現代模様。ピサロンの持つエラスチックで高級な質感、すぐれた歩行感は、床タイルの新しい世界を開きました。

協同組合員が責任をもって施工いたします

三星ピサロンは、材料だけの販売はいたしません。責任施工の出来る協組員が入念な仕上げをします。

これからはピサロンの時代です

三星ピサロンの新しい色調、パターンは、現代のインテリアデザインに要求される個性的な床造りには欠かせません。東京浜松町の超高層世界貿易センタービルの4F以上の各階通路、エレベーターホールにも、使用されております。〝三星ピサロン〟はその模様がフランスの画家ピサロのタッチに似ていることから、名付けられたものです。

東日本床工事事業協同組合
西日本床工事事業協同組合
〈専用品〉

三星タイル
ピサロン

製造元＝田島応用化工株式会社

東京／東京都千代田区岩本町3の11
電話　(866) 6101

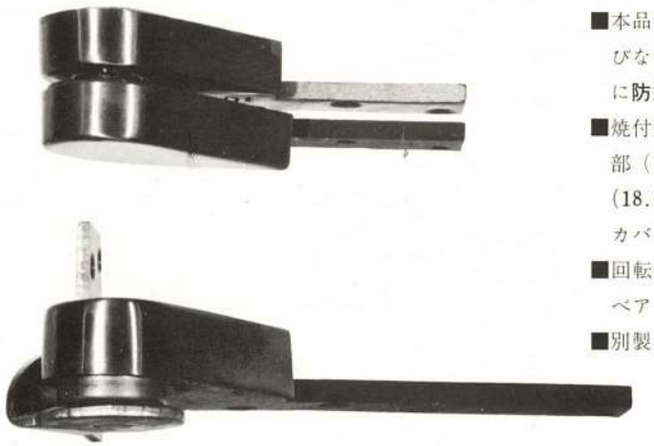
大阪／大阪市西区京町堀1の74
電話　(441) 5951

★規格＝333.3　×333.3　×2㎜　9枚／m²
333.3　×333.3　×3㎜　9枚／m²
★色数＝18色
★価格＝2㎜厚品　1,200円／m²(300m²以上)
3㎜厚品　1,800円／m²(300m²以上)
小部屋割増・階段40％高

建築と社会 “ARCHITECTURE AND SOCIETY” 第53輯第2号
■昭和47年2月25日発行(毎月1回25日発行)・昭和24年3月19日第3種郵便物認可

●回転軸部にナイロンベアリングを採用した耐久品

サンエイ
立枠付 ピボットヒンジ



■本品は特に各部品の材料を吟味し、表面が錆びないようボンデライジング加工を施した上に**防錆塗装**をしております。
■焼付塗装仕上製品の他に、他の持出し吊の腕部（吊込後扉から露出する部分）にSUS27(18.8)**ステンレス製ヘアーライン仕上**の化粧カバーを付けてあります。
■回転部分にナイロンベアリング及びスラストベアリングを嵌入してあります。
■別製の設計製作をも歓迎致します。

■弊社製立枠付ピボットヒンジは……
実用新案登録第517316号の立枠には何んら低触致しておりません。

三榮建材工業株式会社 555

本社 大阪市生野区巽矢柄町151 ☎(06)751－3653～5／東京出張所 東京都墨田区本所2－11－11 ☎(03)623－7677

東リ® コントラクト® カーペット
グレース® ラバー



本格ラバーのふみ心地
<フエルト不要・施工のスピード化>

Wall to Wall用カーペットの本格派〈東リ・グレース〉にラバーバックがいよいよ登場!!
4mm厚の良質ラバー
へたりを知らないクッション性
いつまでも続く快適な踏み心地
伸び縮みのない抜群の寸法安定性
東リ・カーペットセメント又は東リ・O.I.Cテープ（両面テープ）での簡単な施工グレースラバーは本格派のみに許されるユウユウ設計です。

●グレースラバー
〈GCR〉素材／テイジンナイロンN－61 100% パイル長4mmラバー厚4mm寸法／巾182cm 長さ20m（各乱尺）価格4,200円/m² 色数 基準色18色
●グレース
〈GCJ〉素材／テイジンナイロンN－61 100% パイル長4mmループパイル 寸法／巾91cm 182cm 273cm 364cm 長さ30m（各乱尺）
価格3,800円/m² 色数 基準色18色（別注色54色）

床材の総合メーカー
東洋リノリユーム株式会社
東京営業部 東京都港区芝琴平町33番地 琴平町東洋ビル
大阪営業部 大阪市東区京橋1丁目7番 OMMビル7階
名古屋営業所 名古屋市中区錦2丁目2番13号 名古屋センタービル8階
福岡営業所 福岡市博多駅前2丁目9番28号 福岡商工会議所ビル9階

■ご入会のお申込は・社団法人 日本建築協会 〒541 大阪市東区北浜3－37 電話大阪(06)231-9648・9649・9640 振替口座大阪39975番

定価 300円（送料共）